学部別（所属別）教員一覧

（学科別同職間 50 音順）

（ ）内は掲載ページ

経済学部

＜経済学科＞

奥井　克美　(1)
白川　一郎　(3)
髙須　要子　(4)
難波　誠　(6)
西村　和志　(7)
箱田　昌平　(8)
畠山　秀樹　(9)
林原　正之　(10)
福井　南海男　(12)
三﨑　一明　(13)
加藤　靖弘　(14)
杤尾　真一　(15)
則長　満　(17)
細井　雅代　(19)
吉井　紀夫　(21)
四塚　朋子　(22)
小椋　真奈美　(23)

＜ヒューマンエコノミー学科＞

太田　拓男　(25)
衣笠　達夫　(26)
島本　美智男　(28)
橋本　圭司　(29)
松本　直樹　(31)
村上　亨　(32)
今堀　洋子　(33)
曹　満　(35)
松田　年弘　(36)
森島　覚　(37)
李　義昭　(38)
内藤　雄太　(41)
長尾　博暢　(42)
村田　美希　(44)

経営学部

＜経営学科＞

岩田　浩　(45)
植藤　正志　(46)
坂上　佳隆　(47)
地代　憲弘　(48)
篠原　健　(49)
徐　治文　(51)
髙森　哉子　(52)
田淵　正信　(54)
西岡　健夫　(55)
西村　美奈雄　(57)
山中　雅夫　(58)
伊藤　公一　(59)
上枝　正幸　(60)
岡崎　利美　(61)
杤尾　安伸　(62)
西島　太一　(63)
福田　直樹　(64)
水野　浩児　(66)
山下　克之　(69)

＜マーケティング学科＞

金川　智惠　(70)
黒目　哲児　(72)
小西　一彦　(74)
辻　幸恵　(76)
L.S.DE SILVA　(78)
L.J.VISWAT　(81)
福田　得夫　(83)
藤田　正　(85)
真庭　功　(86)
見市　晃　(87)
米倉　穣　(89)
井戸田　博樹　(90)
笹本　晃子　(93)
中野　統英　(94)
中村　都　(97)
山口　公一　(99)
松井　温文　(102)

心理学部

＜心理学科＞

石王　敦子　(105)
井上　知子　(107)
井ノ口　淳三　(109)
落合　正行　(110)
加藤　徹　(114)
倉戸　由紀子　(115)
佐々木　英一　(118)
志水　紀代子　(119)
田中　耕二郎　(122)
中村　このゆ　(123)
西川　喜朗　(125)
橋本　秀美　(127)
東　正訓　(129)
藤本　忠明　(131)
鋒山　泰弘　(133)
松野　凱典　(134)
三川　俊樹　(135)
駿地　眞由美　(136)
瀧端　真理子　(139)
辻　潔　(142)
中鹿　彰　(143)
永野　浩二　(145)
馬場　天信　(147)
溝部　宏二　(150)
荒木　浩子　(153)
田中　秀明　(155)

学部別（所属別）教員一覧

（学科別同職間 50 音順）

（ ）内は掲載ページ

社会学部

＜社会学科＞

加村　隆英　(157)
新野　三四子　(159)
平木　宏児　(161)
見正　秀基　(162)
矢谷　慈國　(164)
山本　博史　(166)
善積　京子　(168)
吉田　正　(170)
柏原　全孝　(172)
栗山　直子　(173)
清水　学　(175)
城野　充　(176)
千葉　英史　(177)
沼尻　正之　(180)
古川　隆司　(181)
岩渕　亜希子　(187)
内海　博文　(188)
草山　太郎　(190)

国際教養学部

＜アジア学科＞

淺野　純一　(191)
有吉　宏之　(192)
井谷　鋼造　(194)
梅村　修　(195)
奥田　尚　(200)
重松　伸司　(202)
正信　公章　(204)
武田　秀夫　(205)
永吉　雅夫　(206)
松家　裕子　(207)
南出　眞助　(208)
李　慶国　(209)
田口　宏二朗　(210)
筒井　由起乃　(211)

＜英語コミュニケーション学科＞

稲木　昭子　(213)
佐々木　徹　(214)
佐藤　恭子　(215)
新谷　好　(217)
水藤　龍彦　(218)
髙尾　典史　(219)
中村　啓佑　(220)
J.HERRICK　(221)
箱﨑　雄子　(222)
福島　孝博　(225)
R.E.MILLER　(226)
碓井　智子　(228)
貞光　宮城　(229)
増崎　恒　(233)

経済学部

＜経済学科＞

奥井　克美　(1)
白川　一郎　(3)
髙須　要子　(4)
難波　誠　(6)
西村　和志　(7)
箱田　昌平　(8)
畠山　秀樹　(9)
林原　正之　(10)
福井　南海男　(12)
三﨑　一明　(13)
加藤　靖弘　(14)
杤尾　真一　(15)
則長　満　(17)
細井　雅代　(19)
吉井　紀夫　(21)
四塚　朋子　(22)
小椋　真奈美　(23)

＜ヒューマンエコノミー学科＞

太田　拓男　(25)
衣笠　達夫　(26)
島本　美智男　(28)
橋本　圭司　(29)
松本　直樹　(31)
村上　亨　(32)
今堀　洋子　(33)
曹　満　(35)
松田　年弘　(36)
森島　覚　(37)
李　義昭　(38)
内藤　雄太　(41)
長尾　博暢　(42)
村田　美希　(44)

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　奥井　克美	学位　　経済学修士【法政大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	公共経済学、入門経済学、経済原論、演習、経済政策特論Ⅱ（大学院）			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2000年11月3日～現在	演習の授業では、毎年、「公共選択学生の集い」という学生による報告・討論会に参加している。これは、十数大学の学生が与えられたテーマについてプレゼンテーションをし、討論会で議論を深める、というものである。大学外の人とも交流し、切磋琢磨させることにしている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
「経済原論」問題集のインターネット閲覧版	2003年4月1日 ～2009年７月	経済原論の練習問題、講義ノート、中間試験及びその解答を、授業開講時にホームページから閲覧できるようにしている。
「政治も含めて生活・経済を考える」追手門学院大学経済学部『人間と経済を考える：An Introduction to Human Economy』第2章，pp.7-11，所収.	2005年3月20日	市場と政治、それぞれの長所と短所を最近の議論も踏まえた上で、学部生向けにやさしく記すとともに、政治の要素を含めて経済を考える重要性を指摘した。
「レポートの書き方」 http://www.res.otemon.ac.jp/~okui/kokyo/report.pdf http://www.res.otemon.ac.jp/~okui/nyukei2/report.pdf	2006年5月24日	レポートの書き方を、学部生向けに解説したもの。公共経済学、入門経済学、新入生演習、といった授業で使っている。
「世界の動きを経済体制という視点から考える」追手門学院大学経済学部編『経済知力をみがく！～経済学へのいざない～』§6-2，pp.53-55，所収.	2008年4月1日	経済体制論の潮流を紹介するとともに、この分野の私の研究成果の一部を紹介した。高校生や学部生向けに平易な解説をこころがけた。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「教育実践報告---公共選択学生の集い---」追手門学院大学『「特色ある教育」平成16年度報告集,--学生による学びの実践報告--』pp.75-76，所収.	2005年3月31日	奥井ゼミのゼミ員は、毎年、「公共選択学生の集い」という学生による報告・討論会に参加している。2005年度は千葉商科大学において行われた。その時の様子やそれに至るまでの指導等について記した。
「公共選択学生の集い」追手門学院大学『「特色ある教育」平成17年度報告集,--学生による学びの実践報告--』pp.49-51，所収.	2006年3月31日	上記「公共選択学生の集い」を2006年度は追手門学院大学において行った。その際の模様を大会準備を含め記した。
「学外から講師をお招きしての授業」追手門学院大学『人間回復の経済社会を目指して(4)：大学教育高度化推進に係る平成20年度報告書』pp.97-98，所収.	2009年3月24日	2008年12月9日（火）Ⅰ限の公共経済学の授業において、株式会社ザイマックスビルディングサイエンス技術顧問の大窪道知氏に「人間回復の経済社会を目指して～あなたが今享受している生活がいつまで続くと思いますか？～Sustainability science」という演題の講演を行ってもらった。その際の様子をまとめた。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
"Causality between Political Freedom and Economic Freedom"	単著	2005年9月	Coskun Can Aktan(ed.) *Economics in a Changing World: Papers on Economic Growth, Social and Human Capital, Trade, Public Finance and Public Choice. Volume 3: Selected Proceedings of the First International Conference on Business, Management and Economics*, Yasar University. 所収.		pp.275-295
『選挙の経済学：投票者はなぜ愚策を選ぶのか』	共監訳	2009年6月	日経BP社	＜共監訳者＞長峯純一氏、＜共訳者＞湯之上英雄氏、中村まづる氏、飯島大邦氏、石田祐氏	472頁
論文					
「政治的自由と経済的自由のデータによる世界各国の経済体制の考察」	単著	2004年10月	『国際公共経済研究』No.15		pp.52-60
「世界各国データを用いた制度と経済パフォーマンスの関係についての考察」	単著	2006年5月	『経済政策ジャーナル』 第３巻第２号		pp.81-84
「経済体制と公共選択」	単著	2006年12月	『追手門経済論集』第XLI巻第2号		pp.35-80

その他（巻頭言）					
「国際秩序の公共選択」	単著	2009年7月	『公共選択の研究』第52号		pp. 1-5

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

<学会活動>	
1997年～現在	公共選択学会幹事
2008年～現在	日本公共政策学会関西支部運営委員
2004年4月	発表"A Cusality Test Between Political Freedom and Economic Freedom"European Public Choice Society Annual Meeting 2004（於 The Berlin-Brandenburg Academy of Sciences, Berlin, Germany）
2004年6月	司会「日本公共政策学会2004年度研究大会、ジョブセミナー2「国際問題」セッション」（於 同志社大学）
2004年7月	討論「荒井弘毅：医療専門家組織の事業者団体としての検討」（法と経済学会2004年全国大会：於 学術総合センター）
2004年9月	発表"Estimating political-economic freedom autoregressions with panel data"（日本経済学会2004年度秋季大会：於　岡山大学）＜共同発表者＞　福重元嗣氏
2004年11月	発表"Politico-Economic Systems in World Countries:Evidence from Political Freedom Data and Economic Freedom Data"（The 2ndInternational Conference of the Japan Economic Policy Association：於 明治大学）
2005年3月	発表"Causality between Political Freedom and Economic Freedom"（The 2005 meetings of the Public Choice Society and Economic Science Association：於 the New Orleans Intercontinental Hotel, Louisiana, U.S.A.）
2005年5月	発表「世界各国データを用いた制度と経済パフォーマンスの関係についての考察」（日本経済政策学会第62回大会：於　法政大学）
2005年7月	討論「畑農鋭矢・砂原庸介：財政支出の決定要因---主要先進諸国の実証分析---」（公共選択学会第9回全国大会：於 横浜市立大学）
2005年12月	討論「小川敏明：続・インテルの独占と競争政策」（国際公共経済学会第20回研究大会：於 関西学院大学）
2006年7月	討論"Park, Min-Jeong：A Study for the Rent Seeking in Korea Government Budget Allocation"（公共選択学会第10回全国大会：於 京都大学）
2007年5月	討論「稲葉陽二：経済格差とソーシャル・キャピタル」（日本経済政策学会第64回全国大会：於 慶應義塾大学）
2007年7月	討論「小林誉明：国境を越える立憲的選択の可能性---国際開発援助におけるルールの形成---」（公共選択学会第11回全国大会：於 東海大学）
2007年9月	発表「所有権システムの選択---アナーキーモデルを利用した考察--- 」（日本経済学会2007年度秋季大会：於 日本大学）
2007年12月	討論"Cai Dapeng and Li Jie：Subsidization and Bargaining in Mixed Markets "（The 6th International Conference of the Japan Economic Policy Association ：於 法政大学）
2008年3月	発表「政治プロセスの効率性に関する考察」（日本経済政策学会　関西部会：於 追手門学院大学）
2008年7月	討論「矢尾板俊平：汚職と政治経済システムとの関係に関する考察---政治的及び経済的データによる第一次的接近---」（公共選択学会第12回全国大会：於 関西大学 ）
2008年7月	発表「経済体制の公共選択分析」（日本公共政策学会関西支部第6回例会：於 京都府職員研修・研究支援センター ）
2008年12月	討論"Khemarat Teerasuwannajak：Importance of R&D Productivity in Determining Intellectual Property Rights Protection Regime"（The 7th International Conference of the Japan Economic Policy：於 同志社大学）
2009年7月	シンポジウム「不況と公共選択」パネリスト（公共選択学会第13回全国大会：於 中央大学）＜コーディネーター＞長峯純一氏＜他のパネリスト＞土居丈朗氏、富崎隆氏
＜社会活動＞	
1997年～現在	学術誌『公共選択の研究』の編集委員
2005年7月～2006年3月	西宮市補助金事業評価委員会委員
2005年12月	中央大学経済研究所公開研究会における報告「政治的自由と経済的自由のデータを用いた経済体制の考察」

（表24）

所属 経済学部	職名　　教授	氏名　白川　一郎	学位　　経済学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	日本経済論　経済政策			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2006年3月	「経済学の基礎とアプローチ」〈日本の構造改革１０２～１１１頁執筆ミネルバ書房
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2006年12月	「自治体の再建法制」〈四国新聞）
	2007年1月	宮崎県自治学院市町村職員研修センター「日本型ニューパブリックマネジメントの課題と展望」
	2007年10月	全国市町村国際文化研修所研修会「地方財政危機と自治の展望」
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2006年8月より	総務省研究会「債務調整に関する研究会」委員

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「景気回復でも解消されないニート・フリーター問題」	単著	2006年1月	毎日新聞エコノミスト		pp. 3
「景気回復でも解消されないニート・フリーター問題」	単著	平成16年4月	毎日新聞エコノミスト		
「米破産法９章モデルに」	単著	2006年9月7日	日本経済新聞経済教室		
「小泉構造改革を振り返る」	単著	2006年4月	日本景気循環学会		
「自治体破産〈増補版）」	単著	2007年3月	ＮＨＫ出版		pp. 1-256
「茨木市の財政改善について」	単著	2009年3月	茨木市長への報告書		
論文					
その他					
「大阪市長選」	単著	2007年8月	大阪日日新聞		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1990年から今日	日本景気循環学会理事
1995年から今日	国際景気循環学会（ＣＩＲＥＴ）日本代表顧問
2008年8月～2009年3月	茨木市評価指標作成の指導
2009年5月～	茨木市「補助金・使用料委員会」委員

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　高須　要子	学位　　法学士【関西大学法学部法律学科】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	学部：税法、行政法　大学院：税法特論、税法特論演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2009年4～7月	法的な思考の収得を考えている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2009年4～7月	授業、演習で使用するレジュメの作成
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2009年4～7月	大学院生に、法的な考え方・基礎知識・レポート作成を指導

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
その他					
（判例解説）					
「外資系日本子会社の従業員に対して親会社から付与されたストック・オプションの権利行使利益が一時所得に当たるとされた事例」	単著	2004年9月	平成15年度主要民事判例解説・判例タイムズ1154号		pp. 248
「外国法人に支払われた知的財産権の使用料が国内源泉所得でないとされた事例」	単著	2005年9月	平成16年度主要民事判例解説・判例タイムズ1184号		pp. 246
「金銭債権の貸倒損失を法人税法22条3項3号所定の『当該事業年度の損失の額』として損金に算入するための要件につき、債務者側の事情だけでなく、債権者側の事情、経済的環境等をも踏まえ、社会通念に従って総合的に判断すべきであるとして、損金算入を認めた事例」	単著	2006年9月	平成17年度主要民事判例解説・判例タイムズ1215号		pp. 262
「第二次納税義務者が、本来の納税義務者に対する課税処分について不服申立ができるとし、不服申立ての起算日について判示した事例」	単著	2007年9月	平成18年度主要民事判例解説・判例タイムズ1245号		pp. 290
「都市計画法施行規則60条に基づく開発許可が不要である旨の証明書の不交付通知が行政処分に当たるとされ、同証明書交付の義務付けが認められた事例」	単著	2008年5月	日弁連研究財団編「法と実務」		pp. 178

「日本法人の従業員等が外国法人である親会社から付与されたストックオプションの権利行使益を一時所得として申告したことにつき国税通則法65条4項にいう『正当な理由』があるとされた事例」	単著	2008年9月	平成19年度主要民事判例解説・別冊判例タイムズ22		pp. 282
内国法人の所得の計算に当たり、当該内国法人による租税特別措置法(平成10年法律第23号による改正前のもの)66条1項所定の特定外国子会社等に生じた欠損の金額を損金の額に算入することの可否	単著	2009年9月	平成20年度主要民事判例解説		pp. 254

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
＜所属学会＞	公法学会、租税法学会
＜社会活動＞	
2001年10月1日～現在	大阪府固定資産評価審議会委員
2007年4月1日～現在	神戸市公正職務審査会委員
2008年4月1日～2009年3月31日	大学基準協会法科大学院認証評価委員会分科会委員
2008年8月21日～現在	大阪府職務行為等審査委員会委員
現在	弁護士

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　難波　誠	学位　Ph.D.【コロンビア大学】、理学博士【東北大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	経済数学、入門数学			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2005年4月1日	高校数学の復習も含んだ一般教養的数学の授業。毎回演習を含む。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2005年4月1日	近畿大学非常勤講師
	2007年7月27日	大阪大学工業会で講演

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
幾何学I（訳書）	単著	2007年10月	シュプリンガージャパン		全302頁
幾何学II(訳書)	単著	2008年2月	シュプリンガージャパン		全302頁
平面図形の幾何学	単著	2008年3月	現代数学社		全180頁
論文					
Greenberg's theorem	共著	2006年3月	Osaka J. Math.(43)	水田悟、難波　誠	pp.31
その他					
Moduli of Galois coverings		2005年5月2日	コロンビア大学で講演		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	日本数学会会員、アメリカ数学会会員、大阪府高等学校数学教育会顧問

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　西村　和志	学位　　修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	経済原論Ⅰ、キャリアデザイン論、基礎演習、金融論、演習Ⅰ、演習Ⅱ、金融論特論、金融論特論演習Ⅰ、Ⅱ			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2008年4月1日	経済原論Ⅰ、金融論はパワーポイントで講義する。
	2008年9月26日	資料配付、小テストを多くしている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
経済原論	2004年4月1日	
金融論第２版	2005年1月30日	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
2004年４月より演習ⅠおよびⅡの学生とともに、太陽光・太陽熱・再生エネルギーの推計調査に取り組む。	2006年5月25日 2007年7月2日 2009年2月25日 2009年3月20日	調査報告書を第１集から第４集まで、2006年から発行、関係者に配布した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
金融論第２版	単著	2005年1月	晃洋書房		全299頁
論文					
The Education Information Services Theory under Direct Democracy	単著	2005年3月	追手門経済・経営研究　第12号		pp. 55-61
金融システムのある「古典派」経済モデル	単著	2005年9月	追手門経済論集 39巻･1号		pp. 90-107
Multi-Coutry Integretion under Direct Democracy	単著	2006年12月	Otemon Economic Studies No. 39		pp. 47-57
金融システムのあるマクロ貨幣経済モデル	単著	2007年3月	追手門経済・経営研究　第14号		pp. 15-25
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2004年～2008年	学生とともに、温暖化ガス削減の方法を研究するため、自治体・企業を学生とともに訪問し、議論した。

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　箱田　昌平	学位　　経済学博士【神戸大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目				

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2000年4月10日	視覚からの授業　シラバスに対応したビデオ等の教材の提供
2　作成した教科書、教材、参考書		
	1985年4月1日	『多角化戦略と産業組織』信山社、昭和60年
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
戦後の三輪車市場における企業間競争	単著	2006年12月	『追手門経済論集』第41巻2号		pp. 105-132
戦前のオート三輪車とプレモータリゼーション	単著	2007年3月	『追手門経済経営研究』第14号		pp. 27-45
軽自動車の規格化改正と企業間競争	単著	2007年12月	『追手門経済論集』第42巻2号		pp. 27-45
日本のものづくりと技能の形成	単著	2008年9月	『追手門経済論集』第43巻1号		pp. 192-221
論文					
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	日本経済政策学会、日本経済学会、産業学会
＜学会活動＞	
1980年～現在	日本経済政策学会、本部幹事

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　畠山　秀樹	学位　　経済学博士【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	日本経済史、経済史			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
『住友財閥成立史の研究』普及版、同文館、1996年4月刊 『マテリアル　日本経営史』共著、有斐閣、1999年2月刊	1999年2月	読み、考えるために、現在教科書とビジュアルな参考書を使用している。両書は私の著作である。また、DVDも利用している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
「財閥と囚人労働」単著、追手門学院大学人権啓発委員会会誌10号 「21世紀の原生的労働関係」追手門学院大学人権研修会案内No.30	2008年3月 2009年6月	学内の学生向小誌の人権啓発のエッセイ。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
三菱の唐津炭田経営に関する覚書	単著	2004年12月	大阪大学経済学、第54巻第3号		pp. 176-192
三菱合資会社設立後の高島炭鉱	単著	2006年3月	三菱経済研究所、三菱史料館論集、第7号		pp. 151-271
三菱合資会社設立後の端島炭鉱	単著	2006年11月	追手門経済論集、第41巻第1号		pp. 94-152
高島炭鉱のデータ覚書	単著	2007年3月	三菱経済研究所、三菱史料館論集、第８号		pp. 265-285
三菱合資会社設立後の鯰田炭鉱	単著	2008年3月	三菱経済研究所、三菱史料館論集、第9号		pp. 191-271
研究ノート					
「三菱合資会社設立後の筑豊炭販売」	単著	2009年3月	三菱経済研究所、三菱史料館論集、第10号		pp. 159-195
史料紹介					
「第一次近代化投資完了期三池炭鉱に関する一史料」	単著	2006年12月	追手門経済論集、第41巻第2号		pp. 310-362

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1981年4月～現在	九州大学石炭研究資料センター学外研究員
1989年～1992年3月	経営史学会幹事
1994年4月～現在	社会経済史学会評議員
2007年年4月～現在	財団法人奥田邸保存会評議員

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　林原　正之	学位　　博士（経済学）【神戸大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）・無）
主要担当科目	国際経済学，国際貿易論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
資料配付，練習問題作成	2005年4月～2009年10月	学部の講義である国際経済学，国際貿易論の２講義ともに，毎回PowerPointによるプレゼンテーションをおこない，また資料を配付している。その資料には当日の講義の内容を練習問題形式にして載せており，その解答を行いながら説明していくという形で講義を進めている。最初から最後まで講義を聴いていると理解できるようにしている。また時間内に小テストをそれぞれ２回ほど行いその結果を定期試験の成績に加えて評価を行っている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
基礎国際経済学（共編著）	2000年5月10日	このテキスト作成時期は2000年にさかのぼるが，以降ずっと使用しており2005年現在まで第8刷りを重ねている。また毎回講義では配布資料を作成している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
戦略的通商政策理論の展開	単著	2005年2月	昭和堂		全312頁
論文					
複占企業の供給契約，生産補助金政策および国民厚生	単著	2005年12月	追手門学院大学経済学会，『追手門経済論集』（第40巻，第2号）		pp. 101-124
Export Subsidies and Retaliation under Conditions of Variable Marginal Costs	単著	2005年12月	追手門学院大学経済学会，Otemon Economic Studies, No. 38		pp. 15-29
輸出補助金政策のタイミングの内生的決定と世界厚生水準の比較分析：拡張された３国モデルでの考察	単著	2007年9月	追手門学院大学経済学会，『追手門経済論集』（第42巻，1号）		pp. 94-116
競争政策，輸出補助金政策および経済厚生	単著	2007年10月	日本国際経済学会，『国際経済』（58号）		pp. 90-113
Industrial and Trade Policies in a Developing Country under Endogenous Timing of Trade Policy	共著	2007年12月	Serial Publications, Indian Development Review, Vol. 5, No. 1	◎Ryoichi Nomura, Makoto Okamura	pp. 341-354

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1973年4月1日～現在	日本国際経済学会会員	
1992年4月1日～現在	日本経済学会会員	
1990年4月1日～現在	日本統計学会会員	
2005年5月7日	日本国際経済学会関西支部研究会	谷垣和則(立命館大学）への予定討論者
2005年6月11日	日本国際経済学会関西支部総会	第３分科会座長
2005年9月17日	日本経済学会秋季大会	野村良一（立命館大学大学院）への予定討論者
2005年12月17日	日本国際経済学会関西支部研究会	小田正雄（関西大学）への予定討論者
2006年10月21日	日本経済学会秋季大会	大川隆夫（立命館大学）への予定討論者
2007年10月8日	日本国際経済学会全国大会	野村良一（立命館大学）への予定討論者

2008年6月14日	日本国際経済学会関西支部総会	第３分科会座長
2008年10月12日	日本国際経済学会全国大会	大川良文(滋賀大学) への予定討論者
2009年3月28日	日本国際経済学会関西支部研究会	研究報告
2009年4月3日	Third Keio/Kyoto Joint COE program International Cinference on Market Quality Economics, and IEFS Japan Annual Meeting 2009	研究報告
2009年5月16日	日本国際経済学会関西支部研究会	中野沙弥香(兵庫県立大学大学院博士課程)への予定討論
2009年7月25日	日本国際経済学会関西支部研究会	趙 来勲 (神戸大学経済経営研究所)への予定討論

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　福井　南海男	学位　　経済学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	経済原論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
		具体的な事実を例示し、数値例を挙げて理解の促進を心がけている。 理論ばかりではなく、理論の理解を助けるために、歴史や制度についての説明も重視している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
		各単元ごとに、まとめをプリントして配布するとともに、練習問題を作成し、各単元の理解を確認 各単元の理解を確認しながら、講義を進めることにしている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
混合寡占市場における均衡の構造について	単著	2009年3月	追手門経済･経営研究第16号		
ボモール型企業と寡占市場均衡	単著	2009年4月	追手門経済論集第43巻2号		
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　三﨑　一明	学位　　経済学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	経済原論Ⅰ・マクロ経済学			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2007年4月～	①板書はつねに全員かけたかどうかを確かめてから、次の説明に入る。
	2007年4月～	②学生の理解度を確認するために、月に1度のペースで、黒板の問題を数名の学生に解答させて、それを添削・評価する。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2008年4月～	経済原論1のプリント「講義ノート」8章まであり、講義の進行に合わせて、学生に配布する。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
代替的労働市場	単著	2004年9月	追手門経済論集39巻1号		pp. 68-101
ケインズのマクロ消費関数	単著	2004年9月	追手門経済論集39巻1号		pp. 102-132
経済学部の4年間	単著	2005年3月	追手門学院大学教育研究所紀要23号		pp. 91-100
マクロ雇用関数	単著	2005年9月	追手門経済論集40巻2号		pp. 102-132
経済学部はどういうところか	単著	2006年3月	追手門学院大学教育研究所紀要24号		pp. 107-116
経済学部管見	単著	2006年11月	追手門経済論集41巻1号		pp. 296-321
経済学部の学生	単著	2007年3月	追手門学院経済・経営研究13号		pp. 71-84
高島鞆之助と大阪偕行社附属小学校	単著	2007年3月	追手門学院大学教育研究所紀要25号		pp. 65-81
高島鞆之助	単著	2007年9月	追手門経済論集42巻1号		pp. 117-163
高島鞆之助と今井兼利と銀座	単著	2008年3月	追手門学院大学教育研究所紀要26号		pp. 91-103
建学の精神はなぜ必要か	単著	2008年3月	追手門学院大学教育研究所紀要26号		pp. 104-113
高島鞆之助Ⅱ	単著	2008年9月	追手門経済論集43巻第1号		pp. 71-152
高島鞆之助の侍従時代	単著	2009年3月	追手門経済論集43巻第2号		pp. 89-166
高島鞆之助の寄附行為	単著	2009年3月	追手門学院大学教育研究所紀要27号		pp. 69-81
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	日本経済学会

（表24）

所属　経済学部	職名　　准教授	氏名　加藤　靖弘	学位　文学修士【大谷大学】 商学修士【広島修道大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	国際取引論、貿易実務、ビジネス英語			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
経済学部新入生に対する英語能力テストの実施（420～430名）	2006年4月	新入生オリエンテーション後に英単語能力テスト（およそ30分）を実施し、新入生演習の担当者にスコアを配布。5月または、6月の教授会に報告。
	2007年4月	上記に同じ
	2008年4月	上記に同じ
	2009年4月	上記に同じ
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
口頭発表	2008年3月22日	国際ビジネスコミュニケーション学会九州山口支部会研究会にて、「"Fundamental Breach"と契約解除について」を口頭発表。於　福岡ガーデンパレス
	2008年6月14日	日本比較文化学会第30回全国大会にて、「ビジネス英語はいつ、どのように生じるか」　を口頭発表。於　京都大学（京都吉田南キャンパス）
4　その他教育活動上特記すべき事項		
日本英語検定協会面接担当試験委員	2004年7月～2009年2月	
国際商取引学会西部部会（於　追手門学院大学）開催	2008年3月15日	研究会に35名、懇親会（食堂棟2F）に28名参加。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「生きた英語が身につく語学留学のススメーそろそろ日本を脱ぎたい人へ」	単著	2007年1月5日	明石書店		全158頁
論文					
CISGにおける「基本的違反」について：CLOUT判例（Case 2, Case 79, Case 84, Case 90)より	単著	2005年7月9日	国際商取引学会年報7号		pp. 31-38
「基本的違反と契約解除について：ウィーン売買条約に準拠したCLOUT判例より」	単著	2008年9月30日	追手門学院大学『追手門経済論集』第43巻第1号		pp. 55-70
「ビジネス英語はいつ、どのように生じるのか」	単著	2009年3月31日	追手門学院大学『追手門経済・経営研究』第16号		pp. 183-195
その他					
貿易取引とリスク負担	単著	2004年10月1日	社団法人日本損害保険協会『予防時報』219号		pp. 6-7

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2004年11月～2006年10月	国際ビジネスコミュニケーション学会　監事
2004年11月～2006年10月	国際ビジネスコミュニケーション学会　関西支部　支部会監事

（表24）

所属　経済学部	職名　　准教授	氏名　栃尾　真一	学位　　経済学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	ソフトウェア論、経済情報処理、データ分析ソフトウェア			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義の音声記録の学内Webへの公開	2005年1月	講義の音声を自ら録音し、学内用のホームページに用意し、授業を聞き逃した学生や欠席した学生が内容を把握できるように配慮した。2005年度以降も継続して収録と公開を行っている。対象となる科目は、「経済情報処理」(ヒューマンエコノミー学科科目)と「ソフトウェア論」(経済学部学科科目)と「情報処理」(国際経済学科の必修科目)の3科目である。2006年度からは、ファイルの形式をMP3に変更した。この形式は学生がよく持ち歩いている音楽再生プレーヤーで利用できる形式である。 なお、2007年11月から「経済情報処理」ではTIESを利用して動画による収録を試行した。
経済シミュレーションを用いた仮想経済の体験ができる授業の実施	2006年4月	1998年度から経済シミュレーションを用いて仮想経済を疑似体験する授業を実施している。この経済シミュレーションは経済情報処理(国際経済学科必修・ヒューマンエコノミー学科選択科目)と演習の授業で利用している。(経済学部太田拓男教授と共に開発･運用を進めている。プログラム作成は外部委託している。補助金対象事業です。)　2007年度はソフトウェア論でもプログラムの考えるための題材として利用している。 2006年度からは、この経済シミュレーションを改良するための開発が認められたので、より多くの学生が利用できるように設計を進めている。これらの作業により、「経済シミュレーションを体験することで単位が出せる科目」を設置したいと考えている。この科目は全学の学生が履修できるものにしたいと考えている。 現在(2008年7月)は、気まぐれに行動する学生よりも、通常の社会のようにまじめに活動する代行プログラムの一部が使用できるので、シミュレーションが上手く動作するようになっている。代行プログラムの残りは2008年度に完成する計画である。
成績の評価方法を変更し、授業各回におさらいの小テストを実施してこの配点を60点とした。残り40点は定期テストで評価した。(2007年度ソフトウェア論)	2007年4月	授業は内容を理解し、この理解を積み上げていくものであるが、期末にまとめて丸暗記しようとする学生が多い。そこで、毎回の授業の開始時に小テストを実施し、この配点を60点とした。小テストは携帯電話を利用する方法を用いたが、途中でシステムが不調になったため、OMRを利用した。OMRについては、「作成した教科書、教材」で説明している。 小テスト終了後は、解説を行い間違えたところを学生各自が確認できるようにした。 履修人数150名で実質出席者数は80～100名程度であったが、採点が短時間で処理でき容易であったため、問題作成などに多くの時間をとることができた。 期末試験40点満点と小テスト60点満点で成績を評価した。ほとんどの学生は小テストよりも良い回答率を示しており、各回ごとの評価と解説が有効であることが確認できた。
講義のビデオ収録とTIESへの公開	2007年11月	2007年11月より、音声の収録のみでなく、講義の動画収録を行っている。公開する仕組みはTIESを利用している。これは学外からもユーザーIDとパスワードでアクセスできる仕掛けで講義を聞き逃したり、欠席した学生が内容を確認できるように配慮した。2007年度は試行的に「経済情報処理」で実施した。2008年度は「ソフトウェア論」でも実施を始めた。2009年度は加えて「経済シュミレーション」も収録を行っている。 この収録方法は補講替わりとしても利用している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
ゲーミングによる経済シミュレーションの再構築	2006年4月	1998年度から3カ年間で開発した「ゲーミングによる経済システムのシミュレーション」は、授業などで運用している中で様々な問題点が見つかった。これらの問題点を解決するために2006年度からシステムの再構築を図って開発を進めている。 シミュレーションを授業で運用することは続けているが、再構築したシステムは年度毎にリリースして使用している。
本学の学籍番号などに対応した本学専用のOMR用紙の設計	2006年12月	「情報教育プロジェクト」が依頼して購入したOMR装置を、より多くの教員に利用してもらうために、本学の学籍番号に対応したマークシートを設計した。設計に際しては、OMR装置に対応するソフトウェアを利用して用紙のレイアウトなどを入力した。同プロジェクトのメンバーに限らず、多くの教員の意見を聴取してさまざまな形式の小テストが実施できるように配慮した。 作成したシートは、OMR装置の操作説明会(2007年2月と3月)を情報教育プロジェクトが開催したときに、紹介した。 なお作成したシートは他学部の教員にも利用していただいている。
同上の用紙を読み取った際の採点プログラム作成	2007年4月12日	OMR装置で読み取ったデータは、Excelを利用できるスキルがあれば採点することはできる。しかし、Excel関数を利用するため、面倒な作業になる。このため、上記で設計したマークシートに対応した採点プログラムを自宅のパソコンに導入しているVisual Basic6で作成した。採点は幾つかのステップになっているので、配点を変更して再採点などの作業も瞬時にできる。 作成したプログラムと使用方法は、経済学部全教員と、上記の説明会出席者にメールで知らせた。 Windowsパソコンであれば、簡単にインストールして利用することができる。

3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
情報教育プロジェクト・メンバー	2004年2月	以前から科目「入門コンピュータ」の進め方などについて、学部学科を超えて情報交換を行ってきていた。この集まりを承認を得てプロジェクトとして正式に発足した。2006年夏から見市先生と交代して代表を栃尾が務めている。 OMR装置の普及などを行ってきた。現在は、「入門コンピュータ」の今後の運営方法について、e-Learningツールの利用なども含めて検討を続けている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
科目「経済情報処理」の学生成績の傾向分析	単著	2008年9月	『追手門経済論集第43巻第1号』（追手門学院大学経済学会）		pp. 153-174
その他					
(口頭発表)					
授業改善を実現するための携帯電話を用いたシステムの要件	単著	2005年11月5日	平成17年度情報処理教育研究集会(於：九州大学)講演論文集		pp. 4(A3a-02)

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	日本経営情報学会、教育システム情報学会、日本公共政策学会
＜学会活動＞	
2005年4月～	教育システム情報学会関西支部・評議員/幹事
2008年4月～	(社)私立大学情報教育協会・「FD情報技術講習会運営委員会」委員
＜社会活動＞	
2005年4月～2008年3月	茨木市生涯学習センター「きらめき」にて、パソコン講座「はじめてのパソコン」講師担当(半年に15回を前期後期で2クラス)
2005年7月	茨木市民のためのコンピューター講座初級および中級講師担当(学内、計3日担当)
2006年6月	茨木市民のためのコンピューター講座中級講師担当(学内、2日担当)
2007年4月～現在	茨木市生涯学習センター「きらめき」にて、パソコン講座「準中級パソコン」講師担当(半年に15回を前期後期で2クラス)
2007年8月	茨木市民のためのコンピューター講座中級講師担当(学内、3日担当)
2008年8月	茨木市民のためのコンピューター講座中級講師担当(学内、3日担当)

（表24）

所属　経済学部	職名　　准教授	氏名　則長　満	学位　　国際関係学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	経済史、外国経済史、経済学基礎演習、新入生演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ、学び論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
「サイレント・シート作戦」	2002年4月～	私は追手門学院では外国経済史、経済史を中心に担当している。これらの講義は300名前後の履修登録があり、毎時間学生達の私語に悩まされていた。　そこで、数年前から「サイレント・シート作戦」を導入した。その実践報告は、共著「大人数授業をどう改革するか」-私語追放への試み-（2006年、アスカ文化出版社）の中で、学生の私語をいかに少なくして気持ちよく授業を進めることができるかについて報告をした。サイレント・シートとは一言でいえば、出席した学生に渡す出席カードであるが、大きく４つの役割を果たす。第一の役割は、このシートで座席指定をすることである。大人数教室でも隣に友人が来ないように離れた席をランダムに指定する。第二の役割は、出席カードの役割を果たすことである。第三の役割は経済予測コンテストの投票用紙の役割を果たすことである。第四はコミュニケーションツールとしての役割を果たす。詳しくは同書を参照していただきたいが、このサイレント・シートの導入で300名前後の講義でも静かに講義を行うことが可能となった。
2　作成した教科書、教材、参考書		
毎週発行「先週の世界・日本は？」「来週の世界・日本は？」	1999年4月～	最近の学生はインターネットの普及と同時に新聞を読まなくなり、世界、日本の出来事にも関心を示さなくなったように思える。そこで経済学部の学生としては現実の世界で起きていることを知ることは経済理論や経済の歴史を学ぶ上でも重要になってくると思えるので、週末には、その週に起きた世界、日本での重要な出来事に関する「先週の世界・日本は？」という時事問題をパワーポイントで作成し、毎時間学生に答えさせている。さらにその出来事に関するテレビ報道番組から短いビデオを編集して同時に見せている。これらは特にゼミ生には就職試験対策としても有効であることがわかってきた。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「学生に漢方薬は効くのか？」発表	2007年5月	１で述べたように2006年に「大人数授業をどう改革するか」-私語追放への試み-をアスカ文化出版社から出版した。また文学部の部内での研究会において、その内容に　基づいて「学生に漢方薬は効くのか？」という直接の授業の中身だけでなく、意欲をかき立てるビデオを見せることで、じわじわ（漢方薬）と学習に向かわせる　方法についても発表を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
メールによるコミュニケーション	2003年4月～	私は特に心がけているのは学生とのコミュニケーションである。その中心はメールアドレスの交換と連絡である。私は春学期においては６コマを担当している。その講義の中では大人数である外国経済史と経済史以外の少人数の講義では、新学期に全員とメールアドレスを交換し、演習の連絡や質問、予定、様々な相談などを毎週コンタクトをとることにしている。特に新入生演習の学生などは分からないことがあればすぐにメールで質問をしてくることが多く、それによって、コミュニケーションが円滑に取れるようになったことはいうまでもない。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
エネルギー国際経済	共著	2004年4月	晃洋書房	中津孝司	pp. 116-129
大人数授業をどう改革するか	共著	2006年3月	アスカ文化出版	追手門学院大学教育研究所	pp. 41-64
論文					
国際石油市場NOW	単著	2004年10月	石油学会誌　2004年10月号		pp. 44-48
原油価格変動要因分析-2004年の場合-	単著	2005年3月	科学研究費補助金（課題番号15510035）		pp. 21-29
原油価格変動要因分析-2006年ケース-	単著	2007年12月	追手門経済論集第42巻第2号		pp. 38-42
原油価格変動要因分析-WTI原油上場以降を中心に-	単著	2008年9月	追手門経済論集第43巻第1号		pp. 14-41
その他					
書評	単著	2005年11月	石油学会誌　2004年11月号	『エネルギー資源争奪戦の深層』（創成社）	pp. 46

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜学会活動＞	
2004年12月18日	科学研究費補助金（課題番号15510035）研究会にて発表　「原油価格変動要因分析-2004年の場合-」於立命館大学
2008年6月21日	社会経済史学会近畿部会6月例会にて発表　「原油価格変動要因分析-WTI原油上場以降を中心に-」　於大阪学院大学

＜社会活動＞	
2005年	神戸市立シルバーカレッジ非常勤講師
2006年～2008年10月	高槻市藍野花園病院治験審査委員会委員
2008年6月～2009年3月	神戸市教育委員会摩耶兵庫高校中間定時制検討会座長

（表24）

所属　経済学部	職名　　准教授	氏名　細井　雅代	学位　　経済学修士【神戸商科大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	租税論　地方財政論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
租税論講義での工夫	2008年4月～7月	1回生以上向けのものであるため、知識に格差がある。したがって、経済学がベースの理論のみを紹介するのではなく、その合わした現実の話、また税金の計算を実際にしてもらうなど、税金への興味を抱かせるように講義内容を計画した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
グローバル化と分権化	共著	2006年3月	大阪国際大学　国際関係研究所	堀要、塩谷雅弘、東野裕人、　古川浩司	pp. 36-60(第3章)
論文					
A cost frontier approach for estimating the determinants of cost inefficiency in Japanese fire protection management	単著	2004年6月	Journal of Asian Economics, 15(3)		pp. 579-590
Fiscal Decentralization, Commitment and Regional Inequality: Evidence from State-Level Cross-Section Data for the United States	共著	2005年1月	Faculty of Economics, University of Tokyo (CIRJE-F-315)	Akai, N.	pp. 1-28
Short-run and Long-run Effects of Corruption on Economic Growth: Evidence from State-Level Cross-Section Data for the United States	共著	2005年6月	Faculty of Economics, University of Tokyo (CIRJE-F-348)	Akai, N., Y. Horiuchi	pp. 1-30
Complementarity, Fiscal Decentralization and Economic Growth	共著	2007年9月	Economics of Governance, 8(4)	Akai, N., Y. Nishimura	pp. 339-362
The determinants of fiscal decentralization by various indicators: Evidence from State-level Cross-section Data for the United States	共著	2007年12月	Otemon Economic Studies, 40	Akai, N.	pp. 1-7
地方分権社会における自治体経営	単著	2008年10月	季刊　政策・経営研究		pp. 34-45
Fiscal Decentralization, Commitment, and Inter-County Inequality in US states	共著	2009年3月	Journal of Income Distribution, 18(1)	Akai, N.	pp. 113-129
Why does fiscal decentralization contribute to economic growth? Test study of estimationwith simultaneous equation models includingdirect and indirect effects from U.S. state-level data	単著	2009年3月	Otemon Economic Studies, 41		pp. 49-67

Fiscal Decentralization, Economic Growth and Economic Volatility-Theory and Evidence from State-level Cross-section Data for the United States	共著	2009年6月	Japanese Economic Review,60(2)	Akai, N., Y. Nishimura	pp.223-235
女性就労の促進政策がもたらす財政への影響―地方自治体の子育て支援の追加的費用と収入の比較分析―	単著	2009年6月	都市問題研究, 61(6)		pp.22-48
その他（報告書）					
自治体経営改革の自己診断2006―自己評価に基づく組織運営（ガバナンス）評価―	共著	2006年6月	財団法人　関西社会経済研究所	小西砂千夫(代表)	共同執筆につき担当箇所抽出不可能
諸外国における義務教育費保障制度の比較研究	共著	2008年3月	諸外国教育財政制度研究会（平成19年度文部科学省委託研究）	赤井伸郎(代表)	pp.15-42

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2004年10月～2005年3月	第4次宝塚市総合計画後期基本計画知識経験者懇談会委員
2004年11月～2005年3月	藤井寺市立保育所のあり方検討委員会
2005年6月～2006年12月	宝塚市総合計画審議会委員
2006年2月～2008年11月	大阪市政研究所研究員
2006年4月～現在	自律的な地方行財政制度のあり方に関する研究委員会委員（地方行財政ビジョン研究会、（財）地方自治研究機構）
2006年7月～2006年12月	藤井寺市保育所民営化方式等検討委員会委員
2006年8月～2007年3月	宝塚市施策評価システム検討委員会委員
2007年7月～2009年7月	川西市行財政改革審議委員（副会長）

（表24）

所属　経済学部	職名　准教授	氏名　吉井　紀夫	学位　　経済学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	経済原論Ⅰ、経済変動論1・2、キャリアデザイン論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
経済原論Ⅰプリント教材		
経済変動論1，2、のプリント教材		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
均衡財政のもとでの公共支出と失業給付および雇用率の長期分析	単著	2009年3月	追手門経済論集第43巻第2号		pp. 204-221
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1981年～現在	日本経済学会
1986年～現在	経済政策学会

（表24）

所属　経済学部	職名　　准教授	氏名　四塚　朋子	学位　　経済学修士【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	ファイナンス論　経済原論Ⅰ　経済データ分析			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
学習内容の選択	毎年・毎学期	伝統的な理論と新しいアプローチ、時事問題を混合した構成を心掛けている。直近の授業評価での「内容が新鮮で興味深い」項目は4.23(大学平均3.77)である。
理解程度の把握	毎年・毎学期	科目によって頻度は異なるが（ファイナンス論では半期に10回程度、経済原論Ⅰでは4回）、確認のための小テストを行い期末の評価に反映させている。
教室秩序の維持	毎年・毎学期	私語をする学生にはただちに注意を与えるか、質問を振る。また、ノートを取る時間には学生間で個人差が大きいので、様子を見ながら関連する話題を提供する。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	毎年・毎学期	すべての科目について、パワーポイントファイルとエクセルファイルを作成。簡潔で分かりやすい表現を心がけている。授業評価での「プレゼンテーションが適切」項目では4.32(大学平均3.67)であった。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
日本経済と企業ガバナンスについての基本的な考え方	単著	2004年9月	追手門経済論集（39-2）		pp. 117-127
ベンチャー・ファイナンスにおける金融契約の実証分析	共著	2005年5月	日本学術振興会科学研究費報告書	菊谷達弥	全5章のうち第1章～第3章
CATボンドのプライシング・パズルに関する研究	単著	2007年2月	社団法人　大阪銀行協会研究助成論文集(11)		pp. 1-16
大災害リスクのプレミアム・パズルについて	単著	2008年3月	大阪大学経済学（57-4）		pp. 177-188
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2005年12月～2006年2月	茨木市行財政改革指針策定諮問会議委員
2006年11月～12月	茨木市特別職報酬等審議委員
2008年5月	茨木市特別職報酬等審議委員（市長職）
2008年～現在	(財)日弁連法務研究財団　専門部会委員

（表24）

所属　経済学部	職名　　講師	氏名　小椋　真奈美	学位　博士（経済学）【神戸大学、2007年9月取得】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	学部：計量経済学、入門統計学、統計学総論、新入生基礎演習、経済学基礎演習、演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
資料の配布、練習問題	2009年4月	毎回、講義内容に沿った資料を配布している。練習問題を解かせ、講義に参加する意欲を持たせるように努めている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
資料の配布	2009年4月	講義内容に沿った教材を配布している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
“Estimating a demand system in the AIDS model: The case of Japan”	単著	2006年1月	神戸大学経済学研究科『六甲台論集』第52巻第3号		pp.18-38
“The comparison of elasticities for the linearized almost ideal demand system model: A Bayesian approach”	単著	2006年6月	Kobe University Working Paper Series No.196		pp.1-21
“Testing structural change in Japanese household consumption after the Bubble era”	単著	2006年6月	Kobe University Working Paper Series No.197		pp.1-21
“The estimation of alcoholic expenditure in Japan: a dynamic demand system approach”	単著	2006年6月	Kobe University Working Paper Series No.200		pp.1-23
「バブル期の被服関連消費：家計調査品目分類データによる分析」	共著	2006年6月	日本経済学会2007年度春季大会（於　大阪市立大学）	宇南山卓(神戸大学)	
“Testing demand homogeneity when error terms have an elliptically symmetric distribution”	共著	2007年7月	Applied Economics Letters 14	大谷一博(神戸大学)	pp.497-502
“Markov Chain Monte Carlo methods for the demand systems: the Monte Carlo results”	単著	2007年8月	神戸大学経済学研究科『六甲台論集』第54巻第1号		pp.1-19
“Essays on demand systems”	単著	2007年9月	神戸大学大学院経済学研究科	（博士論文）	
“The examination of the validity of the Divisia price index for the almost ideal demand system model: Some Monte Carlo results”	単著	2008年3月	Economics Bulletin vol.3,No.14		pp.1-10
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
＜所属学会＞	日本経済学会、日本統計学会				

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　太田　拓男	学位　　経済学修士【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目				

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
実験的方法による主要な確率理論の提示	2004年４月～現在	数学的なバックグランドを持たない受講生に、実験的に統計理論の核となる確率現象の性質を習得させる方法を開発した。
実験的、体験的方法による経済学の基礎学習の支援	1996年～現在	参加者の取引のみによって成り立つ関係がが経済システムの単純化した形になるように仕組まれたゲーミングシステムを開発し、科目「経済情報処理」でこれを用いて実験的、体験的に経済理論の基礎を学習させた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
ネットワーク上の仮想経済システム	2008年7月	「実験的、体験的方法による経済学の基礎学習の支援」の実施のためのＷｅｂ上で稼動するシステム。1996年以来継続的に開発を進めており、2008年度は、参加者の役を代行するエージェントの機能を導入している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「Webを利用したゲーミングによる経済システムのシミュレーションの拡張　その１」（教育システム情報学会　共同発表）	2008年9月	「実験的、体験的方法による経済学の基礎学習の支援」の実施のためのＷｅｂ上で稼動するシステムに参加者の役を代行するエージェント機能を導入し、実用性を高めた。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
「ネットワーク上の仮想経済システムによる経済学の基礎教育」に対する私立大学経常補助金（教育・学習方法等改善支援）	2006年～2008年	「実験的、体験的方法による経済学の基礎学習の支援」に対して2006年度より３年間の大学教育高度化推進特別経費の補助対象に採択される。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Logistic Regression Applied to Getting the Lowest Scare in An Entrance Examination	単著	2008年12月	OTEMON ECONOMIC STUDIES Vol.41		pp.77-81
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

茨木市生涯学習センター教養講座講師	2008年度より、一般市民対象のパソコン講座「はじめてのパソコン－家庭のパソコンを活かそう－」を担当。既に1970年から計算機を仕事に用いてきた経験を活かして市民のコンピュータリテラシーの向上の活動に参加している。

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　衣笠　達夫	学位　経済学博士【京都大学】 経済学修士【筑波大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	財政学１A、１B、２A、２B、比較公共政策１，２			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
２　作成した教科書、教材、参考書		
比較公共政策２（市町村の財政分析）の教科書形式のレジメ	2005年度から継続	
比較公共政策１（公益事業論）の教科書形式のレジメ	2007年度から継続	
財政学１、２のハンドアウト	2008年度から継続	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
公益事業の生産性分析	単 著	2005年4月	中央経済社		pp. 1-137
論文					
研究開発投資の生産性に与える影響の分析	単 著	2005年1月	公益事業研究56巻３号（2005）		pp. 77-94
ネットワーク資本と外部性の入ったDynamic Factor Demand モデル	単 著	2005年3月	地域学研究Vol. 34, No. 2 (2005)		pp. 117-132
Dynamic factor demand model: A real option approach	単 著	2006年5月	Proceedings of the 37th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications, (2006)		pp. 208-213
Dynamic Factor Demand Model under Uncertainty on Japanese Gas Firms	単 著	2007年2月	International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol. 12, No. 3, (2007)		pp. 943-957
九州電力の海外での事業展開	単 著	2008年6月	国際東アジア研究センター紀要19巻２号(2008)		pp. 16-23
地方公営企業の生産関数の推定	単 著	2009年1月	地域学研究Vol. 38, No. 3 (2009)		pp. 599-614
地方公営企業の複数生産物の距離関数とRay生産関数の推定	単 著	2009年4月	公益事業研究60巻４号（2009）		pp. 37-46
その他					
地方公共団体のバランスシートの作成について	単 著	2004年12月	追手門経済論集 39巻２号		pp. 68-89
生産性分析研究の新たな方向	単 著	2007年1月	追手門経済論集 41巻２号		pp. 22-30
公共性について	単 著	2007年7月	追手門経済論集 42巻１号		pp. 1-8

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1994年６月～	Review of Urban and Regional Development Studies 論文審査委員
1995年６月～	ETRI Journal (National Institute of Electronics & Tele-communications Research in Korea) 論文審査委員
1996年６月～	社会経済研究（(財)電力中央研究所、経済社会研究所）論文審査委員

1996年12月～	国際公共経済学会理事
2003年６月～	地域学会理事
2005年６月～	神戸市交通事業審議会委員
2005年12月～	応用地域学会誌編集委員
2006年６月～	公益事業学会学会賞選考委員
2008年６月～12月	宝塚市指定管理者選定委員会委員長
2008年６月～	応用地域学会運営委員
2008年７月～	公益事業学会関西部会事務局長

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　島本　美智男	学位　　経済学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	演習Ⅰ　演習Ⅱ　経済学史　社会思想史　学び論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
コミュニティカード	2005年以降利用	講義科目にも学生参加の一助として同カードを活用している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
A.F.ウッツ『経済社会の倫理』	2003年翻訳以後3年使用	新自由主義と新マルクス主義に代わる「第三の道」のシステム構想とその倫理学的基礎付け
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
目標、目標と言うけれど	2007年6月30日	多可町八千代区公民館にて多可町コミュニティシンクタンク主催の「お母さんのための教育学習」の講演
4　その他教育活動上特記すべき事項		
模擬面接	不定期	演習Ⅰにおいて中小企業社長を招きゼミ生への講演と模擬面接をお願いしている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
カトリック社会論における私有論拠の地位	単著	2009年9月	追手門経済論集第44巻第1号		pp. 81-104
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

隣地マンション対策協議会代表	居住地管理組合理事長および隣地マンション対策協議会副代表として隣地マンション建築計画に対する反対運動を組織する。大津市建築審査会に審査請求（棄却）、のち行政訴訟は断念。
淡海郷土史会主宰	滋賀県の郷土史に関心のある住民とともに歴史の深層を研究・探訪する。2008年度のテーマは「近江の元伊勢」。坂田岡神社と甲可日雲社を考察する。 2009年度は「丹後の元伊勢」をテーマにして籠神社と真名井神社を探訪。

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　橋本　圭司	学位　　博士（経済学）【大阪府立大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	経済原論Ⅰ 経済原論Ⅱ アメリカ経済論１ アメリカ経済論２ 理論経済学特論Ⅲ 理論経済学特論Ⅲ演習Ⅰ 理論経済学特殊研究 研究演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
		「原論Ⅰ」では、他の学問分野との関連について説明を加える等、特に初年次生への配慮を行い、「原論Ⅱ」では、多くの学生にとって不得意な数学の基礎を復習する時間を設定して、理解を深めるための工夫を行っている。例年、教育内容・方法およびその背景等について報告書を作成し公表している。
２　作成した教科書、教材、参考書		
		各講義科目で、新聞、雑誌等の関連資料を随時配布している。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2007年1月11日	追手門学院大学「全学ＦＤ談話会」において、経済学部ヒューマンエコノミー学科での担当科目「新入生演習」について、そこでの教育上の問題や自らが行っている 学生対応の方法を題材にして「新入生演習のねらいと課題」と題する報告を行った。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
Educational Inequality and Economic Growth in Chinese Regions	単著	2004年2月	阪南大学産業経済研究所 Occasional Paper No.30.		全22頁
教育拡大、教育不平等と経済成長	単著	2006年4月	平成16～17年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書(研究課題番号16530197)		全102頁
中国の教育拡大について―省別データによる分析―	単著	2006年11月	追手門学院大学『追手門経済論集』第41巻第1号		pp.435-450
教育年数の偏り、所得不平等および経済成長―都道府県別データによる分析―	単著	2006年12月	追手門学院大学『追手門経済論集』第41巻第2号		pp.132-154
不登校の経済分析―需要・供給アプローチ―	単著	2007年3月	追手門学院大学『追手門経済経営研究』第14号		pp.47-56
Population Ageing and Economic Growth in the United States:1960-2006	単著	2008年12月	追手門学院大学 *Otemon Economic Studies*,41.		pp.69-76
アメリカの人口高齢化と経済成長:1960-2006	単著	2009年3月	追手門学院大学『追手門経済・経営研究』第16号		pp.173-181
アメリカの高学歴化と失業率格差:1992-2007	単著	2009年3月	追手門学院大学『追手門経済論集』第43巻第2号		pp.180-192
その他					
Educational Inequality, Income Distribution and Economic Growth in Japanese Prefectures	単著	2005年1月	The 2005 Annual Meeting of the Allied Social Science Associations, Philadelphia,USA.		学会報告
教育不平等、経済成長および所得不平等	単著	2005年5月	日本高等教育学会第8回大会、九州大学		学会報告
Long-term Absentees Due to Refusal from Elementary School in Japan: A Demand and Supply Analysis	単著	2006年5月	Hawaii International Conference on Business, Honolulu, Hawaii, USA		学会報告
Labor Force Ageing and Productivity in Japanese Prefectures	単著	2008年5月	Hawaii International Conference on Business, Hawaii, USA		学会報告

Population Ageing and Economic Growth in Japanese Prefectures: An Inverted-U Relationship	単著	2009年6月	Hawaii International Conference on Business, Hawaii, USA		学会報告
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
特記事項なし					

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　松本　直樹	学位　　博士（経済学）【関西学院大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	国際マクロ経済学1・2			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
現実の経済から経済学へのアプローチ		一部の授業においては、新聞報道やテレビのニュースから経済問題を取り上げ、その後基礎的な経済学の説明をすることにより、経済学の理解を深めるようにしている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
講義資料の作成と配布	2004年度～2008年度	講義内容のレジュメを印刷して全員に配布し、それにもとづいて講義を進めている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
開放マクロ経済分析	単著	2007年2月	日本評論社		全206頁
論文					
負債デフレーションと経済の不安定性	単著	2004年12月	『追手門経済論集』第39巻第2号		pp. 90-116
量的緩和政策の有効性	単著	2005年9月	『追手門経済論集』第40巻第1号		pp. 80-104
最近の原油価格高騰と物価安定	単著	2006年12月	『追手門経済論集』第41巻第2号		pp. 155-176
為替レート制度に関する覚書	単著	2008年9月	『追手門経済論集』第43巻第1号		pp. 1-13
通貨危機と原罪仮説	単著	2009年9月	『追手門経済論集』第44巻第1号		pp. 41-62
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

学会活動	生活経済学会関西部会運営委員（2009年度も継続中）
学会活動	生活経済学会第24回研究大会において、予定討論者として討論を行った。 （報告：石川清英「信用金庫の破綻要因分析について」2008年6月8日）

（表24）

所属　経済学部	職名　　教授	氏名　村上　亨	学位　　経済学博士【中央大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	ヒューマンエコノミー概論1・2、演習Ⅰ・Ⅱ			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2008年4月～	パワーポイントによるスライドの作成 毎回、授業内容に関する小テストの実施と感想文の提出を行っている
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2006年4月	教材の作成：ヒューマンエコノミー概論１（115頁） 教材の作成：ヒューマンエコノミー概論２（65頁）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2005年3月	論文発表「生活体験と経済学」『特色ある教育平成16年度報告集』129～139頁
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2007年8月 2008年8月	特殊講義におけるフィールドワークの企画・引率

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ポスト産業資本主義下の制度改革	共著	2006年10月	成文堂	酒井邦雄、村上亨、吉田良生、久下沼仁筍、寺本博美、吉田雅彦、角本伸晃	pp. 2-20、pp. 40-58
論文					
その他					
書評『幸福の政治経済学』	単著	2005年6月	『経済セミナー』605号		pp. 115

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2001年8月～	大阪府生活衛生営業指導センター分野事業調整協議会委員
2002年12月	国際公共経済学会
2003年6月	公益事業学会評議員
2004年4月～6月	向日市特別職員等報酬審議会会長
2006年4月～2007年3月	大学基準協会大学評価部会専門評価分科会委員
2007年4月～2008年3月	大学基準協会大学評価部会専門評価分科会主査
2007年5月	日本経済政策学会理事
2007年8月～	豊中市上下水道事業運営審議会委員
2008年4月～2009年3月	大学基準協会大学評価部会専門評価分科会委員

所属　経済学部	職名　　准教授	氏名　今堀　洋子	学位　博士（工学）【大阪大学】2004年7月	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	入門コンピュータⅠ、入門コンピュータⅡ、地域と暮らし１、地域と暮らし２、フィールドワーク、新入生演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
授業支援システムTIESの導入	2007年4月～	学生の学習履歴を確認できるTIESを利用し、自宅での学習機会の提供と進捗確認の実施
補習	2007年4月～	大教室での講義であるため、きめ細かい指導ができないので、別途補習の時間を確保
２　作成した教科書、教材、参考書		
「人間と経済を考える」　高等教育研究改革推進に係る平成16年度報告関連資料	2005年3月	2006年度のヒューマン・エコノミー概論でテキストとして利用された教材で、「第７章　資源を循環し無駄なく活用する」を執筆担当
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
大学での情報基礎教育とは	2006年9月6日	大学入学時のパソコン操作経験の現状を把握とそれを踏まえた情報基礎教育のあり方について
４　その他教育活動上特記すべき事項		
春休みを利用した初級シスアド集中講座の世話役	2007年2月～	外部の講師の方をお招きし、春休み集中的に、初級シスアド対策講座を開催、そのお世話役を担当
園児向けパソコンによるお絵かきの講師派遣	2005年4月～2007年3月	園児（追手門学院）向けに追大の学生が講師になり、パソコン（リユース）によるお絵かきの指導

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
サービサイジング　エコビジネスが売るものとは？	共著	2006年12月	財団法人　省エネルギーセンター	地球環境関西フォーラム循環社会技術部会（編集），槇村 久子	pp.239
論文					
サービス・ループに着眼した循環を基調とする社会システムに関する研究	単著	2004年7月	大阪大学大学院工学研究科博士論文		pp.110
産業都市尼崎の地域資源を活用したまちづくり構想	共著	2004年11月	土木学会，環境システム研究講演集，Vol.32	◎田井 亜矢子、盛岡通、今堀洋子、石原洋平	pp.507-512
パソコンリュースの一考察	共著	2005年9月	工業経営研究学会　第20回全国大会	◎岩切翔、今堀洋子	pp.85-88
C02排出削減を目的とした統一リュースびんと ワンウェイびんの環境評価	共著	2005年9月	工業経営研究学会　第20回全国大会	◎鹿容、見市晃、今堀洋子	pp.81-84
尼崎沿岸域におけるグリーン・エネルギースタンド会社実験の効果と課題	共著	2005年11月	土木学会、環境システム研究講演集，Vol.33	◎今堀洋子、早田大希、木場和義、細田直久	pp.15-20
C02削減を目的としたリユースびんの環境評価	共著	2006年3月	追手門経営論集，Vol.11,No2	◎鹿容、見市晃、今堀洋子	pp.43-64
家電のグリーン・サービサイジングに対する 利用者の受容性と事業化の方策	単著	2006年7月	環境科学会誌,Vol.19, No.4		pp.347-363
グリーン・サービサイジングの類型化に基づく 事業性及び環境保全性に関する事例分析	共著	2006年10月	土木学会、環境システム研究論文集,vol34	◎郡嶌孝、池田秀文、今堀洋子、小沢寿輔、玄場公規、竹内裕明、辰巳菊子、松本亨、吉田登	pp.335-346
Reuse Strategies for Electronics and Electronic Products towards a Sustainable Society in Japan	単著	2006年11月	追手門経済論集，第41巻第１号		pp.345-357
ライフスタイル変化に伴う家電製品の機能提供 の類型	単著	2007年3月	追手門経済・経営研究，第14号		pp.1-6
環境NPOにおけるインターネット活用方策	単著	2007年6月	日本情報経営学会　第54回		ページ数不明です

リターナブルびん普及に関する施策―南九州の焼酎を中心としたリターナブルびんを事例に―,	共著	2009年9月	追手門経済論集，第44巻第１号	◎今堀洋子、見市晃	pp. 1-11
その他（学会発表など）					
サービサイズを実現するために必要な経済的な動機づけは何か？		2006年10月14日	サービサイズ　国際シンポジウム　千葉大学		
サービサイジング～現状と可能性～		2006年12月20日	地球環境関西フォーラム第53回循環社会技術部会及び第15回サービサイジングＷＧ合同会合		
地域資源循環を促進するグリーン・サービサイジング～飯田市の温室農家向け熱供給サービスを事例として～		2007年6月30日	工業経営研究学会		
Servicizing Research in Japan		2007年7月3日	Korea-Japan-US Exchange Seminar on Servicizing		
Sustainable movements in Japan		2007年9月18日	Short course of Towards urban sustainability		
ローカルエコノミー 地域に根ざした経済システム～追大の周辺地域に着目して～		2008年11月15日	日本情報経営学会関西支部 第１９９回月例研究会		
飯田市におけるＧＳＳの試み ～持続可能な地域づくりを目指して～		2008年11月26日	ＡＴＣグリーンプラザ　「グリーンサービサイジングで広がるビジネスチャンス」		
「シューマッハ・カレッジにおける 『スモール・イズ・ビューティフル』の実践とアドプト」		2008年12月2日	大阪大学サステイナビリティ・サイエンス研究機構 ＷＳ「エコ・デザイン」「ライフスタイルのエコ・デザイン」	谷川　佳子、今堀　洋子	
グリーン・サービサイジング		2008年12月8日	ちくじん環境部会		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2000年4月～	循環社会推進国民会議　幹事
2002年1月～	特定非営利活動法人　イ・キューブ　理事
2002年4月～	地球環境関西フォーラム　サービサイジングWG　委員
2003年11月～	関西エコステージ研究会　第三者評価委員会　委員
2003年11月～	一般社団法人 エコステージ協会　評価基準委員会　委員
2004年4月～2008年3月	尼崎21世紀の森づくり　協議会委員
2004年4月～	スロービジネススクール1期生
2004年6月～2005年2月	自然ハイブリッド発電を活用したグリーンモビリティシステム導入モデル事業
2005年5月～	茨木市生涯学習センターパソコン講座　講師
2005年7月～2006年3月	経済産業省　グリーン・サービサイジングモデル事業審査委員
2005年7月～2006年3月	経済産業省　グリーン・サービサイジングモデル事業研究会委員
2005年8月～2007年1月	茨木市ごみ減量審議会委員
2009年9月～	茨木市産業振興ビジョン策定検討委員会　委員

（表24）

所属　経済学部	職名　　准教授	氏名　曹　満	学位　　修士（経済学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	アジア経済論、国際コミュニケーション中国語、演習１、演習２、新入生演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
授業出席率と、私語への対策及び、学生参加型の授業を心掛けている。一貫し学生から大学平均以上の授業評価を得ている。	2003年～2009年	1)小テストや毎度の出席カードの配布で出席率を確保。 2）私語者の名前を確認して成績評価に連動させることでかなりの改善。 3）学生を退屈させないために、一方通行の授業より、双方向の授業を心掛ける。
２　作成した教科書、教材、参考書		
毎度手造りのプリントを使用	2003年～2009年	毎回の授業テーマに関連する資料・データなど
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
毎年学部の「自己評価」の冊子に投稿	2003年～2008年	授業についての評価と改善策など
４　その他教育活動上特記すべき事項		
留学生に対する個別指導	2003年～2009年	修学の面で困難な留学生対しての指導や、アドバイスなどを積極的にやている

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
中国個人消費不振の原因分析	単著	2010年３月刊行予定	経済論集第44巻第2号		
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　経済学部	職名　　准教授	氏名　松田　年弘	学位　経済学修士、博士（エネルギー科学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	環境経済学、地球環境論、経済学基礎演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
演習Ⅰにおいてゼミ対抗形式のディベート実施	2004年度～2006年度、2008年度	ゼミ対抗形式でディベートを実施。
2　作成した教科書、教材、参考書		
経済学部「人間と経済を考える」の分担執筆	2005年3月20日	「環境問題と私たちの将来」pp. 29-32.
経済学部「経済知力をみがく！」の分担執筆	2008年4月1日	「環境の価値を考える」pp. 68-71.
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
原子力発電所の経年劣化に関する世論	単著	2005年9月	INSS JOURNAL, Vol.12		pp. 27-45
消費者は環境価値をどう実現するか	共著	2006年6月	エネルギーフォーラム　No.618	西藤真一、岡村薫、松田年弘	pp. 64-67
電力取引所の現状と課題―流動性の確保をめぐって―	単著	2006年10月	国際公共経済研究, No.17		pp. 67-76
エネルギー安定供給の価値評価に向けての予備的考察―価格変動リスクが期待効用に与える影響について―	単著	2007年3月	追手門経済・経営論集　第14号		pp. 57-69
その他（解説記事）					
人々がいだく事故のイメージを出発点として	単著	2005年1月	保全学, Vol.3, No.4		pp. 18-20

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2001年～現在	国際公共経済学会 理事

（表24）

所属　経済学部	職名　　准教授	氏名　森島　覚	学位　　修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	経済政策、オーストラリア経済論、労使関係論(産業社会関係論)			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
大人数授業への対応の実践	2006年4月28日	オーストラリア経済論を通した大人数・歴史理解の陥没を克服する実践、集約としての「石田純一氏を交えての講義」
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
オーストラリア入門第２版	共著	2007年9月	『東京大学出版会』	竹田いさみ・森健・永野隆行編	pp. 282-290
論文					
ProfessionalBaseball in Japan and Australian from the Viewpoint of Industrial Relations	単著	2004年12月	『オーストラリア研究紀要』第30号		pp. 49-59
豪労使関係事情	単著	2006年11月	『追手門経済論集』第41巻1号		pp. 451-459
日本労使関係事情	単著	2006年12月	『追手門経済論集』第41巻1号		pp. 177-187
Comparative Studies on the Stress Management for Medicare/Healthcare Workers in Australian Newzealand and Japan	単著	2006年12月	『オーストラリア研究紀要』第32号		pp. 29-36
大洋州性産業労働者の現実	単著	2007年12月	『オーストラリア研究紀要』第33号		pp. 121-137
オーストラリア・ニュージーランドの航空産業における労働者の現実と問題点	単著	2007年12月	『オーストラリア研究紀要』第33号		pp. 82-89
豪州のセックスワーク支援団体について	単著	2008年9月	『追手門経済論集』第43巻1号		pp. 42-54
Comparative studies on sex workers in Japan,Australia and New Zealand: The Way to unionisation of sex workers	単著	2008年12月	『オーストラリア研究紀要』第34号		pp. 55-65
その他					
フェザーストン事件(Featherston Incident)	単著	2008年12月	『オーストラリア研究紀要』第34号		pp. 205-209（ノート）

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2002年4月-2004年3月	大洋州経済学会　学会誌編集委員

（表24）

所属　経済学部	職名　　准教授	氏名　李　義昭	学位　　博士（経済学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	福祉社会論　経済原論　演習Ⅰ　演習Ⅱ　経済学基礎演習　新入生演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
聴覚障害学生支援	2005年	平成16年度～平成18年度「知的障害者（児）のコミュニケーションを促進する支援技術機器の開発」に関連して市販の汎用音声認識ソフトのディクテーション機能を用いて、聴覚障害学生の大学講義における授業理解支援を行った。具体的には、大学が行う聴覚障害学生への支援であるノートテーカーの補助支援として、講師の話す講義内容をＰＣに音声入力し、同時にディスプレイ上にテキスト出力した。
施設ボランティア体験と障害者家族との交流学習 ～他者への理解と自己の発見～ （「特色ある教育」平成18年度報告集）	2006年	演習Ⅰ・Ⅱにおいて、追手門学院大学「特色ある教育」平成18年報告に関連して、学生が日ごろ接することの少ない、日常生活とは異なった世界を体験し、生まれた課題を役割分担して解決に当たった。この過程において学生が自身に気づき、自らを開発する。具体的には、ボランティア体験、障害者施設体験、障害者家族の日常体験を通じて、自身の課題を見つけ、学生同士の協力によって問題の解決を図った。その中で、他者の状況が理解でき、自らを発見することが出来た。
施設体験学習と障害当事者との交流 ～他者への理解と自己の発見～ （「特色ある教育」平成19年度報告集）	2007年	演習Ⅰにおいて、本学「特色ある教育」平成19年度報告の体験に基づく発見的・自己開発的な学習に関連して、学生が日常生活ではあまり関わることのない体験や経験を設定した。具体的には、大阪府ボランティア府民活動センターが行う「ボランティア体験プログラム」に参加した。また、ＵＳＪにおける、障害当事者および支援者との日常生活体験を行うことを目標に共同作業による課題解決学習を行った。学生は、社会には自分の知らない多くの課題があることに気づいた。
高齢者・障害者等施設・団体における体験学習 ～他者を知り自己開発を行う～ （大学教育高度化推進に係る平成19年度報告書）	2007年	演習Ⅰ・Ⅱにおいて、本校の大学教育高度化推進に係る平成19年報告に関連し、学生が体験学習を通して、社会や地域の現実と現状に接し、自己の世界と異なった世界を知り自己開発につなげることを目標に設定した。具体的には大阪府ボランティア府民活動センターが行う「ボランティア体験プログラム」に参加した。また、近年、富山方式で注目されている「小規模多機能施設このゆびと～まれ」（富山）と「精神障害者施設べてるの家」（北海道）でボランティア体験を行った。
障害がある本人・その支援者などとの交流学習 ～福祉と経済のわかる学生を育てる～ （大学教育高度化推進に係る平成19年度報告書）	2007年	講義科目「福祉社会論」において、本校の大学教育高度化推進に係る平成19年報告に関連し、学生が交流講義を通して社会的に困難を持つ人々の福祉ニーズをしり、福祉サービス市場における需要に対するき供給はどのように増加させることが出来るのか、福祉と経済を複眼的に考えさせること目標に設定した。具体的には、「自立について」「障害者のエンパワメントについて」「人口呼吸器をつけた息子とともに」「自閉症の息子（二男）と歩んだ19年」など当事者の講演を行った。
ボランティアなどの交流・体験学習 ～自己の発見と他者の理解～ （「特色ある教育」平成20年度報告集）	2008年	演習Ⅰにおいて、本学「特色ある教育」平成20年度報告の体験に基づく発見的・自己開発的な学習をテーマに、日ごろの学生生活においては関わることの少ない体験や経験に出会う学習設定を行った。具体的には、USJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）における、障害当事者および支援者との日常生活体験を行うことを目標に共同作業による課題解決学習を行った。学生は、そこから生れた疑問や仮題を解決する過程において、他者を知り、自らに気づき、自信を開発し、成長した。
高齢者・障害者・児童など支援施設・団体における体験学習 ～他者を知り自己開発を行う～ （大学教育高度化推進に係る平成20年度報告書）	2008年	演習Ⅰ・Ⅱにおいて、本校の大学教育高度化推進に係る平成20年報告に関連し、学生が体験学習を通して、社会や地域の現実と現状に接し、自己の世界と異なった世界を知り、自己の開発につなげる学習設定を行った。具体的には大阪府ボランティア府民活動センターが行う「ボランティア体験プログラム」に参加した。また、NPO法人「ヤンヤンのおうち」社会福祉法人「かがやき神戸」での合宿施設体験、さらに、近年、富山方式で注目されている「小規模多機能施設このゆびと～まれ」（富山）でのボランティア体験を行った。
障害当事者・支援者・開発関係者などとの交流学習 ～福祉と経済のわかる学生を育てる～ （大学教育高度化推進に係る平成20年度報告集）	2008年	講義課目「福祉社会論」において、本校の大学教育高度化推進に係る平成20年報告集に関連し、学生が交流講義を通して社会的に困難を持つ人々の現実と現状を知り、福祉サービス市場における需要に対する供給はどのように増加させることが出来るのか、福祉と経済を複眼的に考えさせること目標に設定した。具体的には、「だれでも福祉、どこでも福祉」「生活支援ロボットの現状と今後の課題」「生活はイベントのように」「ゆかいなクラウン土曜日の天使たち」「いなみ野学園大学院卒業論文発表」など当事者の講演を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書		
多人数講義科目における情報技術利用による授業理解の促進	2005年～2009年	福祉社会論・経済原論・経済学基礎演習において、各科目を学習・理解する上で必要な基礎知識および基礎的語句を授業の最初に提示し、さらに、インターネットWeb上（本学では「ユニバーサルパスポート」）で公開している。また、毎回の講義における板書（講義ノート）はワードで作成したものをプロジェクターで投影し、この内容も直近二週間分を「ユニバーサルパスポート」で授業の理解促進のために公開している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		

4　その他教育活動上特記すべき事項		
多人数講義科目における授業への学生参加を促進するための工夫	2005年～2009年	福祉社会論・経済原論・経済学基礎演習において、各科目への学生の授業参加を促すため、毎回の講義ごとに専用の用紙を配布してレポートを課した。テーマは授業に対する意見から時事や学習内容にわたり、毎回異なる。提出枚数・内容・提出時期などによって、レポートは平常点の評価に用いられるため、講義への出席率の向上・授業への参加意欲の促進となっている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
「高齢期における「喪失」への対応－老人クラブ活性化をめぐって-」	単著	2005年3月	兵庫県21世紀ヒューマンケア研究機構『研究年報』		pp. 57-67
「音声認識ソフト利用可能性に関する評価研究-発話に困難のある障害者・高齢者を対象として-」	共著	2007年3月	神戸大学発達科学部『神戸大学発達科学部研究紀要』査読論文第14巻　第2号	李　義昭　中林稔堯	pp. 147-156
「高齢期における人間関係の再構築」	単著	2007年9月	追手門学院大学『追手門経済論集　第42巻　第1号』		pp. 164-236
「特定話者用音声認識ソフト開発とアルキメデスプロジェクトの連携に関する研究}	単著	2009年9月	追手門学院大学『追手門経済論集　第44巻　第1号』		pp. 12-40
都市部における老人クラブ活動の活性化方策に関する調査研究	調査研究報告	2004年3月	『兵庫県21世紀ヒューマンケア研究機構報告書』		全137頁
「音声認識技術の利用可能性に関する研究開発」	共同研究（執筆）	2007年3月	『知的障害者（児）のコミュニケーションと促進する支援技術機器の開発（課題番号16200048）平成16～18年度科学研究費助成金研究成果報告書』	李　義昭　中林稔堯	pp. 81-140
施設ボランティア体験と障害者家族との交流学習～他者への理解と自己の発見～	実践報告	2007年3月	追手門学院大学「特色ある教育」平成18年度報告集～学生による学びの実践報告書～		pp. 47-51
施設体験学習と障害当事者との交流学習～他者への理解と自己の発見～	実践報告	2008年3月	追手門学院大学「特色ある教育」平成19年度報告集～学生による学びの実践報告書～		pp. 15-20
高齢者・障害者等施設・団体における体験学習～他者を知り自己開発を行う～	実践報告	2008年3月	追手門学院大学経済学部「人間回復の経済社会を目指して（3）大学教育高度化推進に係る平成19年度報告書		pp. 52
障害がある本人・その支援者などとの交流学習～福祉と経済のわかる学生を育てる～	実践報告	2008年3月	追手門学院大学経済学部「人間回復の経済社会を目指して（3）大学教育高度化推進に係る平成19年度報告書		pp. 53-55
ボランティアなど交流・体験学習～自己の発見と他者の理解～	実践報告	2009年3月	追手門学院大学「特色ある教育」平成20年度報告集～学生による学びの実践報～		pp. 23-27
障害当事者・支援者・開発関係者などとの交流学習～福祉と経済のわかる学生を育てる	実践報告	2009年3月	追手門学院大学経済学部「人間回復の経済社会を目指して（4）大学教育高度化推進に係る平成20年度報告集		pp. 91-96
高齢者・障害者・児童など支援施設・団体における体験学習～他者を知り自己の開発を行う～	実践報告	2009年3月	追手門学院大学経済学部「人間回復の経済社会を目指して（4）大学教育高度化推進に係る平成20年度報告集		pp. 85-89
学会報告・発表等					
「高齢期における「喪失」への対応－老人クラブ活性化をめぐって-」	学会発表	2005年9月	経済社会学会		経済社会学会第41回全国大会（同志社大学）
音声認識ソフトの利用可能性～発話困難者の音声収集ソフトについて～	共同発表	2005年12月	ATACカンファレンス		ATAC2005（国立京都国際会議場）

ボランティア活動の量的貢献評価の試み	学会発表	2006年6月	福祉社会学会		福祉社会学会第4回大会（大阪市立大学）
構音障害者の音声認識の検討	共同発表	2007年1月	福祉情報工学研究会		電子情報通信学会技術研究報告（立命館大学）
構音障害者の音声認識の検討	パネル発表	2007年3月	日本音響学会		日本音響学会2007年春季研究発表会（芝浦工業大学）
話者正規化に基づく構音障害者の音声認識	パネル発表	2008年3月	日本音響学会		日本音響学会2008年春季研究発表会（千葉工業大学）
メタモデルと音響モデルの統合による構音障害者の音声認識	共同発表	2008年5月	電子情報通信学会		電子情報通信学会技術研究報告（神戸大学：音声研究会）
メタモデルと音響モデルの統合による構音障害者の音声認識	パネル発表	2008年9月	日本音響学会		日本音響学会2008年秋季研究発表会（九州工業大学）
Integration of Metamodel and Acoustic Model for Speech Recognition	パネル発表	2008年9月	Interspeech		Interspeech2008（オーストラリア・ブリスベンコンベンションセンター）

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2000年3月～現在	特定非営利活動法人「ヤンヤンのおうち」代表世話係（理事長）
2004年4月～2007年3月	神戸大学発達科学部中林研究室「知的障害者（児）のコミュニケーションと促進する支援技術機器の開発」課題番号16200048）」研究協力者
2006年4月～現在	兵庫県いなみ野学園（高齢者大学）大学院地域づくり研究科安心できる地域づくり分野指導教官
2007年4月～現在	神戸大学発達科学部中林研究室「知的障害者、自閉症者等のコミュニケーションを促進するユニバーサル支援機器の開発」研究分担者

（表24）

所属　経済学部	職名　　講師	氏名　内藤　雄太	学位　　商学修士【早稲田大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	労働経済学、国際労働経済論、経済学基礎演習、キャリアデザイン論、演習I、演習II、Japanese Business（国際交流科目）			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
演習等の科目における各種方法論に関する資料の編集とレジメの作成、ゼミでのグループワークやゼミ対抗ディベートに際しての配布	2004年春学期より順次作成、改訂を重ねている。	具体的には「基本文献とサイトの紹介」「思考の図式化」「レジメ作成法」「ディベートの意義と手順」「英語の復習」「PCの復習」「経営・経済統計」「数学・統計学の復習」「計量経済学の基本」「各種の調査手法とその考え方」など。演習では各資料をファイル化し、図書館・指定図書コーナーと連携を図っている。
経済学部特色ある教育「経営戦略としての女性活躍推進」	2005年11月	講演会の企画、講演者（帝人ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞｽﾀｯﾌ株式会社人財開発・総務部　黒瀬友佳子氏）への依頼、司会などを担当（『大学教育高度化推進に係る平成17年度報告書』掲載）
2　作成した教科書、教材、参考書		
「働くこと」追手門学院大学経済学部『人間と経済を考える An Introduction to Human Economy』	2005年3月	市場の需要・供給の持つ意味と簡単な歴史の紹介を踏まえ、働くことについて、主として新入生向けに解説した。
「数字の裏を読む、経済の先を読む」追手門学院大学経済学部『経済知力をみがく！―Sharpen Your Economic Intelligence―』	2008年3月	数字になじむ方法と、データを見ながら自分で考えることの大切さについて、主として新入生向けに解説した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
追手門学院大学教育研究所所員	2006年4月～2009年3月	セミナーの企画・運営やNewsLetterなどの各種原稿執筆をはじめとして、大学の教育改善に関わる活動全般に携わった。
出張授業・授業公開・模擬授業	2005年より毎年	これまでに京都府立桃山高等学校や茨木西高等学校等の学生に対して授業を行った。またオープンキャンパスにおける模擬授業を毎年担当している。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
経済学と「システム思考」　～大学低学年授業における「因果連鎖図」導入の試み（1）	単著	2007年3月	追手門学院大学教育研究所『追手門学院大学教育研究所紀要第25号』		pp. 40-46
新入生全員履修科目「キャリアデザイン論」の試み	単著	2007年3月	追手門学院大学『平成18年度入学時からのライフデザインを目標としたキャリア教育』		pp. 2-6
「労働の質」と「ジョブ・デザイン」の経済学的意義	単著	2009年3月	追手門学院大学経済学部『追手門経済論集第43巻第2号』		pp. 222-242
その他					
（研究報告）「ジョブ・デザイン」の経済学的意義	単著	2005年9月	関西労働研究会		pp. 1-13

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2008年3月	日本経済政策学会 関西部会研究大会 実行委員長
2008年9月	2008年度追手門学院大学秋の専門講座『日本経済のこれから』より第2回「雇用制度の歴史と今後」担当
2009年2月～5月	茨木市総合評価一般競争入札評価委員

（表24）

所属　経済学部	職名　　講師	氏名　長尾　博暢	学位　　修士(経済学)【京都大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	キャリア形成論１・２　インターンシップ１・２　社会人の基礎			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
・「キャリア形成論」における「キャリア・マニフェスト」の導入	2007年4月～	授業で得た学びや気づきを、大学生活内の他の領域（学部専門科目，学部ゼミ，資格取得，サークル活動，ボランティア活動etc.）に実践的なかたちで波及させるべく、自らのキャリアデザイン・キャリア形成のために取り組む課題や目標を公約・宣言する「キャリア・マニフェスト」を各自に課し、具体的成果・進捗状況について最終的に期末試験レポートにまとめることを単位認定の要件とした。このようにマニフェストを表明させ、その達成に向けて進捗状況を適宜客観的に分析させることで、目標を設定し、行動計画を練り、実践に移し、適宜検証し、必要があれば部分的な修正を行うという連続性のある行動（いわゆる『ＰＤＣＡサイクル』）を身に付けさせ、受動的座学から主体的実践への行動変換を促した。
・「キャリア形成論」における「ポートフォリオ・ファイル」の指導	2007年4月～ 2008年7月	キャリアデザイン・キャリア形成の基礎資料として自らの軌跡を常に振り返ることができるよう、一般的なノートに代わる「ポートフォリオ・ファイル」の作成と活用を推奨した。ファイルの内容物としては、毎回の授業で配布されるレジュメや資料、ノートやレポートのほか、自主的に集めた資料、さらには日記・雑記録などを自由にファイルに綴じ込むよう指導した。
・「キャリア形成論」における「キャリア体験データベース」の活用	2008年9月～	自主・自由・自立という本学の学びの理念に基づき、在学中のキャリア体験から得られた学びや気づき、感想や反省を自ら言語化・文章化して記録・蓄積していく作業を、本学が2008年9月から運用を開始したデータベース上に行わせた。秋学期開講の同科目の成績評価には、データベース上に記録・蓄積したキャリア体験を題材としたレポート作成を義務付けた。
２　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
追手門学院大学キャリア教育シンポジウム「現代の若者（大学生）のキャリア意識と大学におけるキャリア形成支援の課題」パネルディスカッション	2008年11月	追手門学院大学が2008年秋より運用を開始した「キャリア体験データベース」の実践事例を報告した。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
「キャリア形成論」における「個別面談週間」の開催	2007年5月～6月	「キャリア形成論」では授業の理念として、各学生の取り組み（例：上記１の『キャリア・マニフェスト』の達成）への「伴走型支援」を謳い、授業の時間外も含めて支援を行うことを強調した。この「伴走型支援」という指導スタンスを実際の授業コンテンツとしても体現化するため、いわゆるオフィスアワーとは別に希望者を対象とした事前予約制での個別面談の機会を２回設定し、担当教員の研究室にて実施した。実施期間は、学生の提出レポートを面談の資料とした「フィードバック週間」を２週間、上記１にある「キャリア・マニフェスト」達成のための「フォローアップ週間」を２週間、計４週間を設けた。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『大学生のためのキャリアガイドブック』	共著	2009年3月	北大路書房	寿山泰二・宮城まり子・三川俊樹・宇佐見義尚・柏木理佳・長尾博暢	pp. 34-41、pp. 60-82、pp. 84
論文					
「大学におけるインターンシップの教学的正統性―正課科目・単位認定の経緯と論理をめぐって―」	単著	2009年7月	日本インターンシップ学会『インターンシップ研究年報』第12号		pp. 51-61
その他					
『「企業がほしい中高年の人材に関する調査」結果報告書』	共著	2004年4月	京都地域労使就職支援機構（厚生労働省受託機関）	久本憲夫・長尾博暢	「総論(久本憲夫)」を除くほぼ全て。
『働く人々の「キャリアとこころ」アンケート調査報告書』	共著	2004年9月	京都地域労使就職支援機構（厚生労働省受託機関）	久本憲夫・長尾博暢・近藤運・京都地域労使就職支援機構	「総論・第２部 第１章（久本憲夫）」・「第２部 第４章 4.1～4.5（近藤運）」・「第２部 第５章（京都地域労使就職支援機構）」を除く残りほぼ全て。
『高校生の職業意識に関する調査報告書』	単著	2005年3月	京都経営者協会 若年者地域連携事業		

『企業の人材過不足に関する調査 報告書』	単著	2005年8月	京都地域労使就職支援機構（厚生労働省受託機関）		
『昨今の大学生等の就職意識の把握と各教育機関の取組 調査報告書』	共著	2006年3月	京都府若年者就業支援センター	久本憲夫・長尾博暢・林祐司	「要約(pp. 3-12)」, 「２．大学就職部による就職支援の実態(pp. 44-72)」, 「４．京都府若年者就業支援センター（ジョブカフェ京都）への期待(pp. 85-90)」
『高校生職業意識に関するアンケート調査報告書』	単著	2006年3月	京都経営者協会 若年者地域連携事業		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2004年10月～2006年3月	京都府雇用対策プロジェクト ジョブカフェ調査事業検討研究会 委員
2008年4月～	特定非営利活動法人大学コンソーシアム大阪　インターンシップ部会　インターンシップ・コーディネータ
2008年7月～	日本キャリア教育学会近畿中四国地区部会　役員
2008年10月～	日本インターンシップ学会関西部会　運営委員
2009年1月～	特定非営利活動法人大学コンソーシアム大阪　インターンシップ部会　インターンシップ推進委員
2009年10月～	日本インターンシップ学会　理事

（表24）

所属　経済学部	職名　　講師	氏名　村田　美希	学位　　修士（経済学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	ミクロ経済学　社会保障			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
経済学基礎演習	2004年4月～現在	2006年度、2007年度は「プレゼンテーション力を培う」を授業目標に掲げ、プレゼンテーションのテーマの設定、情報収集、資料作成を各学生が行い、学生によるプレゼンテーションを中心に授業を実施した。授業での報告前には、報告内容に関する個別指導を実施した。学生の参加意欲を高めるため、2007 年度は携帯電話を利用したc-learningシステムを活用し、プレゼンテーションに対する学生による評価アンケートを実施した。
ミクロ経済学	2004年4月～現在	学生の理解度を高めるために、単元毎に課題を課し、採点・添削を行った上で返却し、理解不足な点を中心に解説を行っている。
社会保障	2004年4月～現在	VTRやパワーポイントを活用し、現在の社会保障制度の問題点などを分かりやすく解説している。
演習Ⅰ	2004年4月～現在	グループ発表を中心に行い、秋学期にはディベートを実施している(2007・2008年度)。なお、ディベートについては、学生の習熟度により実施しない年度もある。
演習Ⅱ	2004年4月～現在	学生一人一人の研究テーマに応じて、きめ細かい指導を行なうため、頻繁に個別指導を実施し、中間発表会（ゼミ合宿）やゼミ卒業論文報告会を実施している。なお、指導にあたっては帝塚山大学のe-learning システムTIES を活用している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
両立支援の促進による出生率への影響分析	単著	2009年3月	追手門経済論集（第43巻第2号）		pp. 193-203
高齢者の生活支援と家族援助の持続可能性	単著	2009年9月	追手門経済論集（第44巻第1号）		pp. 63-80
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	日本経済学会、日本経済政策学会
＜社会活動＞	
2006年11月	講演「どうなる？年金」(追手門学院大学　秋の専門講座　於：追手門学院大学)
2007年10月	講演「少子・人口減少社会を考える」（追手門学院大学　経済学部秋季公開講座　於:追手門学院大学)
2008年10月	講演「家族の絆と家族支援政策」（追手門学院大学　秋の専門講座　於:追手門学院大学)
2008年9月～現在	茨木市次世代育成支援推進協議会委員

経営学部

＜経営学科＞

岩田　浩　(45)
植藤　正志　(46)
坂上　佳隆　(47)
地代　憲弘　(48)
篠原　健　(49)
徐　治文　(51)
髙森　哉子　(52)
田淵　正信　(54)
西岡　健夫　(55)
西村　美奈雄　(57)
山中　雅夫　(58)
伊藤　公一　(59)
上枝　正幸　(60)
岡崎　利美　(61)
杤尾　安伸　(62)
西島　太一　(63)
福田　直樹　(64)
水野　浩児　(66)
山下　克之　(69)

＜マーケティング学科＞

金川　智惠　(70)
黒目　哲児　(72)
小西　一彦　(74)
辻　幸恵　(76)
L.S.DE SILVA　(78)
L.J.VISWAT　(81)
福田　得夫　(83)
藤田　正　(85)
真庭　功　(86)
見市　晃　(87)
米倉　穣　(89)
井戸田　博樹　(90)
笹本　晃子　(93)
中野　統英　(94)
中村　都　(97)
山口　公一　(99)
松井　温文　(102)

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　岩田　浩	学位　　商学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	経営管理論、　経営学概論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
庭本佳和・藤井一弘編著『経営を動かす』文眞堂	2008年6月	12章「経営倫理の展開」を執筆担当。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
経営学を創り上げた思想	共著	2004年5月	文眞堂	経営学史学会編	pp. 14-28
経営を動かす	共著	2008年6月	文眞堂	庭本佳和・藤井一弘編著	pp. 222-237
経営理論と実践	共著	2009年5月	文眞堂	経営学史学会編	pp. 23-38
論文					
パースのプラグマティズムと経営理論	単著	2004年6月	大阪産業大学経営論集第５巻第３号		pp. 65-79
経営倫理学の展開	単著	2006年2月	大阪産業大学経営論集第７巻第１・２号合併号		pp. 65-86
道徳的判断の性質	単著	2008年12月	追手門経営論集Vol. 14, No. 2		pp. 1-42
その他（学会報告）					
経営理論の実践性とプラグマティズム	単独	2008年5月	経営学史学会第16回大会（於中央大学）		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2006年4月～2007年3月	大学基準協会　判定委員会経営学系専門審査分科会　主査
2007年4月～2008年3月	大学基準協会　大学評価委員会経営学系第６専門評価分科会　委員
2008年4月～2009年3月	大学基準協会　大学評価委員会経済学系第５専門評価分科会　委員
2008年6月～	経営学史学会　幹事

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　植藤　正志	学位：　博士（経営学）【神戸商科大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	経営史、リスク・マネジメント			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2007年4月1日～現在	専門科目の講義では、米国Stanford Universityの経済学部で経験した授業システムを参考に進めている。第1に、実質的な講義時間は1時間を目安とする。第2に、講義のテーマを明確に示す。第3に、前講義、現講義、次講義のテーマの関連性を講義の初めと終わりに説明する。第４に、学生からの質問時間をとる。質問のない場合には、教員から問いかけを行い講義内容の理解度をチェツクする。第5に、授業終了後には、学生の個人的質問を受ける機会をつくる。以上のような授業方法をもとに、学生の集中力、理解力、分析力、コミュニケーション力などの育成をはかりながら、専門知識の習得につながる講義となるよう努めている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2007年6月1日	後藤幸男・鳥邊晋司編著　《経営学》　税務経理協会。2001年１月に初版が発行されたが、2007年6月に部分改定され7版を数える。本書での分担は、第5章経営管理である。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2004年8月28日～2004年9月18日	①海外テーマ別研修（メルボルン大学セミナー）の策定と実施：　単なる語学研修ではなく、オーストラリア、メルボルン大学との共同による特別講義、通常の開講講義への参加、現地企業への訪問などを組み合わせた。ビジネスのグローバル化が急速に進む中で、経営学を学習する学生に経済的、社会的、文化的に大きく相違する環境の中で自ら体験をし、刺激を受け、何かを認識することから、学生としての意識革命を期待して計画した。
	2005年8月28日～2005年9月17日	②海外研修プログラム（メルボルン大学セミナー）の策定と実行：　前年度に実施した海外テーマ別研修を正規の学部カリキュラムの中に組み込み、経営学を学習する学生の世界観、異文化観を刺激することから学生の意識革命をさらに促進することを目的に改善を加え計画・実行したものである。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
企業危機の見えざる原因	単著	2005年11月	大阪学院大学通信　第36巻　第8号		pp. 1-25
企業危機の組織的原因―組織文化とリスク神話をめぐって―	単著	2009年3月	追手門経済・経営研究No. 16		pp. 13-26
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

（所属学会）	日本経営学会、経営史学会、日本リスク・マネジメント学会
（学会発表）2008年3月30日	リスク・マネジメント研究の展開（コメント） 日本リスクマネジメント学会、創立30周年記念シンポジュウム、関西大学100周年記念会館.

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　坂上　佳隆	学位　　博士（経済学）【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	学部：意思決定論1,2、経営統計、経営データ分析　　大学院：経営統計学特論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2004年4月1日～2009年5月1日	経営統計・経営データ分析の講義では、理解を深め、双方向の授業を実現させるためにコンピューターを用いた実習的方法を採用している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
The Effect of FSD Changes in Multiplicative Background Risk on Risk-Taking Attitude	単著	2006年6月	SSS'05 プロシーディング		pp.197-201
The Effects of FSD Changes in Multiplicative Background Risk on Risk-Taking Attitude	単著	2006年10月	International Journal of Innovative Computing,Information and Control, Vol.2, No.5		pp.1017-1025
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1978年～現在	日本統計学会会員
1985年～現在	日本オペレーションズ・リサーチ学会会員

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　地代　憲弘	学位　　工学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	人的資源管理論、人的資源管理特論、人的資源管理特論演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
学部授業評価報告書への自己評価点検の記載	2004年12月22日	2004年度授業改善報告書を学部長として発行した。（9頁） 個人として：人的資源管理論を対象とした学生による授業評価結果、「プレゼンテーションの適切性」についての不満があったので、授業のビジュアル化に取り組むよう改善の方針を述べた。
	2005年11月30日	2005年度授業改善報告書を学部長として発行した。
	2006年12月21日	2006年度授業改善報告書を学部長として発行した。
	2007年12月21日	2007年度授業改善報告書を学部長として発行した。
	2008年12月21日	人的資源管理論の学生による授業評価から、授業への参加意識高揚の方策について検討を加えた。毎回の小レポートや授業中の巡回質問などを行ってコミュニケーション改善の取り組みをしているが、効果はまだ現れていない。（13頁）
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
中小企業経営者の経営資質が業績へ及ぼす要因についての一考察	共著	2009年3月	工業経営研究学会西日本部会 ASIM Woking Paper Series No.W-09-01(査読有り)	岡田好史・地代憲弘	pp.1-14
その他					
＜口頭報告＞ 「中小企業経営者のIT資質向上への一考察」	共著	2008年8月29日	工業経営研究学会西日本部会研究会	岡田好史・地代憲弘	
＜口頭報告＞ 「中小企業経営者の経営能力の源泉と醸成手法についての一考察」	共著	2009年9月8日	工業経営研究学会第24回全国大会予稿集	岡田好史・地代憲弘	pp.41-44

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

～2006年9月	工業経営研究学会理事
～2005年6月	（社）日本経営工学会関西支部運営委員
～2005年3月	（社）日本労務管理研究会　中小企業人事能力の再評価に関する研究委員会、座長
2004年5月～2007年10月	大阪府立産業開発研究所　研究評価委員
2006年1月～2007年12月	日本経営学会第81回大会プログラム委員、大会事務局長
2009年1月～	工業経営研究学会理事、副会長

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　篠原　健	学位　　博士（国際公共政策）【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	オペレーションズ・リサーチ、通信ネットワーク、インターンシップ、基礎・発展・卒業演習、社会情報学特論、社会情報学特論演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
GIS(地理情報システムを活用した参加・体験型授業	2006年、2007年、2008年	学生がフィールドで写真とコメントを収集し、地図上に整理することによって、参加・体験・発見型の授業モデルを実施。地域のNPOと協力し、万博公園で実施。
グーグルドキュメントを利用したリアルタイム双方向授業	2007年、2008年	リアルタイムで、ゼミ学生全員のコメントや意見を共有する仕組みを授業に導入し、授業改善の試みを行っている。
総合情報教育センター長として教育情報インフラの更改、教育の情報化の推進に取組む	2006年、2007年、2008年	新システムの設計・導入。センターのマネジメント全般 教育コンテンツの作成・利用推進活動。他
2　作成した教科書、教材、参考書		
GIS(地理情報システムを活用した情報共有分析システム	2008年	携帯やデジカメとGPS（測位装置）を利用して、地図上に写真とコメントを貼り付け、その情報を共有すると共に分析することの出来るツールのプロトタイプを開発。　応用分野として、マーケティング、社会調査などを考えている。
オペレーションズ・リサーチ授業コンテンツの開発（途中）	2007年、2008年	オペレーションズ・リサーチは経営学の重要な部分であるが、一般的な教材は事例が古く、また理論に偏りすぎており文科系の学生が興味をもって取組むことに難がある。本学の学生が興味をもって取組めるような追手門独自の、リベラルアーツ型コンテンツの開発に取組んでいる。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
初級シスアド講座の開設	2006年、2007年、2008年	学生の情報関連資格の取得を推進する目的で、複数の教員、情報センター付教員と協力して、2006年から春休みの講座を開設。徐々に成果が上がってきた。
社会人ゼミの開設	2005年～2009年	学内の複数の教員と共同で、学内および学外の教員・大学院生・社会人によるオープンなゼミを、ほぼ隔週の土曜日に開講している。大学院の学生の指導を兼ね、産業界の現実の課題を含め異分野の自由な研究交流を目的としている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Maitland+20ミッシング・リンクの解消（翻訳本）	共著	2006年8月	（財）日本ITU協会　ISBN4-916128-04-4	稲村公望、川角晴彦、篠原健、他	13章 pp.119-128, 15章 pp.137-142
論文					
Telemedicine in Ubiquitous Network Age	共著	2005年1月	The Third APT Telemedicine Workshop 2005, Jan 27-28,2005 Kuala Lumpur, Malaysia	T.Shinohara,K。Nagami, M.Kitamura	
酒販売免許の規制緩和と中小酒屋の経営戦略－KLCネットワークシステム－	共著	2005年9月	社会情報学会（JASI)第20回全国大会、京都大学	王強華、篠原健他	
公共IDCの事業戦略策定に関する一考察	共著	2005年9月	社会情報学会（JASI)第21回全国大会、京都大学	岩下安男、高瀬宣士、篠原健他	
日本型行政制度下における電子自治体の課題	共著	2005年10月	社会情報学会（JASI)第22回全国大会、京都大学	山下恵司、黒目哲司、真田英彦、篠原健	
その他					
Emerging ICT Market in the Ubiquitous Network Age	招待講演	2005年6月	愛知万国博覧会・オーストラリア館　ICT　day　にて		
ユビキタスネットワークの脅威とビジネス	パネル討論	2005年6月	経営情報学会2005年春期研究発表大会		
ユビキタス時代におけるIT投資のROI評価－市場創造、新たな脅威、進化－	招待基調講演	2005年9月	工業経営研究会第20回全国大会、追手門学院大学		
情報経済のパラダイムシフト－次世代社会経済システムを担う主体とは－	パネル討論	2006年6月	日本社会情報学会第103回研究会		

データ交換移動体、データ収集交換方法およびコンピュータプログラム	特許取得	2007年10月	特開2004-289953	篠原健、村上輝康、玉田樹、北村倫夫	
位置情報爆発時代における自己情報コントロール権としてのステルス権についての提案	共著	2008年7月	日本社会情報学会第16回関西支部	国司、篠原	
An Empirical Study of Factors Promoting the Practical Use of Customer's Personal Information in Japan	共著	2008年9月	ITS (International Telecommunications Society) 19th European Regional Conference, Sep.18-20,Rome	井戸田、黒目、篠原	
情報爆発時代における位置情報に関するステルス権についての提案	共著	2008年11月	日本社会情報学会第17回関西支部	国司、篠原、黒目、井戸田	
The Factors to Promote the Practical Use of Customer's Personal Information in the Japanese firms	共著	2008年12月	OTEMON Economic Studies,Vol.41,2008	井戸田、黒目、篠原	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2004年4月～2005年3月	京都大学大学院客員教授	情報学研究科・社会情報学専攻、野村総研連携講座の担当教授を務める。
2004年4月～2006年3月	名古屋大学大学院客員教授	非常勤で大学院生の指導にたずさわる。
2005年～2008年	大阪大学社会人教育講座　セキュアネットワークセミナ　講師	セキュア・ネットワークセミナにて、毎年「電子認証の技術、制度、ビジネス」を講義
2006、2007年度	大阪府電子契約導入検討委員会副委員長	電子契約の推進、モデル実験を行う、産官学の検討委員会。先進的なアウトプットがでる。
2006、2007、2008、2009年度	JISA(情報サービス産業協会) 国際委員会・国際公共政策部会長	情報産業の国際化に伴う政策問題を取り扱う。
2006、2007、2008年度	大学基準協会・評価委員	評価委員として、３年連続して、他大学の評価に携わる。
2008年4月～至現在	日本社会情報学会 (JASI)役員	日本社会情報学会 (JASI)役員
2009年度	日本高等教育評価機構・評価委員	他大学の評価に従事

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　徐　治文	学位　　法学博士【九州大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	商法総則・商行為法、会社法、比較会社法、商法演習、商法特論（大学院）			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
		講義・演習の履修効果を高めるために、会社法関連の判例や会社法務実務の実例を取り入れ、ＶＴＲ・ＤＶＤ教材やコンピューター技術を活用するなど様々な教育方法の改善を工夫している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2005年8月	現代中国ビジネス法（単著・法律文化社）
	2007年3月	現代会社法理論と「法と経済学」（単著・光洋書房）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
グローバル化の中の現代中国法(第二版)	共著	2009年10月	成文堂	西村　幸次郎、徐　治文	pp. 161-184
現代中国ビジネス法	単著	2005年8月	法律文化社		pp. 1-238
現代会社法理論と「法と経済学」	単著	2007年3月	光洋書房		pp. 1-197
論文					
中国改正会社法の意義と課題	単著	2006年12月	追手門経営論集１２巻２号	徐　治文	pp. 1-10
会社の資本制度とコーポレート・ガバナンス	単著	2008年3月	法学論集４０巻３号	徐　治文	pp. 183-215
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	九州大学産業法研究会　関西商事法研究会、日中民商法研究会など

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　髙森　哉子	学位　　博士（法学）【千葉大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	民法（総則）、民法（物権法）、基礎演習１・２、発展演習１・２、卒業演習１・２、民法特論、民法特論演習、民法特殊研究			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義科目における具体的教育実践	1992年4月～現在に至る	学生には、教科書・六法・初回から授業ノート（これらを３点セットと称している）を持参して受講することを義務付けている。授業の冒頭５分間で、教科書と前回のノートを用い、前回の復習をし本授業のテーマを明確にする。テーマの解説では、学生の興味をかきたてるために学生にとって身近な実例を用意し、時間の許す限りにおいて判例を取り上げ、事実関係を具体的に紹介している。学生の授業参加を促すために教科書・六法に複数色のカラーマーキングをさせ、また学生自身の復習に役立たせるため、板書は丁寧かつ工夫を凝らし、重要な箇所は「何月何日の授業ノートを見よ」と指示し、授業中も各自ノートを読み返させている。大きくてはっきりとした口調で話すことはいうまでもない。私語はもちろんのこと授業中の入退出も厳しく注意している。これらの工夫の結果、授業評価では「基礎から教えてくれる授業は他にもあるけれど、基礎の基礎から教えてくれる授業は、この授業しかない」、「先生の熱意にやる気がでた」、「受講生が一体感をもって授業に参加できた」など好評であり、授業への満足度が高い。
法廷傍聴の実施・指導	1996年4月～現在に至る	判例が「現代社会における生ける法」であることを学ばせるため、毎年３回、ゼミ生の大阪地裁への法廷傍聴を実施している。事前にレジュメを配布して自習させた上、一人ひとりに課題を持たせ、実施後に報告書を提出させて指導し、理解を深めている。
模擬裁判の実施	2005年4月～現在に至る	法と裁判を身近なものとして実感させるため、刑事裁判の脚本を準備し、新入生演習において模擬裁判を実施している。裁判員制度に対する理解の向上にも役立っているようである。
２　作成した教科書、教材、参考書		
『物権法講義〈第１分冊〉〔補訂版〕』（共著）関西大学出版部	2006年10月30日	民法（物権法）の教科書であり、学説の交錯よりも判例の変遷、展開に重きをおいて分かり易く解説した。物権法総論、主に物権変動論を扱う。平成16年の民法口語化改正及び不動産登記法の改正に対応して、補訂版を出版した。
『物権法講義〈第３分冊〉〔改訂版〕』（共著）関西大学出版部	2007年9月1日	上記『物権法講義』シリーズの第３分冊で、担保法としての人的担保と物的担保を扱う。平成15年に担保法に重要な改正があり、平成16年には口語化改正とともに保証制度の見直しもなされた。改訂版では、なぜ改正に至ったのかを学生に分かってもらえるよう配慮した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
公開授業の実施	2008年7月1日	「民法（総則）」の公開授業を実施した。授業後の授業研究会では、「200人あまりの受講生ほぼ全員の心をつかんで授業しているのに感心した」、「パワフルで、話術が実に楽しく、正直、学生がうらやましかった」、「緩急自在な間の取り方が、実に参考になった」等の好評を得た。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
プレゼミの実施	2007年4月～現在に至る	基礎・発展・卒業のすべての演習において、民法財産法上の重要かつ興味深い判例を取り上げ、ゼミ生に報告させ、活発な議論・討論をすることによって、ゼミ生の法的思考力を鍛錬し、問題処理能力を養いたいと考えている。しかし、学生にとっては、判例集に掲載されている判例そのものから事案の概要をまとめ、判旨を抽出することはなかなか困難な作業である。そこで、プレゼミ、すなわち課題ごとに報告者全員が研究室に集まり、私の前で事前報告・質問をすることを義務付けた。学年の異なる３つのゼミが併存しているため、なかなか時間の要することであり、判例そのものの取り方から改めて指導しなければならないこともしばしばあるが、このプレゼミの実施により、全般的にゼミ報告の内容が深まり、議論に参加しようとする意欲の向上が感じられるようになった。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『無権代理と相続』	単著	2006年2月26日	法律文化社		pp. 1-238
『代理法の研究』学位論文	単著	2008年2月10日	法律文化社		pp. 1-649
論文					

その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
＜所属学会等＞	日本私法学会、比較法学会、末川民事法研究会、家族〈社会と法〉学会
＜社会における主な活動＞	
1997年12月～2005年12月	大阪府豊中市教育委員
2001年5月～2004年5月	大阪府豊中市教育委員長
2001年5月～2004年5月	大阪府豊中市青少年問題協議会委員
2007年8月～現在に至る	大阪府公益認定等委員会委員・大阪府公益認定等委員会委員長代理

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　田淵　正信	学位　　なし	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	会計学原理、簿記（入門、初級、上級）、連結会計、財務諸表特論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
公開事業の実施	2008年7月	会計学原理において、公開授業を実施した。聴取した先生方の批判を受け、授業改善に有意義であった。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
会計研究会の設置	2008年4月	会計関係の資格取得を目指す学生のために、経営学部に会計研究会を立ち上げ研究室、教材、その他勉強の機会を設けている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
組織再編の会計と税務	単著	2008年12月	追手門経営論集		pp. 63-78
その他					
オーストラリアの税制リサーチペーパー	単著	2008年12月	オーストラリア研究紀要		pp. 5-14

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2004年度 2005年度	金融庁、公認会計士第３次試験試験委員　2004年度（監査論口述試験、論述試験担当）、2005年度（監査論口述試験担当）
2004年9月	対外経済貿易大学客員教授、『中日会計税務制度国際比較シンポジウム』を開催し、中国人学生に日中の会計税務制度の異同について講演（中国北京）
2006年12月	大阪市立大学創造都市研究科、「今求められるコーポレートガバナンスの強化、内部統制制度の充実と人材の育成」について講演
2007年11月1日～29日（６回）	NPO法人関西社会人大学院連合、インテリジェントアレー専門セミナー2007年11月1日～29日（６回） 『M&Aの会計、税法と会社法、会社合併・企業買収・持株会社・組織分割』社会人を聴講生として、 公認会計士、税理士の立場から首記テーマについて2時間のセミナーを５回行った。
2008年1月	日本システム監査学会、近畿地区システム関西研究会、『内部統制監査とIT統制』と題して自動化された業務処理統制等に関する評価手続(公開草案)の検討(報告書35号)を中心に研究発表を行った。
2009年2月2日	追手門学院大学オーストラリア研究所主催共同研究セミナー、"Outline of Australian Taxation"と題し発表を行なった。

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　西岡 健夫	学位　　博士（経済学）【京都大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	経営倫理、経営組織、経営学概論（以上学部）経営学特論、同演習（以上博士前期課程）、経営学特殊研究、同研究演習（以上博士後期課程）			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
		経営学概論、経営倫理、経営組織の講義において年に４，５回産業界から外部講師を招き、理論と実際の橋渡しに努力。ゼミナールにおいては、学生の発表と討議に力点を置き、細かく指導。大講義での双方向方式（質疑や小試験）、視聴覚機器活用にも注力。毎年、各授業での授業アンケートをフィードバックし授業改善（例えば板書のわかりやすさ、具体例の準備）に努めている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2004年4月	経営倫理学ノート（教科書をわかりやすく噛み砕いたもの）。教科書としては、拙著『成熟社会の企業学』（文眞堂、2003年９月）を使用。また、経営学ガイド（1992年に担当として初作成、以降毎年改訂）を活用。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
		『私の新入生演習』（追手門学院教育研究所紀要第22号）
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2004年5月～2007年3月	副学長として教学改革に取り組む。在任中、キャリアデザイン論（原則全員履修）、副専攻、授業公開、大学院授業アンケートなどを開始した。　また、組織として教学支援課（現在学長室に発展）を立ち上げた。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
企業の責任・統治・再生	共著	2008年4月	文眞堂	菊池・平田・厚東	pp. 22-37
論文					
いかに経済性と社会性を統合するか	単著	2004年6月	龍谷大学経済学論集 第44巻2号		pp. 75-82
How Can Economy Consist with Society?	単著	2004年12月	OTEMON ECONOMIC STUDIES Vol.37		pp. 1-13
高次の社会的責任	単著	2007年3月	日本経営倫理学会誌14号		pp. 197-206
独占的競争・パワー・組織	単著	2008年3月	追手門経済経営研究15号		pp. 1-15
自由競争と経営倫理（その1）	単著	2009年3月	追手門経済経営研究16号		pp. 1-12
その他					
＜辞典・事典＞					
応用倫理学事典	共著	2007年12月	丸善	加藤尚武	pp. 362,　pp. 372,　pp. 390
＜学会発表＞					
How Can Economy Consist with Society?	単独	2004年5月	環太平洋経営学会		ネブラスカ大学主催（於アンカレッジ）
企業の経済活動と人間の幸福	単独	2005年11月	社会経済システム学会全国大会		於関西学院大学
高次の社会的責任	単独	2006年10月	経営倫理学会全国大会		於慶応大学
Changing Japanese Management System	単独	2009年9月	ヨーロッパ経営倫理学会		於Deree College（アテネ・ギリシャ）

Ⅲ　学会等および社会における主な活動		
2002年4月1日～	ひょうごセルフヘルプ支援センター監事	
2005年4月1日～	経営倫理学会評議員	
2005年5月1日～	経営学史学会理事（2009年5月1日～運営委員）	
2004年8月7日	経営哲学学会全国大会コメンテーター	於青森公立大学
2005年5月25日	経営倫理実践研究センター基調報告	於大阪府商工会館
2005年6月11日	ﾋｭｰﾏﾝｴｺﾉﾐｰ学科開設記念シンポジウムシンポジスト	於大阪府ドーンセンター
2005年7月16日	茨木高校OB講座講師	於大阪府立茨木高校
2005年9月4日	経営哲学学会全国大会コメンテーター	於明治学院大学
2006年5月21日	経営学史学会全国大会コメンテーター	於熊本学園大学
2007年5月20日	経営学史学会全国大会統一論題討論者	於北海学園大学
2007年9月5～8日	日本経営学会全国大会大会委員長	於追手門学院大学
2007年9月6日	日本経営学会全国大会統一論題討論者	於追手門学院大学
2008年1月12日	日本経営学会関西部会コメンテーター	於大阪市立大学文化交流センター
2008年5月18日	経営学史学会全国大会コメンテーター	於中央大学

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　西村　美奈雄	学位　　経営学修士【神戸大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	管理会計論１・２，　情報会計論特論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
「管理会計論１・２」	2004年4月～2009年5月	「管理会計論１・２」においては、「管理会計技法とその基本的な考え方」というテーマのもとに、管理会計総論とでも言うべき内容、即ち、管理会計の二大領域である業績管理会計と意思決定会計のそれぞれに属する管理会計技法を取り上げ、技法の解説とその背後にある基本的思考の解明に焦点を定めて講義をおこなっている。そのために、管理会計技法についての単なる知識の伝達に終わるのではなく、思考力の増進を図るべく、可能な限り、文・図いずれについても簡潔な表現を心掛けると共に、簡単な具体例・数値例を挙げて説明するよう工夫している。さらに、新しく考案・開発されている管理会計技法も、時間の許す限り、講義に取り入れるべく努めている。
「情報会計論特論」	2004年4月～2009年5月	「情報会計論特論」においては、「情報会計の基礎理論の研究」というテーマのもとに、情報提供行為としての会計の基本的原理を考察し解明するべく、関連する文献（主に論文）を、一回の授業につき、一編の論文を読了する、という形で授業をおこなっている。そして、情報会計の意義、情報会計誕生の背景、情報会計の基本的思考ならびにその展開、そして、情報会計の現状等について、順次、解明するよう努めている。
２　作成した教科書、教材、参考書		
講義ノートによる教育内容の更新	2004年4月～2009年5月	「入門簿記・初級簿記」、「管理会計論１・２」に関し、その基本思考の理解に資するよう、又、新たな研究成果を取り入れるべく、講義ノートによる教育内容の更新に努めている。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
会計と意思決定	単著	2007年3月	追手門学院大学創立四十周年記念論集－経営学部篇－（追手門経済・経営研究，第１４号）		pp. 181-189
その他					
現代会計用語辞典（第３版）	共著	2005年5月	税務経理協会	興津裕康，大矢知浩司　編	執筆項目： 「資本金」　pp. 122 「増資」　pp. 165 「売却時価」　pp. 214 「売却時価会計」　pp. 214-215
第六版　会計学辞典	共著	2007年8月	同文館	神戸大学会計学研究室編	執筆項目： 「固定負債」　pp. 469 「個別法」　pp. 473-474 「財団抵当借入金」pp. 494

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1968年5月～現在	日本会計研究学会（会員）
1970年8月～現在	American Accounting Association（Member）
1978年6月～現在	The International Institute of Social Economics（Fellow）
1991年12月～現在	日本管理会計学会（会員）
1993年6月～現在	Institute of Management Accountants（Member）

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　山中　雅夫	学位　　博士（経営学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	博士前期課程：企業論特論、同演習　　博士後期課程：国際比較経営論特殊研究、同演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
企業論、国際比較経営論でのケース・スタディーの採用		多年にわたるオーストラリア、アメリカ、中国における日系企業の現地調査で得た知見を紹介し、教育効果の向上を図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
海外現地調査報告書の作成		2004年12月「トヨタとオーストラリア自動車産業の構造改革」 オーストラリア研究紀要30号 2009年3月「オーストラリア自動車市場と経営環境」 オーストラリア研究紀要34号
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
国際共同研究の結果報告による事例紹介		多国籍企業を対象とした国際共同研究（西オーストラリア大学、メルボルン大学等）の報告会への学生参加

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
「アジアオーストラリア関係の拡大と深化」	単著	2008年3月	オーストラリア研究紀要　30号		pp. 65-80
「Toyota and Structural Reform of Australian Industry」	単著	2008年3月	Otemon Economic Studies No. 40		pp. 9-25
オーストラリア自動車市場と経営環境	単著	2008年12月25日	オーストラリア研究紀要　34号		pp. 17-36
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2001年12月～2003年11月	大洋州経済学会代表幹事
2003年12月～2005年11月	大洋州経済学会幹事
2005年12月～2007年11月	大洋州経済学会代表幹事
2007年12月～	大洋州経済学会幹事

（表24）

所属　経営学部	職名　　准教授	氏名　伊藤　公一	学位　博士（経営学）【神戸大学 2004年】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	監査論１・２，　入門簿記，初級簿記			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
読み，書き，聴く力の養成	2008年4～7月	パワーポイントを用いず，板書と最低限度のハンドアウト配付及び口頭説明のみによる講義を時々行い，学生がより主体的に講義を聴講するための工夫を行った。
ゼミでのプレゼンテーション力の養成	2009年9月～現在	基礎演習および発展演習において、新しいビジネス・プランの提案を行う「キャンパスベンチャーグランプリ」への応募を行った。このために４～５人のグループごとにディスカッションさせ、ゼミにおいてプレゼンテーションを求めた。これにより、ゼミ生同士の対話・協力の姿勢が強化された。
２　作成した教科書、教材、参考書		
監査論１，２のハンドアウト・パワーポイント	2006年	監査論１，２に用いる教材である（空所補充式）。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
まなびの入門監査論	共著	2007年5月	中央経済社	盛田、朴、百合野	pp. 47-56（第4章）
論文					
アーニングス･マネジメントのコスト･ベネフィット分析	単著	2006年6月	追手門経営論集　第12巻 第1号		pp. 45-65
非監査業務の同時提供における監査人の外観的独立性の観察可能性	単著	2008年3月	追手門経営論集　第13巻 第2号		pp. 41-67
大学評価における検証行為の本質	単著	2008年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第26号		pp. 114-122
公正価値を含む会計上の見積りの検証可能性	単著	2008年9月	追手門経営論集　第14巻 第1号		pp. 1-23
会計上の見積りの監査―経営者バイアスへの対応	単著	2009年5月	企業会計 第61巻 第7号		pp. 138-147
研究ノート					
利益操作と監査意見に関する研究の方法	単著	2007年9月	追手門学院大学教育研究所紀要第26号		pp. 114-122

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2005年4月	関西監査研究学会入会
2006年7月	日本監査研究学会入会
2006年9月	日本会計研究学会入会
2008年4月	「国際監査基準230号『監査調査』」　関西監査研究学会（学会報告）
2008年5月	「財務諸表監査における公正価値の検証可能性」　日本繊維機械学会（学会報告）
2008年8月	国際会計研究学会入会
2009年5月	茨木市指定管理者候補者選定委員会

（表24）

所属　経営学部	職名　　准教授	氏名　　上枝　正幸	学位　　博士（経済学）【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	入門簿記、初級簿記、中級簿記１・２、新入生・基礎・発展・卒業演習（学部）、会計学特論演習Ｉ（大学院）			

Ｉ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
２　作成した教科書、教材、参考書		
講義ノートの作成	2005年度～2008年度	入門・初級簿記、中級簿記１・２および発展演習１・２において、数回分の講義の補助資料兼書込式の用紙として、冊子の講義ノートを作成した復習に重点を置き、講義時間の最初または最後に実施する演習問題を作成した
復習問題の作成	2005年度～2008年度	復習に重点を置き、講義時間の最初乃至最後に実施する演習問題を多数作成した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
2004年度ティーチング・アワード受賞	2005年3月	全受講学生から授業調査の結果に基づき、表彰を受けた（於 名古屋商科大学）

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
企業による情報開示の経済的影響についての予備的考察	単著	2004年7月	名古屋商科大学論集（第49巻・第１号）		pp. 59-78
裁量に基づく経営者の情報開示―理論モデルのレヴュー	単著	2005年3月	名古屋商科大学論集（第49巻・第2号）		pp. 71-106
開示関連コストと経営者の情報開示―実験による検証	単著	2005年8月	Discussion Papers in Business Management (No.1, Otemon University)		pp. 1-20
実験的手法を用いた経営者開示行動の研究	単著	2005年11月	博士学位申請論文（翌年1月受理・大阪大学大学院経済学研究科）		pp. 1-176
会計学における実験研究―財務会計における行動科学研究の近年の動向	単著	2007年3月	追手門経済・経営研究（第13号）		pp. 191-242
開示関連コストと経営者の情報開示―実験市場での検証	単著	2007年3月	現代ディスクロージャー研究（第７号）、査読付		pp. 1-10
情報の価値･情報入手行動に関する―考察―理論および実験研究	単著	2009年3月	追手門経済・経営研究（第16号）		pp. 45-118
経済学の実験の実施―ある会計学研究者のマニュアル(手作業)実験の経験から―Version 1.0	単著	2009年3月	Discussion Papers in Business Management (No.17, Otemon University)		pp. 1-2
経済学の実験の実施―ある会計学研究者のマニュアル(手作業)実験の経験から―Version 2.1	単著	2009年10月	追手門経営論集（第15巻・第1号）		pp. 35-70
シグナリング理論：再訪	単著	2009年10月	追手門経営論集（第15巻・第1号）		pp. 285-319
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2007年7月～2009年5月（委嘱解除）	大阪府茨木市指定管理者制度選定委員（７名の委員中、学識経験者として参画）
2008年11月～2009年2月	大阪府茨木市特別職報酬等審議委員会委員（学識者経験者として参画、以降２年毎に開催予定）

（表24）

所属　経営学部	職名　　准教授	氏名　岡崎　利美	学位　　商学修士【神戸大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	経営財務論、ベンチャーファイナンス論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
財務マネジメント	共著	2005年10月	中央経済社	西村慶一、鳥邊信司、岡崎利美、川上昌直、赤石篤紀（著）	pp. 27-83
パーソナルファイナンス入門	共著	2006年4月	中央経済社	榊原茂樹、城下賢吾、姜喜永、砂川伸幸　編著	pp. 91-105
論文					
ユーロ誕生と国際市場の変質	単著	2005年7月	証券経済学会年報（第40号）		pp. 116-121
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　経営学部	職名　　准教授	氏名　杤尾　安伸	学位　　博士（経営学）【神戸大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目				

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
経営学を理解させるうえで、春学期は理論としての経営学の知識の習得、秋学期は経営学の知識の応用方法の習得を目指す。	2004年4月1日～現在	実践としての経営学の知識の応用には、具体的な事例に基づいた解説を行う。
2　作成した教科書、教材、参考書		
「1からの経営学」 （中央経済社　加護野忠男・　　吉村典久編）	2006年12月1日	本教科書に添付されるパワーポイント版入力のCD-ROMには、授業で利用するための様々な工夫が施されている。 （例　P. Pに合わせた教員の言葉事例集　他）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「１からの経営学」	共著	2007年12月	中央経済社	加護野忠男・　吉村典久編	pp. 55-66
論文					
イノベーション研究における組織認識論の意義	単著	2005年6月	追手門経営論集 Vol.11 No.1		pp. 73-96
組織構造と技能との関係	単著	2008年12月	追手門経営論集 Vol.14,No.2		pp. 79-98
中小企業における現場の技能 Discussion Papers in Business Management No. 14	単著	2009年2月	追手門学院大学経営学会		
金型企業を対象としたインタビューデータ集 Discussion Papers in Business Management No. 15	単著	2009年2月	追手門学院大学経営学会		
その他（学会活動）					
OJT教育の内実	単著	2005年3月	経営診断学会 関西部会	本論文は、金型生産を行う事例1社のみを対象にして、詳細なインタビューを行った事例研究である。	
教え方の順序と技能	単著	2007年5月1日	日本繊維機械学会 第60回年次大会	中小企業で有効な人材育成法について独自の仮説を提示した研究である。	
技術革新と技能	単著	2008年5月1日	日本繊維機械学会 第61回年次大会	技術革新による技能への影響について知識創造論との関連で検討した研究である。	
中小企業の人材育成		2009年5月	日本繊維機械学会 第62回年次大会	中小企業における企業特殊的技能の内実を明らかにした研究である。	
人づくり・ものづくり		2009年6月	日本繊維製品消費科学会 2009年年次大会	企業特殊的技能がなぜ労働移動の阻外要因となるのかを明らかにする研究である。	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2009年10月	『これからの企業内教育のあり方について』「変貌する企業社会」2009年度秋の専門講座　今後のあるべき企業の雇用慣行について

（表24）

所属　経営学部	職名　　准教授	氏名　西島　太一	学位　　法学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	ビジネス法基礎1・2　商法（総則・商行為）　会社法１　国際法務			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	毎学期	講義では全て空欄補充型のプリントを配布し、それに記入する自分なりのテキストを自然に完成できるようにしている。教科書等を購入してもらった場合、各学生の履修科目トータルで見た場合、相当な金銭的コストがかかることになるし、持ち運びが重くなるからでもある。特に実定法系の授業では法律の条文を引くことが不可欠となるが、予めプリントに条文を掲げておくことにより、六法の持参や「条文を引くための時間」が不要となるので、少なくともその分は効率が上がると考えている。
２　作成した教科書、教材、参考書		
	毎学期	上記１．の通り、基本的にプリント活用型の講義としているので、毎期各科目について100頁以上の資料を作成している。また、商法（Ⅱ）においては自分で会社設立のための定款や登記申請書等を作成することが具体的なイメージ作りにつながることから、「会社設立キット」を配布し、各自に（仮想的な）会社設立作業を行ってもらっている。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
養子縁組事件の国際裁判管轄	共著	2004年7月	『国際私法判例百選』有斐閣	櫻田嘉章・道垣内正人編	pp. 184-185
養子縁組事件の国際裁判管轄	共著	2007年1月	『国際私法判例百選【新法対応補正版】』有斐閣	櫻田嘉章・道垣内正人編	pp. 188-189
国外に居住する子の親権者指定の国際裁判管轄	共著	2007年4月	『平成18年度重要判例解説』有斐閣	（ジュリスト編集室編）	pp. 301-303
論文					
ニュージーランドの2003年売春改革について法について	単著	2007年12月	オーストラリア研究紀要（33号）		pp. 139-176
ニュージーランドの1999年法解釈法について-法令上の用語法、制定法解釈の指針及び政府非拘束原則-	単著	2007年12月	追手門経営論集（13巻2号）		pp. 69-129
その他					
〈翻訳〉ニュージーランドの2003年売春改革法及び同施行令	単著	2007年12月	オーストラリア研究紀要（33号）		pp. 225-262

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	国際私法学会、関西国際私法学会

（表24）

所属　経営学部	職名　　准教授	氏名　福田　直樹	学位　　博士（経営学）【神戸大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	入門簿記・初級簿記，原価計算論１・２，新入生演習，基礎演習，発展演習，卒業演習，日本事情４			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
［講義・ゼミ］簿記や原価計算論における疑問形・具体例を基本にした講義の進行	2004年4月-現在に至る	小職が担当している簿記や原価計算論の講義科目では，常に具体的事例を取り上げて講義を進めることで，学生が会計の手法を理解しやすいような配慮を心がけている。中でも簿記では，学生自身が1つの店の経営者になったと仮定してもらい，その前提のもと，自分たちで考えながら講義を受けてもらえるようにしている。その際，教員側が，学生に対して「自分だったらどうするか。」など，疑問形の口調で講義を進めることで，自然に学生自身が自分たちの頭で考えられるように工夫し，学生の会計科目に対する興味や学習意欲をできる限り高めることを狙って講義を進めるようにしている。
［ゼミ］参加・実践型教育の実践	2006年4月-現在に至る	演習科目では，教科書で理論のみを学習するだけではなく，現実の企業へのインタビューや工場見学による調査，さらには，文献・データベース調査を実施してもらい，その結果を全員で報告・議論させることを通じて理論をより深く理解してもらうことを目標にしている。
［ゼミ］大学祭出店を通した管理会計の体験型学習の実施	2008年4月-現在に至る	毎年秋に行われる大学祭にゼミ生に出店させることで，実際の管理会計技法の実践をゼミ生に体験しながら学習してもらった。ゼミ生たちは，ゼミで学習した管理会計の知識を踏まえて自ら策定した利益計画案やコスト計算，および，CVP分析の結果に基づき，自分たちで購買，製造の意思決定を行った。実施後は，多くの学生が，出店を通じて感じた課題を自ら調査したり，管理会計の他の分野にも興味を示したりするようになった。
［ゼミ］工場見学を通した実務における管理会計実践の学習	2008年11月-現在に至る	学内でゼミを実施する他に工場見学を実施し，ゼミで学習してきた管理会計やコスト・マネジメントが実際の企業でどのように実践されているのかをゼミ生に学ばせ，教育効果を向上させてきた。ゼミでは，これまでキリンビバレッジやトヨタ自動車の工場を訪問した。見学後，ゼミ生には，工場見学で学習した点に加え，文献，資料調査，グループごとの討論の内容等も踏まえた調査結果を報告させた。
２　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
オフィス・アワー	2004年4月-現在に至る	毎週月曜日3限目に設定
学生からの授業アンケートにおける評価	2005年4月-現在に至る	授業評価アンケートでは，多くの学生から「熱く語ってくれる」，「理解できるように繰り返し教えてくれる」，「具体的で分かりやすい」との意見を多数いただいている。
［ゼミ］卒業論文の執筆指導	2006年4月-現在に至る	本学部では，４年生に卒業論文の執筆は必修とされてはいないが，卒業論文の完成までの過程で，学生に考える力や論理的思考，課題を立てそれに対する自らの答えを論理的に導く力，かなりの長文を書く力等を身につけてもらうこと，そして何よりも一つのことをやり遂げたという自信を持って卒業してもらうために，小職が本学に赴任して以来，ゼミの４年生全員に卒業論文指導を行い，提出させている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
特になし					
論文					
業績評価システムのチェンジ研究：知見と課題	共著	2006年2月	経営と経済（長崎大学経済学部紀要）第85巻第3・4号	近藤隆史，窪田祐一，相原基大，福田直樹	pp. 523-546
成果報酬制度の導入が及ぼす組織成果への影響：ある照明機器メーカー営業部門における事例研究	共著	2006年6月	経営と経済（長崎大学経済学部紀要）第86巻第1号	近藤隆史，窪田祐一，相原基大，福田直樹	pp. 175-193
業績評価制度の変化に関する実態調査	共著	2006年6月	追手門経営論集（追手門学院大学経営学部紀要）第12巻第1号	◎福田直樹，近藤隆史，相原基大，窪田祐一	pp. 19-43
導入目的共有化の際の会計情報とマネージャーの役割：ABC/ABMの導入を中心に	単著	2007年3月	追手門経済・経営研究（追手門学院大学経済学部・経営学部紀要）第14号		pp. 281-298

予算管理研究の回顧と展望	共著	2008年7月	国民経済雑誌（神戸大学経済経営学会）第198巻第1号	李建，松木智子，福田直樹	pp. 1-28
非財務指標研究の回顧と展望	共著	2008年7月	国民経済雑誌（神戸大学経済経営学会）第198巻第1号	安酸建二，乙政佐吉，福田直樹	pp. 79-94
バランス・スコアカード研究の回顧と展望	共著	2009年3月	経理研究（中央大学経理研究所紀要）第52巻	安酸建二，乙政佐吉，福田直樹	pp. 377-389
業績評価スタイルとマネジャーの認知、行動、成果との関係：RAPM研究の現状と課題	共著	2009年3月	原価計算研究（日本原価計算研究学会・学会誌）第33巻第2号【査読付き】	◎福田直樹，松木智子，李建	pp. 24-35
業績管理システムの設計と利用の関係に関する実証研究	共著	2009年6月	経営と経済（長崎大学経済学部紀要）第89巻第1号	近藤隆史，福田直樹，相原基大，窪田祐一	pp. 35-56
その他					
The Roles of Activity Cost Information and Managers to Share Implementation Objectives of ABC/ABM with Managers	単著	2005年4月	Proceedings of the Research Conference on the Changing Roles of Management Accounting as a Control System, The inaugural joint workshop by Management Control Association (MCA) and European Network for Research in Organisational and Accounting Change (ENROAC), University of Antwerp, Belgium.		全23頁
予算管理と業績評価：RAPM研究を中心に	共著	2008年9月	Discussion Papers in Business Management (The Business Management Society of Otemon-Gakuin University) 12号	◎福田直樹，松木智子，李建	全29頁
Changes in the design and use of performance measurement systems, opportunistic behavior and organizational performance: A survey study	共著	2009年6月	Proceedings of the 7th Research Conference of the European Network for Research in Organisational and Accounting Change (ENROAC), West Park Conference Centre, Dundee, Scotland.	Kondo, T., N. Fukuda, M. Aihara, and Y. Kubota	全14頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2004年10月	単独	管理会計システム導入時の導入目的の共有化：情報共有化の視点から 日本原価計算研究学会　第30回全国大会　（於：早稲田大学）
2005年4月	単独	The Roles of Activity Cost Information and Managers to Share Implementation Objectives of ABC/ABM with Managers The Research Conference on the Changing Roles of Management Accounting as a Control System, The inaugural joint workshop by Management Control Association (MCA) and European Network for Research in Organisational and Accounting Change (ENROAC), University of Antwerp, Belgium
2005年5月	単独	導入目的共有化の際の会計情報とマネジャーの役割：ABC/ABMの導入を中心に 日本会計研究学会　第64回全国大会　（於：関西大学）
2006年1月	共同	業績測定・評価のイノベーションに関する予備的考察：成果報酬システムを中心として 近藤隆史，窪田祐一，相原基大，福田直樹 日本管理会計学会第10回リサーチセミナー（於：大阪府立大学）
2006年9月	共同	業績評価と報酬システムの変化に関する実証研究 近藤隆史，窪田祐一，福田直樹 日本会計研究学会　第65回全国大会　（於：専修大学）
2008年8月	共同	非財務指標研究の回顧と展望 日本管理会計学会　2008年度全国大会　（於：甲南大学）
2008年8月	共同	予算管理研究の回顧と展望 日本管理会計学会　2008年度全国大会　（於：甲南大学）
2008年9月	共同	予算管理と業績評価：RAPM研究を中心に 日本原価計算研究学会　第34回全国大会　（於：大阪学院大学）
2009年3月	共同	バランス・スコアカードに関する実証的証拠の検討：文献レビューに基づく今後の研究課題の提示 日本原価計算研究学会　2008年度関西部会　（於：安川電機本社・八幡西営業所講堂）
2009年6月	共同	Changes in the design and use of performance measurement systems, opportunistic behavior and organizational performance: A survey study The 7th Research Conference of the European Network for Research in Organisational and Accounting Change (ENROAC), West Park Conference Centre, Dundee, Scotland.

（表24）

所属　経営学部	職名　　講師	氏名　水野　浩児	学位　　法学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	税法・ビジネス法基礎・卒業演習・発展演習・基礎演習・新入生演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
①基礎演習における宿泊合宿	2006年9月19日～20日 2007年9月18日～19日 2008年9月18日～19日	淡路島にある日本で唯一のスポーツ合宿ホテルにて、民法および税法の知識を深めることや、ゼミ生の絆を強めることを目的に宿泊合宿を実施。現役の経営者による講演や、経営者とのディスカションを行うことで、経営における法律の重要性を再認識し、社会人になる事前学習として大きな効果を得ることができた。この模様は本学経営学部ホームページに掲載されている。
②発展演習・基礎演習におけるオーサカキングボランティア参加（主催：毎日放送　共催：大阪市・大阪観光コンベンション協会）	2007年7月28日～8月5日 2008年7月26日～8月3日	大阪文化発展への協力と、リサイクルを啓蒙することにより環境問題について真剣に考える機会を提供した。リサイクルステーションのデザイン等は学生自身が考え、毎日放送美術部の協力を得て、現場で利用していただいた。さらに、学生の努力が評価され、メインステージで毎日追手門学院をＰＲさせていただき、小さなことの積み重ねが大きな効果を得ることを学生たちは学ぶことができた。9日間の長期間に及ぶ活動であったが学生たちの絆は深まった。また、大阪キング2008に追手門学院大学も団扇配布など協賛参加しており、追手門学院大学のＰＲを担うことができた。この模様は本学経営学部ホームページに掲載されている。
③発展演習・税法における実務家外部講師を招いた授業	2007年6月27日	大阪証券取引所執行役員　上場グループリーダー　村田雅幸氏との共同授業。村田氏は、新規上場審査、適時開示業務、上場廃止審査等の責任者として活躍。企業が株式公開を目指す企業が、どのようなコンプライアンス水準を基準として取組んでいるか、また公開できる企業の絶対条件などを講義してもらった。そこに水野が担当する税法において、実務上必要なことを村田氏とディスカション方式で行い、学生にとって将来役立つ知識習得を行うことができた。
④基礎演習・ビジネス法基礎における実務家外部講師を招いた授業	2007年10月12日	南都銀行常勤監査役　中井儀文氏とのコラボレーション授業。人事部長の経験を持つ中井氏にどのような学生を企業が必要とするかについて講義いただいた。企業に求められるコンプライアンス水準の高さや、学生のうちから気づいてほしい法令遵守精神について講義をしていたき、水野が通常の授業で教えている内容の確認を行った。また、学生時代に積極的に取り組むべき内容について、水野の意見も交えながら講義を進めた。中井氏の話に刺激を受け、２名のゼミ生が銀行に就職した。
⑤発展演習・税法における実務家外部講師を招いた授業	2008年6月25日	モルガンスタンレー証券債権調査本部長大橋英敏氏とのコラボレーション授業。法政大学でも教鞭をとっている大橋氏は日本を代表するトップアナリスト。税法の授業で、税務の金融マーケティングにおける影響について講演いただいた。税法は実務に対して大きなインパクトを与えるため、財政学の観点を交えて、実務実態を考えることは重要であり、水野とコラボレーション的にQ&A方式で講義を展開した。また、大橋氏が解説している新運記事も適宜取り入れ、リアル感のある授業を行うことで、400人近い参加者にとって有意義な講義を行うことができた。この模様は本学経営学部ホームページに掲載されている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
追手門学院大学教育講演会主催「保護者のための講演会」にて講演 追手門学院大学学生相談室「学生相談年報　第18号」に内容掲載	2007年6月23日	講演題目「大学生の法に関する規範意識を高める―これからの企業が求める人材とは―」をテーマに、本学学生の保護者を対象に講演。近年、企業の不祥事が相次ぐ中、企業のコンプライアンスに対する意識は年々高まっている。そのような背景において、企業が魅力に感じる大学生について、企業ヒアリングの結果を交えながら論じた。また、そのような実務界の実態に順応できる学生を育てるような教育実践について説明した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
本学体育会サッカー部部長・監督	2007年4月～現在	本学体育会サッカー部の顧問に就任し、フィジカル面を中心としたトレーニングを取り入れ、関西学生リーグ2部リーグに昇格させた。 学生生活においてサッカーの位置づけを明かうにさせる指導を行い、勉学面においても良い効果が出るような指導を行った。結果、就任後の卒業生は全員が上場企業に就職を決めている。
マナーアップ推進活動 （学友会の指導）	2007年6月 2007年9月	大学の喫煙マナーや、食堂などにおけるマナーの改善のため、学友会と協議をしながら、マナーアップキャンペーンを積極的に展開した。その結果、学生の喫煙マナーに対する意識が改善された。
大津商業高等学校にて出張授業	2006年12月13日	「社会生活における法律の大切さを知る。」をテーマに高校生に分かりやすい法律の授業を行った
守山北高等学校にて出張授業	2008年3月13日	「法律の大切さを知る。高校生にとって身近な法律」をテーマに高校生に分かりやすい法律の授業を行った

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
キャラクター総論 ―文化・商業・知財― 第5章キャラクターと法律 第6章キャラクタービジネス（商品化権） 第7章　キャラクター（知的財産）とファイナンス	共著	2009年5月6日	白桃書房	辻　幸恵 梅村　修	第5章　pp. 184-210 第6章　pp. 211-254 第7章　pp. 255-295
論文					
①不良債権処理の根本的問題と部分貸倒れの損金算入の必要性―　円滑な金融機能回復を目指して、銀行実務からの提言	単著	2004年7月	日本税理士連合会 第27回日税研究賞受賞論文集 清文社　国際税制研究No. 14 （平成17年4月発刊）		受賞論文集 pp. 1-14 国際税制研究 pp. 106-117
②法人税法における債権譲渡の現代的問題点	単著	2004年9月	関西大学法学ジャーナル76号		pp. 273-312
③民法466条の法理と譲渡禁止特約の効力	単著	2005年3月	関西大学法学ジャーナル77号		pp. 167-213
④債権者、債務者双方からの貸倒損失のアプローチの重要性―資金調達環境改善の後押し―	単著	2007年3月	追手門学院大学経済・経営論集14号		pp. 269-280
資金調達における知的財産評価の具体的検証	単著	2009年3月	追手門学院大学経済・経営論集16号		pp. 27-44
譲渡禁止特約重大な過失ある第三者	単著	2009年10月	追手門経営論集第15巻第1号		pp. 267-284
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	金融法学会、日本知財学会、日本ファイナンス学会、日本繊維機械学会
＜学会活動＞	
2007年5月31日	発表「コンプライアンス経営重視の時代ファッションビジネスと法律関係」（第60回日本繊維機械学会年次大会、於：大阪科学技術センター）
2007年6月30日	発表「知的財産を活用した資金調達スキームと問題点」（第5回日本知財学会学術研究発表会、於：東京大学）
2009年2月	オーストラリアと日本との自由貿易とオーストラリア税制―労働党政権への変化と国際取引、税制をめぐる諸問題― Free Trade Agreement between Australia and Japan, and the recent political change and tax restructurings （オーストラリア研究所主催　2008年度共同研究セミナー）
＜社会活動＞	
2002年4月～2005年3月	経営相談員「奈良県中小企業支援経営窓口にて経営相談を担当」（中小企業診断士登録（経済産業大臣）登録番号214358）
2009年4月～現在	奈良県再生支援協議会　企業再生アドバイザー（中小企業診断士）
2004年2月26日	学術研究会コメンテーター「債務の株式化」（関西大学法学研究所学術フロンティア推進事業合同研究会、於：関西大学）
2004年6月	講演「銀行の「眼」・監査の「眼」」（徳島県主催　企業経営研究会　於：徳島観光ホテル）
2004年8月	講演「物権担保の限界」（大阪司法書士会主催　於：大阪司法書士会館）
2005年1月	講演「中小企業のための直接金融による資金調達セミナー」（兵庫県商工会連合会主催　於：神戸パレスホテル）
2005年1月	講演「債権譲渡特例法による第三者対抗要件具備と金融実務の留意点」（大阪司法書士会主催　於：大阪司法書士会館）
2005年2月	講演「小切手・手形の基礎知識・キャッシュフローと債権の関係」（兵庫県滝野町商工会主催　於：滝野町商工会館）
2005年7月	講演「現状の不動産担保融資（ノンリコースローン）の実態と司法書士の役割」（大阪司法書士会主催　於：大阪司法書士会館）
2005年9月	講演「CF時代における、上手な資金繰り」（兵庫県商工会連合会川西支部主催　於：川西商工会館）
2006年7月	講演「債権回収の注意点」（奈良県経営者協会主催　於：奈良ホテル）
2006年9月	講演「資金調達の多様化・円滑な資金調達を図る知恵」（大阪彩都総合研究所主催　於：ホテルウエスティン大阪）

2008年9月	講演「やさしい経営学入門」（加東市商工会主催　於：加東市商工会議所）
2008年10月	講演「中小企業に必要なコンプライアンス体制の構築と経営者の悩み」（大阪司法書士会主催　於：大阪司法書士会館）
2008年12月	講演「就活に活きる学生生活の過ごし方」（大東市商工会議所　於：大阪産業大学）
2009年1月	講演「中小企業のコンプライアンス体制構築と司法書士の役割」（京都司法書士会主催　於：リーガロイヤル京都ホテル）
2009年2月	講演「コンプライアンス感覚は信用できる企業の最低条件」（追手門学院大学主催「おうてもん塾」　於：追手門学院大阪城スクエア）
2005年4月1日～2006年9月30日	メインパーソナリティ「水野浩児の熱血経営塾」（経営に関する法律・税務・会計・経営手法について分かりやすく解説する番組） （ラジオ大阪：毎週木曜日17:45～18:00放送）
2006年4月1日～2007年3月31日	メインパーソナリティ「水野浩児の知恵のコラボレーション」（法律をはじめとした日常生活を取り巻く必要な知識について分かりやすく解説する番組） （ラジオ大阪：毎週水曜日17:45～18:00放送）
2006年6月～2007年3月	コメンテーター「出発進行ウメじゅんです」スポット的に出演（ラジオ大阪：毎週土曜日7:00～10：00放送）
2009年4月～現在	メインパーソナリティ「土曜ビジネス倶楽部」 （ラジオ大阪：毎週土曜20:00～20:30放送）

（表24）

所属　経営学部	職名　　講師	氏名　山下　克之	学位　博士（経済学）【名古屋大学，2009年3月取得】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	学部：財務諸表論，　会計学原理，　ファイナンス入門，　経営外国文献講読，　入門簿記，　初級簿記，　新入生演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2009年	主要担当科目において、映像による教育を実施した。定期的に自主的に授業評価を実施した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2009年	主要担当科目において、毎回パワーポイントによる資料を作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2009年9月	追手門学院大学秋の専門講座を担当し、市民の教育に貢献した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
ACCOUNTING FOR STOCK OPTIONS IN JAPAN -VALUATION OF THE STOCK OPTIONS FOR NONPUBLIC CORPORATIONS-	共著	2004年10月	5th Asian Academic Accounting Association, Proceedings	Prof.A.Noguchi	共同研究につき本人担当部分抽出不可能
ACCOUNTING AND TAXATION FOR STOCK OPTIONS IN JAPAN: FOCUS ON NON-PUBLIC COMPANIES	単著	2005年12月	2005 Accounting Theory and Practice Conference, Taipei, Taiwan, Proceedings		
ストック・オプションの簿記	単著	2007年7月	日本簿記学会年報第22号		
TAX ACCOUNTING FOR STOCK OPTIONS IN JAPAN	単著	2007年10月	Journal of Proceedings Guam International Accounting Forum Volume 1 Number 1		
ACCOUNTING AND TAXATION FOR EMPLOYEE STOCK OPTIONS IN JAPAN & MALAYSIA	共著	2007年11月	19thAsian-Pacific Conference On International Accounting Issues, Kuala Lumpur, Malaysia, Proceedings	Prof.A.Noguchi and Prof.M.M.Hanefah	共同研究につき本人担当部分抽出不可能
ストック・オプションに関する税効果会計	単著	2008年9月	経済科学第56巻第2号		
ストック・オプションの会計－不確実性が制度会計に及ぼす影響－	博士論文	2009年3月	名古屋大学大学院経済学研究科		
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

所属学会	日本会計研究学会，　日本簿記学会，　日本インベスター・リレーションズ学会

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　金川　智惠	学位　博士（人間科学）平成13年【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	産業心理学概論1,2、リスク・コミュニケーション論1,2、基礎演習1,2、発展演習1,2、産業社会心理学特論、産業社会心理学特論演習I,II、産業社会心理学特殊研究			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「リスクコミュニケーション技法」に関するワークショップ　於　日本リスク研究学会	2004年3月	講演とリスクコミュニケーション実習から成るトレーニングプログラムを実践
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
自己意識研究の現在２	共著	2005年9月	ナカニシヤ出版	梶田叡一（編）　梶田叡一、溝上慎一、森岡正芳、水間玲子、杉村和美、辻平治郎、小塩真司、谷冬彦、尾崎仁美、山田剛史、金川智惠、星野命	pp. 203-226
メンタルヘルスへのアプローチ―臨床心理学、社会心理学、精神医学を融合して	共著	2009年（印刷中）	ナカニシヤ出版	白樫三四郎、西村健（編）　西村健、白樫三四郎、高橋依子、金川智惠、角田豊、竹西亜古、内田由起子、藤本修、藤田綾子	pp. 80-90
論文					
「柔軟な自己概念が精神的健康に及ぼす効用に関する実証的研究―一貫性礼賛への問題提起―」	共著	2004年7月	平成12-14年度科学研究費補助金（課題番号12610151）研究成果報告書	◎金川智惠、坂田桐子、黒川正流	pp. 1-44
「不確定状況下におけるリスクコミュニケーション技法の開発」	共著	2005年3月	平成16年度原子力安全基盤調査研究成果報告書	白樫三四郎、金川智惠、福井誠、竹西亜古、竹西正典、吉野絹子、竹西亜古、竹西正典、吉野絹子	pp. 45-84
「信頼回復におけるリスクコミュニケーションの可能性」	共著	2006年2月	平成17年度原子力安全基盤調査研究成果報告書	白樫三四郎、金川智惠、福井誠、竹西亜古、竹西正典、吉野絹子	pp. 35-60
「リスク・コミュニケーション―治療のリスクとどう関わるのか？伝えるのか?」	単著	2006年4月	月刊薬事、48,3,75-82		pp. 75-82
「信頼回復におけるリスクコミュニケーションの可能性：日本型共考モデルの構築に向けて」	共著	2007年2月	平成18年度原子力安全基盤調査研究成果報告書	白樫三四郎、金川智惠、福井誠、竹西亜古、竹西正典、吉野絹子	pp. 52-82
「原子力発電に対する市民の長期的信頼熟成に向けての心理学的検討」	共著	2008年3月	平成19年度原子力安全機構人間・組織等安全解析調査等事業研究成果報告書	白樫三四郎、金川智惠、福井誠、竹西亜古、竹西正典、吉野絹子	共同研究で議論をしながらの協同執筆故、担当箇所抽出不能
「リスクメッセージの心理的公正基準：管理者への手続き的公正査定における事実性と配慮性	共著	2008年8月	社会心理学研究、24,1,23-33	◎竹西亜古、竹西正典、福井誠、金川智惠、吉野絹子	共同研究で議論をしながらの協同執筆故、担当箇所抽出不能
「社会的かしこさ」測度開発の試み	共著	2009年10月	経営学論集，15,1,71-88	◎金川智惠、吉野絹子、木下冨雄	pp. 71-88
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2004年11月～2005年3月	厚生労働省医薬食品局食品安全部主催「食の安全に関するリスク・コミュニケーションの在り方に関する研究会」研究会構成員
2005年5月	社団法人消費者関連専門家会議(ACAP)関西支部主催　食品企業広報会例会「食の安全を求めて―コミュニケーション技法」講師
2005年6月	堺労災病院職員対象研修会「効果的リスク・コミュニケーション―その技法と思想」講師
2005年7月	社団法人消費者関連専門家会議(ACAP)主催　食品企業広報会例会「食の安全を求めてーコミュニケーション技法ー」講師
2005年9月	武庫川女子大学健康科学研究会主催 公開シンポジウム「効果的インフォームド・コンセントとリスク・コミュニケーション」講師
2005年11月	独立行政法人農林水産消費技術センター主催　「平成17年度食の安全についての知見を有する者の育成のための研修会」講師
2005年12月	伊丹市市民公開講座　「臨床試験のインフォームド・コンセント」パネリスト
2006年1月	堺市市民公開講座　「新しい治療－臨床試験－」パネリスト
2006年2月	国立保健医療科学院主催　「平成17年度特別課程食品衛生管理コースにおけるリスク・コミュニケーション演習」講師
2006年2月	西神戸医療センター医療安全推進委員会主催　講演会効果的インフォームド・コンセントとリスク・コミュケーションーその技法と思想ー」講師
2006年6月	南大阪薬剤師業務研究会　「効果的リスク・コミュニケーションーその技法と思想ー」講師
2006年11月	関西電力能力開発センター主催　「リスク・コミュニケーター養成講座」講師
2007年9月～10月	ひょうごオープンカレッジ　講師
2007年度	日本学術振興会科学研究費補助金第一段審査委員平成19年度
2008年度	日本学術振興会科学研究費補助金第一段審査委員平成20年度
2008年6月～7月	コクヨS&T株式会社主催　「予防的メンタルヘルス研修」講師
2009年9月～10月	日本生命保険相互会社主催　「予防的メンタルヘルス研修」講師

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　黒目　哲児	学位	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	システム監査、科学技術史、技術経営論、、情報と職業、入門コンピュータ、インターンシップ			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2007年4月	①携帯電話を使い授業中に学生と教員がリアルタイムにコミュニケーションをとることにより、学生にとって参加意識が高い且つ退屈しない授業を行なう。出席管理、小テスト、レポート提出、授業中における質問・意見交換などを、専用ソフトを使用して行う。テスト結果などをその場で解説したり、大人数での授業時にも学生からの発言を引き出すなどの効果があり、学生の評価は満足すべきものである。
	2006年4月	②新聞切り抜きや、ＮＨＫ放送特集番組、市販ＤＶＤなどを使用し、最新かつ興味あるトピックスを紹介、実務的な内容の授業を心がけている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2006年4月	①システム監査：パワーポイントによる図表－約100枚
	2006年4月	②科学技術史：パワーポイントによる図表－約250枚
	2006年4月	③技術経営論：パワーポイントによる図表－約300枚
	2007年4月	④コンピュータ入門：実際のパソコンの構成部品をもとにパネル制作、コンピュータの構造について視覚的に理解させる
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2005年4月	①オフィスアワー対応
	2006年4月	②企業における経験を生かし、実務的な教育を心がけている。特に新聞、専門雑誌の内容をもとにしたケーススタディ、講義を多く取り入れている。
	2006年4月	③インターンシップ担当を通じ、個別に就職相談に対応

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
情報システム監査	共著	2006年9月	学陽書房	島田達巳、中谷正明、野末泰弘、石島隆	全体構成、pp. 1-187の図表、pp. 175-187本文
論文					
科学･技術学習の勧め	単著	2004年12月	敦賀短期大学紀要第19号		pp. 21-46
顧客個人情報の管理、活用に関する実態調査	単著	2006年3月	追手門学院大学紀要：経済・経営研究第13号		pp. 7-19
顧客個人情報を活用したマーケティング戦略	単著	2006年6月	追手門学院大学紀要：経営論集第12巻第1号		pp. 1-18
その他					
顧客個人情報の適正管理および有効活用と企業競争力との関係について	共著	2007年9月	追手門学院大学：研究ノート	真田英彦、篠原健、井戸田博樹	pp. 1-8
顧客個人情報の有効活用が企業競争力向上に寄与する貢献度	共著	2008年10月	追手門学院大学：研究ノート	真田英彦、篠原健、井戸田博樹	pp. 1-30

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜資格＞	特種情報処理技術者(通産省認定国家資格),システム監査技術者(通産省認定国家資格),公認システム監査人（ＮＰＯ法人システム監査人協会）、技術経営責任者（ＮＰＯ法人日本技術経営責任者協議会）
＜所属学会＞	システム監査学会、日本社会情報学会、日本情報経営学会

＜委託研究＞	
2006年4月～2009年3月	科学研究費補助金委託研究：顧客個人情報の有効活用が企業競争力向上に寄与する貢献度の定量的検証方法の確立
＜学会活動＞	
2004年4月～現在に至る	システム監査学会：近畿地区研究会主査
2007年4月～現在に至る	システム監査学会：理事
＜社会活動＞	
2001年～2007年	委託調査：個人情報の管理活用に関する実態調査（日本ＣＩＯ連絡協議会）：計５回
2003年7月	発表：個人顧客情報の管理、活用と経営成果との関連（日本ＣＩＯ連絡協議会）
2003年9月	発表：個人顧客情報の活用と経営成果との関連（日本ＣＩＯ連絡協議会）
2003年10月	発表：ユビキタス社会における個別マーケティングと必要なシステム監査（日本システム監査人協会）
2005年8月	発表：個人情報の管理、活用に関する実態調査（夏季情報化フォーラム）
2006年11月～2006年12月	社会人向け特別講座（梅田大学院コンソーシアム）：個人情報をめぐる光と影
2007年3月	発表：個人情報の管理、活用に関する実態調査（春季情報化フォーラム）
2007年10月	アンケート調査：個人情報の管理、活用に関する実態調査（約1600社対象、200社回収）2008.7企業への報告実施

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　小西　一彦	学位　　経営学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	マーケティング論（1）（2）、マーケティング演習（1）（2）、マーケティング特殊講義、マーケティング特殊研究、研究演習、等			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
社会人と連携した実践的経営･マーケティングの教育	2004年4月～現在	座学･理論中心から実践的な経営･マーケティング教育へ：①大学院教育を受けた経営者ら（社会人ＭＢＡ）を客員講師に、毎年、多数を授業に招聘している、②現実のマーケティングの事例研究と新規事業計画書の作成を指導し結果をレポートとして提出させている、③学外の空店舗を借上げて学生チャレンジショップ(追風)を出店させ経営させている。以上は実践的な経営とマーケティングの教育の３段階と言えるが、それを実際に行っている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
「マーケティング論講義用ノート」・パワーポイント・スライドの作成と使用	～現在	毎回、講義用ノートを作成し、教室で配布している（A4で約80頁）。なお、パワーポイント・スライドも作成しそれも使って授業をしている。
『マーケティングの理論と実践(第2版)』六甲出版販売	2006年10月	マーケティングの理論と実践の第１段階の教育として、毎年、多数の社会人ＭＢＡの人たち(教え子)を学部の授業に招いている。そのためのテキストブックを計１２名の協力を得て刊行した。また、これを大学院生たちが論文を書く時の参考の資料としても使用している。編別では、１．戦略的マーケティング、２．マーケティング・マネジメント、３．機能別マーケティング、４．マーケティングの拡張、計4編12章（小西一彦編、247頁）
『新時代のマーケティング-理論と実践-』六甲出版販売	2008年5月	過去２年間の共同研究の成果として、新たな執筆者3名を増して同上の著書と同じ趣旨で刊行した。また、学生や院生たちの卒業論文の執筆や生涯学習のあり方の参照目的も兼ねて刊行した。編別では、１．戦略的マーケティングの時代、②．ブランドマーケティングの新時代、３、新時代の情報技術とマーケティング、４．変化する業界構造とマーケティング、ソーシャル･マーケティングの新展開、計5編15章編成（小西一彦編、267頁）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
追手門学院大学経営学部マーケティング学科開設記念シンポジウム(於：大阪府立女性総合会館)	2004年9月	シンポジウムのパネラーとして、起業家的人材育成の必要性を主張
追手門学院大学ベンチャービジネス研究所開設記念シンポジウム（於：追手門学院大学5号館5303教室）	2007年12月	シンポジウムのコーデイネーターとして統一テーマの解題を行う（テーマ:新時代と起業家的人材育成）
4　その他教育活動上特記すべき事項		
追手門学院大学教育研究所公開講座の開催	2005年12月～2006年1月	6回連続の公開講座「企業家的人材育成」のコーデイネーター兼講師担当
関西ベンチャー学会ベンチャーマーケティング部会開催	2005年2月～現在	同上、過去、4回開催(主査)
大阪ベンチャー研究会の開催	2005年10月～現在	同上、過去、43回開催(主宰)
追手門学院大学ベンチャービジネス研究所セミナー開催	2007年11月～現在	ベンチャーに関心のある学生、社会人を対象に、過去、8回開催(所長として主宰)

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
マーケティングの理論と実践	共著	2004年10月	研究資料第191号，兵庫県立大学経済経営研究所	小西一彦(編著)	pp. 1-2／（pp. 1-179）
マーケティングの理論と実践(第2版)	共著	2006年10月	六甲出版販売	小西一彦(編著)	pp. 1-4／（pp. 1-247）
新時代のマーケティング-理論と実践-	共著	2008年5月	六甲出版販売	小西一彦(編著)	pp. 1-5／（pp. 1-267）
論文					
サービスマーケティング研究の対象	共著	2004年11月	『商大論集』第56巻第2号 兵庫県立大学経済経営研究所	◎松井温文と共著	
『卸売業の構造変化とベンチャー型経営の躍進』	共著	2005年3月	平成15年度～平成16年度 科学研究費補助金 （基礎研究C2）研究成果報告書	◎小西一彦（共編著）	
Japanese distributionsystem: The impact of newly designed collaborations on wholesalers' performance	共著	2008年1月	Industrial Marketing Management Vol.37,Issue 1	◎Mohammed Ｒａｗｗａｓ，Konishi Kazuhiko,Shoji Kamise,Jamal Al-Khatib	pp.104-115

その他					
第3回卸売業経営実態調査	共著	2004年9月	『研究資料』第190号、兵庫県立大学経済経営研究所	◎小西一彦、上瀬昭司	pp. 1-115
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
1972年～現在	日本商業学会　（会員）				
1977年～現在	日本産業学会　（会員）				
1980年～現在	日本中小企業学会　（会員）				
1985年5月～現在	日本経済政策学会　（会員）				
1985年10月～現在	American Marketing Association　（会員）				
1991年10月～現在	日本流通学会（会員）				
1994年～現在	社会経済システム学会（会員）				
1998年10月～現在	日本ベンチャー学会（会員）				
2001年1月～現在	神戸ベンチャー研究会（会員、現特別顧問）				
2001年2月～現在	関西ベンチャー学会（常任理事）				
2004年10月～現在	大阪ベンチャー研究会（会員、世話人代表）				
2005年4月～現在	(財)ひょうご産業活性化センター中小企業社外相談役				
2007年9月～現在	日本経営学会（会員）				
2009年4月～現在	志摩市商工会小規模事業者新事業全国展開支援事業委員会委員				

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　辻　幸恵	学位　博士（家政学）【武庫川女子大学】 修士（商学）【神戸大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	マーケティング論、ブランド戦略論、消費行動研究論、ファッションビジネス論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
京に学ぶプロジェクト	2006年4月～2009年3月	文部科学省、H18年度「私立大学教育研究高度化推進特別補助」助成研究
学会へいこうプロジェクト	2005年4月～現在継続中	経営学部特色ある教育（マーケティング学科）助成教育
2　作成した教科書、教材、参考書		
大人数授業をどう改革するか 追手門学院大学教育研究所（編）	2006年3月20日	教育研究所員５名が各自1章を担当し、大人数授業に対する提言をまとめた アスカ文化出版より出版辻担当第１章11-40頁
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
京に学ぶ・京ブランドの魅力を探る・学生活動 日本家政学会被服心理部会 第24回夏セミナーで講演	2007年8月30日	京都での学生たちのフィールドワークを中心に説明。資料として『京に学ぶ』を参加者30名に配布、会場：中国短期大学
4　その他教育活動上特記すべき事項		
エコバッグをつくろう計画 松尾繊維工業（株）と共同作業中	2008年4月～現在継続中	エコバッグを全国から580枚集め、その形状をデータ化した。同時に学生にアンケート調査を実施し、若者が持つエコバッグを開発中

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
流行と日本人	単著	（３版）2004年4月26日	白桃書房		全169頁
ブランドとリサイクル	共著	2005年5月31日	リサイクル文化出版社	辻幸恵・梅村修	第１部すべてpp. 1-102
アート・マーケティング	共著	2006年5月26日	白桃書房	辻幸恵・梅村修	第２部すべてpp. 159-228
消費社会とマーケティング	共著	2007年3月31日	嵯峨野書院	東伸一・梅村修・玄野博行・辻幸恵	第１章、第２章担当pp. 1-37
京に学ぶ	単著	2007年3月31日	アスカ文化社		全121頁
京都とブランド	単著	2008年3月26日	白桃書房		全204頁
デジタル時代の知的資産マネジメント	共著	2008年4月16日	白桃書房	山崎茂雄・辻幸恵・立岡浩・生越由美・林鉱一郎・鈴木雄二	第2章担当pp. 29-51
論文					
留学生の若者文化に対する同化と日本人学生との交友関係の深化	共著	2004年12月15日	留学生教育第９号		pp. 43-55
若者の購買行動と文化的側面	単著	2004年12月	追手門経営論集第10巻2号		pp. 1-24
新ブランド志向の萌芽	単著	2005年11月30日	追手門経済論集第41巻1号		pp. 370-389
男子大学生がテレビ広告を受け入れる条件とその具体例	単著	2005年12月20日	繊維機械学会誌（第58巻第12号）		pp. 35-40
循環型経済社会における大学生の消費行動	単著	2007年3月	追手門経済・経営研究第14号		pp. 139-151
新入生が抱いている追手門学院大学のイメージ	共著	2008年3月15日	教育研究所紀要第26号	辻幸恵・梅村修・水藤龍彦	pp. 64-90
その他（編著での担当章）					
人間生活工学　第２巻	編著	2005年5月30日	丸善株式会社	（社）人間生活工学研究センター	担当6章2節pp. 171-178
外見とパワー	編著(訳書)	2004年7月10日	北大路書房	編者は高木修・神山進・井上和子　他10名	担当第4章pp. 87-113
１からのマーケティング	編著	（２版）2006年2月15日	中央経済社	編者は廣田章光・石井淳蔵　他12名	担当第8章pp. 157-172
映像コンテンツ産業の政策と経営	編著	2006年5月20日	中央経済社	編者は山崎茂・立岡浩　他5名	担当第5章pp. 113-132
マーケティングの革新的展開	編著	2007年11月20日	同文舘出版	編者は西村順二･石垣智徳　他８名	担当第6章pp. 113-130

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2002年4月～現在	日本繊維製品消費科学会 評議委員
2003年4月～現在	日本繊維機械学会評議委員
2004年4月～現在	京都市商業ビジョン推進委員会委員
2005年4月～現在	京都市商い創出事業VIS 選考委員会委員
2006年4月～現在	京都市大規模小売店舗立地審議会委員
2007年4月～現在	三島地域助成事業選定委員会委員
2007年4月～現在	茨木市住居表示審議会委員

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　L.S.De SILVA	学位　博士（経営学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	経営学概論、国際経営論、東南アジア経営論、基礎演習、発展演習、卒業演習、国際経営論特論、国際経営論特論演習ＩとII			

Ｉ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日		概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
教育実践上の主な業績（教育内容・方法の工夫）		＊	専門科目（経営学概論、国際経営論、東南アジア経営論）ではいずれの科目も毎回、出席表によって出席管理をしている。
概要の通り様々な工夫を実施している	2004年4月～2008年	＊	専門科目（経営学概論）は、本学部の必修科目であるため、客観的な成績評価を実施している。
＊　毎回出席をとっている。		＊	主要科目（経営学概論、国際経営論、東南アジア経営論）では、毎回のテーマを設定し、その回に何を学んだかを復習・確認しやすいようにしている。
＊　客観的な生成期評価を実施している			
＊　毎回の講義では、教材を配布する		＊	毎回の講義では、教材を配布する。書き込み式プリントを使用している。教材は、授業開始時に配布し、遅刻者には授業終了まで渡さない。
＊　遅刻者をすくなくするため、工夫している		＊	遅刻者をできるだけすくなくするため、出席表は授業開始から10分以内で記入・回収を行なっている。
＊　私語をすくなくするため、工夫している			
＊　メールでの質問に答えている			
＊　最新教育方法（パワーポイント）はしようしている		＊	私語をできるだけすくなくするため、教室の前から講義を行うではなく、教室のうしろと真ん中に立って講義をおこなっている。
＊　実践的教育指導を実施している			
＊　理論と実態を把握するため企業を訪問している		＊	授業終了後に、質問を受けることにしている。
＊　オフィス・アワを実施している		＊	学生には質問カードを用意している。
＊　大学院生を対象に年に数回研究会を開催している		＊	メール・アドレスを公開し、メールで質問してもらうこともある。
＊　春と秋の授業終了後はアンケートを実施している		＊	パワーポイントは使用している
		＊	演習では、国際経営という専門分野の知識修得だけではなく、どのように研究を進めていくかについて実践的に指導している。
		＊	学生には国際経営の実態を理解してもらうため、日本を代表する多国籍企業を見学している
		＊	『演習』では、テキストの内容にそって事前に報告書を割り当て報告者の報告内容に基づいて議論していく形式を採している
		＊	オフィース・アワを実施している。
		＊	自主レポートの提出を推奨している
		＊	大学院生を対象に年に二回、修士論文の研究課題を中心に研究会を開催している。本研究会には外部からの教員と専門家を招待する。
		＊	学部と大学院生に質問表を配布し、それに個別あるいは全体的に対応している。
		＊	春学期と秋学期の授業終了日はアンケートを配布し、授業内容、授業の進め方、問題点及び先生に対する学生の評価等が自由に記入してもらい、翌年の授業改善のため、参考にしている。
2　作成した教科書、教材、参考書			
2005年から2008年までに学生に参考資料として配布する目的でBRICs, ASEAN, 国際企業、及び東南アジア経営に関する教材を作成した。作成した教材の主なものは　概要のとおりである。	2005年、2006年	＊	『BRICs企業に関するケース・ブック』本ケースブックは未公開情報に基づいて作成したもので、学生には急成長しているBRICs企業経営の特徴を理解してもらうために作成したものである。
	2005年、2006年	＊	『ASEAN企業に関する事例教材』学生にはアセアン企業について具体的に理解してもらうために未公開情報に基づいて作製した教材である。
	2005年、2006年	＊	『タイ市場に進出する国際企業に関する教材』未公開情報に基づいて作成したものである。
	2005年、2006年	＊	『アセアン地域に関する基本統計』日本・アセアンセンターから収集した情報に基づいて作成した教材である。
	2007年、2008年	＊	『BRICs企業の特徴と現状』本教材は、学生にBRICs企業の特徴と現状を理解してもらうため作成したものである。
	2007年、2008年	＊	『日本企業の国際化戦略』本教材は学生に日本企業の国際化戦略を理解してもらうためトヨタ自動車の米国戦略をを参考にして作成したものである。
	2007年、2008年	＊	『日本企業の中国市場進出』本教材は日本企業の中国進出の特徴及び最新動向を分析するものである。

	2007年、2008年	＊	『インド市場の最新動向に関する統計と資料』本教材はインド市場の急成長と海外自動車メーカーのインド市場戦略を分析したものである。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
2005年～2008年中は、教育実践及び学問的に国際貢献のため、スリランカ、シンガポール、とオーストラリア大学の大学院生を対象に講演を行った。主な講演は概要の通りである。	2005年8月	＊	スリランカ・コロンボ大学講演　『BRICs経済の現状と今後の課題』大学院生を対象にした講演である。
	2006年8月	＊	スリランカ・コロンボ大学講演『日本企業の南アジア投資戦略』大学院生を対象にした講演である。
	2007年8月	＊	シンガポール国立大学講演『ASEAN自由貿易協定と日本の役割』シンガポール国立大学経営学部の院生を対象にした講演である。
	2007年9月	＊	スリランカ・コロンボ大学講演『インド企業の南アジア戦略』大学院生(MBA)を対象にした講演である
	2007年11月	＊	『豪』メルボルン大学講演『日本企業のオーストラリア直接投資戦略』大学院生を対象にした講演である。
	2008年9月	＊	『豪』メルボルン大学講演『日豪貿易の現状と自由貿易協定の必要性』『豪』メルボルン大学・大学院生を対象にした講演である。
4　その他教育活動上特記すべき事項			
	2004年～2008年	＊	ゼミ学生(大学院生も含む) を対象にした個別指導
＊　交換学生の教育に貢献している	2004年～2008年	＊	EBS大学及びグジャラート大学交換学生を対象にした特別講義及び個別指導
＊　留学生を積極的に研究生としてうけいれて、大学院に進学させている	2004年～2008年	＊	編入生の受け入れ及び徹底した教育指導
＊　編入生の教育に貢献している	2004年～2008年	＊	研究生を積極的に受け入れて、大学院に進学するため、徹底的に指導している。
＊　地域社会に貢献している	2004年～2008年	＊	地域社会に貢献するために市役所、学校及び社会福祉施設ではボランティアでスリランカの歴史、文化と社会を中心に講演を行っている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Japanese Small and Medium Enterprises in Asean: A Survey of Investment Strategy and Location Decisions	単著	2005年6月25日発行	追手門経営論集第11巻第1号		pp. 1-47
HRM Practices in Foreign Subsidiaries in Asia	単著	2006年12月25日発行	追手門経営論集第12巻第2号		pp. 11-26
Foreign Direct Investment and Japanese Subsidiaries in Australia	単著	2006年12月	オーストラリア研究紀要32号		pp. 93-110
Global Marketing Screening and Product Modification in Multinational Enterprises (MNEs): Some Evidence from South Asia	単著	2007年6月	追手門経営論集40周年記念論文集		pp. 55-66
Foreign Subsidiaries in South Asia: A Study of their main sources of Employment Recruitment	単著	2007年9月10日発行	追手門経営論集第13巻第1号		pp. 1-26
Recent Trends in Australia-Japan-China Trade Relations: A Comprehensive statistical Analysis	単著	2007年12月	オーストラリア研究紀要33号		pp. 39-58
The Impact of Uncertainties and Political Risk on International Business: An Empirical Research in South Asia	単著	2008年3月	追手門経済・経営研究第15号		pp. 17-29
A Macro Analysis of Japan-Australia BilateralTrade Relations: Present Status and Future Trends	単著	2008年12月	オーストラリア究紀要　34号		pp. 37-54

The Growth and Transmission of Indian Automobile Industry	単著	2008年12月	Otemon Economic Studies Vol.41		pp.1-22
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2004年8月	Export Economy in India: Socio-Economic Impact to Rest of Asia スリランカ・コロンボ大学での講演
2005年9月	Japanese Multinational Business Strategy in Australia オーストラリア・シドニー大学経営学部での講演
2006年8月	The Impact of Proposed Free-Trade Agreement on Small and Medium-Sized Industries in Sri Lanka スリランカ・コロンボ大学・大学院での講演
2007年8月	Japan's Slow-Growth Economy and Its Impact on World Economy with Special Reference to ASEAN シンガポール国立大学での講演
2007年9月	The Role of India in the South Association of Regional Cooperation (SAARC) and Its Impact on the Global Economy スリランカ・コロンボ大学での講演
2007年11月	Japanese Foreign Direct Investment in Australia: The Case of Automobiles オーストラリア・メルボルン大学経営学部での招待講演
2008年3月	The Role of Japan in ASEAN タイ・タマサート大学経済学部での講演

（表24）

所属　Management	職名　Professor	氏名　Linda VISWAT	学位　Master:s	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	Intercultural Communication/English Education			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
Intercultural Communication Survey Course	1995～present	Created series of Power-Point presentations; use games/activities to introduce various IC concepts;
Business English	1995～present	Primary goal of course is to train students to make presentations in English; textbook focuses on business situations
Eigo Kodoku (Reading 1 & 2)	2008	Primary goal is to train students in use of reading skills so that they can increase their understanding of written English; use a variety of techniques including SSR of techniques including SSR; students keep reading/vocabulary journals in which they summarize articles, write reaction papers
Seminars (kiso, hatten and sotsugyo)	1995～present	Primary goal of seminar is their English skills and work with other students to complete a project focusing on some aspect of IC and business.
2　作成した教科書、教材、参考書		
Intercultural Communication	2004	Compiled a collection of readings and activities focusing on IC
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
Northwestern Michigan College	2008-Sep	Lecture given to students in management class on Japanese style of negotiation in comparison to American style
Ferris State University	2004, 2005, 2007	Lectures given to students in IC courses: lecture on Japanese culture;lecture on racisim in Japan; lecture on understanding the rules of culture
4　その他教育活動上特記すべき事項		
Nothing to report		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Does the Use of English-Language Questionnaires in Cross-national Research Obscure National Differences?	joint	2005	Journal of Cross-Cultural Management, Vol 5 (2)	with A. Hartzwig et al	pp.213-224
Consequences of Viewing Students as Consumers	joint	2006	Bulletin of the Educational Research Institute (OGU) Vol 24	with R. Schulnz	pp.125-127
Motivation to Learn: A Comparison of Japanese and American University Students	single	2006	Bulletin of the Educational Research Institute (OGU) Vol 24		pp.117-124
An Exploratory Study of Fairness	joint	2007-Jun	Journal of Cross-Cultural Communication Issue 14	with J. Kobayashi	On-line Vetted Journal
Cultural Differences in Motivation to Learn	joint	2007-Nov	The Internet TESOL Journal Vol. XIII (11)	with J. Kobayashi	On-line Vetted Journal
Cultural Differences in Conversational Strategies: Japanese and American University Students	joint	2008-Oct	Journal of Cross-Cultural Communication Issue 18	with J. Kobayashi	On-line Vetted Journal
Cultural Differences in Motivation to Learn	joint	2008-Spring	The TESOL Tribune Vol. 3 (2)	with J. Kobayashi	On-line Vetted Journal

その他					
Ranking and rating in native-language versus English-language questionnaires: A methodological comparison	joint	2009	International Business Review Vol.18 Issue 4	with A. Hartzwig et al	pp.417-432
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
JACET (Japanese Association of College English Teachers					
CAJ (Communication Association of Japan)					
SIETAR (Society of Intercultural Educationa, Training and Research)					
JALT (Japan Association of Language Teachers)	previously held office of national conference chairperson and national program chair, as well as program chair of local chapter				

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　福田　得夫	学位　　工学博士【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	情報科学概論１・２（学部）、基礎演習１・２（学部）、発展演習１・２（学部）、卒業演習１・２（学部）、システム科学特論（博士前期）、システム科学特論演習（博士前期）、システム科学特殊研究（博士後期）、研究演習（博士後期）			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
情報科学概論１・２	2007年4月	従来は教科書を使用し、補助的にプリントを配布しながら基本的には板書で講義していたが、受講生数の増加から板書では対応できなくなってきたので、パワーポイントによるスライド画面と、プリントの併用で徐行をおこなうことにしている。
基礎、発展、卒業演習（１・２）	2008年4月	従来から資料を配付して演習を行っているが、その内容の大幅な改訂を行いつつある。
２　作成した教科書、教材、参考書		
「情報科学概論１・２」資料１	2008年4月	従来は教科書を使用して、補助的にプリントを配布し板書をしながら講義していたが、受講生数の増加から板書では対応できなくなってきたので、パワーポイントを使用している。2008年度は前年度に使用したスライド画面の修正と追加をおこなった。その結果全ページ数（全画面数）144ページとなっている。
「情報科学概論１・２」資料２	2008年4月	上記「情報科学概論１・２」資料１を表示するとともに、授業内容の要点を記述したプリントを数年前から毎時間配布しているが、本年度はその修正版（全ページ数４９）を使用している。
「基礎演習１・２、発展演習１・２、卒業演習１・２」資料	2008年4月	こちらについても従来から、独自作成の資料を電子ファイル化したものを配布している。総ページ数は200ページを超える。現在その内容を刷新中である。また、そのソースファイルを演習受講生には公開しているので、自らの学習内容を反映させた独自の資料を学生自ら作成できるようにしている。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
On Martingales for a Class of Fuzzy Random Vectors	単著	2004年5月	Proc. of 35th I SCIE Intl. Symp. on Stochastic Systems theroy and Its Appl.(SSS'03)		pp.285-290
On Variances for a Class of Fuzzy Random Vectors	単著	2005年5月	Proc. of 36th I SCIE Intl. Symp. on Stochastic Systems theroy and Its Appl.(SSS'04)		pp.183-188
A Note on Fuzzy Random Vectors as Models for Vague but Synthetic Description of Complex Random Phenomena	単著	2006年5月	Proc. of 37th I SCIE Intl. Symp. on Stochastic Systems theroy and Its Appl.(SSS'05)		pp.119-124
Fuzzy Random Vectors as Models for Vague but Synthetic Description of Complex Phenomena	単著	2006年10月	Int. J. of Innovative Computing, Information & Control, IJICIC International, Vol.2, No.5		pp.1097-1117
On Fuzzy Random Vectors and Their Application to Questionnaire Survey	共著	2006年11月	第49回自動制御連合講演会	◎Tokuo Fukuda, Yoshinori Egawa	SA3　pp.1-4
On a Metric Space of Compact Convex Fuzzy Stes with General Set Representation	単著	2007年3月	Bulleton of Otemon Gakuin University （創立40周年記念論集経営学部篇）		pp.39-54
On Fuzzy Random Vectors with Stepwise Membership Levels and Their Applications to Questionnaire Survey	共著	2007年6月	Proc.of The 38th ISCIE Intl. Symp.on Stochastic Systems Theory and its Appl.(SSS'06)	◎Yoshinori Egawa, Tokuo Fukuda	pp.58-63

On Fuzzy Random Vectors with Stepwise Membership Levels and Their Applications to Questionnaire Survey	共著	2008年1月	International J. of Innovative Computing, Information and Control, IJICIC International, Vol.4, No.1	◎Yoshinori Egawa, Tokuo Fukuda	pp.1-14
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
1975年～現在まで	システム制御情報学会会員 1989年～1995年3月事業委員。1975年～現在まで、同学会主催同学会主催「ストカスティック システム シンポジウム」組織・実行委員，2005年同実行委員長。
1975年4月～現在まで	計測自動制御学会会員
1979年1月～現在まで	米国電気電子学会（ＩＥＥＥ）会員
1989年11月～現在まで	日本ファジィ学会会員
1991年～現在まで	日本応用数理学会会員
1998年～現在まで	日本シミュレーション＆ゲーミング学会会員

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　藤田　正	学位　　修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	産業心理学　消費者行動論　経営外国語文献購読　基礎演習　新入生演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「公と私の組織化」	2007年3月	日本経営行動科学学会基調講演
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
12歳からの被災者学	共著	2005年1月	NHK出版	土岐、河田、林など	pp. 82-83、pp. 94-95
はじめて経営学を学ぶ	共著	2005年11月	ナカニシヤ出版	田尾雅夫	pp. 107-123
地域のグループダイナミックス	単著	2009年4月	ナカニシヤ出版		pp. 1-80
論文					
陽と陰のフィールドリサーチ	単著	2005年3月	大阪女子大学人間関係論集22巻		pp. 131-142
追手門学院学生が希望する職業・職種に関する調査	単著	2008年12月	追手門経営論集Vol:14		pp. 137-145
「会合雰囲気テスト」による集団発達の測定	単著	2009年3月	追手門経済・経営研究16号		pp. 119-124
その他					
遠近と近遠のダイナミズム	単著	2005年3月	大阪女子大学環境学特別共同研究		pp. 1-8

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

鉄鋼連盟人材開発センター講師	年4回のFDプログラム（「集団討議と自己決定」）。過去、30年間継続。
鳥取県看護協会講師	年4日間のコース。リーダーシップ、マネジメント、組織化家庭化過程の実習
堺年政策研究所プロジェクト	「リサイクルシステムの構築に関する調査研究」

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　真庭　功	学位　経済学修士【大阪経済大学、1971年3月取得】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）・無）
主要担当科目	学部：基礎演習１・２、発展演習１・２、卒業演習１・２、ベンチャービジネス論１・２、インターンシップ１・２、新入生演習 大学院：社会情報システム特論、社会情報システム特論演習Ⅰ・Ⅱ			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
学内「体験に基づく発見的・自己開発的な学習」・改革個人	2004～2006年度	KJ法によるアイデア・サポートの方法開発（携帯電話で発想）
２　作成した教科書、教材、参考書		
インターンシップ授業資料：教材配付	2004～2007年度	ガイダンス、フォーラム、実習報告書、実習成果報告会など資料
ベンチャービジネス論講義資料：教材配付	2004～2007年度	学外講師による講義資料など
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
携帯電話メールと超発想法ISOPによるアイディア・サポート	2005年7月2日	平成17年度全国大学IT活用教育方法研究発表会，社団法人私立大学情報教育協会
ユビキタス時代のアイディアサポート	2006年10月27日	オフィス・オートメーション学会　関西支部　第184回月例研究会
発想支援技法と授業実験事例	2007年1月19日	関西ベンチャー学会 国際化研究部会 第57回例会
４　その他教育活動上特記すべき事項		
	2005年度	修士修了　04AF003　勝浦　孝泰
	2007年度	修士修了　06bf009　ジン イユンジェ，06bf023　李 大勇
	2008年4月	修士　2年生演習指導　06bf017　趙　丹
	2004～2006年度	学内「体験に基づく発見的・自己開発的な学習」・改革個人 「KJ法によるアイディア・サポートの方法開発」（2004年度，2005年度，2006年度）
	2004～2007年度	経営学部特色ある教育の「経営イノベーションとビジネスマインドの醸成」（補助事業）で運営委員を務めた。（平成16,17,18,19年度）
	2004～2007年度	共通科目の追大プロジェクト科目の「インターンシップ１・２」を担当し、多くの実習生を育成し、企業等に派遣した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
超発想法ISOPを活用したアイディア・サポート	単著	2005年3月	教育研究所紀要 Vol.23		pp.101-103
IT時代のイノベーションと経営の考え方	共著	2005年3月	追手門経済・経営研究 No.12	瀬川　滋	pp.25-43
その他（学会発表）					
「ユビキタス時代のアイディアサポート」		2006年10月	オフィス・オートメーション学会	関西支部第184回月例研究会	
「発想支援技法と授業実験事例」		2007年1月	関西ベンチャー学会	国際化研究部会第57回例会	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2004年4月～2006年3月	社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会・関西支部「環境マネジメントとOR」研究部会の主査を務めた。
2005年4月～2008年3月	私立大学情報教育協会主催の授業情報技術講習会：e-ラーニング実践コースの委員を務めた。
2006年2月18日	関西ベンチャー学会第5回年次大会実行委員（本学）
2007年4月～2008年4月	本学　ベンチャービジネス研究所　所員，
2008年2月	日本オペレーションズ・リサーチ学会「知的決定支援の理論と方法」研究部会，「不確実性環境下での意思決定の理論と応用」研究部会，合同研究集会の会場校を務めた。
2004年4月～2008年4月	大阪府大阪狭山市商工会

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　見市　晃	学位　　博士（工学）【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	環境と経営、エコマーケティング論、NPOマネジメント、プログラミング演習、基礎・発展・卒業演習、環境経営論特論、環境経営論特論演習、環境経営論特殊講義、環境経営論特殊研究			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
キャンパスベンチャーグランプリへの参加	1999年10月より継続	日刊工業新聞社主催の標記コンペに演習生必須として参加している
NPOイ･キューブ事業への参加	2000年4月より継続	大阪大と設立した環境NPO事業に演習学生希望者の参加を求めている
追風ショップへの参加	2004年10月より継続	地元商店街活性化として始まった追風企画に継続参加している
企業コンサルティング	2007年4月より継続	中小企業の経営コンサルティングを演習生の希望者に実施してもらっている
2　作成した教科書、教材、参考書		
プログラミング演習	1996年4月より継続	毎週プリントを配布し、内容の理解を助けている
環境と経営	2003年4月より継続	毎回、その日に説明する内容をまとめたプリントを配布している
エコマーケティング論	2003年4月より継続	毎回、その日に説明する内容をまとめたプリントを配布している
NPOマネジメント	2003年4月より継続	毎回、その日に説明する内容をまとめたプリントを配布している
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学生のためのベンチャー研究所	2008年7月	大学が設立したベンチャー研究所を学生に利用を促す企画
環境と起業―大学施設を有効活用しませんか―	2008年9月	環境と起業に特化した、企業に大学施設と学生の利用を促す。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
キャンパスベンチャーグランプリ入選者を毎年輩出	2000年より継続	学生による起業、あるいは新商品提案コンペである。自信につながる
企業コンサルティング活動	2007年より継続	最新の経営知識を持ち、第三者の目で経営分析を行うと良い提案が行える

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
流通および販売におけるトレーサビリティ	単著	2005年5月	オペレーションズ・リサーチ学会誌5月号		pp.319-323
The Need for Pension Reform in Japan	共著	2005年6月	追手門経営論集Vol.11,No.1	見市晃、Colin Dale	pp.49-72
CO2排出削減を目的としたリユースびんの環境評価	共著	2005年12月	追手門経営論集Vol.11,No.2	鹿蓉、見市晃、今堀洋子	pp.43-64
リユースするびんの社会実験	共著	2006年9月	工業経営研究第20巻	見市晃、鹿蓉	pp.122-129
Consideration on an appropriate education system for Japan to become respected in the world	共著	2007年3月	追手門学院大学120周年記念論集（追手門経済・経営研究　第14号）	見市晃、Colin Dale	pp.125-138
Reuse System of Liqnor Bottles―For the Prevention of climate Change―	単著	2008年9月	追手門経営論集		pp.25-55
Consideration on the modern times of Japan and Japanese history	単著	2009年10月	追手門経営論集Vol.15,No.1		pp.171-204

その他					
Japanese Educatonal Systwem should be Changed	単独	2004年4月	Western Social Science Association 2004 Soltlake		
大学での環境教育 -パソコン再生の事例を中心にして-	単独	2004年6月	日本OR学会「食糧・環境問題とOR]研究例会 大分大学地域共同研究センター		
私たちが作り出した・作り出そうとしている状況	単独	2004年9月	平成16年度茨木市職員研修「環境」		
How to solve the pension problem?	単独	2005年4月	Western Social Science Association 2005 Albuquerque		
The Hotel Yield Management with Overbooking, Upgrade and Room Price Setting	共同	2005年7月	17th. Triennial Coference of the International Federation of Operational Research Sccieties (IFORS 2005)		
Reform of the Japanese Education System should be Required	単独	2007年4月	Western Social Science Association 2007 Calgary Canada		
南九州における900ml茶びんの統一リユースシステム構築に関する調査研究	共著	2008年3月	(社)環境生活文化機構2007年度報告書	見市晃、今堀洋子、田之畑めぐみ、田中利和	pp.1-31
A Policy of Global Warming Prevention: Reconstruction System of Reused Bottles	単独	2008年4月			
リユースびん調査でわかった採るべき次の一手（上）	単著	2008年7月	季刊エルコレーダーVol.35		pp.12-13
環境と企業 大学施設を有効活用しませんか	単独	2008年9月	追手門ベンチャービジネス研究所セミナー		
リユースびん調査でわかった採るべき次の一手（下）	単著	2008年10月	季刊エルコレーダーVol.36		pp.12-13
学生のためのベンチャー研究所	単著	2008年12月	追手門学院大学ベンチャービジネス・レビュー創刊号		pp.11-18

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2003年4月～現在	日本オペレーションズ・リサーチ学会関西支部運営委員
2006年5月～現在	茨木市生涯学習センター講師
2009年5月～現在	茨木市水道・下水道事業懇談会会長

（表24）

所属　経営学部	職名　　教授	氏名　米倉　穣	学位　　経営学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	（学部）各演習、中小企業経営論1，2、経営戦略論1，2、（大学院）企業論特論B,企業論特論演習Ⅰ、Ⅱ			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
理論と実践の融合を目指す	2007年10月～現在	従来の座学による授業に加えてチャレンジショップで経営者教育を行っている
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
大教室における教育方法の実演	2006年10月	教育研究所所員による見学の実施
4　その他教育活動上特記すべき事項		
現代GP（広域型）に採択される	2007年10月1日～現在	チャレンジショップ追風のプロジェクト責任者として地域活性化と起業家的人材の育成に努めている。学習にPBL手法を導入

Ⅱ　研究活動

3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Chancen mittelstaendischer Unternehmungen in der Krise	共著	2004年10月	Rostocker Hefte zur Unternehmungsfuehrung Band14	Hans-Joerg Richter	pp.221-238
経営学事典	共著	2006年6月	学文社	日本経営教育学会	pp.138
The Global Network Strategy Behavior of Japanese SMEs in the 21st Century	単著	2007年2月	晃洋書房	米倉　穣	pp.1-179
論文					
日本のハイテク・ベンチャーのリスト	単著	2008年6月	追手門学院大学（DP No.16）	米倉　穣	pp.1-6
ハイテク・ベンチャーに関するアンケート調査とインタビュー調査の要因	単著	2008年12月	追手門学院大学（DP No.19）	米倉　穣	pp.1-14
ハイテク・ベンチャーの発展要因：分析フレーム	単著	2009年3月	追手門学院大学（DP No.20）	米倉　穣	pp.1-9
その他					
現代GP取組概要（H19年度報告集）	単著	2008年3月	追手門学院大学	米倉　穣	pp.2-7、pp.12-13
関西ベンチャー学会誌創刊号責任編集	共著	2009年2月	関西ベンチャー学会	米倉　穣	pp.1-41
現代GP取組概要（H20年度報告集）	単著	2009年3月	追手門学院大学	米倉　穣	pp.2-12

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2005年4月1日～2007年3月31日	第3期関西ベンチャー学会常任理事
2005年8月1日～2009年3月31日	関西ベンチャー学会国際化研究部会主査
2006年2月21日	関西ベンチャー学会第5回年次大会実行委員長、総合司会を担当
2006年12月26日～2007年1月3日	中国福建省にて市場調査
2007年2月18日	関西ベンチャー学会第6回年次大会選挙管理委員長
2007年4月1日～2009年3月1日	関西ベンチャー学会副会長兼事務局長
2007年4月1日～2009年3月31日	関西ベンチャー学会　学会誌編集委員
2008年2月22日～2月26日	中国北京市においてハイテクベンチャーの実態調査
2008年3月17日～3月21日	米国サンフランシスコ・シリコンバレーにて日系ベンチャー企業の実態調査
2008年3月31日現在	関西ベンチャー学会国際化研究部会を主宰し、司会を通算70回担当
2009年4月1日～現在	関西ベンチャー学会副会長兼事務局長
2009年10月31日現在	関西ベンチャー学会国際化研究部会を主宰し、司会を通算86回担当

（表24）

所属　経営学部	職名　　准教授	氏名　井戸田　博樹	学位　　博士（経済学）【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	社会情報システム特論、経営情報論Ⅰ・Ⅱ、組織と情報Ⅰ・Ⅱ、情報リテラシーⅠ・Ⅱ			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
組織と情報Ⅰ・Ⅱ	2007年4月1日～ 現在に至る	情報、組織、ネットワークをキーワードとして授業を展開している。春学期では、経営学を中心として、情報、組織、企業、経営理念、経営戦略、組織構造、組織とコミュニケーション、意思決定、ナレッジマネジメント、ネットワーク組織などについて教授している。秋学期は、経営情報を中心として、情報システム、コンピュータ、経営情報システム（MIS、DSS、SIS、グループウェア、EIS）、インターネット、Eビジネス、Web2.0などについて学習させている。丁寧なレジュメを作成し配布するようにしている。また、企業経営の事例については、ビデオ教材を利用して学生の理解の助けとしている。
プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ	2007年4月1日～ 2009年3月31日	経営学部の学生にとってプログラムを学ぶ意義は、論理的思考を身につけさせることにある。そこで簡単なアルゴリズムについて理解できるようになり、短いプログラムを解読、作成できることを目指して授業している。毎回複数のプログラミングを体験させている。自宅のPCで無料で利用できるJAVA言語を用いており、自宅学習も可能な工夫をしている。
情報リテラシーⅠ・Ⅱ	2007年4月1日～ 現在に至る	春学期は、パソコンによる表現・文章作成について実習を行っている。秋学期は特に、経営学部の専門科目に役立つようにパソコン操作教育だけでなく、統計やOR、財務分析に関する実習も行っている。パソコン操作を通じて、これらの基本的知識の習得と分析結果の解読ができるように指導している。学生の習熟度向上に向け、可能な限り自学させるとともに、学生のつまずきそうなところでは、丁寧に指導することを心がけている。
入門コンピュータⅠ・Ⅱ	2007年4月1日～ 現在に至る	春学期は、パソコンによる表現・文章作成について実習を行っている。秋学期は、表計算ソフトを用いて、その基礎的操作から関数の使い方、簡単なゲーム作成など教授している。大学生活で必要なパソコンの基本的な操作と利用方法が学べるように工夫している。
新入生演習	2007年4月1日～ 現在に至る	ゼミを体験させる目的で、グループディスカッションから発表、質疑応答までの一連の流れを毎回実施している。大学で積極的に学ぶことの動議つけになっていると考えている。
社会情報システム特論	2009年4月1日～ 現在に至る	情報システムを社会科学から分析、研究する学問である社会情報システム論を考究するために、企業経営の観点から理論的視座を学ばせている。具体的テーマとしては、組織コミュニケーション、集合知、ICTケイパビリティ、ERP、情報倫理などを題材に取り上げている。まず現状についてケースを用いて解説し、関連する経営理論を学ばせた上で、テーマを決めて学生に発表してもらうように指導している。
経営情報論Ⅰ・Ⅱ	2009年4月1日～ 現在に至る	ICTの利用効果に企業間でなぜ差が生じるのか、その要因を理解し、ICTをどのように企業経営に活用すれがよいのかを考えてもらうきっかけとなるように教示している。具体的には、経営情報システム、経営戦略、経営組織、情報社会、インターネットに着目し、企業でのその変遷とマネジメントの仕組み、および企業経営とICTの相互作用について講義している。事前に授業用のレジュメを配布しておき、学生の予習を促すとともに、単元ごとにレポート課題を作成させ、学生の理解度を確認しながら、授業するように努めている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2005年3月25日	「組織と情報」の講義に利用。「経営組織」と「ネットワーク社会の諸相」を担当。経営組織では，組織とコミュニケーションやIT導入による組織の変化などを説明した。ネットワーク社会の諸相では，社会的ネットワークが行為者の紐帯によって結び付けられ，相互に資源や情報を交換しあい様々な関係を形成していることを説明し，事例を紹介するとともにネットワーク社会の発展に欠かせないデジタルデバイド解消の方策について述べた。
講義用教材：組織と情報Ⅰ・Ⅱ	2007年4月1日～ 現在に至る	情報、組織、企業、経営理念、経営戦略、組織構造、組織とコミュニケーション、意思決定、ナレッジマネジメント、ネットワーク組織、情報システム、コンピュータ、経営情報システム（MIS、DSS、SIS、グループウェア、EIS）、インターネット、Eビジネス、Web2.0などについて、それぞれ、レジュメを作成して配布。全110ページ
講義用教材：経営情報論Ⅰ・Ⅱ	2009年4月1日～ 現在に至る	経営情報論の基礎、経営情報論の基礎理論（組織論、経営戦略論、システム論、ネットワーク論）、経営情報システムの変遷、情報通信技術の進展、経営情報システムの設計・開発、経営情報システムの管理、ICTとビジネス・プロセス革新、 インターネット・ビジネス、ICTと組織変革、ICTと組織コミュニケーション、ICTと社会、ITガバナンスについて、それぞれ、レジュメと副教材としてパワーポイント資料を作成。全90ページ
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
はじめて学ぶ経営情報学	共著	2005年3月	日科技連	高橋敏朗編著　上園忠弘，國友義久，山本憲司，谷光太郎，◎井戸田博樹,吉田幸雄，朴修賢，太矢一彦	pp.83-98，pp.213-228
自治体の情報セキュリティ	共著	2006年1月	学陽書房	島田達巳編著　久保貞也，◎井戸田博樹，他11名	pp.74-85
内部統制Q&Aー経営幹部の疑問にずばり答えるー	共著	2006年10月	日経BP社	経営情報関連学会「内部統制」タスクフォース編　平野雅章，村田潔，水尾順一，佐藤修，◎井戸田博樹，石島隆，島田祐次，伊藤重隆	pp.115-134，pp.168-187
論文					
情報セキュリティ・マネジメントにおけるセキュリティ・コミュニケーションの意義と推進策	単著	2005年9月	日本セキュリティ・マネジメント学会 日本セキュリティマネジメント学会誌，Vol.19		pp.15-25
中小企業における情報セキュリティ対策ー東大阪市と大田区の調査分析を通じてー	単著	2006年3月	大阪成蹊大学現代経営情報学部 大阪成蹊大学現代経営情報学部紀要，Vol.3		pp.145-166
ITケイパビリティ形成の構造要因分析	単著	2007年12月	追手門学院大学経営学会 追手門経営論集 Vol.13，No.2		pp.1-18
組織における情報品質管理 ー組織のコミュニケーションの観点からー	単著	2008年4月	日本情報経営学会 日本情報経営学会誌　Vol.23，No.4		pp.56-63
The Factors to Promote the Practical Use of Customer's Personal Information in the Japanese firms	共著	2008年12月	OTEMON ECONOMIC STUDIES, Vol.41	◎H. Idota, T. Kurome and T. Shinohara　Extraction is impossible.	pp.23-48
その他					
IT Usage by SMES and the Regional Economic Development in the Age of　Networking	共著	2005年7月	Proceedings of 17th European ITS Conference	M. Tsuji, H. Miyoshi, T. Bunnou, ◎H. Idota, M. Ogawa and　M. Nakanishi	pp.23 (CD-ROM)
An Empirical Analysis of Factors Promoting IT Use by SMEs: Case of Two SME Clusters in Japan	共著	2007年10月	Proceedings of 9th IMAC Conferen	◎H. Idota, T. Bunno, M. Tsuji and M. Nakanishi	pp.1-8
情報品質管理ー役立つ情報システムの成功要因	共訳	2008年1月	中央経済社	監訳　関口恭毅 石島隆，◎井戸田博樹，稲永健太郎，古賀広志，村田潔	pp.67-91，pp.137-159
Analyses of Industrial Agglomeration, Production Networks and FDI Promotion-Research on Indonesia-	単著	2008年3月	ERIA Research Project Report Data Series 2007, No. 3-2		pp.1-118
Comparative analysis of ICT use among Japanese SMEs	共著	2008年6月	Proceedings of 17th Biennial Conference of the ITS	T. Bunno, ◎H. Idota, M. Tsuji	pp.32 (CD-ROM)
Organizational Innovation in Japanese SMEs Generated by ICT: Towards The Formation of ICT Capability	共著	2008年9月	Proceedings of 19th European ITS Conference	◎H. idota, T. Bunno and M. Tsuji	pp.38 (CD-ROM)
An Empirical Study of Factors Promoting the Practical Use of Customer's Personal Information in Japan	共著	2008年9月	Proceedings of 19th European ITS Conference	◎H. Idota, T. Kurome and T. Shinohara	pp.36 (CD-ROM)

Empirical analysis of industrial cluster and innovation in Japanese SMEs	共著	2009年3月	Proceedings of APCIM2009	◎H. Idota, T. Bunno and M. Tsuji	pp.116-131

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2002年4月～現在に至る	日本社会情報学会評議員及び関西支部研究会運営委員
2003年9月～2006年8月	日本地方自治研究学会理事
2006年6月～現在に至る	日本情報経営学会理事
2009年4月～現在に至る	経営情報学会理事

（表24）

所属　経営学部	職名　　准教授	氏名　笹本　晃子	学位　　学士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	経営実務英語１、経営実務英語２、経営実務英語３、経営実務英語４			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
ビジネスのための英語運用技能の養成		経営実務英語の授業においては、１）英語技能の養成を目的として、教科書に加えインターネットを含めた視聴覚教材を補助教材としても活用し、実社会における場面での語学力の育成に努めることと２）異文化理解を促進するため、主に日本人と英語圏文化の人とのコミュニケーション形態の違い、それによって起こりうる問題についても教えることを心掛けている。 また、経営実務英語１、経営実務英語３においては、特に聞き取り読み取りの力をつけることに力点を置き、経営実務英語２、経営字つく英語２、経営実務英語４では発信、書き、話す技能の習得に焦点を当てた指導をしている。 各レベルの講義内容が段階的につながって最終的には、ビジネス報告書の作成、プレゼンテーションができるように工夫している。
２　作成した教科書、教材、参考書		
留学生のための特別教材	2005年4月～2007年1月	英語の基礎学習歴のない留学生に、卒業要件としてビジネス・イングリッシュの履修を課していた時期より、通常クラスではなく、別個に時間をとりボランティアで、教材を作り指導をした。まったく英語を学んだことのない学生用には、英文ビジネスレターのタイプ学習用の教材を編集。初級レベルの者には、基本的文型、発音記号、基本的な語彙集を使用して指導し、教科書の一部を聴覚補助教材を用いて読解力の養成に用いた。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
		2004年6月から2005年3月まで米国ポートランド市在、Intercultural Communication Institution (ICI)似て海外研修。2004年7月はICI主催の夏期研修プログラムにてTraining for Intercultural Transitions;Developmental Training in Organization; Facilitating Intercultural Discoveryのワークショップを受講。2005年1月22日～23日には、 The Intercultural Context of Trainingのワークショップを受講。2005年2月25日～27日にはIDI(Intercultural Development Inventory) Qualifying Seminarを受講し、IDI Administratorの資格を修得。
オフィス・アワーを設けている		週１回、に定期のものに加え、アポイントによる随時のオフィ・スアワーを設け、留学相談等を含め学生の指導に努めている。2005年4月から現在、ヴィズワット教授と協力し、英語の学習を促進するため、ボランティアで、週一回づつ『ランチタイム・イングリッシュ』と称する全学の学生を対象とした昼食をしながら英語で歓談する時間を現在は各自の研究室に置いて続けている。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2005年7月	パワーポイントで、英語学習の重要性と本学部で学べる英語科目の体系を説明、積極的に学習するよう促した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Kolbの学習スタイル理論を活用しての授業改善への一考察	単著	2009年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第27号		pp. 91-98
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　経営学部	職名　　准教授	氏名　中野　統英	学位　博士（工学）【京都工芸繊維大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	プログラミング演習１および２、情報リテラシー１および２、新入生演習、入門コンピュータ１および２、情報科学特論(大学院)			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
1-1. 追手門学院大学 経営学部 国際経営学科 (1) 入門コンピュータ１（４クラス 春学期） (2) 入門コンピュータ２（４クラス 秋学期）	2004年4月1日～ 2005年3月31日	(1) 入門コンピュータ１ 始めにコンピュータの基本操作及びコンピュータを使用する際の注意事項(ウィルスや知的財産権など)を説明した。そして電子メールやインターネットの利用方法や注意事項を説明して実際に操作をさせることで理解を図った。そして文書作成ソフトを使った各種文書の作成を教えた。 (2) 入門コンピュータ２ 表計算ソフトを用いて表などの作成や各種関数の利用法を演習形式で教えた。そしてデータベースソフトを使ってデータベースを実習形式で理解させ、最後にプレゼンテーション技法についてはプレゼンテーションソフトを実際に操作させることによって教えた。
1-2. 追手門学院大学 経営学部 マーケティング学科 (3) 情報リテラシー１（２クラス 春学期） (4) 情報リテラシー２（２クラス 秋学期） (5) 入門コンピュータ１（２クラス 春学期） (6) 入門コンピュータ２（２クラス 秋学期）	2005年4月1日～ 現在	(3) 情報リテラシー１ ここでは、情報やコンピュータとは何かといったことを教示した。具体的にはコンピュータの内部構造や歴史、情報倫理と知的財産権、情報をどのようにして扱うか、そして情報を扱う上での問題点について講義を行った。さらに文書作成ソフトを使った各種文書の作成やホームページ作成方法について実習形式で教えた。 (4) 情報リテラシー2 情報化と社会生活の関係という観点から講義を行った。具体的には情報化によるサービスの変化、情報化と経営の関係、情報化が社会生活に及ぼす影響、そして情報化にともなう社会の発展についての講義を行った。さらに表計算ソフトの操作方法と応用(各種データ処理および解析)、データベース、プレゼンテーション技法についても実習形式で教えた。 (5) 入門コンピュータ１ コンピュータの構造や基本ツールの操作(メモ帳や電子メールなど)及び注意事項(ウィルスや知的財産権など)について講義した。電子メールやインターネットについては実際に設定や操作をさせることで理解を図った。そして文書作成ソフトを使った各種ビジネス文書の作成法などを教え、簡単なホームページの作成法も教示した。 (6) 入門コンピュータ2 表計算ソフトを用いて表やグラフなどの作成方法、各種計算方法や関数の活用方法などを教えた。そしてデータベースについては講義を交えながら実際にソフトウェアを操作させて理解させ、最後にプレゼンテーション技法についても理論的な説明の後にスライドを作成させることによって教えた。
1-3. 追手門学院大学 経営学部 マーケティング学科 (7) プログラミング演習１（１クラス 春学期） (8) プログラミング演習２（１クラス 秋学期） (9) 新入生演習（１クラス 春学期）	2009年4月1日～ 現在	(7) プログラミング演習１ この講義ではまずプログラム言語の種類・歴史とプログラムの動作原理について教えた。そして各プログラム言語に共通なプログラムの基礎知識(プログラムの基本構成や変数の使い方など)を実際にJava言語を用いたプログラムを作成させることによって教示した。 (8) プログラミング演習２ ここではまずJava言語を用いてプログラムで用いる基本構文を教えた。そしてJava言語の特徴であるオブジェクト指向プログラミングについて解説し、Javaを用いてオブジェクト指向のプログラムを作成・実行することを教示した。 (9) 新入生演習 ここでは，経営学部においてなぜ「情報」が必要なのかということを講義した。
1-4. 京都学園大学 経営学部 経営学科（非常勤講師） (10) パソコン応用C（1クラス 春学期） 　パソコン応用C（1クラス 秋学期） (11) プログラミングB2s（1クラス 春学期） (12) プログラミングB2f（1クラス 秋学期）	2005年4月1日～ 2006年3月31日	(10)パソコン応用C データベースとは何かということを講義し、そしてデータベースソフトを利用して実習形式で授業を行った。具体的にはデータベースの作成、活用(データの抽出)、入力フォームの作成および各種資料(印刷物)の作成を実際の業務フローを想定して教示した。 (11) プログラミングB2s プログラム作成の基礎についてJava言語を用いて実習形式で授業を行った。コンパイルの方法からプログラムの基本構造を勉強させ、配列や各種繰り返し文、条件分岐からライブラリの活用法までを教えた。 (12) プログラミングB2f オブジェクト指向によるプログラミングについてJava言語を用いて実習形式で授業を行った。オブジェクト指向プログラミングの基礎知識からクラスの作成・利用法、クラスの継承法、変数やクラスのカプセル化などについて教示した。
1-5. 大阪経済大学 人間科学部（非常勤講師） (13) 統計学入門（2クラス 春学期） (14) 現代と統計（2クラス 秋学期）	2007年4月1日～ 現在	(13) 統計学入門 度数分布表の作成方法や代表値などといった統計処理の基礎、確率に関する基礎知識、確率変数および離散確率変数における確率分布関数について講義形式で授業を行った。ただし統計処理や確率の計算については適時問題を作成して演習も行った。 (14) 現代と統計 離散確率変数における確率分布関数とそれらを用いた分布(二項分布およびポアソン分布)，連続確率変数における確率分布関数および正規分布について講義形式で授業を行った。正規分布等の各種分布については適時問題を作成して演習も行った。
1-6. 追手門学院大学大学院 経営学研究科 (15) 情報科学特論（1クラス 通年）	2009年4月1日～ 現在	(15) 情報科学特論 この講義では経営に関わる者が最低限身につけておくべき情報科学に関する幅広い知識と柔軟な応用能力(活用方法)を養うことを目的とした。基本的な情報科学の知識を学習したあと、プログラムを作成したりデータベースのソフトウェアで実際にデータを扱ったりすることによって情報の応用能力を養った。

2　作成した教科書、教材、参考書		
(1) 入門コンピュータ１（４クラス 春学期） (2) 入門コンピュータ２（４クラス 秋学期）	2004年4月1日～ 2005年3月31日	(1)および(2) 文書作成ソフトと表計算ソフトの使用法については市販テキストを利用した。コンピュータの基本操作、注意事項、データベース、プレゼンテーションについてはすべて自作プリントを作成して講義を行った。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2005年4月1日～ 現在	(3)および(4) 文書作成ソフトと表計算ソフトの使用法については、平成17年度は市販テキストを利用したが、平成18年度からは高校で情報を履修した生徒が多数になったので自作プリントのみで講義と演習を行った。「情報やコンピュータとは何か」や「情報化と社会生活の関係」については自作スライドを用いて講義を行い、コンピュータの基本操作、注意事項、データベース、プレゼンテーションなどについてもすべて自作スライドと自作プリントを作成して講義を行った。
(5) 入門コンピュータ１（２クラス 春学期） (6) 入門コンピュータ２（２クラス 秋学期）	2005年4月1日～ 現在	(5)および(6) 文書作成ソフトと表計算ソフトの使用法については、平成17年度は市販テキストを利用したが、平成18年度からは高校で情報を履修した生徒が多数になったので自作プリントのみで講義と演習を行った。コンピュータの基本操作、注意事項、データベース、プレゼンテーションなどについてもすべて自作スライドと自作プリントを作成して講義を行った。
(7) プログラミング演習１（１クラス 春学期） (8) プログラミング演習２（１クラス 秋学期）	2009年4月1日～ 現在	(7)および(8) 基本的には市販テキストを用いて授業を行ったが，学生に作成させる課題については適時プリントを作成して授業を行った。
(9) 新入生演習（１クラス 春学期）	2009年4月1日～ 現在	(9) プログラムとそれらを用いた機器が身近に存在することを、自作プリントを用いて講義を行った。ここではLEGOブロックで作成したロボットをプログラムで(学生に)動作させて学生の興味を引かせることにより効果的な授業を行った。
京都学園大学 経営学部 経営学科（非常勤講師） (10) パソコン応用C（1クラス 春学期） パソコン応用C（1クラス 秋学期） (11) プログラミングB2s（1クラス 春学期） (12) プログラミングB2f（1クラス 秋学期）	2005年4月1日～ 2006年3月31日	(10) データベースについての説明は自作プリントで行った。データベースソフトの利用法・操作法については市販のテキストを利用した。 (11)および(12) プログラミングについての説明とテクニックについては自作プリントで説明し、Javaの詳細な操作法については市販のテキストを利用した。あと必要に応じて授業内容の要約をプリントで配布して復習を行った。
大阪経済大学 人間科学部（非常勤講師） (13) 統計学入門（2クラス 春学期） (14) 現代と統計（2クラス 秋学期）	2007年4月1日～ 現在	(13)および(14) 基本的には市販のテキストで授業を行ったが，板書を充実させてノートだけでも授業を理解できるように配慮した。さらに適時問題を作成してプリントで配布することによって演習も行った。
追手門学院大学大学院 経営学研究科 (15) 情報科学特論（1クラス 通年）	2009年4月1日～ 現在	(15) 基本的には講義についてはプリントを適時準備して行った。プログラム作成およびデータベースソフトウェアの利用については適時課題プリントを作成・配布して演習も行った。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特色ある教育(改革個人部門)ロボットプロジェクト （プロジェクトリーダー）	2005年4月1日～ 2007年3月31日	LEGOブロックを用いたさまざまなロボットを企画および試作し、その中でマーケティング教育に生かせるものを見出して実際に活用するプロジェクトを行った。学生にロボットを作成させることによってコンピュータについての理解を深めさせ、さらにプログラム言語(Visual BasicおよびJava)について学習させることができた。さらに平成17年度と18年度のオープンキャンパス時に(経営学部ブース内で)本プロジェクトで作成したロボットを出展して、来場者による体験操作およびデモを行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
社会的拡散現象における重要度を考慮した影響力の解析 --エージェントベースシミュレーションを用いて--	単著	2008年9月	(社)日本繊維機械学会 学会誌 Vol. 61, No. 9		pp.615-620
論文					
マルチエージェントシミュレーションにおける不規則要素を持つ全体情報による影響力の解析	単著	2005年5月	(社)日本繊維機械学会 第58回年次大会研究発表論文集		pp.98-99
エージェントベースシミュレーションにおける気まぐれなエージェントによって受ける影響の解析	単著	2006年6月	(社)日本繊維機械学会 第59回年次大会研究発表論文集		pp.126-127

Analysis of Global Influence with Random Effect in Agent-Based Simulations	単著	2006年6月	Proc. 37th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (SSS '05)		pp.191-196
An Agent-Based Approach to Simulations of Global Influence with Random Effect	単著	2006年10月	Trans. International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), Vol. 2, No. 5		pp.1153-1163
エージェントベースシミュレーションにおける重要度を考慮した影響力の解析	単著	2007年6月	(社)日本繊維機械学会 第60回 年次大会研究発表論文集		pp.214-215
Analysis of Local Influence with Capricious Agents in Agent-Based Simulations	単著	2007年6月	Proc. 38th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (SSS '06)		pp.148-153
A Pilot Study on Modeling and Analysis of Capricious Agents in Agent-Based Simulations	単著	2008年1月	Trans. International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), Vol. 4, No. 1		pp.91-100
エージェントベースシミュレーションにおける前期採用者の採用ルールの違いによる影響の解析	単著	2008年5月	(社)日本繊維機械学会 第61回 年次大会研究発表論文集		pp.120-121
Analysis of Influences Considering Vagueness in Agent-Based Simulations	単著	2008年6月	Proc. 39th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (SSS '07)		pp.115-120
エージェントベースシミュレーションにおける前期採用者の採用ルールの違いによる採用者数の変化の解析	単著	2008年12月	追手門経営論集,Vol. 14,No. 2		pp.93-105
Influence of Rumors Including Vagueness in Agent-Based Simulations	単著	2009年1月	Trans. International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), Vol. 5, No. 1		pp.129-138
マルチエージェントシミュレーションにおけるうわさの流布状況の解析 - エージェントシミュレーションへのQ学習の導入 -	単著	2009年5月	(社)日本繊維機械学会 第62回 年次大会研究発表論文集		pp.74-75
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2005年5月～2006年4月	システム制御情報学会　第37回 ストカスティック システム シンポジウム (SSS '05) : Program & Steering Committee (Secretary)
2006年5月～2007年4月	システム制御情報学会　第38回 ストカスティック システム シンポジウム (SSS '06) : Program & Steering Committee
2007年5月～2008年4月	システム制御情報学会　第39回 ストカスティック システム シンポジウム (SSS '07) : Program & Steering Committee
2004年9月～2009年8月	茨木市市民講座(茨木市民のためのコンピュータ講座)(追手門学院大学開催分) :　講師

（表24）

所属　経営学部	職名　　准教授	氏名　中村　都	学位　法学修士【大阪大学】、LL.M.【ブリティッシュ・コロンビア大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	国際関係論、経営実務英語			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
		＊国際関係論：基礎知識を固め、内容理解を深めるため、資料を配付したり、映像資料を利用したりている。また、映像資料の利用に当たっては、映像を見ながら要点を書き込める用紙を配布している。
		＊経営実務英語：　リスニング能力が向上すると、リーディングの速度が上がるため、またリスニングへの関心を喚起するため、英語で歌われる曲のリスニングを授業に取り入れている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
		＊共著の『東アジア都市論の構想』（御茶の水書房、2004年）は東・東南アジアの経済地理を学ぶための大学生・大学院生向けの教科書として書かれたものであり、実際利用されている。
		＊共著の『国際関係論を超えて　－トランスナショナル関係論の新次元』（山川出版社、2003年）では、「エスニシティとエスニック・ネットワーク」を執筆したが、これも大学生・大学院生向けの国際関係論の教科書として書かれたものであり、実際に利用されている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		＊オフィス・アワーを週1回設定し、学生のさまざまな相談に対応できるようにしている。
		＊2004年3月、英語授業研究学会関西支部第134回例会にて、「シンガポールの言語政策とシンガポール英語」というタイトルで講演を行った（於：大阪教育大学附属天王寺中高等学校）。
		＊2006年4月、追手門学院大学・茨木市民公開講座において、「多文化社会シンガポール」というタイトルで講演を行った（於：茨木市ユーアイ・ホール）。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
東アジア都市論の構想 東アジアの都市間競争とシビル・ソサエティ構想	共著	2005年8月	御茶の水書房	田坂敏雄、飴野仁子、西澤希久男、高島嘉巳、朴倧玄、中村都、東茂樹、佐々木信彰、鈴木洋太郎、神沢正典、水野敦子、古賀章一、西村謙一、大泉啓一郎、青木秀男、河森正人、遠藤環、遠藤宏一	pp. 123-145
シンガポールにおける国民統合	単著	2009年2月	法律文化社		
論文					
シンガポールにおける英語による教育　－国民教育を中心に	単著	2006年12月	日本英語コミュニケーション学会紀要、15（1）		pp. 91-104
Singapore Women: Four Decades of Change	単著	2008年3月	追手門経済・経営論集、15		pp. 31-49
＜翻訳＞					
“女性差別撤廃条約実施状況に関するシンガポール政府第3回報告”についての国連女性差別撤廃委員会第39会期審議レポート(抄訳)	単著	2008年12月	『国際女性』第22号		pp. 34-35
その他					
＜学会発表＞					
論題：シンガポールの「知識集約都市国家」構想	単独	2004年7月	東アジア比較都市研究会（於：大阪市立大学）		

論題：シンガポールにおける英語による教育 ーその課題と展望	単独	2005年10月	日本英語コミュニケーション学会　第14回全国大会　（於：関西学院大学）
論題：アジア太平洋戦争をめぐる歴史認識　ーシンガポールと日本の教科書の比較を中心に	単独	2007年11月	日本平和学会　2007年度秋季研究大会（於：韓国、済州大学校）
論題：シンガポールの「市民社会」	単独	2008年4月	東アジア市民社会研究会（於：大阪市立大学）
論題：Nation Building in Singapore	単独	2008年7月	17th Conference, Asian Studies Association of Australia (held in Melbourne)
Ⅲ　学会等および社会における主な活動			
1999年5月～現在	日本英語検定協会・実用英語検定面接委員		
2003～2005年度	アジア政経学会評議委員		

（表24）

所属　経営学部	職名　　准教授	氏名　山口　公一	学位：博士（社会学）【一橋大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	ことばと文化（韓国語・朝鮮語）1･2、韓国の文化と社会1･2、アジアと国際社会2、現代韓国事情			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2008年度春学期～2009年度春学期	共通科目「ことばと文化（韓国語・朝鮮語）1･2」・「アジアと国際社会2」学部選択科目「韓国の文化と社会1･2」・「現代韓国事情」において、レジュメ資料を配付して講義した。講義においては、新聞資料・文字資料のほか、OHCを利用して写真・図表、貨幣やプリペイドカードなどの現物資料を紹介したり、ビデオ教材を活用する学習も行い、学生が教育内容の理解を深められるように工夫を行った。毎回、コミュニケーション（リアクション）・ペーパーを使って、出席を確認すると同時に、受講学生から講義で学んだこと、感想・要望・疑問点を聴取し、次回以降の講義で回答するなど、学生との意思疎通を図った。評価は出席点と学期末のレポートによって行った。レポートは、各授業ともそれぞれ数十冊の課題図書リストから受講学生が読みたい著書１冊選び、書評する形式を採った。書評という形式を採ることで、受講学生の韓国・朝鮮への興味・関心をより深めると同時に、レポートの技法の習得をふくめた基礎学力の向上につとめた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2007年3月	高校生、若者、教員などを対象とした教材である、歴史教育研究会（日本）・歴史教科書研究会（韓国）編『【日韓歴史共通教材】日韓交流の歴史－先史から現代まで－』（明石書店、2007年）の「第9章：西洋の衝撃と東アジアの対応」「第10章：日本帝国主義と朝鮮人の民族独立運動」（pp.207-276）を共同執筆した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
【日韓歴史共通教材】日韓交流の歴史－先史から現代まで－	共著	2007年3月	明石書店	歴史教育研究会（日本）・歴史教科書研究会（韓国）編（9･10章共同執筆者：君島和彦、岡田俊樹、大串潤児、山口公一、鄭在貞、金龍石、呉彰勲、張鍾根）	pp.160-206、pp.381-389（第9章 西洋の衝撃と東アジアの対応） pp.207-276、pp.389-400（第10章 日本帝国主義と朝鮮人の民族独立運動）
［한일역사공통교재］한일교류의 역사 -선사부터 현대까지－（【日韓歴史共通教材】日韓交流の歴史－先史から現代まで－の韓国語版）	共著	2007年3月	서울,도서출판 혜안(ソウル、図書出版ヘアン)	역사교과서연구회(한국)・역사교육연구회(일본)편（9･10章共同執筆者：君島和彦、岡田俊樹、大串潤児、山口公一、鄭在貞、金龍石、呉彰勲、張鍾根）	pp.170-230（第9章　西洋の衝撃と東アジアの対応） pp.231-314（第10章　日本帝国主義と朝鮮人の民族独立運動）
論文					
歴史系博物館の現状と課題－JICA海外移民資料館の展示検討－	共著	2005年3月	東京歴史科学研究会編『人民の歴史学』171号	大高俊一郎・西浦直子・山口公一	pp.1-14
植民地期朝鮮における神社政策と宗教管理統制秩序－「文化政治」期を中心に－	単著	2005年10月	『朝鮮史研究会論文集』№43、緑蔭書房		pp.57-91
植民地期朝鮮における神社政策と朝鮮社会	単著	2006年3月	一橋大学社会学研究科博士論文		全208頁
「韓国併合」以前における在朝日本人創建神社の性格について	単著	2009年3月	「日韓相互認識」研究会編『日韓相互認識』2号		pp.25-62
その他					
（訳書）大韓民国国史編纂委員会所蔵対馬宗家文書目録集Ⅲ	単訳	2004年5月	ビスタ　ピー・エス	監修：鶴田啓	全279頁
（訳書）大韓民国国史編纂委員会所蔵対馬宗家文書目録集Ⅳ	単訳	2004年7月	ビスタ　ピー・エス	監修：鶴田啓	全264頁

（討論要旨）シンポジウム：世界から見た関東大震災史－質疑・討論・まとめー	共著	2004年9月	『世界史としての関東大震災－アジア･国家･民衆－』、日本経済評論社	関東大震災80周年記念行事実行委員会編	pp. 64-70
（訳書）大韓民国国史編纂委員会所蔵対馬宗家文書目録集Ｖ	単訳	2005年4月	ビスタ　ピー・エス	監修：鶴田啓	全260頁
（討論要旨）2006年度東京歴史科学研究会委員会企画報告討論要旨	単著	2006年9月	東京歴史科学研究会編『人民の歴史学』171号		pp. 25-28
（文献紹介）平田雅博『内なる帝国・内なる他者－在英黒人の歴史－』（晃洋書房、2004年）	単著	2006年11月	歴史科学協議会編『歴史評論』679号、校倉書房		pp. 106
（訳書）大韓民国国史編纂委員会所蔵対馬宗家文書目録古文書Ｉ	共訳	2006年12月	ビスタ　ピー・エス	監修：鶴田啓、訳：山口公一、小志戸前宏茂	i-ｖ頁、pp. 1-228（全404頁中）
（文献紹介）大門正克編『昭和史論争を問う－歴史を叙述することの可能性－』（日本経済評論社、2006年）	単著	2007年3月	東京歴史科学研究会編『人民の歴史学』171号		pp. 30-34
（年表作成）日本史年表［増補4版］	共著	2007年3月	東京堂出版	東京学芸大学日本史研究室編	pp. 520-521（年表作成：2005年）
(コラム)『新しい歴史教科書』の＜正しい＞読み方－国の物語を超えて－	共著	2007年3月	青木書店	ひらかれた歴史教育の会編	pp. 296（コラム「朝鮮における「皇民化」政策」）
「自国史」を相対化する日韓交流史の試み	単著	2007年12月	日本教育史学会編『日本教育史往来』171号		pp. 5-8
植民地期朝鮮における「国家祭祀」の整備過程－「武断政治」期を中心に－	単著	2008年3月	「東アジア認識」研究会編『日韓歴史共同研究プロジェクト第9回シンポジウム報告書』		pp. 28-47
（討論要旨）2007年度歴史科学協議会大会第２日討論要旨	単著	2008年5月	歴史科学協議会編『歴史評論』697号、校倉書房		pp. 87-91
（参加記）2008年度歴史科学協議会大会参加記	単著	2009年5月	歴史科学協議会編『歴史評論』709号、校倉書房		pp. 112-113

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	東京歴史科学研究会、朝鮮史研究会、歴史科学協議会、歴史学研究会、日本植民地研究会、同時代史学会、大阪歴史科学協議会
＜学会活動＞	
2000年4月～現在	東京歴史科学研究会委員
2004年6月	研究発表「植民地朝鮮における神社政策－1920年代を中心に－」（韓日次世代学術FORUM主催2004年度国際学術大会「韓日次世代人文社会研究の動向と展望」於：釜山、東西大学校日本研究センター）
2004年6月	指定討論「金聖姫（韓国・漢城大学校）「七福神の時代」」（同上）
2004年7月	講座報告「歴史系博物館の現状と課題－JICA海外移住資料館の展示検討－」（東京歴史科学研究会2004年度７月講座、於：横浜市社会福祉協議会8階大会議室）
2004年8月	報告「日露戦争と統監政治（第３回改訂）」・同「日本の「満州」侵略と朝鮮社会の動向（第２回改訂）」（歴史教科書研究会［韓国］・歴史教育研究会［日本］主催、第14回韓日歴史教科書シンポジウム、於：ソウル市立大学校人文大学）
2004年10月	大会報告「植民地期朝鮮における神社政策－「文化政治」期を中心に－」（朝鮮史研究会第41回大会［テーマ：朝鮮における国家と宗教］於：東京経済大学）
2005年1月	報告「日露戦争と統監政治（最終版）」・同「日本の「満州」侵略と朝鮮社会の動向（最終版）」（歴史教育研究会［日本］・歴史教科書研究会［韓国］主催第15回日韓歴史教科書シンポジウム、於：東京学芸大学２０周年飯島会館）
2006年7月	研究発表「植民地期朝鮮における「国家祭祀」の整備過程－1910-1919年を中心に－」（日韓相互認識研究会第１回例会、於：一橋大学職員研修所）
2007年1月	研究発表「植民地期朝鮮における「国家祭祀」の整備過程－「武断政治」期を中心に－」（第９回日韓歴史研究シンポジウム［一橋大学・ソウル大学校］、於：一橋大学佐野書院）
2007年3月	指定討論「グ・ナニ（韓国・教育人的資源部）「東アジアのなかの韓日関係史－新しい教育課程に関連して－」（ソウル市立大学校人文科学研究所主催『韓日交流の歴史』創刊記念シンポジウム「韓国と日本は歴史認識を共有できるのか－韓日歴史共通教材の開発と活用方案－」、於：ソウル市立歴史博物館講堂）
2007年3月	コメント「シンポジウム「国の物語を超える」ということ（ひらかれた歴史教育の会主催『『新しい歴史教科書』の＜正しい＞読み方－国の物語を超えて－』出版記念シンポジウム、於：東京、セシオン杉並）
2007年10月	書評「成田龍一『近代都市空間の文化経験』（岩波書店、2003年）」（東京歴史科学研究会2007年度歴史科学講座事前学習会［近代史部会例会］、於：一橋大学別館歴史共同研究室会議室）

2009年6月	大会報告「戦時期朝鮮社会と民衆－「流言蜚語」にみる朝鮮民衆のメンタリティー」（東京学芸大学史学会2009年度大会報告、於:東京学芸大学20周年飯島会館）
2009年9月	研究発表「アジア太平洋戦争期、朝鮮における民衆と社会の動向」（東京歴史科学研究会2009年度委員会合宿報告、於:茨城県大洗町「浜の湯」）
＜社会活動＞	
2008年2月	東京都小平市鈴木公民館市民講座講師

（表24）

所属　経営学部	職名　　講師	氏名　松井　温文	学位　　経営学修士【神戸商科大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	マーケティング論・医療福祉ビジネス論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2007年度2008年度	加点方式による授業の推進
	2008年度	就職に直結するゼミの運営
	2008年度	追風の運営システムの構築
2　作成した教科書、教材、参考書		
現代社会と教育	2007年3月	神戸商大サービス出版　編著執筆分担
流通・マーケティング	2008年3月	一灯館　編著執筆分担
生活と経営	2008年4月	一灯館　編著執筆分担
流通・マーケティング・経営	2008年10月	一灯館　編著執筆分担
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「大学教育サービスにおける満足の特性」	2007年9月16日	日本生産管理学会第26回全国大会、名古屋工業大学2号館3階F3教室。
「大学の市場の特性とそれを受けた規範的行動」	2008年6月21日	日本流通学会関西・中四国部会、キャンパスプラザ京都5階共同研究室。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
チャレンジショップ追風春日店の業務担当	2007年10月から	
チャレンジショップ追風高槻店の業務担当	2008年9月から	

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
「我が国自動車ディーラーにおけるサービス・マーケティングの必要性−生産的労働と不生産的労働の基本的理解による販売される財の再検討−」	単著	2004年6月	『関西実践経営』実践経営学会関西部会、第27号		
「サービス・マーケティング研究の対象」	共著	2004年11月	『商大論集』兵庫県立大学、第56巻 第2号	○松井温文・小西一彦	
「サービス・マーケティングの限界とその解決法−ある民宿経営の実践を例として−(研究ノート)」	単著	2004年12月	『関西実践経営』実践経営学会関西部会、第28号		
「内科診療所におけるサービス・マーケティング−情報収集活動を中心として−」	単著	2005年3月	『実践経営』実践経営学会、第42号		
「歯科医療サービスにおける誠実な治療活動の重要性−医療サービス市場の基本的理解から−」	単著	2005年6月	『関西実践経営』実践経営学会関西部会、第29号		
「院内託児サービスに関する実践的一試論−この実現に向けて−」	単著	2005年12月	『関西実践経営』実践経営学会関西部会、第30号		
「歯科衛生士の役割に関する一試論」	単著	2006年3月	『日本産業科学学会研究論叢』日本産業科学学会、第11号		

「マーケティング研究における広告活動の性格」	単著	2006年5月	『企業経営研究』日本企業経営学会、第9号		
「短期大学の学生に対するメールサービスとセミナー教育に関する一試論―より豊かな心を持った学生を育成するために―」	共著	2006年6月	『関西実践経営』実践経営学会関西部会、第31号	○高木直人・中村宏敏・松井温文	
「診療所における看護師の役割に関する一試論」	単著	2006年8月	『実践経営』実践経営学会、第43号		
「サービス・マーケティング研究の登場―歴史的規定を受けた必然性から―」	単著	2006年10月	『流通』日本流通学会、第19号		
「近江商人と社会的信用」	共著	2006年12月	『関西実践経営』実践経営学会関西部会、第32号	○高木直人・松井温文	
「サービス・マーケティング研究における機能主義アプローチ」	単著	2006年12月	『追手門経営論集』追手門学院大学経営学会、第12巻 第2号		
「大学教育サービスの地域住民へのアプローチ」	単著	2007年3月	『教育研究所紀要』追手門学院大学教育研究所、第25号		
「加点方式による授業の試み」	単著	2007年3月	『教育研究所紀要』追手門学院大学教育研究所、第25号		
「基本的大学教育サービスとは」	単著	2007年3月	『教育研究所紀要』追手門学院大学教育研究所、第25号		
「商業経済論の今日的意義-マーケティング研究との関連から-」	単著	2007年3月	『追手門経済・経営研究』追手門学院大学、第14号		
「理論の実践的応用1-ペンション・民宿の経営-」	単著	2007年3月	『追手門経済・経営研究』追手門学院大学、第14号、		
「革新的な歯科衛生士」	単著	2007年3月	『日本産業科学学会研究論叢』日本産業科学学会、第12号		
「特徴のある短期大学のホームページに見るサービス精神-仮説の構築に向けて-(研究ノート)」	単著	2007年5月	『企業経営研究』日本企業経営学会、第10号		
「短大生のキャリア開発実践の四年制大学への応用」	単著	2007年6月	『追手門学院大学 ディスカッションペーパー』追手門学院大学経営学会、No.6	高木直人・○松井温文	
「市場の概念の確認と今後-マーケティング研究の基礎として-(研究ノート)」	単著	2007年9月	『追手門経営論集』追手門学院大学経営学会、第13巻 第1号		
「理論の実践的応用2-ベンチャー企業における機能主義-」	単著	2007年12月	『追手門経営論集』追手門学院大学経営学会、第13巻 第2号、		
「春日商店街追風での学生指導の実践-スタート段階において-」	単著	2008年3月	『教育研究所紀要』追手門学院大学教育研究所、第26号		
「ホームページ作成に関する1つのアイデア-受験生の目線に立って-」	単著	2008年3月	『教育研究所紀要』追手門学院大学教育研究所、第26号		
運輸の活動の再検討-古典マーケティング研究からの分析-」	単著	2008年3月	『中京商学論叢』中京大学商学会、第54巻 塩田静雄先生・綱島誠忠先生退職記念号		
「インターナル・マーケティングの構築に向けて-木村達也氏の著書を素材として-(研究ノート)」	単著	2008年3月	『追手門経済・経営研究』追手門学院大学、第15号		
「短期大学のホームページの基本的構成要素に関する分析-堺女子短期大学を事例として-」	単著	2008年3月	『日本産業科学学会研究論叢』日本産業科学学会、第13号		
実践的商業教育の取り組み(研究ノート)」	共著	2008年6月	『芦屋大学論叢』第48号	○中村宏敏・池田聡・松井温文	

その他					
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
特記事項なし					

心理学部

＜心理学科＞

石王　敦子　(105)
井上　知子　(107)
井ノ口　淳三　(109)
落合　正行　(110)
加藤　徹　(114)
倉戸　由紀子　(115)
佐々木　英一　(118)
志水　紀代子　(119)
田中　耕二郎　(122)
中村　このゆ　(123)
西川　喜朗　(125)
橋本　秀美　(127)
東　正訓　(129)
藤本　忠明　(131)
鋒山　泰弘　(133)
松野　凱典　(134)
三川　俊樹　(135)
駿地　眞由美　(136)
瀧端　真理子　(139)
辻　潔　(142)
中鹿　彰　(143)
永野　浩二　(145)
馬場　天信　(147)
溝部　宏二　(150)
荒木　浩子　(153)
田中　秀明　(155)

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　石王　敦子	学位　　博士（教育学）【京都大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	認知心理学・感情心理学・実験心理学演習・認知外書購読・特殊演習・新入生演習・卒業演習・心の科学・認知心理学特講・認知心理学特論（院）・記憶と言語（院）・生涯発達・生涯教育心理学コース演習（院）			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
・書き込み式レジュメ	1997年3月より	担当している全授業において毎回書き込み式レジュメを用意している。あらかじめレジュメを用意することで授業の全体の流れを把握させることができる。重要な点のみを書き込み式で書かせることによって、授業に集中させポイントを押さえることができる。また無駄な板書をさせることがないので、各自の学習進度がそろう。このレジュメは、授業評価においても評判がよい。
・実験を取り入れた授業	1997年3月より	記憶や知覚を扱う認知心理学や一般心理学（心の科学）の授業では、簡単な実験を授業中にして、その働きを実感させることが多い。大人数や少人数に応じて、授業中に簡単にデータがとれように実験を工夫して作成している。学生には、「経験した方がわかりやすい」と好評である。
2　作成した教科書、教材、参考書		
・「グラフィック心理学」	1997年3月より	「グラフィック心理学」　北尾倫彦・中島実・井上毅・石王敦子共著（サイエンス社）８つの章のうち第１章「知覚」と第７章「発達」の執筆を担当。全国の大学で一般心理学の教科書として、毎年多数採用されている。本学でも2005年度から「心の科学」で教科書として使用している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
落合正行・石王敦子　生涯教育が大学教育へ及ぼす影響に関する教育心理学的検討　　追手門学院大学教育研究所紀要第24号　pp. 128-140	2006年3月	生涯教育がうたわれて久しいが、生涯教育と大学教育との関連について論じた。生涯教育の基本的考えについて、歴史的な経緯と種々の理論の中から代表的理論を紹介し、生涯教育の基本的な考え方が、今日の大学教育の考え方とどのような関係にあるか、また生涯教育の考え方を大学教育に如何に取り入れることが出来るか、それにより大学教育に如何に意味のある影響を与えることが出来るかについて論じた。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
第二言語獲得と作動記憶容量の関わり	単著	2004年10月	追手門学院大学人間学部紀要,17,		pp. 1-11
バイリンガルの認知モデルをめぐる研究動向	単著	2005年3月	追手門学院大学人間学部紀要,18		pp. 1-11
外国語学習の意味について－バイリンガル研究の視点から－	単著	2005年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要，1		pp. 29-38
Working memory 容量の個人差とStroop干渉－抑制の観点から－	単著	2006年3月	追手門学院大学人間学部紀要,20		pp. 1-11
発達初期の言語・認知機能に関する脳の可塑性を規定する要因の検討	共著	2006年3月	追手門学院大学人間学部紀要,20	◎落合正行・石王敦子	pp. 13-37
外国語学習に影響する要因	単著	2006年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要，２		pp. 29-38
生涯教育が大学教育へ及ぼす影響に関する教育心理学的検討	共著	2006年3月	追手門学院大学教育研究所紀要,24	◎落合正行・石王敦子	pp. 128-140
現在の子どもの行動および心理的特徴―原因とその対処法への基礎的資料―	共著	2006年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 ，2,	◎落合正行・石王敦子	pp. 29-46
ストループ干渉とバイリンガル研究	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要,１		pp. 1-10

逆ストループ干渉の生起機序	単著	2009年3月	追手門学院大学心理学部紀要, 3		pp. 1-11
子どもの心理的特徴に関する調査１―５・６年生における自己意識と統制感、自己制御、ストレス対処との関係―	共著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 , 4,	◎落合正行・石王敦子・井上知子	pp. 31-60
子どもの心理的特徴に関する調査２―５年生における自己意識と能力認知と社会的責任との関係―	共著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 , 4,	◎石王敦子・落合正行・井上知子	pp. 61-75
教師の子どもの評価	共著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 , 4,	◎落合正行・石王敦子・井上知子	pp. 76-81
その他					
ボランティアによる英語チューター制度	単著	2005年3月	追手門学院大学平成16年度学内研究報告書－私立大学教育研究高度化推進特別補助事業成果報告－,	研究代表者：落合正行 共同執筆者：落合正行、辻幸恵、梅村修、石王敦子、三川俊樹、東正訓、佐々木英一、中嶋昌彌	pp. 83-89
＜学会シンポジウム等＞					
日本心理学会第69回大会ワークショップ話題提供		2005年9月	ワークショップ「記憶における抑制研究の広がり」において「作動記憶容量の個人差とストループ効果」の題目で発表（於：慶応義塾大学）	企画者　高橋雅延（聖心女子大学）・梅田聡（慶應義塾大学文学部） 話題提供者　石王敦子・月元敬（名古屋大学）・木村晴（東京大学）	
日本心理学会第69回大会ポスター発表	単著	2005年9月	ポスター発表：石王敦子　作動記憶容量の個人差とストループ干渉（於：慶応義塾大学）		pp. 737
日本心理学会第70回大会ワークショップ話題提供		2006年11月	ワークショップ「ストループ効果研究の現在」で「ストループ効果とバイリンガル研究」の題目で発表（於：九州大学）	企画：箱田裕司（九州大学）・嶋田博行（神戸大学） 話題提供者：石王敦子・井出野尚（早稲田大学）・松本亜紀（九州大学）・堤　教彰（神戸大学）	
日本発達心理学会第18回大会　自主シンポジウムの企画と司会		2007年3月	自主シンポジウム「発達障害児・者の生涯発達」において企画と司会を務める（於：埼玉大学）	企画：石王敦子（追手門学院大学）・井上知子（追手門学院大学）・落合正行（追手門学院大学） 司会：石王敦子 話題提供者：小山　正（神戸学院大学）・高橋和子（アルクラブ（大阪アスペの会））・中鹿　彰（追手門学院大学） 指定討論者：井上知子（追手門学院大学）	
日本発達心理学会第19回大会リレー講演　企画と司会		2008年3月	リレー講演「自伝的記憶の発達」（主催：追手門学院大学、於：大阪国際会議場）	企画：石王敦子・落合正行（追手門学院大学） 話題提供者：佐藤浩一（群馬大学）・　上原泉（東京外国語大学） 指定討論者：仲真紀子(北海道大学)	
日本発達心理学会第19回大会ランチョンレクチャー　企画と司会		2008年3月	ランチョンレクチャー「日本語で言語研究するということ」（主催：追手門学院大学、於：大阪国際会議場）	企画：石王敦子・落合正行（追手門学院大学） 講演者：針生悦子（東京大学）	
日本心理学会第72回大会発表ポスター発表	単著	2008年9月	ポスター発表：石王敦子　作動記憶容量の個人差と逆ストループ干渉（於：北海道大学）		pp. 772

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2005年 4月～現在	関西心理学会役員
2008年3月	日本発達心理学会第19回大会副委員長・事務局長
2006年10月	おうてもん塾「子供の発達と臨床」講師「外国語の学習」　於：毎日文化センター
2007年10月	おうてもん塾「いきいき生きよう中高年」講師「中高年の認知」　於：毎日文化センター
2008年7月	毎日文化センター「癒しと励ましの心理学」講師「外国語でコミュニケーションを楽しむ」於：毎日文化センター
2008年10月	おうてもん塾「子育ての心理学」講師「もっとも大事な時期の育児のあり方」　於：大阪城スクエア
2009年4月～現在	日本臨床発達心理士関西支部役員
2009年5月	毎日文化センター「癒しと励ましの心理学」講師「もの忘れはこわくない」於：毎日文化センター

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　井上　知子	学位　　教育学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	心理学体系論、心理検査学、家族心理学、パーソナリティ心理学、生育史心理学、卒業研究、特殊演習、（院）育児心理学、人格心理学特論、心理検査学演習、臨床発達心理実習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
卒業研究、特殊演習	2004年4月1日～2008年5月1日	学生中心の形態で学生自身が関心を持っている心理学のテーマについて参加学生全員で研究方法・問題の展開方法について討議し、論文の作成をする。
2　作成した教科書、教材、参考書		
心理学体系論、家族心理学、生育史心理学その他講義科目	2005年4月1日～2008年5月1日	現代の心理学で取り上げられている課題を中心にして、その基礎的知識、現代の問題点、解決方法などについて資料となるプリントを配布して概説する。同時に隔週ごとに学生自身の抱く疑問点、理解できなかったことなどを授業の最後に小アンケート方式の回答を提出させ、翌週疑問点については解決理解を図る。
すべての科目	2004年4月1日～2008年5月1日	どの科目についても教科書としてふさわしいと思われる日本語の文献はないといえる。そこで、最新の研究動向や社会の情報・状態を取り入れたプリントを毎年作成して、授業中に配布して、資料として使用している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
生育史心理学	2007年	学内教員に対して公開授業を行い、大人数受講の講義実践の工夫とその運営の困難さについて授業後討議した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
インターンシップ、大学院臨床発達実習	2008年4月1日～	両科目ともに学外の主として学校教育に係わる現場でのメンタルケアの実践であり、事前及び事後の研修において学生に対してだけでなく現場の教員をも含んで児童・生徒にいかに対処すべきかについて指導を行っている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
心理学の学校への支援方法	単著	2005年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要、1		pp. 19-28
新しい心理臨床的援助の展開ー心のクリニック紀要創刊によせる	単著	2005年12月	心のクリニック紀要、1		pp. 1-3
家庭への臨床発達心理学的支援ー育児に対する母親への支援：母親の子ども観と養育態度との関係から	単著	2006年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要、2		pp. 2-17
Psychological well-beingの概念と測定法についてー文献的展望ー	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要、1		pp. 2-17
児童虐待に対する心理学的対応についての心理学的提言	単著	2007年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要、3		pp. 2-13
不登校に対する心理学的対応について―文献的検討―	単著	2008年3月	追手門学院大学心理学紀要、3巻		pp. 11-26
子どもの心理的特徴に関する調査１―5・6年生における自己意識と統制感、自己制御、ストレス対処との関係―	共著	2009年3月	平成16年度～平成20年度「私立大学学術研究高度化推進事業」研究成果報告書	◎落合正行・石王敦子・井上知子	pp. 31-60
子どもの心理的特徴に関する調査２―5年生における自己意識と能力認知と社会的責任との関係―	共著	2009年3月	平成16年度～平成20年度「私立大学学術研究高度化推進事業」研究成果報告書	落合正行・◎石王敦子・井上知子	pp. 61-75
教師の子どもの評価	共著	2009年3月	平成16年度～平成20年度「私立大学学術研究高度化推進事業」研究成果報告書	◎落合正行・石王敦子・井上知子	pp. 76-81

その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本青年心理学会、日本人間性心理学会	各学会でのシンポジウムの指定討論者、個人発表の座長及びコメンテイター、学会発行の論文雑誌の編集委員として論文査読など多数。人間性心理学会では2007年まで学会理事であった。
日本学校心理士会京都支部	運営委員会副委員長
追手門学院地域心理研究センター	2004年から2006年3月までセンター長を勤めたが、その間公開講演及びシンポジウムの企画・司会およびパネリスト、センターに依頼された諸研究所・公立・私立の施設及び学校等から依頼の講演と研修への参加多数。その後も講演・研修多数行う。
公立の小学校・高等学校	小・高の学校協議会委員（長）として学校の問題や学校運営に協力
重度・重複障害者の社会福祉施設	設立以来20数年間にわたり理事あるいは評議員として運営に従事している。
2005年～2008年	地域支援心理研究センター主催公開シンポジウム総合司会を務める
2005年9月～2009年9月	おうてもん塾講師として　計5回講演をする
2009年4月	追手門学院大学公開講座講師
2009年9月	追手門学院大学アワー講師（於岡山）
2009年11月	公開講座フェスタ2009「生きる力―ひと、まち、文化の新たなつながりを求めて―」講師
その他	保育所、小学校、中学校等において、いじめ・不登校への対応についての講演・研修

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　井ノ口　淳三	学位　　博士（教育学）【京都大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	教育哲学　教育史　道徳教育論　教職概論　視聴覚教育論　教職実践研究　現代の子どもと教育　教育実習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2000年9月～現在	「道徳教育論」でディベートを取り入れている。
	2001年4月～現在	担当するすべての科目において、学生からの質問にe-メールで即座に回答している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2007年4月	井ノ口淳三編『道徳教育』学文社
	2008年4月	田中耕治、井ノ口淳三編『学力を育てる教育学』八千代出版
	2008年5月	田中耕二郎、井ノ口淳三編『教職概論』ミネルヴァ書房
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2006年3月	追手門学院大学教育研究所編『大人数授業をどう改革するか』アスカ文化
	2008年5月	学生相互の交流を生かした授業実践報告、全国私立大学教職課程研究連絡協議会『教師教育研究』第21号、１頁～11頁
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2004年4月～2007年3月	教育研究所長として、学院全体の教育改革に取り組んだ。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
命の教育、心の教育は何をめざすか	単著	2005年10月	晃洋書房		B6判、全197頁
論文					
18世紀及び19世紀における『世界図絵』異版本の特徴	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部 紀要第１号		pp. 289-303
18世紀ウィーンで出版された『世界図絵』異版本の特徴	単著	2008年3月	追手門学院大学心理学部 紀要第2号		pp. 67-79
その他					
教育改革の国際比較	共著	2007年9月	ミネルヴァ書房	大桃敏行、上杉孝實、井ノ口淳三、植田健男	まえがき

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2001年3月～現在	関西チェコ・スロバキア協会副会長
2001年8月～2009年8月	日本教育学会理事
2005年8月～2007年7月	日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員
2005年9月～現在	日本教師教育学会理事
2009年9月～現在	日本教育方法学会理事

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　落合　正行	学位　　教育学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	心理学総合科目(1)、心理学の総合的理解、生涯発達・生涯教育心理学入門、言語発達心理学、チャイルドサポート演習、プリゼンテーション法			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
ミニッツペーパーの利用	2002年4月	担当している全授業において、学生の授業の内容を理解する助けとして、また文章を書く訓練として、そして授業の学生からの評価としてその授業のポイントと質問、感想を書かせるニッツペーパーを毎回学生に書かせている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
心理学総合科目１（職業としての心理学）のテキストの作成	2006年4月	心理学総合科目１（職業としての心理学）では、本学の卒業生に心理現場について話をしてもらうという授業である。ここでは、卒業生の話をあらかじめテキストとして冊子化して受講生に配布している。この授業は、心理学科の特色ある教育の科目である。
PPTの利用による授業	2006年4月	担当科目（心理学の総合的理解、生涯発達・生涯教育心理学入門、言語発達心理学）については、PPTの教材を作成した。
実験の取り入れ	2006年4月	実験ができる科目（心理学総合的理解、生涯発達・生涯教育心理学入門）については、PPTによる記憶実験を作成し、授業でデモンストレーションをし、学生に自分のデータ処理をさせることで、理解を深める様にした。
SPSS統計ソフトの使用手順のマニュアル作成	2002年4月	卒業論文や卒業研究作成においては統計処理が伴うことが多い。学生からソフトの捜査の仕方やデータの入力の仕方、データとソフトのつなぎ方、特定の統計処理の使い方などについてはマニュアル化し、学生から問い合わせがあるとメイルによってマニュアルの送付を行っている。このことによって、指導の効率化がはかられるようになった。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
落合正行　　学生参加型授業の意味　追手門学院大学教育研究所紀要第22号　pp.133-146	2004年	
落合正行・石王敦子　生涯教育が大学教育へ及ぼす影響に関する教育心理学的検討　　追手門学院大学教育研究所紀要第24号　pp.128-140	2006年	
4　その他教育活動上特記すべき事項		
他大学におけるFD研修に参加	2007年、 2008年	

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
子どもの芸術の発達過程の特徴	単著	2004年3月	追手門学院大学人間学部紀要第16号		pp.1-16
学生参加型授業の意味	単著	2004年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第22号		pp.133-146
乳幼児期の認知発達における存在論的知識の意味	単著	2004年10月	追手門学院大学人間学部紀要第17号		pp.13-30
Toronto市とToronto大学の子育て支援	単著	2005年3月	追手門学院大学2004年度学内共同研究報告書ー私立大学教育研究高度化推進特別補助事業成果報告書ー大学と社会の連携に関する共同研究（代表者：落合正行）		pp.3-32
家庭、学校、地域社会の連携による子どもの育児・教育ー子育て支援に関する日本とトロント市との比較ー	単著	2005年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 創刊号		pp.50-65
発達初期における認知、言語と脳の発達的関連	単著	2005年11月	人工知能学会誌　　レクチャーシリーズ：脳科学６　2005/11 Vol.20.,No.6.		pp.731-738
発達初期の言語・認知機能に関する脳の可塑性を規定する要因の検討	共著	2006年3月	追手門学院大学人間学部紀要第20号	落合正行・石王敦子	pp.13-37

生涯教育が大学教育へ及ぼす影響に関する教育心理学的検討	共著	2006年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第24号	落合正行・石王敦子	pp. 128-140
現在の子どもの行動および心理的特徴―原因とその対処法への基礎的資料―	共著	2006年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 第２号	落合正行・石王敦子	pp. 29-46
乳児期における知識獲得のしくみの特徴	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要第１巻、		pp. 25-46
大学における教学支援システムの構築に関する教育心理学的検討	単著	2007年3月	追手門学院大学教育研究所紀要、第25号、		pp. 106-117
子どもの心理的特徴に関する調査１―５・６年生における自己意識と統制感、自己制御、ストレス対処との関係―	共著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 ，４，	落合正行・石王敦子・井上知子	pp. 31-60
子どもの心理的特徴に関する調査２―５年生における自己意識と能力認知と社会的責任との関係―	共著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 ，４，	石王敦子・落合正行・井上知子	pp. 61-75
教師の子どもの評価	共著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 ，４，	落合正行・石王敦子・井上知子	pp. 76-81
詩から見える子どもの心―心のダイナミズム研究試論―	単著	2009年3月	追手門学院大学心理学部紀要,3		pp. 27-43
その他					
「習い事の基本は、子どものやってみたい！」	単著	2004年3月1日	シティライフ　2004年3月1日 子どもの習い事事情		pp. 10.
習い事　読売ファミリー６月２日号	単著	2004年6月2日	読売ファミリー６月２日号		pp. 4
大学と社会の連携に関する共同研究	編著	2005年3月	追手門学院大学平成16年度学内研究報告書－私立大学教育研究高度化推進特別補助事業成果報告－，	研究代表者：落合正行 共同執筆者：落合正行、辻幸恵、梅村修、石王敦子、三川俊樹、東正訓、佐々木英一、中嶋昌彌	pp. 3-32.
＜学会発表･シンポジウム等＞					
日本発達心理学会第15回大会　において、ラウンドテーブルで話題提供		2004年3月22日	ラウンドテーブル「乳幼児期の認知発達における存在論的知識の意味」において「存在論的知識の認知発達への影響」の題目で話題提供、司会も務める（於：白百合女子大学）	企画：小杉大輔（京都大学）・落合正行（追手門学院大学）・矢野喜夫（京都教育大学） 司会：落合正行 話題提供者：落合正行（追手門学院大学）・乳幼児の認知発達の視点から；小杉大輔（京大文学研究科：学振）・知識発達・知識論の視点から；小島康次（北海学園大学） 指定討論者：矢野　喜夫（京都教育大学）清水御代明（大阪学院大学）	
日本教育心理学会第46回大会にてポスター発表	共著	2004年10月9日	ポスター発表：PB011　小杉大輔・落合正行：因果的認知とActionの叙述―おとなと子どもの衝突駆動事象に対する説明―（於：富山大学）		
日本発達心理学会第16回大会にて自主シンポジウムで話題提供		2005年3月29日	自主シンポジウム「認知発達理論の最前線」において話題提供（於：神戸大学）	企画：　認知発達理論分科会 司会：杉村伸一郎（広島大学） 話題提供：杉村伸一郎・落合正行（追手門学院大学）・月本　洋（東京電機大学）・ 加藤義信　（愛知県立大学）・小島康次（北海学園大学） 指定討論者：子安増生(京都大学)・中垣　啓（早稲田大学 ）	

追手門学院大学地域支援心理研究センター第1回公開シンポジウムにて指定討論者		2005年10月8日	テーマ「学校教育の現状と課題」において、指定討論者を務める（追手門学院大学）	司会：井上知子（地域支援心理研究センター長） 話題提供者：島村唯起子（茨木市立茨木小学校校長）・畑慶之介（茨木市立豊川中学校校長）・ 丸岡正樹（大阪府立福井高等学校校長） 指定討論者：山本博史（追手門学院大学人間学部長）・ 落合正行（地域支援心理研究センター所員）	
日本発達心理学会第17回大会 準備委員会企画シンポジウムにおいて司会を務める		2006年3月22日	準備委員会企画シンポジウムテーマ：「認知発達と進化論」において司会を務める（於：九州大学）	企画：認知発達理論分科会代表　中垣　啓 司会：落合正行（追手門学院大学） 話題提供者：友永雅己（京都大学霊長類研究所）・杉村伸一郎（広島大学）・長谷川寿一（東京大学）・中垣啓（早稲田大学） 指定討論者：麻生武（奈良女子大学）	
日本発達心理学会第18回大会自主シンポジウムにて話題提供		2007年3月25日	自主シンポジウム「理論説（Theory Theory）の現在と将来展望」において話題提供（於：埼玉大学）	企画：認知発達理論分科会（代表幹事　中垣　啓） 司会：月本　洋（東京電気大学） 話題提供者：子安増生（京都大学）・旦　直子（東京大学）・落合正行（追手門学院大学）・中垣　啓（早稲田大学） 指定討論者：小嶋康次（北海学園大学）	
日本発達心理学会第18回大会　自主シンポジウムにおいて、企画を務める		2007年3月26日	自主シンポジウム「発達障害児・者の生涯発達」において企画を務める（於：埼玉大学）	企画：石王敦子（追手門学院大学）・井上知子（追手門学院大学）・落合正行（追手門学院大学） 司会：石王敦子 話題提供者：小山　正（神戸学院大学）・高橋和子（アルクラブ（大阪アスペの会））・中鹿　彰（追手門学院大学） 指定討論者：井上知子（追手門学院大学）	
追手門学院大学地域支援心理研究センター第３回公開シンポジウムにて指定討論者を務める		2007年11月10日	シンポジウム「これからの特別支援教育のあり方」において、指定討論者を務める（於：追手門学院大学）	シンポジスト：岡田　俊（京都大学医学部精神医学教室）・鋒山　智子（京都府教育庁指導部特別支援教育課指導主事）・中鹿　彰（追手門学院大学地域支援心理研究センターセンター長） 指定討論者：落合　正行（追手門学院大学副学長・心理学部教授） 司会：井上　知子（追手門学院大学心理学部長）	
日本発達心理学会第19回大会リレー講演　企画を務める		2008年3月	リレー講演「自伝的記憶の発達」（主催：追手門学院大学、於：大阪国際会議場）	企画：石王敦子・落合正行（追手門学院大学） 話題提供者：佐藤浩一（群馬大学）・上原泉（東京外国語大学） 指定討論者：仲真紀子(北海道大学)	
日本発達心理学会第19回大会ランチョンレクチャー2件の企画を務める		2008年3月	ランチョンレクチャーその１「日本語で言語研究するということ」（主催：追手門学院大学、於：大阪国際会議場） ランチョンレクチャーその２「アイデンティティ形成のプロセスとメカニズム―関係性の観点からの検討―」（主催：追手門学院大学、於：大阪国際会議場）	その１企画：石王敦子・落合正行（追手門学院大学） 講演者：針生悦子（東京大学） その２企画：落合正行（追手門学院大学） 講演者：杉村和美(名古屋大学)	
日本発達心理学会第19回大会特別講演の企画と司会を務める		2008年3月	特別講演「チンパンジーの親子と文化」（主催：追手門学院大学、於：大阪国際会議場）	企画と司会：落合正行（追手門学院大学） 講演者：松沢哲朗（京都大学）	
日本発達心理学会第19回大会招待座談会の企画と司会を務める		2008年3月	招待座談会「発達研究の未来を考える」（主催：追手門学院大学、於：大阪国際会議場）	企画と司会：落合正行（追手門学院大学） 対談者：藤永保（日本教育大学院）・ 岡本夏木(京都教育大学名誉教授) 指定討論者：内田伸子(お茶の水女子大学)	

日本発達心理学会第19回大会大会委員会企画シンポジウムの司会を務める		2008年3月	大会委員会企画シンポジウム「コミュニケーション基礎機能の神経基盤を考える」(主催：追手門学院大学、於：大阪国際会議場)	司会：落合正行（追手門学院大学） 企画話題提供：乾敏郎(京都大学) 話題提供：北澤茂(順天堂大学)・村田哲(近畿大学) 指定討論者：田中茂樹(仁愛大学)・吉田千里（JST ERATO 浅田プロジェクト）	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2004年～2008年	発達心理学会認知発達理論分科会幹事
2008年3月19日～21日	日本発達心理学会第19回大会委員長
2004年7月30日	2004/7/30６回臨床発達心理士資格認定委員会主催　指定科目取得講習会講師　認知発達の基礎　知能・概念発達　　神戸親和女子大学
2005年7月30日	７回臨床発達心理士資格認定委員会主催　指定科目取得講習会講師　認知発達の基礎　知能・概念発達（大阪学院大学）
2006年10月24日	おうてもん塾「子供の発達と臨床」講師「「子どもの人間観の形成」」　毎日文化センター
2007年9月25日	おうてもん教育セミナー　「子どもの心をつかむ」講師　第４講「子どもの心をいっぱいにするもの」毎日文化センター
2007年10月23日	おうてもん塾「いきいき生きよう中高年」講師「団塊の世代の発達心理学的特徴」　毎日文化センター
2007年6月23日	豊中市私立幼稚園研修会（教育研究委員長　追手門学院幼稚園長　吉田　茂）にて講演 「幼児期の心の育ち」Ⅰ　（於：神童幼稚園）
2007年11月10日	豊中市私立幼稚園研修会（教育研究委員長　追手門学院幼稚園長　吉田　茂）にて講演 「幼児期の心の育ち」Ⅱ（於：追手門学院幼稚園）
2008年11月10日	おうてもん塾「子育ての心理学」講師「教育力の再生は可能か？―子育ての意味―」　於：大阪城スクエア
2009年5月25日	臨床発達心理士資格認定委員会主催　指定科目取得講習会講師　認知発達とその支援に関する科目　「認知発達概論」　東京学芸大学

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　加藤　徹	学位　　文学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	感覚心理学、環境心理学、実験心理学演習、感覚心理学演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2007年3月	実験心理学演習でのＳＤ法プロフィール描画ソフトの開発：これにより、より見やすいプロフィール作成を実演し、因子分析による情報の利用価値を理解させる。
	2007年7月	オープンキャンパスでの錯視現象デモンストレーション用プログラムの開発
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
音の大きさの記憶に関する一実験－連続判断中に生起した特定音源の大きさの記憶による判断－	共著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要１巻	◎加藤徹、桑野園子、難波精一郎、津田智行	pp. 47-55
音の大きさの記憶に関する一実験(2)－特定音源のレベルを下げて遂行した追試の結果－	共著	2008年3月	追手門学院大学心理学部紀要２巻	◎加藤徹、桑野園子、難波精一郎	pp. 17-24
カテゴリー連続判断法の特性の検討―レベル変化音の規則性の相違による比較―	共著	2009年3月	追手門学院大学心理学部紀要３巻	◎加藤徹、桑野園子、難波精一郎	pp. 45-56
その他					
Loudness evaluation of mixed sound sources using the method of continuous judgment by category	学会発表	2004年4月	The 18th international congress on acoustics		
連続判断法と聴覚的トラッキング	シンポジウム	2006年6月	日本人間工学会第47回大会シンポジウム「音環境と人間工学」発表		
連続判断中に生起した特定音源の大きさの記憶による判断	学会発表	2006年9月	日本音響学会2006年秋季研究発表会		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2001年10月～2004年９月	第18回国際音響学会議運営委員（経理委員長）

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　倉戸　由紀子	学位　Master of Education:【Springfield College】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	学部：人間関係の心理学Ｂ　卒業研究１・２　心理療法演習１　特殊演習１・２　臨床心理学面接購読１　臨床心理面接演習１　メンタルケア演習　ライフスタイル演習１　心理療法　大学院：臨床心理学研究法特論１・２　臨床心理実習・臨床心理学コース演習２Ｃ　学校臨床心理学特論　臨床心理面接特論１・２			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
学内アンケートによる授業評価	2004年3月及び2005年3月	「大学自己評価委員会による全学授業アンケート報告によると、2005年度心理療法演習１Ｂは4.2（大学3.7）臨床･人格系演習２は4.1（大学3.7）、2004年臨床･人格演習２平均4.1（大学3.7）、2003年度人間関係の心理学は平均値4.0（大学平均値3.7）心理療法演習１では平均値4.1（大学3.6）同じく２では、4.2（大学平均値が3.7）となっており、それぞれ平均値以上となっている。項目別に見ると、すべて平均値以上であるが「教師の熱意が感じられた」「授業のテーマや目的が明確であった」「この授業は内容が新鮮で興味深いものであった」「教師は学生の反応を見ながら授業を進めた」「教師は学生の質問や相談に応じる姿勢がみられた」などの平均値が高い。これらの結果から教育上の能力は適切であると評価できる。
２　作成した教科書、教材、参考書		
「パーソナリティの形成と崩壊」　倉戸ヨシヤ編」第4章「思春期･青年期」	2004年4月	『パーソナリティの形成と崩壊』倉戸ヨシヤ編 第4章「思春期･青年期」:「臨床心理学」「人格心理学」を専攻する院生および学部生を対象にこの世代の発達的臨床心理学的課題が実際のケースをあげ分析され、かつ関わり方や教育方法の提案がなされている。学術図書出版、（分担執筆者:倉戸ヨシヤ、川原稔久、中西龍一、森田喜治、倉戸由紀子、井上知子、辻潔、志野静穂）PP.81-107
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
教育実践に関する発表	2006年4月～2006年9月	『鳴門教育大学学校教育実践センター客員研究費(国内第1種)教授枠客員教授として、学校教育などにおける心理臨床の専門家志望の大学院生（教員）を対象に、「今・ここ」での気づきをもとに関係性を築く能力、すなわち倫理感をベースにした統合された人間性を構築するための教育方法論をモデルにグループ・アプローチが学部生ゼミナールに導入された。その結果は質問紙法やＰＭＲなどとともに分析され、自己や関係性についての気づきや心理臨床の知が具現化されたことが検証されている。「大学生へのヒューマンスティック・エデュケーションの意義とその可能性」心理学部紀要第１巻PP.57-71に発表されている。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
大学院における実習指導	2004年4月～現在	臨床心理士養成のための一貫したカリキュラムのうちの実習指導であるが、まず授業において臨床心理学的なかかわり方の理論や知識を学習し、その後心のクリニックにおいて実際にクライエントと関わる実習の指導、すなわちスーパービジョンを実施する。

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「思春期・青年期」『パーソナリティーの形成と崩壊』第4章	単著	2004年4月	学術図書出版	倉戸　ヨシヤ編者, 井上　知子, 中西龍一,森田　喜治, 川原　稔久,辻　潔, 志野　静穂, 倉戸　由紀子	pp. 81-107
「性的虐待経験から自己を取り戻す過程」	単著	2005年6月	培風館、現代のエスプリ』467号	倉戸　ヨシヤ編者, 井上　文彦, 中西龍一,倉戸　由紀子他5名	pp. 81-95
「座談会／エンプティ・チェアーをめぐって」	共著	2005年6月	培風館、現代のエスプリ』467号	倉戸　ヨシヤ編者, 井上　文彦, 中西龍一,倉戸　由紀子他5名	pp. 29-55
紀要論文					
「高度専門職養成指導について――『臨床心理実習』の場合」	単著	2004年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック」紀要創刊号		pp. 9-13
“Crisis Intervention for Persons in the State of Detention”	単著	2005年2月	追手門学院大学人間学部紀要第１８号		pp. 53-61
「心理臨床における高度専門職養成課程モデル構築への試案1」	単著	2006年6月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック」研究紀要第２号		pp. 35-38
” A Study Of A Community Support Project For Child Rearing”	単著	2006年6月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、 追手門学院大学「心のクリニック」研究紀要第２号		pp. 2-8

「大学生へのヒューマニスティック・エデュケーションの意義と可能性――――心理臨床の立場から」	単著	2006年4月	追手門学院大学心理学部紀要第１号		pp. 57-72
“A Community Support Project For Child Rearing in Japan-- --- In Case of Pre-Kindergarten Children”	単著	2006年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック」研究紀要第3号		pp. 17-21
“A Study on The Meaning And Feasibility Of Humanistic Education For College Students: An Approach From Counseling”	単著	2007年6月	The 12th International Counseling Conference Promoting Global Advocacy for Counseling : Enhancing Client Development and Opportunities		pp. 96-99
発達の偏りや遅れが疑われる乳幼児の心理臨床－集団遊戯療法と母親／養育者グループ	単著	2007年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック」研究紀要4号		pp. 20-32
発達の偏りや遅れが疑われる乳幼児の心理臨床に的援助についての評価モデル試案－母親／養育者と子どもとの並行グループの場合	単著	2007年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック」研究紀要4号		pp. 79-84
臨床心理職養成過程モデル構築への試案	単著	2007年12月	追手門学院大学「心のクリニック」研究紀要4号		pp. 116-127
臨床心理学的地域援助について：ある大学でのコラボレーションの例	単著	2008年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック　」研究紀要5号		pp. 58-67
Hypothetical Model of Training for Higher Professionals in Psychotherapy - A View from Humanistic Education with a Gestalt Approach	単著	2008年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック　」研究紀要5号		pp. 70-76
心理臨床における高度専門職課程モデル構築への試案	単著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、地域社会との連携による心理的問題についての解決および援助の方法の開発 平成16年～20年度「私立大学学術研究高度化推進事業」研究成果報告書		pp. 155-182
THE REPORTS OF COMMUNITY SUPPORT PROJECT FOR CHILD REARING	単著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、地域社会との連携による心理的問題についての解決および援助の方法の開発 平成16年～20年度「私立大学学術研究高度化推進事業」研究成果報告書		pp. 183-197
発達の偏りや遅れが疑われる乳幼児の心理臨床	単著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、　地域社会との連携による心理的問題についての解決および援助の方法の開発 平成16年～20年度「私立大学学術研究高度化推進事業」研究成果報告書		pp. 199-224
その他					
ゲシュタルト療法バーベイティム	共同翻訳	2009年6月	Ｆ．Ｓ．Perls著　倉戸ヨシヤ監訳 第２部第４章～第５章　ナカニシヤ出版		pp. 87-115

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜学会口頭発表＞			
2004年6月	共同	(First auther) “Adolescent Attachment in Case of Japanese”	The 10th International Conference on Counseling, Captain Cook Hotel, Anchorage, Alaska
2005年6月	単独	Poster session ” A Study Of A Community Support Project For Child Rearing In Japan “	The 4th Hawaii International Conference on Social Sciences, Wikiki Beach Marriott Resort&Spa, Honolulu, Hawaii

2006年6月	単独	Poster session “A Community Support Project For Child Rearing In Japan-In case of Pre-Kindergarten Children “	The 5th Hawaii International Conference on Social Sciences,Wikiki Beach Marriott Resort&Spa,Honolulu, Hawaii
2007年6月	単独	Presentation “A Study on The Meaning And Feasibility Of Humanistic Education For College Students: An Approach From Counseling”	The 12th International Counseling Conference, Hilton Hotel, Shanghai, China
2007年6月	単独	Poster Session “Introducing A Group Approach To Graduate Students: Its Impact And Implications”	The 6th Hawaii International Conference on Social Sciences” , Wikiki Beach Marriott Resort&Spa,Honolulu, Hawaii
2008年5月	単独	Presentation Session “What mothers can do for prevention of child abuse:A Comminity Support Project in a Surburban City”	The 7th Hawaii International Conference on Social Sciences” , Wikiki Beach Marriott Resort&Spa,Honolulu, Hawaii
2009年6月	単独	Presentation Session “A Clinical Community Support Through the Collaboration With University Staff″	The 8th Hawaii International Conference on Social Sciences″ Wikiki Beach Marriott Resort&Spa,Honolulu, Hawaii
2009年8月	共同	(第１発表者) エンプティチェアーによる介入法をめぐって１	日本人間性心理学会第２８回大会、法政大学多摩キャンパス
＜社会活動＞			
2002年4月～現在	単独	西日本入国管理センター処遇部　非常勤臨床心理士	
2004年4月～現在	単独	豊中市子ども未来部　次世代育成支援対策協議会副会長	
2007年4月～現在	単独	聖トマス大学　学生相談室　非常勤臨床心理士	
2008年4月～現在	単独	豊中市教育委員会地域支援課　放課後子どもクラブ運営委員会委員	
＜学会依頼によるﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ講師＞			
2004年8月	単独	イメージ法から個と組織の関係を診る	日本産業カウンセラー学会第９回大会研修会、大阪国際大学

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　佐々木　英一	学位　　博士（教育学）【名古屋大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	比較教育学、職業指導論、教育指導論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2008年4月	講義に於いては当然のことであるが、データは最新のものを絶えず更新している。 また、できるだけ学生の具体的な経験を引き出しつつ説明を加えている。少人数の演習に於いてはもちろん、それほど多人数ではない講義に於いても、できるだけ指名や挙手により学生に発言させるようにしている。また、できるだけ丁寧な板書に努めている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
教科書『新版専門高校の国際比較』（法律文化社）	2006年4月	商業科教育論Ⅱでテキストとして使用
教科書『新・教育学(第2版)』（ミネルヴァ書房）	2009年3月20日	現代の子どもと教育の講義用テキストとして使用。
教科書『ノンキャリア教育としての職業指導』（学文社）	2009年4月10日	職業指導論でテキストとして使用
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ドイツ・デュアルシステムの新展開	単著	2005年10月	法律文化社		全206頁
論文					
ドイツにおける徒弟制の伝統と現代	単著	2004年10月	技術教育研究第63号		pp. 1-8
ドイツ職業教育法の改正	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要第１号		pp. 73-95
オーストリアにおける職業教育・訓練制度	単著	2007年8月	技術教育研究第66号		pp. 24-29
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2007年10月～現在	日本産業教育学会理事
2008年１月～現在	社会保険労務士総合研究機構主任研究員

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　志水　紀代子	学位　　文学修士【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	人間学基礎論・倫理学概論・女性学・ジェンダーの人間学・家族の倫理学			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
外部講師を迎えての授業	2004年度から 2008年度まで	体験者から、直に話を聴くことを授業の中に取り入れている。 外部講師の授業のフォローだが、講師には、話が一区切りしたあとで学生から集めた質問票に答えてもらい、授業の最後に学生が書いた感想文を渡して、それについて講師からのコメントをもらう。翌週それを授業担当者が、授業に組み込んでいくことをしている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
『ジェンダーの視点で見る日韓近現代史』	2005年10月	梨の木舎
『家族の倫理学』	2007年11月	丸善
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
スクールセクシャルハラスメント研修会	2005年8月10日	箕面市教育センター
4　その他教育活動上特記すべき事項		
ドイツベルリン市で、2つのギムナジウムで歴史授業に参加、子どもたちや教師との懇談、「ヴァンゼー会議場」記念・教育館スタッフの聞き取りをした後、ポーランドのアウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館の見学を行い、ドイツの戦後教育の実態調査を行った。	2006年9月4日から 14日まで	
2009年度科学研究助成金　基盤研究Cの申請が認められる		課題：「ハンナ・アーレントの「世界愛」で照射する21世紀の東北アジアの「和解」の条件」

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『新しい教養教育をめざして―大学教育学会25年の歩み　未来への提言』	分担執筆	2004年12月	東信堂	『女性学と大学教育』 大学教育学会25年史編纂委員会編	
『ジェンダーの視点で見る日韓近現代史』	分担執筆	2005年10月、11月	日本側出版：梨の木舎 韓国側出版：図書出版ハヌル	日韓「女性」共同歴史教材編纂委員会編	巻頭言、5章担当
『ユーゴ内戦後の女たち―その闘いと学び』	分担執筆	2005年11月	つげ書房新社	ドラガナ・ポポヴィッチ、ダニサ・マルコヴィッチ、北嶋貴美子著 「解説　戦争の経験に学ぶということ」	pp. 220-228
『現代倫理学事典』	分担執筆	2006年12月	弘文堂	大庭 健・ 井上達夫・加藤尚武・川本隆史ほか編集	4項目分担執筆
『家族の倫理学』	単著	2007年11月	丸善		
論文					
Understanding the Relation between Korea and Japan through Popular Culture	単著	2005年10月24日	Article for presentation of lecture in Buffalo University		
ハンナ・アーレントの政治哲学（10）－1 『冬ソナ』、『ヨン様』ブームのアーレント的・フェミニズム的解釈	単著	2005年10月31日	追手門学院人間学部紀要19号		pp. 1-13
ハンナ・アーレントの政治哲学（10）－2 『冬ソナ』、『ヨン様』ブームのアーレント的・フェミニズム的解釈	単著	2006年3月	追手門学院人間学部紀要20号		pp. 39-58
ハンナ・アーレントの政治哲学―生誕100年の年に考えるフェミニズム的視点から見た戦争責任問題	単著	2007年3月	追手門学院大学創立四十周年記念論集心理学部篇		pp. 97-120

東北アジアの『和解』に向けて―１ ―ベルリン・ワルシャワ・アウシュヴィッツ―『和解』への取り組み現場の聞き取りから―	単著	2009年3月1日	追手門学院心理学部紀要 Vol.3		pp.57-71
「ドイツの歴史教育現場の報告」	単著	2007年3月	2006年度学内共同研究報告書 『21世紀ジェンダー教育の構築―フィールドワークからの発信』		pp.5-40
公教育の場における「公共性」と「民主主義」の原則―ドイツでの体験をもとに―	単著	2009年3月31日	『心理学の地域貢献に関する研究―地域社会との連携による心理的問題についての解決および支援の方法の開発』 平成16年度～平成20年度「私立大学学術研究高度化推進事業」（オープン・リサーチ・センター整備事業）研究成果報告書		pp.111-125
その他					
「いま、ハンナ・アーレントを読む」⑥	単著	2004年2月	『未来』2004年2月号		
「いま、ハンナ・アーレントを読む」⑦	単著	2004年3月	『未来』2004年3月号		
「『茶色の朝』を学生に紹介して」	単著	2004年9月	『クレスコ』2004年9月号		
巻頭言					
『女性・戦争・人権』第7号	分担執筆	2005年3月	『女性・戦争・人権』第7号	「女性・戦争・人権」学会　編集委員会	
エッセイ					
『女性・戦争・人権』学会（代表）の八年間を振り返って	単著	2007年3月	『女性・戦争・人権』第8号	「女性・戦争・人権」学会　編集委員会	
書評					
加納実紀代著 『戦後史とジェンダー』	単著	2005年11月26日	『図書新聞』第2751号		
その他					
「ベルリン・ワルシャワ・アウシュヴィッツ―『和解』への取り組みの現場を訪れて」	単著		『女性・戦争・人権』学会ニューズレター24号	「女性・戦争・人権」学会　事務局	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会および活動＞	「女性・戦争・人権」学会運営委員、日本カント協会学会、国際ボランティア学会常任理事・学会誌編集委員長、日本哲学会、日本倫理学会、関西哲学会、関西倫理学会会員、大学教育学会理事
＜海外出張＞	
2004年9月17日～19日	「日韓女性による共同歴史教材プロジェクト」シンポジウムと編集会議（於　ソウル大学社会学部）
2004年12月10日～11日	「日韓女性による共同歴史教材プロジェクト」拡大編集会議（於　ソウル大学ホアムゲストハウス）
2005年6月19日～22日	韓国ソウル市の梨花女子大学を中心に開催された第9回女性に関する国際学会議（International Interdisciplinary Congress on Women）に参加と、日韓「女性」共同歴史教材編纂委員として、韓国側代表と打ち合わせのため
2005年10月20日～27日	ニューヨーク州立バッファロー大学のアジア研究所と女性学部共催の講演会で報告（10月24日、25日の2回講演） ・Understanding between Korea and Japan through Popular Culture. ・Women and the Japanese Textbook Controversy.
2006年9月4日～14日	ドイツベルリン市で、2つのギムナジウムで歴史授業に参加、子どもたちや教師との懇談、「ヴァンゼー会議場」記念・教育館スタッフの聞き取りをした後、ポーランドのアウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館の見学を行い、ドイツ戦後教育実態調査を行った。（学内共同研究費による活動）
2007年3月12日～17日	韓国ソウル大学で、ニューヨーク州立バッファロー大学カー・キョンク・チョウ教授、ユン・ジョンオク梨花女子大学名誉教授、李暎一宝塚造形芸術大学教授、ハングルの世界的研究者金昔妍教授で、日韓文化交流について、特に「ペ・ヨンジュンと日本のファン」の交流について、二つの鼎談と、研究交流会をもった。
2008年2月16日～3月6日	一昨年に引き続き、ベルリン・アウシュヴィッツを中心に、統一ドイツとポーランドの共通歴史教科書の作成過程の聞き取り調査及び、歴史教育現場のリサーチを行った。今回は、特に、1989年の統一ドイツ成立後の旧東ドイツの歴史教育に重点を置いて聞き取り調査を行った。またゲオルク・エッカート国際教科書研究所も訪問し、担当者に面談、ポーランドのワルシャワ大学ヴェルジェイ教授にも面談、その他アウシュヴィッツの航行で歴史の授業を参観、先生たちとも懇談した。

＜学会活動＞	
2004年4月25日	「女性・戦争・人権」春季講演会　岡野八代帰国報告会　司会（於　高槻市立市民総合センター）
2004年6月19日	「日韓女性による共同歴史教材プロジェクト」シンポジウムと編集会議（於　追手門学院大学）
2004年6月20日	「女性・戦争・人権」学会第8回大会　主催・実行委員長（於　追手門学院大学）
2004年6月24日	「国際ボランティア学会」学会理事会（於　阪大）
2004年8月14日～16日	「日韓女性による共同歴史教材プロジェクト」編集会議（於　伊豆伊東）
2004年11月3日	「女性・戦争・人権」秋季シンポジウム（於　東京大学駒場学舎）
2004年11月3日、11月13日、11月27日	「日韓女性による共同歴史教材プロジェクト」編集会議（日本側）（於　東京大学駒場学舎、於　新宿談話室滝沢）
2004年11月6日～7日	「関西倫理学会」2004年度大会研究発表　司会（於　摂南大学）
2005年10月30日	「女性・戦争・人権」学会第10回大会（於　早稲田大学）
2005年11月27日	「女性・戦争・人権」学会日韓共通歴史教材（日本側）発刊記念集会（於　茨木市立福祉会館オークシアター）
2006年5月22日、6月19日、7月24日、12月26日	学内共同研究会活動
2006年6月18日	「女性・戦争・人権」2006年度大会　司会（於　近畿大学）
2006年11月23日	「女性・戦争・人権」学会秋季講演会　講師「ドイツの歴史教育現場の報告―2006年9月、ベルリンからアウシュヴィッツへの旅で見つめた日本」（於　高槻市立市民総合センター）
2006年12月10日	［合評会］東アジア共同歴史教材をめぐって 東アジアでの歴史の共有のこころみとして、日中韓3国共同編纂『未来を開く歴史―東アジア3国の近現代史』（高文研）、日韓「女性」共同編纂『ジェンダーの視点からみる日韓近現代史』（梨の木舎）の2つの歴史教材をとりあげて、多国間での歴史認識の可能性について検討　実行委員（於　河合塾大阪校S館501教室）
2008年6月8日	「女性・戦争・人権」学会第10回大会　総合司会（於　立命館大学）
2008年7月30日～8月5日	第22回世界哲学大会（World Congress of Philosophy 2008）（於　ソウル大学）ラウンドテーブルで発表（Japan's"Peace Constitution"as a Major Contribution to the World Peace）
2008年10月4日～5日	「第59回日本倫理学会大会」　研究発表司会（於　筑波大学）
2008年11月15日	「第33回カント協会学会」　シンポジウム司会（於　九州大学）
2008年11月29日	「高槻ジェンダー研究ネットワーク」「女性・戦争・人権」学会共催秋季講演会　司会（於　高槻市立市民総合センター）
＜講演ほか＞	
2004年12月21日	大阪大学COE特別講義「性暴力」について（於　大阪大学）
2004年7月31日	茨木西陵中学校教育問題懇談会「自分らしく生きること」（於　茨木市穂積コミュニティーセンター）
2005年1月28日	姫路市男女共同参画推進センター主催『女性学講座』「世界の女性たち・戦火・武力紛争下でのジェンダー」（於　イーグレ姫路）
2005年7月23日	いま9条とわたしたち　非戦の市民講座（堺市市民講座）　第2回　日本軍「慰安婦」―未来へのメッセージ
2005年8月10日	箕面市教育センター　スクールセクシャルハラスメント研修会 ＜いま、子どもたちに何が起こっているのか＞スクールセクシャルハラスメント・体罰―その背景にあるもの （於　箕面市教育センター）
2005年9月12日	茨木市ローズWAMスタッフ研修会　男女共同参画社会の実現に向けて―茨木市の場合（於　ローズWAM）
2005年12月17日	奈良県大学人権教育研究協議会主催2005年度研修･交流講演会『ジェンダーの視点でみる日韓近現代史』の発刊について―日韓女性による共同歴史教材作りの4年間―奈良県大学人権教育研究協議会主催　2005年度研修・交流講演会（於　奈良産業大学）
2006年10月25日	大阪女学院大学人権研修会講師「ベルリンからアウシュヴィッツへの旅で見つめた日本」
2008年11月30日	2008年度茨木シニアカレッジ「いこいこ未来塾」
2008年12月19日	大阪薬科大学2008年度人権講演会講師（於　大阪薬科大学）
2008年12月19日	大阪薬科大学2008年度人権講演会講師（於　大阪薬科大学）
＜科研＞	
2009年度	基盤研究（C）「アーレントの「世界愛」で照射する21世紀の東北アジアの「和解」の条件」　研究代表

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　田中　耕二郎	学位　　教育学修士【京都大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	教育行政学，教育法学，教職概論，教育実習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
授業感想文の実施		毎回、授業の終了時に用紙を配布し授業感想を書かせ、次回の授業改善に生かしている
2　作成した教科書、教材、参考書		
教職概論	2008年5月	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
ロンドン・セミナー（海外研修）引率	1996年度～2000年度 2002年度～2007年度	夏季休業期間にロンドンで実施される海外研修を引率した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
教職概論	共著	2008年5月	ミネルヴァ書房	田中耕二郎・井ノ口淳三	pp. 1-24，pp. 149-180
論文					
GPA制度の多様性－日本の大学における先行事例の整理－	単著	2004年4月	追手門学院大学教育研究所紀要（第22号）		pp. 81-96
平成16年度教育実習のまとめ	単著	2005年3月	追手門学院大学教職課程年報（第13号）		pp. 51-64
平成17年度教育実習のまとめ	単著	2006年3月	追手門学院大学教職課程年報（第14号）		pp. 55-68
生徒指導の手段としての教育法的対応の意義と限界	単著	2007年3月	追手門学院大学教職課程年報（第15号）		pp. 27-36
平成18年度教育実習のまとめ	単著	2007年3月	追手門学院大学教職課程年報（第15号）		pp. 39-50
平成19年度教育実習のまとめ	単著	2008年3月	追手門学院大学教職課程年報（第16号）		pp. 47-56
平成20年度教育実習のまとめ	単著	2009年3月	追手門学院大学教職課程年報（第17号）		pp. 43-54
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2004年5月～2006年4月	全国私立大学教職課程研究連絡協議会運営委員
2006年5月～2008年4月	全国私立大学教職課程研究連絡協議会代議員
2008年5月～	全国私立大学教職課程研究連絡協議会事務局長

（表24）

所属 心理学部	職名　　教授	氏名　中村　このゆ	学位　　博士（社会学）【甲南大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	心理学史、臨床心理学入門、メンタルヘルス論、心理療法演習、臨床心理査定特講、臨床心理学特論、臨床心理実習、臨床心理査定演習			
Ⅰ　教育活動	アメリカ合衆国ヴァーモント州立大学人文科学部心理学科非常勤準教授(1998年3月～１997年9月）　群馬大学教育学部教授（2000年10月～2005年3月）岐阜聖徳学園大学教育学部教授（2005年4月～2006年3月）　追手門学院大学心理学部教授(2006年4月～)			

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
２　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2006年4月19日	「今、わたしのなすべきこと」岐阜聖徳学園平成１８年度セクハラ防止対策委員・相談員合同研修会　岐阜聖徳学園大学
	2006年5月21日	「お茶とサイコセラピー」暮らしを彩る器と工芸展　大阪ドーム
	2006年12月1日	ラジオ大阪「むさし・ふみ子の朝はミラクル　日産ラジオナビ」
	2006年12月7日	「いじめと人権」追手門学院大手前中・高等学校　教職員研修　追手門学院大手前中・高等学校
	2007年1月9日	「問題食行動化の低年齢化」おうてもん塾　子どもの発達と臨床　毎日文化センター

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Dreaming the Myth Onwards	共著	2008年3月	Routledge	Lucy Huskinson eds.	pp.133-141
Self and No-Self :Continuing the Dailogue between Buddhism and Psychotherapy	共著	2009年	Routledge	D.Mather,M.Miller,O.Ando	pp.189-197
論文					
中学生の問題行動に対するアドラー心理学的理解と対応―不登校傾向と集団への不適応を示す女子中学生の事例を中心に―	共著	2005年3月	群馬大学教育実践研究第２２号	間渕明	pp.185-202
Struggles among Japanese Women with Conservative Gender Roles Floods with ‘Ideal’ Feminine Images Through Commercialism.	単著	2006年3月	Psychotherapy and Politics International 4(1)		pp.55-61
小学生と中学生の摂食態度　群馬県と大阪府の比較で	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要, 1		pp.173-179
ジェンダーコンシャスなアプローチ　教員養成学部における学生の進路とジェンダー	単著	2007年3月	追手門学院大学心のクリニック紀要, 3		pp.33-36
Sokushin-Jobutsu as Transformation Japanese Esoteric Buddhism From a Jungian Perspective	単著	2007年12月	追手門学院大学心のクリニック紀要, 4		pp.128-132
最期の願い -産業カウンセリング場面におけるターミナルケアの経験から-	単著	2008年3月	甲南心理臨床学会紀要　10		pp.25-33
大学生のKFDでみる自己像、家族力動とジェンダーロール	単著	2008年3月	追手門学院大学心理学部紀要, 2		pp.37-50

小学生と中学生の摂食態度―群馬県と大阪府の比較―	単著	2008年	心身医学48(12)		pp. 1043-1047
摂食障害治療者のボディーイメージ、ダイエット体験、摂食態度、ジェンダー観	単著	2009年	追手門学院大学心理学部紀要,3		pp. 103-110
その他					
わが子が加害者だった時親としてできること	単著	2006年6月	児童心理臨時増刊843		pp. 120-123
こどものこんな気持ちにどう対応するか　人間関係編『死にたい』『殺してやりたい』	単著	2007年10月	児童心理2007年 10月号		pp. 72-77
言葉の力の不足と問題行動	単著	2008年	児童心理2008年 9月号,883		pp. 44-48
現代社会と人権を担当して職場、学校でのセクシュアル・ハラスメントへの対応	単著	2008年	追手門学院大学人権啓発委員会会誌愛語,10		pp. 5

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1982年4月	日本心理臨床学会
1989年1月	日本臨床心理資格認定協会
2001年4月	日本心身医学学会
2001年7月	日本ロールシャッハ学会
2002年4月～2005年3月	群馬県青少年保護育成審議会委員
2004年4月	The International Association for Jungian Studies (IAJS)
2004年10月	日本摂食障害学会（評議員）
2007年5月	包括システムによる日本ロールシャッハ学会
＜学会発表＞	
2008年7月4日	Presentation 'The Last Desire(a clinical experience of working with a dying man)',Contemporary Symbols of Personal,Cultural and National Identity Historical and Psychological Perspectives :IAAP-IAJS ETH Conference ETH Zurich-the Swiss Federal Institute of Technology Zurich, July 3-5
2008年9月5日	日本心理臨床学会第27回大会　於　つくば国際会議場他 自主シンポジウム「ジェンダーコンシャスなアプローチ(4)―都市と地方の家族像―」企画、司会、話題提供 「3世代にわたるジェノグラム研究からみる日本の家族病理」(話題提供者　仲倉高広、荻原高子、指定討論者　志水紀代子)
2008年9月20日	第4回日本摂食障害学会（政策研究大学院大学）一般演題「体重･摂食(2)」座長
2008年9月21日	第4回日本摂食障害学会（政策研究大学院大学）一般演題発表「治療者の摂食態度、ボディイメージ、ジェンダー観」 同シンポジウムⅡ「結婚・育児をめぐる諸問題」シンポジスト「子育てが症状軽減、人格成長に有効であったと思われる事例」
＜講演＞	
2008年5月29日	若江岩田みんなの広場きらりっこ講師「楽しもう。60点育児」　　於　若江岩田　みんなの広場　きらりっこ
2009年3月18日	若江岩田みんなの広場きらりっこ講師「育児と育自」　　於　若江岩田　みんなの広場　きらりっこ
＜社会活動＞	
2008年4月～	東大阪市つどいの広場事業「若江岩田みんなの広場　きらりっこ」顧問

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　西川　喜朗	学位　　博士（農学）【大阪府立大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	生物の科学、生物の進化、生涯教育心理学演習、生物行動学、特殊演習、卒業研究			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
生きものや身近な自然現象に興味をもたせること。生物の多様性、自然界のしくみの巧妙さ、ヒトという動物の特性を理解し、それらの事象を通じて科学的思考ができるように導くこと。四季の変化を感じとり、生きものやヒトへの気配りができる豊かな心を育てたい。		
2　作成した教科書、教材、参考書		
生物の科学	2005年5月22日	八木沼健夫・西川喜朗・加村隆英著、法律文化社発行（初版6刷）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物，―レッドデーターブックー，7	共著	2006年1月	環境省自然環境局野生生物課編集，（財）自然環境研究センター		
自然保護の新しい考え方―生物多様性を知る・守る（浅見輝男編著）	共著	2006年6月	古今書院		p.41-56.
大阪城ネイチャーウオッチング	共著	2008年9月	朝日新聞出版		pp.46-55
日本産クモ類	共著	2009年8月	東海大学出版会	小野編著	pp.174-205
論文					
細分化されたヤチグモ類（Coelotinae）	共著	2004年12月	Orthobula!s Box:4-5		
日本におけるゴケグモ類の分布について	共著	2005年6月	昆虫と自然，40(6)：33-35.		
オーストラリアのエコツーリズム視察調査	単著	2005年12月	追手門学院大学オーストラリア研究紀要，（31）：47-61		
鹿児島県沖永良部島天竜洞・迷土洞から産出した齧歯目標本	共著	2007年12月1日	洞窟学雑誌，32：30-34.		
オーストラリアの糞公害をおさえ糞虫の導入について	単著	2007年12月	追手門学院大学オーストラリア研究紀要，（33）：115-119		
大阪城公園の昆虫相	共著	2008年11月7日	追手門学院創立120周年記念事業大阪城プロジェクト調査報告書、いのちの城・大阪城公園の生きもの		pp.121-163
特集Ⅱ外来昆虫類の脅威、セアカゴケグモ	共著	2009年5月1日	生物の科学　遺伝、63巻：102-108	◎清水	
A new genus and 44 new species of the family Coelotidae (Arachnida,Araneae) from Japan	単著	2009年8月	東海大学出版会「日本産クモ類」		pp.51-70

その他					
＜学会発表＞					
ゴケグモ属の最近の分布	共著	2006年12月	日本昆虫学会近畿支部大会・鱗翅学会近畿支部	◎清水	
ヤチグモ類の地理的変異について	単著	2008年8月24日	日本蜘蛛学会第40回大会、シンポジウム		
＜講演＞					
洞窟特別講演会、「洞窟生物―その成因を探る―」	単著	2005年11月24日	大阪経済法科大学特別講演会		
生態系とクモ	単著	2007年7月28日	NPO法人シニア自然大学、地球環境生態系講座		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2002年1月1日～	・大阪市立自然史博物館友の会会長
2004年1月1日～2007年12月31日	・日本洞窟学会会長
2006年4月1日～	・日本蜘蛛学会評議員
2008年1月1日～	・日本洞窟学会評議員

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　橋本　秀美	学位　博士（学校教育学）【兵庫教育大学連合大学院，2003年3月取得】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	学部：心理療法演習、卒業研究、卒業論文、心理学総合科目、ライフスタイル演習、臨床心理面接特講、特殊演習、心理療法講読、新入生演習 大学院：臨床心理面接実習、臨床心理面接特論、臨床心理学研究法演習、臨床心理学コース演習、修士論文			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
参考	2004年度	特色ある教育の推進による授業の実践と評価(平成16年度私立大学等特別補助金)
2　作成した教科書、教材、参考書		
教科書	2004年9月	「学校の心理学」ナカニシヤ出版、共著、塩見邦雄他
		その他多数(特に特別支援教育の実践教材―学校現場での活用分など多数)
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
日本教育心理学会第46回大会	2004年10月	シンポジウムシンポジスト　「学校心理学の実践における『言葉』の役割と課題」
日本教育心理学会第47回大会	2005年9月	発表「通常学級の高機能発達障害児への特別支援教育」
日本教育心理学会第48回大会	2006年9月	講師　日本学校心理士会主催　学校心理士認定研修会講師「スクールカウンセリングに役立つ描画法―描画を通して子どもの心を理解する―」
日本教育心理学会第48回大会	2006年9月	発表「特別支援教育における教師の共感性と教師のビリーフとの関係」
日本心理学会第68回大会	2006年9月	発表「長期不登校の学校復帰支援への考察―母親面接と養護教諭・担任教諭との連携にメンタルフレンドを活用して―」
日本応用教育心理学会第20回大会	2007年11月	発表「高機能発達障害児への特別支援教育(2)―大学と学校現場との連携の実践モデル―」
4　その他教育活動上特記すべき事項		
（研究助成）	2004年度	平成16年度文部科学省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
学校の心理学	共著	2004年9月	ナカニシヤ出版	塩見邦雄、小野瀬雅人他	pp. 52-70、pp. 118-134
描画における共感性に関する臨床心理学的研究	単著	2004年9月	風間書房		全245頁
スクールカウンセリングに活かす描画法	単著	2009年10月	金子書房		全169頁
論文					
描画特徴と親和傾向との関係についての研究―青年期女子を対象にして	単著	2004年9月	臨床描画研究、19巻		pp. 134-147
肯定・否定感情に着目した共感性尺度の開発	単著	2005年2月	心理臨床学研究、22巻6号		pp. 637-647
Function and mechanisms of empathy in counseling -The empathic relationship between counselor and client assessed on personal criteria-	単著	2005年3月	応用心理学研究、30巻2号		pp. 93-100
描画における人物像の顔の方向と共感性との関連	単著	2005年10月	心理臨床学研究、23巻4号		pp. 412-421
描画の専門家が描画から共感性を捉える視点についての研究―描画者の肯定・否定感情に対する共感性に違いに着目して―	単著	2007年7月	臨床描画研究22巻		pp. 128-145

その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
＜所属学会＞	
1995年4月～現在	日本学校教育相談学会兵庫県支部　副理事長
1999年4月～現在	日本応用教育心理学会　理事(第18回大会大会委員長)
2001年4月～現在	学校心理士会兵庫県支部　理事
2004年4月～現在	日本学校教育相談学会(論文査読協力者)
2005年4月～現在	日本描画テスト・描画療法学会(論文査読協力者)
2005年4月～現在	日本児童青年精神医学会、日本心理臨床学会、日本教育心理学会
＜社会活動＞	
1993年4月～現在	各都道府県や自治体(兵庫県、大阪府、石川県、京都市、西宮市、神戸市等)の教育委員会主催の現職教員研修講座(障害児教育・特別支援教育・学校保健・カウンセリング・描画法等)講師
1995年4月～現在	学会開催の研修会やワークショップの講師や学会の座長等 (日本教育心理学会主催学校心理士研修講座講師・日本学校教育相談学会中央研修講座講師・兵庫県学校心理士会研修講座講師や講演・日本応用教育心理学会ワークショップ講師・日本学校教育相談学会近畿大会や日本応用教育心理学会大会等の座長等々)
2000年4月～現在	スクールカウンセラー及びそのスーパーバイザー
2002年4月～現在	西宮市心身障害児適正就学指導専門委員
2002年4月～現在	兵庫県公立学校教員採用候補者選考試験に係る面接委員
2002年4月～2008年3月	西宮市立養護学校評議委員
2003年4月～現在	神戸市私立幼稚園連盟子育て相談室専門相談員
2005年度～現在	大阪教育大学養護教諭養成課程(健康相談活動)集中講義、公開講座等
2008年4月～現在	西宮市教育委員会特別支援教育専門家チーム専門委員

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　東　正訓	学位　　社会学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	社会心理学、心理統計法、心理測定法、ビジネスリサーチ演習、卒業演習１・２			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2009年度6月～	ビジネスリサーチ演習で、実社会との連関をつけるために、テレビＣＭ、会社イメージなどの計量心理学的分析を指導している。具体的な企業との連携も模索している。
２　作成した教科書、教材、参考書		
	2009年3月	「ワークショップ大学生活の心理学(ナカニシヤ出版）」を編集、分担執筆（２章２節pp.26－36；５章１節自己概念と自尊心、pp.95-109）した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2008年3月	本学心理学部FD・自己評価委員会年報「自己評価」2007年度に「心理学部カリキュラムの運営状況と履修指導」を執筆
	2008年7月	心理学部FD談話会（7月10日）にて、「Academic adviser（AA)の現状と課題」を報告
４　その他教育活動上特記すべき事項		
	2007年4月～2009年3月	心理学科教務委員として、学部カリキュラムの調整と運営、履修指導を担当した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ワークショップ大学生活の心理学	編著	2009年3月	ナカニシヤ出版	藤本忠明・東　正訓	pp.26-36、pp.95-109
論文					
第43回総選挙における労働組合員の投票選択要因の分析	単著	2004年8月	追手門学院大学人間学部紀要17号		pp.31-55
交通規範に関する心理学的研究―3大重大違反に対するドライバーの意識と行動―	共著	2005年2月	交通科学Vol.35,No.1	◎藤本忠明、内山伊知郎・坂口哲司・山口直範・神田忠士・高木哲平・今井康雄・榎本政夫・喜田真司	pp.12-19
パーソナリティと幸福感の関係―大学生を対象とした相関分析―	単著	2005年3月	追手門学院大学心理学論集　第13号		pp.13-23
2004年参議院選挙における労働組合員の投票選択要因の分析	単著	2005年9月	追手門学院大学人間学部紀要第19号		pp.15-49
パーソナリティ心理学と社会心理学における個人差変数の理論的構図(Ⅱ)	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要第１号		pp.181-206
交通規範に対する態度および違反行動とドライバーの年齢との関連	共著	2007年6月	交通科学Vol37, No.2,	◎東　正訓・藤本 忠明・内山 伊知郎・坂口 哲司・山口 直範・中西誠	pp.4-14
高校生の海外留学プログラムの評価－地域連携型研究の一試みとしてー	単著	2008年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要　第4号		pp.2-12
その他					
生涯にわたる交通安全教育―交通規範に対する態度と違反行動の発達的変化	共著	2008年3月	交通安全教育（財団法人日本交通安全教育普及協会）	◎内山伊知郎・東　正訓	pp.6-13
公共目的にもとづくキャンペーンを効果的にすすめるために―基礎理論と事例の傾向	共著	2009年3月	心理学の地域貢献に関する研究平成16年度・平成20年度「私立大学学術研究高度化推進授業」研究成果報告書	◎東　正訓・藤本 忠明・松野凱典	pp.95-109

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2004年7月～2008年12月	大阪交通科学研究会幹事
2006年4月～2008年12月	交通科学編集委員
2004年4月～2007年7月	箕面有料道路交通管理検討委員会委員
2004年4月～2008年12月	大阪府立港高等学校学校協議会委員

心理学部　東　正訓

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　藤本　忠明	学位　　文学修士【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	交通心理学・ビジネスリサーチ演習・ライフスタイル演習２・特殊演習２・卒業研究１・２（社会・産業形）・社会心理学演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2007年9月～2009年7月	受講生を５～６名に班分けし、社会問題化している交通行動の観察、データ分析を通じて、改善のための対策を立案させ、最終演習時にパワーポイントで発表させる、実践的演習を展開している。
２　作成した教科書、教材、参考書		
・交通心理学の教材作成「我が国の交通安全教育」（パワーポイント）	2006年10月	我が国の交通安全教育の現状についてまとめ、交通心理学の講義に活用している。
・交通心理学の教材作成「安全運転の秘訣」（パワーポイント）	2007年4月	運転者教育の教材として安全運転のための重要なポイントをまとめ、「交通心理学」の講義に活用するとともに、運転者教育の「講習会」「研修会」にも活用している。
・交通心理学の教材作成［コメンタリー・ドライビングの勧め」（パワーポイント）	2007年4月	「言語報告運転法」と邦訳される、運転者教育法を映像を交えて解説したもので、「交通心理学」の講義で活用するとともに、運転者教育の「講習会」「研修会」にも活用している。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
・ビジネスリサーチ演習における実践的演習の展開	2007年9月～2009年1月	受講生を５～６名に班分けし、特に社会問題化している交通行動を取り上げ、行動観察、データ分析を通じて、改善のための対策を立案させ、最終演習時にパワーポイントで発表させる、実践的演習を展開している。
・特殊演習における実践的演習の展開	2008年4月～2009年7月	ビジネスリサーチ演習につながる実践的演習を展開している。受講生を５～６名ごとに班分けし、交通行動の観察、データ分析を通じて、交通安全対策を立案させ、最終演習時にパワーポイントで発表させる。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ワークショップ大学生活の心理学	共編著	2009年3月	ナカニシヤ出版	藤本忠明・東　正訓	全249頁
論文					
交通規範に関する心理学的研究－３重大違反に対するドライバーの意識と行動－	共著	2005年2月	交通科学　35巻1号	藤本忠明・東　正訓・内山伊知郎・坂口哲司・山口直範・神田忠士・高木哲平・今井康雄・榎本政夫・喜田真司	pp. 12-19
交通規範に対するドライバーの意識と行動の総合的研究	共著	2005年3月	（財）佐川交通社会財団交通安全対策振興助成研究報告書　16巻	藤本忠明・東　正訓・内山伊知郎・坂口哲司・山口直範・神田忠士・七澤利明・高木哲平・多幡昭夫・今井康雄・喜田真司・寄兼満雄	pp. 7-26
企業の安全運転管理・運転者教育論考	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要第１巻		pp. 233-258
交通規範に対する態度および違反行動とドライバーの年齢との関連	共著	2007年6月	交通科学　37巻2号	東　正訓・藤本忠明・内山伊知郎・坂口哲司・山口直範・中西　誠	pp. 4-13
その他					
二輪運転者の交通規範に対する態度と行動	共著	2006年	交通科学　36巻2号	山口直範・中西　誠・藤本忠明・東正訓・内山伊知郎・坂口哲司	pp. 119-120
DRIVING ANGER SCALE の分析	共著	2007年6月	交通科学　37巻2号	中西　誠・藤本忠明	pp. 103-104

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1972年4月～現在	大阪府安全運転管理者等法定講習講師
1974年4月～現在	大阪府指定自動車教習所法定講習講師
2001年6月～2005年6月	大阪交通科学研究会会長
2003年3月～2006年３月	（財）都市交通問題調査会評議員

2003年4月～現在	茨木市生涯学習センター講座担当講師
2003年7月～2005年6月	日本心理学会議員
2004年6月～2006年３月	東日本旅客鉄道株式会社「新しい運転適性検査の開発および指導への活用に関する検討会」委員
2005年2月～現在	茨木市生涯学習推進委員会委員
2005年6月～現在	大阪交通科学研究会名誉会員

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　鋒山　泰弘	学位　　教育学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	教育方法学、教育課程論、公民科教育論、特別活動論、教職実践研究			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2004年4月から	特別活動論においてグループワークによるロール・プレイを授業に取り入れている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2007年3月20日	『よくわかる授業論』（ミネルヴァ書房） Ⅳ「教育目標・教育内容の設定」を執筆した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2006年5月21日	全国私立大学教職課程研究連絡協議会第26回大会 第10分科会にて、「教免法改正と教職科目の授業づくりの模索」と題して報告。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
大人数授業をどうするか	共著	2006年3月	ｱｽｶ文化出版	追手門学院大学教育研究所	pp. 223-249
学びのための教師論	共著	2007年3月	勁草書房	グループ・ディダクティカ	pp. 223-249
大学における「学びの転換」とは何か	共著	2008年3月	東北大学出版会	東北大学高等教育開発センター	pp. 39-52
論文					
英国における歴史教育の目標と評価	単著	2005年12月	教育目標・評価学会紀要第15号		pp. 15-25
「PISA型学力」と評価を生かした授業改善の課題	単著	2007年3月	追手門学院大学教職課程年報第15号		pp. 7-14
イギリスのシティズンシップ教育と日本の特別活動	単著	2008年3月	追手門学院大学教職課程年報第16号		pp. 17-32
その他					
英米の「横断的・総合的な学習」にみる課題	単著	2004年11月	指導と評価	図書文化	pp. 8-11

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2003年4月～現在	茨木市立北中学校学校協議委員
2003年11月～現在	教育目標・評価学会常務理事
2006年8月～現在	全国到達度評価研究会会長
2008年11月～現在	関西教育学会理事

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　松野　凱典	学位	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	犯罪心理学、犯罪心理学特講、犯罪心理学購読、犯罪心理学演習、社会･犯罪心理学入門、人間関係の心理学、特殊演習、ライフスタイル演習、			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
時事的興味を喚起するためクイズ方式で時事問題を出題	2007年9月から	各授業の前少し時間をとって新聞等に報道されている時事問題を取り上げ、クイズ方式で質問し出席表の裏に解答させることを実施し時事的興味を喚起させた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
著書欄に記載した2冊の本	2006年4月から	犯罪心理学購読の教科書として、さらに他の担当授業の参考書として使用した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
科捜研うそ発見の現場―心理学の立場から犯罪をみる	単著	2004年10月	朱鷺書房		全251頁
犯罪って何だろう―現場の視点で考え直す	単著	2008年5月	新風書房		全223頁
論文					
男が犯す犯罪女が犯す犯罪	単著	2005年5月	教育と医学　慶應義塾大学出版会		pp. 94-101
公共目的にもとづくキャンペーンを効果的にすすめるために―基礎理論と事例の検討	共著	2009年3月	心理学の地域貢献に関する研究追手門学院大学地域支援心理研究センター	東 正訓、藤本 忠明	pp. 95-109
その他					
＜資料＞					
犯罪に対する学生の興味について―地方私立大学の現状を中心に	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要第1巻		pp. 305-312

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2004年～2005年	大阪府青少年問題協議会専門委員
2005年～現在	日本法科学技術学会評議員
2005年10月	地域安全兵庫県民大会基調講演
2005年11月	日本法科学技術学会第11回学術集会招待講演
2008年10月	全国地域安全運動大阪府民大会基調講演

（表24）

所属　心理学部	職名　　教授	氏名　三川　俊樹	学位　　学術修士【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	キャリアデザイン論、カウンセリング心理学、学校心理学、キャリアガイダンス、チャイルドサポート演習、生涯発達心理学演習、ほか			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2006年4月～2009年3月	「学生ボランティアの心理教育的援助能力の開発」　構成的グループ・エンカウンターの方法を基礎に、教育ボランティア学生の心理教育的援助能力の育成に効果的な研修プログラムを3年間にわたって継続的に開発し、その成果をもとに「教育ボランティアハンドブック」を刊行した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2002年4月	『新教職課程の教育心理学（第3版）』　教育心理学の各領域・各理論をわかりやすく解説した後、生徒指導・進路指導・教育相談・特別活動へ実践について体系的にまとめられている。特に、進路指導の歴史、進路指導の理論、進路指導の定義と理念、進路指導の諸活動と方法について論じた。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2008年3月	大学におけるキャリア教育－3年間のキャリアデザイン論（選択科目）を振り返って（『教育研究所紀要』第26号）　大学におけるキャリア教育のあり方について述べ、2005年度以来3年間担当した「キャリアデザイン論」の授業内容と成果を学生の小レポートと「キャリア成熟尺度」によって評価した結果をまとめた。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
教育カウンセラー標準テキスト（初級編）	共著	2004年5月	図書文化	特別非営利活動法人　日本教育カウンセラー協会編	pp. 153-162
生徒指導・教育相談・進路指導	共著	2006年3月	田研出版	仙﨑武、野々村新、渡辺三枝子、菊池武剋編	pp. 133-150
キャリア・カウンリングハンドブック	共著	2006年11月	中部日本教育文化会	日本キャリア教育学会編	pp. 9-12、pp. 88-100
ほめて伸ばす！　叱って育てる！	単著	2007年9月	東京書籍		全213頁
キャリア・コンサルタント―その理論と実務	共著	2008年3月	日本産業カウンセラー協会	木村周、桐村晋次、三川俊樹、森田一壽、城哲也、古山善一、廣尚典、瀧本孝雄、石崎一記、後閑誠、北村孝基、橋本武雄、井田喜治、西田治子	pp. 82-111
ワークショップ大学生活の心理学	共著	2009年3月	ナカニシヤ出版	藤本忠明・東正訓(編)	pp. 227-242
大学生のためのキャリアガイドブック	共著	2009年3月	北大路書房	寿山泰二、宮城まり子、三川俊樹、宇佐見義尚、柏木里佳、長尾博暢	pp. 42-59、pp. 83
論文					
認知の歪みと主観的不健康感の関係(2)	単著	2004年8月	追手門学院大学人間学部紀要第17号		pp. 57-72
地域における心理教育的援助とコンサルテーション	単著	2005年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要創刊号		pp. 66-72
その他					
大学におけるキャリア教育―3年間のキャリアデザイン論（選択科目）を振り返って	単著	2008年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第26号		pp. 43-63

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2001年5月～現在	日本学生相談学会　理事
2005年9月～2007年11月	日本カウンセリング学会　常任理事
2006年9月～現在	日本産業カウンセリング学会　常任理事
2006年10月～現在	日本キャリアデザイン学会　理事
2008年10月～現在	日本キャリア教育学会　理事

（表24）

所属　心理学部	職名　　准教授	氏名　駿地　眞由美	学位　　修士（教育学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	子ども学　臨床心理査定演習　心理検査法演習１			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
「子ども学」ほか	2006年9月～	パワーポイントや視聴覚教材を活用し、学生からの授業評価は感想文等で複数回行なった。
「臨床心理査定演習」ほか	2006年9月～	毎回レジュメを作成し、明確な課題を与えて演習授業を行なった。また、受講生を小グループに分け、各グループの理解度・課題の進み具合に合わせてきめこまやかな対応を行なった。
２　作成した教科書、教材、参考書		
カウンセラーのための基本104冊	2005年6月	『メラニー・クライン入門』について書評を行った.
心理療法ハンドブック	2005年9月	「ホスピス」の項について事項説明を行った.
心理学実習　基礎編	2006年12月	「京大NX知能検査」の説明を行い、実習する際の工夫についても述べた.
臨床心理学	2007年4月	医療領域における臨床心理学の意義と役割について説明した.
ワークショップ大学生活の心理学	2009年3月	カウンセリングと心理療法の違いを歴史的背景から検討した上で、心理的援助の方法としてのそれらの基本を説明した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
三重県総合教育センター　教育相談専門研修上級講座Ⅳ講師	2006年8月	小中学校教員を対象に、子どもの心の成長やその援助についての講演を行なった.
追手門学院大学心理学部ＦＤ懇話会・話者	2007年10月	本学での教育方法や教育実践についての振り返りと提言を行なった。
追手門学院大学リエゾンオフィスシンポジウムシンポジウム	2008年2月	子育てに関して、心理学的観点から講演を行なった。
茨木市立北幼稚園・講演会講師	2008年3月・10月	茨木市立北幼稚園にて、園児らの発達課題や教育方法等について講演を行なった。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
（資格） 臨床心理士	2002年～	

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
心理療法と医学の接点	共著	2005年3月	創元社	山中康裕・河合俊雄編	pp. 298-311
遊戯療法と子どもの今	共著	2005年3月	創元社	東山紘久・伊藤良子編	pp. 42-58
心理臨床家アイデンティティの育成	共著	2005年3月	創元社	鑪幹八郎監修，川畑直人編	pp. 173-188
カウンセラーのための基本104冊	共著	2005年6月	創元社	氏原寛・下山晴彦・東山紘久・山中康裕編	pp. 142-143
心理療法ハンドブック	共著	2005年9月	創元社	氏原寛・乾吉佑・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕編	pp. 561
遺伝相談と心理臨床	共著	2005年9月	金剛出版	伊藤良子監修，玉井真理子編	pp. 57-73
心理学実習　基礎編	共著	2006年12月	培風館	高石浩一・谷口高士編	pp. 29-34
臨床心理面接研究セミナー	単著	2006年12月	至文堂	伊藤良子編	pp. 258-262
心理臨床における個と集団	共著	2007年3月	創元社	岡田康伸・河合俊雄・桑原知子編	pp. 64-76
臨床心理学	共著	2007年4月	朝倉書店	桑原知子編	pp. 161-170

心理臨床における臨床イメージ体験	共著	2008年3月	創元社	藤原勝紀・皆藤章・田中康裕編	pp. 229-233
ワークショップ大学生活の心理学	共著	2009年3月	ナカニシヤ出版	藤本忠明・東正訓編	pp. 142-151
身体の病と心理臨床	共著	2009年3月	創元社	伊藤良子・大山泰宏・角野善宏編	pp. 304-322
論文					
遺伝カウンセリングと人間存在　－心理的側面から－	単著	2004年5月	『科学』第74巻第5号，岩波書店		pp. 628-632
遺伝カウンセリング　－臨床倫理－	単著	2005年3月	『臨床心理学』第5巻第2号，金剛出版		pp. 215-221
「存在することへの罪」を抱えて来談した青年期女性との面接過程	単著	2005年3月	『臨床心理事例研究』，第31号		pp. 18-27
診療の基本：カウンセリング	単著	2005年10月	『日本産科婦人科学会雑誌』第57巻10号		pp. 467-472、486-489
臨床心理士の職域・機能・効果研究	共著	2006年2月	『心理臨床学研究』第23巻5号	◎駿地眞由美・尾谷健・岩田直威・中村大蔵・西井孝仁・福尾明希	pp. 634-639
遺伝子診療における心理臨床の試み	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要1		pp. 121-135
心理的援助の方法としての遊戯療法	単著	2007年12月	追手門学院大学心のクリニック紀要第4号		pp. 11-19
大学生の遺伝子診断に関する意思決定と支援ニーズとの関連	共著	2008年3月	日本遺伝カウンセリング学会学会誌28（2）	福田斎・伊藤良子・楠見孝・藤田潤・駿地眞由美・山本喜晴・井上嘉孝・築山裕子・西田麻衣子・松本拓磨	pp. 33-41
遺伝性疾患をめぐる心理的課題―遺伝子診療と心理臨床	単著	2008年10月	心理学ワールド第43号		pp. 13-16
その他					
＜翻訳＞					
生命倫理百科事典第3版	共訳	2007年1月	丸善	生命倫理百科事典 翻訳刊行委員会編	
＜報告書＞					
遺伝カウンセリング事例の分類にみる医学的テーマと心理的テーマ	共著	2006年3月	『遺伝子診療における心理臨床的援助に関する研究』（平成15～17年度文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（B）研究成果報告書，研究代表者：伊藤良子）	田中享・伊藤良子・河野伸子・桑原晴子・駿地眞由美・海本理恵子・藤本麻起子・古野裕子・山本喜晴・井上嘉孝・福田斎	pp. 7-13
遺伝SCT作成の試み	単著	2006年3月	『遺伝子診療における心理臨床的援助に関する研究』（平成15～17年度文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（B）研究成果報告書，研究代表者：伊藤良子）		pp. 21-31
サウス・カロライナ大学における遺伝カウンセリング	単著	2006年3月	『遺伝子診療における心理臨床的援助に関する研究』（平成15～17年度文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（B）研究成果報告書，研究代表者：伊藤良子）		pp. 47-50
「遺伝子」「遺伝」に対するイメージ研究①　－質問紙調査－	単著	2006年3月	『遺伝子診療における心理臨床的援助に関する研究』（平成15～17年度文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（B）研究成果報告書，研究代表者：伊藤良子）		pp. 57-72
「遺伝子」「遺伝」に対するイメージ研究②－PAC分析－	単著	2006年3月	『遺伝子診療における心理臨床的援助に関する研究』（平成15～17年度文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（B）研究成果報告書，研究代表者：伊藤良子）		pp. 73-88

遊戯療法の歴史的概観	単著	2009年3月	心理学の地域貢献に関する研究―地域社会との連携による心理的問題について解決及び支援の方法の開発―（平成16年度～平成20年度「私立大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）研究結果報告書」）		pp. 333-345

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜学会活動＞	
1998年8月～現在	日本臨床心理学会会員（2005年2月～資格問題調査プロジェクト委員）
2002年4月～現在	日本遺伝カウンセリング学会会員（2005年4月～遺伝カウンセラー制度委員）
＜社会における主な活動＞	
2002年1月～現在	京都府AIDS/HIV派遣カウンセラー
2004年4月～現在	大阪科学技術センター委員
2005年4月～現在	日本遺伝カウンセリング学会遺伝カウンセラー制度委員
2006年4月～現在	神戸市立中央市民病院倫理委員会委員

（表24）

所属　心理学部	職名　　准教授	氏名　瀧端　真理子	学位　修士（教育学）【京都大学，1994年3月取得】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	博物館学１、博物館学２、博物館実習、社会教育概論２、社会教育課題研究１、社会教育課題研究２、くらしと文化、ボランティア論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
博物館実習での見学実習	2005年5月7日・2006年5月27日・2007年5月12日・2008年5月24日・2009年5月16日	土曜日一日を利用したバスツアーを行い、見学実習を行っている。バス内で博物館実習生に下調べを発表させて、配布資料の作り方、発表方法等を指導している。
２　作成した教科書、教材、参考書		
『新しい博物館学』	2008年3月10日	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編、芙蓉書房出版、pp. 187-189
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「授業内レポートについて―大人数授業の場合―」	2005年3月25日	『追手門学院大学人間学部　自己評価』第8号、pp. 37-39（2004年7月8日　第７回人間学部FD談話会にて発表）
「授業からフィールドへ―ボランティア論・くらしと文化・茨木交流倶楽部―」	2005年3月31日	『「特色ある教育」平成16年度報告集』pp. 107-111
「茨木交流倶楽部プロジェクト―”茨木美術環”の取り組みから―」	2006年3月31日	『平成17年度　特色ある教育報告集』pp. 4-7
「”茨木美術環”の前とあと」	2006年3月31日	『追手門学院大学「特色ある教育」平成17年度報告集別冊　茨木美術”環”2005報告書～茨木アートプロジェクト実行委員会～』pp. 5-10
「博物館実習における学生の多面的能力開発の試み」	2008年7月17日	追手門学院大学教育研究所2008年度第4回定例研究会
４　その他教育活動上特記すべき事項		
「まちづくりカレッジin那覇」に学生を引率して参加	2005年3月5・6日	那覇市商人塾及び中心市街地
「EXPOまちづくりカレッジ&まちづくりカレッジin瀬戸」に学生を引率して参加	2005年8月24・25日	愛・地球博瀬戸会場及び瀬戸中心市街地パルティせと周辺
追手門学院大学ロンドンセミナー引率	2006年7月29日～8月21日	ロンドン周辺

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ボランティアコーディネーター白書07－09版	共著	2008年2月	大阪ボランティア協会出版部	特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会編	pp. 56-59
新しい博物館学	共著	2008年3月	芙蓉書房出版	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	pp. 187-189
論文					
指定管理者制度から考える公立博物館の存続問題	単著	2005年3月	日本史研究511		pp. 109-117
那覇市農連市場・水上店舗のエネルギー	単著	2005年3月	アジアの市場の現状と背景―ヒトとモノの出合いと交流―	2004年度追手門学院大学共同研究報告書	pp. 58-69
学芸員養成課程の実態と模索―私立大学と博物館は連携できるか―	単著	2005年3月	歴史学と博物館創刊号		pp. 2-8
宮城県美術館における教育普及活動生成の理念と背景	共著	2005年3月	博物館学雑誌30-2	瀧端真理子・大嶋貴明	pp. 91-115
宮城県美術館普及部における教育普及活動の展開	単著	2006年4月	博物館学雑誌31-2		pp. 101-130
指定管理者制度の導入―公立ミュージアムのゆくえ	単著	2006年5月	現代のエスプリ466		pp. 120-131
ミュージアム関連女性専門職のキャリア形成と課題	単著	2007年3月	21世紀ジェンダー教育の構築：フィールドワークからの発信	追手門学院大学2006年度学内共同研究報告書	pp. 115-162

横須賀美術館建設反対運動の主張と波及効果―自治体財政と市民参加の観点から―	単著	2007年4月	博物館学雑誌32-2		pp. 31-62
博物館法改正の経緯と残された課題	単著	2008年9月	文化経済学6-2		pp. 111-116
魅力ある初年次教育のテキストとは？―*A Survival Guide for Art History Students*をたたき台にして―	単著	2009年3月	追手門学院大学教育研究所紀要27		pp. 127-135
その他					
クルマに依存しない郊外生活の可能性に関する研究―箕面市の住宅地を事例に―	共著	2005年2月	大阪大学大学院工学研究科　都市の魅力アップ方策の研究　研究成果報告書	大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻都市環境デザイン学領域「クルマに依存しない郊外生活研究会」	pp. 1-95
全日本博物館学会30周年横須賀市自然・人文博物館50周年記念シンポジウム第二部　学芸員って何だろう	共著	2005年3月	博物館学雑誌30－2	柴田敏隆・林公義・浜口哲一・瀧端真理子	pp. 63-89
NPM、PPPから考える指定管理者制度	共著	2006年3月	Musa(博物館学芸員課程年報)20	田中孝男・大嶋貴明・瀧端真理子	pp. 11-39
ミュージアムは市民のシンクタンクたりうるのか	共著	2006年3月	Musa(博物館学芸員課程年報)20	栗原裕治・小沢剛・鐵真孝・大島賢一・林浩二・瀧端真理子	pp. 51-80
《どうなった？　芦屋市立美術博物館―シンポジウム・レポート》「芦屋市立美術博物館の一年を振り返って」を聴いての走り書き	単著	2007年6月	月刊『あいだ』138		pp. 5-7
教育委員会の機構改革・必置規定見直し動向を考える―文化財保護行政と博物館行政の現状と課題―	共著	2007年3月	Musa(博物館学芸員課程年報)21	福島正樹・瀧端真理子	pp. 15-36
新博物館法に向けてのブレーンストーミング	共著	2007年3月	Musa(博物館学芸員課程年報)21	水藤真・井上敏・瀧端真理子	pp. 37-62
芦屋市立美術博物館の現在と市民利用施設の未来	共著	2008年3月	Musa(博物館学芸員課程年報)22	藤本隆・瀧端真理子	pp. 11-36
今後の学芸員養成と博物館学の方向性	共著	2008年3月	神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議『高度専門職学芸員の養成―大学院における養成プログラムの提言』	「人類文化研究のための非文字資料の体系化」第5班編集（共著者：井上敏・瀧端真理子・浜田弘明）	pp. 45-81
市立大町山岳博物館所蔵行政文書目録	共著	2009年3月	追手門学院大学心理学部紀要3	瀧端真理子・宮野典夫	pp. 135-183

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2000年4月～現在	茨木市立文化財資料館運営審議会委員（2004年6月～副委員長、2008年6月～委員長）
2001年5月～2005年5月	日本エコミュージアム研究会理事（2006・2007年度監事）
2003年1月～2005年3月	茨木市中心市街地活性化検討委員会委員
2003年6月～2004年9月	大阪人権博物館「博物館教育」共同研究者
2004年6月～2004年12月	茨木市総合計画審議会委員
2004年6月～2006年5月	全日本博物館学会総務委員
2004年6月～2005年2月	「クルマに依存しない郊外生活研究会」共同研究者（研究代表者：岡絵理子）北大阪急行線延伸推進会議からの研究委託
2004年8月～2005年3月	茨木市観光・物産振興事業実施検討委員会アドバイザー
2004年11月27日	西川町大井沢自然博物館誕生50周年記念”自然学習フォーラム”講師
2005年2月2・3日	財団法人地域創造”アートミュージアムラボ京都”講師
2005年3月12日	日本民家集落博物館公開講座講師

2005年4月～現在	茨木市中心市街地活性化推進委員会委員
2005年7月～2006年3月	茨木市観光振興事業実施検討委員会アドバイザー
2005年12月1日	滋賀県博物館協議会　平成17年度第3回研修会講師
2006年11月8日	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会　第32回全国大会（岡山大会）　研修会講師
2007年2月9日	長野県教育委員会・長野県博物館協議会　平成18年度博物館等関係職員研修会講師
2008年3月7日	平成19年度富山県博物館協会研修会講師

（表24）

所属　心理学部	職名　　准教授	氏名　辻　潔	学位　　文学修士【金沢大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	障害福祉心理学　遊戯療法論　臨床心理面接特講１　心理検査法演習２　臨床心理技法講読　人間性の形成　卒業研究１・２			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
２　作成した教科書、教材、参考書		
『パーソナリティの形成と崩壊』	2009年4月	学部担当科目「人間性の形成」の教科書として分担執筆したもの
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
2008年度心理学部FD談話会発表「本学心理学部における成績評価について」		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
パーソナリティの形成と崩壊	共著	2004年4月	学術図書出版社	◎倉戸ヨシヤ　川原稔久　森田喜治　倉戸由紀子　井上知子　辻潔　中西龍一　志野静穂	pp. 123-133
論文					
臨床心理基礎実習　マイクロカウンセリング実習について	単著	2004年12月	心のクリニック紀要（創刊号）		pp. 18-20
ロールシャッハ・テスト発達水準スコアーと知的機能との関連について	単著	2006年12月	心のクリニック紀要（第３号）		pp. 37-45
発達の偏りや遅れが疑われる子どもへの援助モデルの提示 ―臨床心理士養成指定大学院の中での実践―	単著	2007年12月	心のクリニック紀要(第４号)		pp. 65-71
本学大学院臨床心理学コースの臨床心理基礎実習の実際	単著	2007年12月	心のクリニック紀要(第４号)		pp. 91-94
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　心理学部	職名　　准教授	氏名　中鹿　彰	学位　　教育学修士【京都大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	発達障害論、障害福祉心理学、臨床心理学基礎論、心理検査法演習、臨床心理査定特講、人間性の形成、障害者（児）心理学特論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2006年度 2007年度 2008年度	毎講義終了時に、その講義を通じて、その日のテーマについて考えたこと、授業への質問・意見･感想をレポートとして自由に書いてもらっている。全体での質問は難しくても、このレポートを通じて個別に学生は、分からないことや教員への要望も比較的自由にその都度表明できる。このレポートでは出席の確認、誤字･脱字などの指導、要望や質問へのフィードバックを行っており、同時に教員は毎回、講義のテーマに関する学生の達成度や反応を具体的につかむことができる。学生のとっては、記述力の向上、講義でのモチベーションの維持、復習などに役立てられる。また、このレポートでの教員とのやりとりを通じて自らの不安・悩みを支えられたという学生も見られた。講義および演習における教材や授業資料などの情報提供手段として、印刷物に加えてコンピュータ用プレゼンテーションソフト（パワーポイント）を活用しながら視覚的に提示し、学生の興味を引きながらより具体的に現象がとらえられるように配慮した授業活動を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2006年度 2007年度 2008年度	テキストや参考図書から、その授業でポイントとなる点を抜き出して、資料を作成して学生に毎回配布するようのしている。特に、術語の定義、概念の整理に焦点を当てて、Ａ３の資料２枚程度にまとめて、学生の理解を促すように工夫している。このため、学生にとっては、講義中重要な点を的確に、効率よく理解することと、授業終了後の復習としても役立てられる。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2006年度	心理学部自己評価委員会（FD）において、新任教員としてはじめて大学の授業を受け持った経験を基に報告を行う。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2006年度 2007年度 2008年度	アカデミック・アドバイザーとして、大学生活、成績、進路についての相談を受ける。特に新入生に対しては、大学での過ごし方、授業の受け方、単位取得についてのアドバイスを行う。また、演習の授業では発達障害に関わるボランティア活動を重視して、学生が実際に現場に出て行き、社会的体験を増やすことを目標としている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
京大心理臨床シリーズ３	共著	2005年3月	創元社	東山紘久・伊藤良子（編）	pp. 243-256 知的障害を伴う脳性麻痺児との遊戯療法過程―やすらぎの体験の心理治療的意味―
京大心理臨床シリーズ５	共著	2007年3月	創元社	岡田康伸・河合俊雄・桑原知子（編）	pp. 451-465 軽度発達障害児における社会適応と自己実現―情短施設での被虐待児との遊戯療法過程から―
論文					
バウムテストから見た広汎性発達障害の認知特徴	単著	2004年2月	心理臨床学研究第21巻6号 日本心理臨床学会編		pp. 611-620
新版Ｋ式発達検査2001の課題と有用性	単著	2006年12月	追手門学院大学心のクリニック紀要第3号		pp. 28-32
発達障害と児童虐待	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要第1号		pp. 159-172
「家から遠い。」と作業所への通所をしぶった事例－広汎性発達障害を伴う中度精神遅滞の青年－	単著	2007年3月	京都市児童福祉センター紀要第8号		pp. 35-40
近年における境界線精神発達の重要性―学習障害を伴う児童との関わりから―	単著	2007年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要第3号		pp. 14-26

生涯発達の視点から見た乳幼児期の支援のあり方―発達の遅れを伴う子どもへの関わり―	単著	2007年12月	追手門学院大学心のクリニック紀要第4号		pp. 6-10
就学前における発達の遅れと偏りを伴う子どもへの心理臨床的支援―行動特徴と評価の実際―	単著	2007年12月	追手門学院大学心のクリニック紀要第4号		pp. 72-78
就学前における軽度発達障害児への心理臨床的支援―生涯発達の視点から見た支援のあり方―	単著	2009年3月	オープン・リサーチ・センター整備事業研究成果報告書		pp. 273-284
軽度発達障害理解における境界線精神発達の重要性	単著	2009年3月	オープン・リサーチ・センター整備事業研究成果報告書		pp. 285-300
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
＜所属学会＞	日本心理臨床学会、日本発達心理学会
＜学会活動＞	
2007年3月	日本発達心理学会第18回大会会員企画自主シンポジウム「発達障害児・者の生涯発達」話題提供者
2008年3月	日本発達心理学会第19回大会大会委員
＜社会活動＞	
2006年10月	おうてもん塾講師　講演テーマ「軽度発達障害の理解と支援」
2007年5月	発達障害児親の会に講師として参加。
2007年6月	発達障害児親の会に参加、発達障害を伴う児童への支援について話し合う。
2007年11月	追手門学院大学地域支援心理研究センター主催公開シンポジウム「これからの特別支援教育」シンポジスト
2008年3月	茨木市立幼稚園研修会講師　講演テーマ「発達障害の理解と対応」
2008年7月	川西市人権学習市民講座にて講演「発達障害を考える―発達障害の領域とは―」
2008年10月	おうてもん塾講師　講演テーマ「子育てが難しい子どもへの関わり」
2008年12月	箕面市萱野中央人権文化センターにて講演「発達障害の基礎知識」
2009年1月	追手門学院大学地域支援心理研究センター主催公開シンポジウム「これからの教育相談・生徒指導の進め方」コーディネーター

（表24）

所属　心理学部	職名　　准教授	氏名　永野　浩二	学位　　教育学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	心理療法演習、心理療法特論、介護心理学、面接調査法、心理現場へのインターンシップ、特殊演習１・２、卒業研究１・２、新入生演習他			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
授業アンケート評価	2004年～2009年	大学自己評価委員会による全学授業アンケートの評価は総じて高い。過去5年間では、12項目の平均評定は、4.2～4.4（大学平均3.7～3.9）であった。中でも、「この授業は内容が斬新で興味深いものであった」「教師の熱意と意欲が感じられた」という項目は、時に4.8を超える高いものであり、教育内容・工夫が反映されていると思われる。
２　作成した教科書、教材、参考書		
「ワークショップ人間関係の心理学」（共著）	2004年3月	編著者：藤本忠明・東正訓　担当部分：「児童虐待」pp.140-149「DV」pp.149-156「よりよい人間関係を保つために自分自身を心理学しよう」pp.157-178 児童虐待やＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）の現状について概観し、その要因や対策について記述した。また、自分自身の理解のための様々な心理検査やひとりでできるカウンセリング・ワークを紹介した心理学テキストである。
「ワークショップ大学生活の心理学」（共著）	2009年3月	編著者：藤本忠明・東正訓　担当部分：「『不登校・ひきこもり』や『留年』とどうつきあうか？」pp.208-225　本書は大学生活のための心理学テキストである。担当箇所は、大学生を中心とした不登校・ひきこもり・留年の現状や主な学説などについて概観し、学生生活を営む上で、これらの問題にどう関わっていくか考えるための示唆を与えるものである。
面接調査法（DVD）	2007年10月	ボランティアの被験者との面接場面の実際をビデオに収め、編集したもの。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
全学FD談話会：「新入生演習の教育的位置づけについて～心理学部の場合～」	2007/1/11	心理学部で行われている新入生演習について、各教員のアンケート結果をもとに、教育的位置づけについての考察を行った。心理学部では、特に①良好な対人関係を学習の土台にし、②学ぶ意欲を引き出す工夫しつつ、③独自の教材の導入を行っていることが考察された。（追手門学院大学心理学部自己評価　第1号　追手門学院大学心理学部FD・自己評価委員会年報　11-18）
心理学部FD談話会：「心理学部アカデミックアドバイザー制度の現状と課題：困難事例との関わり」	2008年7月	心理学部で行われている教学支援のためのアカデミック・アドバイザー制度についての発表である。中でも、関わりが困難な学生への対応への注意点や課題について、具体的な事例を元に報告・検討を行った。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ワークショップ人間関係の心理学	共著	2004年3月	ナカニシヤ出版	編著者：藤本忠明・東正訓	pp.140-149　pp.149-156　pp.157-178
マンガで学ぶフォーカシング入門	共著	2005年6月	誠信書房	監修　村山正治 編集者　福盛英明・森川友子	pp.142-152，pp.171-172
ワークショップ大学生活の心理学	共著	2009年3月	ナカニシヤ出版	編著者：藤本忠明・東正訓	pp.208-225
論文					
子育て支援の一形態としてのグループ・アプローチ～親グループ・カウンセリングの試み～	単著	2004年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター付属心のクリニック紀要創刊号		pp.21-31
アサーショントレーニングと他者理解との関連から考える相互尊重への試み－高校生を対象とした探索的研究－	共著	2005年3月	兵庫教育大学学校教育学部付属発達心理 臨床研究センター　発達心理臨床研究11号	◎谷口敏淳・永野浩二・佐々木和義	pp.73-84
不登校・ひきこもりの訪問カウンセリング－本人に会えない困難事例への関わり－	単著	2005年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター付属 心のクリニック紀要2		pp.9-19

クライエントの成長、セラピストの成長～津幡論文へのコメント～	単著	2007年3月	神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理教育相談室紀要第８号		pp. 133-138
修了生のアンケートから見える大学院教育	単著	2007年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター付属　心のクリニック紀要４		pp. 95-107
子育て支援としての保護者グループ・アプローチ～保護者への援助モデルの提案～	単著	2007年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター付属　心のクリニック紀要４		pp. 53-64
真実の関係とは？　中村論文のコメント	単著	2008年3月	神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理教育相談室紀要第９号		pp. 110-114
その他					
心が生きるということ	単著	2004年	追手門学院大学 学生相談室だより,No43		pp. 5
自分自身とつきあうということ	単著	2005年	追手門学院大学 学生相談室だより,No46		pp. 4
人とつながるということ－エンカウンターグループ雑考－	単著	2005年	こころ　八幡医師会看護専門学院 創立50周年記念誌		pp. 121-122
悩むことと悩みを「体験する」こととの違い	単著	2006年	追手門学院大学 学生相談室だより,No49		pp. 8
新入生演習の教育的位置づけについて～心理学部の場合～	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部自己評価　第1号　追手門学院大学心理学部FD･自己評価委員会年報		pp. 11-18

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
1989年～2009年現在	日本心理臨床学会会員
1989年～2009年現在	日本人間性心理学会会員
2001年～2009年3月	沢良宜市青少年センター　相談員（子育て支援）
2001年～2009年現在	日本学生相談学会会員
2001年～2009年現在	京都工場保健会カウンセラー（産業メンタルヘルス部門）
2004年～2009年現在	日本トラウマ・ストレス学会会員

（表24）

所属　心理学部	職名　　准教授	氏名　馬場　天信	学位　　博士（心理学）【同志社大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	「心理検査法演習2B」、「精神分析学」、「メンタルケア演習」、「投映法特論」、「臨床心理実習」、「臨床心理査定演習Ⅰ，Ⅱ」			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
・少人数でのロールプレイ体験を積極的に取り入れた臨床心理学の実践教育	2007年4月	「心理療法演習」、「臨床心理面接演習」の科目では4名1グループによるロールプレイ演習を継続的に行い、教員からのフィードバックやグループ内でのシェア（カウンセラー役割、クライエント役割、観察者役割）を通して、他者の話を上手に聴くことができるよう教育方法を工夫した。毎回の授業で組むグループ構成は常に変えるようにし、授業ごとに全ての役割を経験し、そこで感じたことや体験したことを言語化するよう工夫した。また、ロールプレイで話す内容は模擬事例ではなく、生の体験（普段のストレスについて、これまでの自分、将来について、家族など）とし、時間は8分、シェアに10分とした。
・自己の体験を他者と触れ合い、共有を積極的に取り入れた初年次教育	2007年4月	「新入生演習」、「ライフスタイル演習」という初年次の授業では、自己への気づきとともに、それらを他者と共有し、触れ合うことができるよう教育方法を工夫した。具体的には、他己紹介課題、エンカウンターグループ、落し物課題、ライフコース図作成、香りと音楽から感じたことを描画し他者と共有する課題など、独自の触れあう課題を作成し、毎回の授業ではグループごと、あるいは、二人１組となってシェアを繰り返すよう工夫した。
・授業提示スライド以外の詳細な解説をいれた授業教材の作成	2007年9月	「精神分析学」の授業ではパワーポイント提示を通して授業を行っている。ただし、受講生のニーズやレベルが幅広いことが数回授業を行ってみての学生からの感想から伺い知ることができた。そこで、授業提示資料の他に、関心や興味があり、更に深く学びたい学生のニーズにも対応するように、補足説明や追加情報をまとめたワード作成資料を授業時に配布した。この資料では、授業提示スライドの赤字（重要語）が穴抜けとなっており、授業時に学生自ら用語を記載するようになっている。また、更に深く学べるよう、授業では解説しないが重要な内容を枠付きで解説するようにしている。授業最後での学生からの感想では、評価は概ね良く、本年度の授業実施の経験を踏まえて、冊子式の授業資料教材を作成する予定である。
2　作成した教科書、教材、参考書		
＜教科書＞ ・『精神保健の理論と実際』（保育出版）	2004年4月	将来，様々な援助職につく学生が精神保健の幅広い知識を学ぶために作成された教科書である．担当章では心身症の概念についてその定義や心身相関の意味を解説した．また，タイプＡ性格やアレキシサイミア，タイプＣといった性格特性と心身症との関係性について解説を行った．最後に，心身症に対する心理療法として用いられることの多い技法を紹介した． （編者：小林芳郎，分担執筆者：48名（詳細省略），分担執筆箇所：19章1節「心身症と臨床的な対応」，該当頁：pp. 242-246）
・『心理臨床家アイデンティティの育成』（創元社）	2005年3月	鑪幹八郎教授の退官記念として出版された書籍である．心理臨床家を目指す学部学生，大学院生を読者として想定し，特に学部における心理学の基礎科目から何を学び取ることが重要かを明確化した．具体的には心理学基礎実験では１）「実験」を用いた心理学の歴史に触れること，２）思考の開放性を育てるために科学の知に触れること，３）自我強度を高めるための基礎訓練をすることが重要であることを説明した．また，心理検査についての学習からは，１）道具の性質を正しく理解することの重要性，２）自己理解としての心理検査体験，３）心理検査を実施される側から実施する側をみることの重要性，について述べた．最後に，実験レポートやアセスメント所見を作成することには，第３者に理解されやすい文章作成が言語表現レベルにおける自律のテーマと関連していることを解説した． （監修：鑪幹八郎，編者：川畑直人，分担執筆者32名（詳細省略），分担執筆箇所：第3部　研究　「心理学実験・査定実習から心理臨床家としての資質を磨く－「科学の知」に触れることの臨床心理学的意義について－」，該当頁：pp. 242-258）
・『心理学概論』（北大路書房）	2006年6月	心理学の全領域を広くカバーした同志社大学の心理学科目の教科書として活用することを意図して出版された書籍である．本来であれば臨床心理学に関する内容について担当すべきであるが，関西医科大学で生活習慣病患者に対するカウンセリング経験があることから，生活習慣と健康に関する心理学的研究を解説することとなった．主な内容は，虚血性心疾患にかかりやすいタイプＡ行動特性，心身症に多く認められるアレキシサイミア概念，癌患者に多く認められるタイプＣ性格についての解説をまず行った．次に喫煙や飲酒といった習慣と心身の健康との関連性について疫学調査結果を紹介し，最後に自己効力感を高める健康心理学的モデルの紹介と実践例を簡単に解説した． （監修：山内弘継・橋本宰，編者：岡市廣成・鈴木直人・青山謙二郎，執筆者：55名（詳細省略），分担執筆箇所：第11章3節　「生活習慣と健康」，該当頁：pp. 330-337）
・『心理査定実践ハンドブック』（創元社）	2006年9月	実践での活用例を示した心理査定のテキストをつくりたいという意図のもと編集された書籍である．担当箇所では，タイプＡやアレキシサイミア，タイプＣ概念の解説と測定できる質問紙法の尺度について解説を行っている．また，関西医科大学での実践経験をもとにして，タイプＡやアレキシサイミアの質問紙法尺度を現場でどのように活用しているかを二つの事例をとりあげて解説した． （編者：氏原寛・岡堂哲雄・亀口憲治・西村洲衛男・馬場禮子・松島恭子，分担執筆箇所：第Ⅱ部　検査法　質問紙15. タイプＡ質問紙 16. タイプＣとアレキシサイミア」，該当頁：pp. 500-516）

・『心理学実習／基礎編』(培風館)	2006年12月	心理学実験や心理査定に関する学部の基礎授業で利用できる配付資料とレジュメがテキスト以外についた心理学教材テキストである．担当箇所では，ジェノグラムの書き方，亀口によって開発されたFamily Image Testの活用方法などについて解説した．心理アセスメントというと概して個人のパーソナリティに注目したものが多いが，家族内力動やシステムに目を向け，その特徴を読み取れることを学習課題とした内容で構成されている．学部の実習授業のなかで家族という集団をアセスメントする方法やシステムの特徴を読み取るポイントなどについてもできるだけ具体的に解説を行っている． （編者：高石浩一・谷口高士，執筆者19名（詳細省略），分担執筆箇所：「家族アセスメント（図式法）」，該当頁：pp.146-150）
＜教材＞ ・Power Point資料と練習問題つきの心理統計学授業教材の作成	2006年8月	2005年と2006年の2年間をかけて，心理統計学の授業を共に担当してきた佐藤安子准教授（京都文教大学）とPower Point解説資料と練習問題がセットになった授業教材を作成した．テーマごとにPower Pointスライド30枚程度に学習事項がまとめられており，各回で行う練習問題など机上学習課題がセットになっている．内容は記述統計量の理解から，ｔ検定，χ自乗検定，相関検定までを網羅しており，2回の授業に1回の復習という3回の授業が1セットとなった計12回分の教材セットである．現在，授業教材としてのテキスト販売を視野にいれ培風館と交渉段階にあり，前任校である京都文教大学ではこれらを活用して授業を行っている．
・解釈仮説から記号化の意味を理解するロールシャッハ・テスト教材の作成	2007年4月	ロールシャッハ・テストの学習は機械的に記号化スキルを習得するだけでは何も得られるものはない。そこで、ロールシャッハ・テストを教える学部の「心理検査法演習」、大学院の「投映法特論」用にそれぞれ独自の資料教材を作成した。記号化についての解説のみならず、研究者や臨床家によって、その記号にどのような解釈仮説が付与されているかを複数記載し、記号化の段階から、個々人のありよう（パーソナリティ特徴）を読み取ることができるような資料教材である。この資料は学生、大学院生に好評であり、特に大学院生にとっては大学院修了後も活用しやすい教材となっている。
・ケースフォーミュレーション教材	2007年9月	「メンタルケア演習」における授業では、学生の興味関心に応じたテーマを発表させ、適宜コメントするが、それだけではその事例についてどのように対応するかを話し合うことは難しい。そこで、学生の発表テーマが決まった時点で、そのテーマに即した仮想事例を複数作成し、該当内容の発表後に、8～10名を1グループとしてその事例についてどのように対応すべきか話し合いをさせた。この課題は、教育・福祉、医療、産業という主要３領域に関係するもので、テーマは不登校から、発達障害への対応、危機介入や職場ストレスへの認知行動療法的アプローチなどを含む課題である。各テーマごとに短い3事例を作成し、そこで自分であればどのように対応するかを考えさせる教材である。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当数
著書					
精神保健の理論と実際	共著	2004年4月	保育出版社	編者　小林芳郎、他分担執筆者48名	pp. 242-246
「顔」研究の最前線	共著	2004年9月	北大路書房	編者　竹原卓真、野村理朗、分担執筆者21名	pp. 139-147
心理臨床家アイデンティティの育成	共著	2005年3月	創元社	監修　鑪幹八郎、編者　川畑直人、分担執筆者32名	pp. 242-258
心理学概論	共著	2006年6月	ナカニシヤ出版	監修　山内弘継、橋本宰、編者　岡市廣成、鈴木直人、青山謙二郎、分担執筆者55名	pp. 330-337
心理査定実践ハンドブック	共著	2006年9月	創元社	編者　氏原寛、岡堂哲雄、亀口憲治、西村洲衛男、馬場禮子、松島恭子、分担執筆者多数	pp. 500-516
心理学実習／基礎編	共著	2006年12月	培風館	編者　高石浩一、谷口高士、分担執筆者19名	pp. 146-150
感情心理学	共著	2007年9月	朝倉書店	編者　鈴木直人、分担執筆者11名	pp. 135-153
論文					
減量を目的とした治療的介入に有効な心理的サポートのあり方	共著	2004年4月	臨床スポーツ研究, 12	◎馬場天信、木村　穣、佐藤　豪	pp. 207-214
肥満外来におけるチーム医療の効果，および減量効果からみた心理特性の差異	共著	2004年8月	日本心療内科学会誌, 8	◎馬場天信、佐藤　豪、木村　穣、中井吉英	pp. 213-216

肥満外来における栄養指導の実際　――チーム医療における栄養士の役割――	共著	2004年8月	栄養：評価と治療，21	◎田嶋佐和子、馬場天信、木村　穣	pp. 366-369
肥満治療と心理的サポート	共著	2005年3月	体育の科学，55	◎馬場天信、佐藤　豪、木村　穣	pp. 222-226
健康づくりに必要な心理的サポート　――肥満症を中心として――	共著	2005年11月	体育の科学､55	◎馬場天信、佐藤　豪、木村　穣	pp. 837-841
居住空間が人間に及ぼす影響　――聖なる空間をめぐって――	共著	2006年3月	京都文教大学人間学部研究報告，8	◎濱野清志、馬場天信、岡田　愛	pp. 1-14
肥満運動療法と心理的サポート	共著	2006年8月	保健の科学,48	◎木村　穣、馬場天信	pp. 565-569
ロールシャッハ図版に対するアレキシサイミアの感情体験　――SD評定を用いた検討――	単著	2007年3月	京都文教大学人間学部研究報告，9		pp. 61-73
ストレス,パーソナリティと喫煙行動の関連性について--アレキシサイミアとタイプA行動パターンとの関連から	共著	2007年3月	ストレス科学，21	◎佐藤　豪、馬場天信、中西美和	pp. 217-222
肥満外来におけるチーム医療の効果の検討 ： 心理特性と減量効果との関係について	共著	2007年4月	肥満研究，36	◎齋藤瞳、馬場天信、木村　穣、佐藤　豪	pp. 68-73
先端的脳科学研究における被験者体験の心理的影響について　―経皮的脳磁気刺激法(TMS)の被験者へのインタビューを通して―	共著	2009年3月	人間学研究，9	◎濱野清志、金山由美、馬場天信	pp. 13-30
脳計測体験の臨床心理学的検討に関する研究Ⅰ	共著	2009年3月	京都文教大学臨床心理学部研究報告，1	◎濱野清志、金山由美、馬場天信	pp. 41-52
脳計測体験の臨床心理学的検討に関する研究Ⅱ	共著	2009年3月	京都文教大学臨床心理学部研究報告，1	◎金山由美、濱野清志、馬場天信	pp. 53-68
Psychological factors that promote behavior modification by obese patients.	共著	2009年9月	BioPsychoSocial Medicine，3	◎Hitomi Saito，Yutaka Kimura，Sawako Tashima，Nana Takao，Akinori Nakagawa，Takanobu Baba，and Suguru Sato	電子投稿受理により、頁数は未確定（2009年10月8日現在）
その他					
追大心理学部の学生と関わる中で見えてきたこと　――他大学との違いについての私見――	単著	2008年3月	心理学部FD・自己評価委員会年報，2007年度　第2号		pp. 11-16
第１種指定大学院の現状調査報告	共著	2005年12月	心理臨床学研究，23	◎馬場天信、岩田直威、間塚　愛	pp. 628-633

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2002年4月～2005年3月	喫煙科学研究財団研究助成「喫煙助長要因としてのネガティブ感情のコントロール研究」（特定研究グループ2）　共同研究者
2004年4月～2008年5月	同志社中学生活指導部顧問（スクールカウンセラー）
2005年4月	日本心理臨床学会資格問題調査プロジェクト（指定大学院教育の実態調査研究班責任者）
2005年7月～2007年6月， 2009年7月～2011年6月	日本心理学会専門別議員（第３部門）
2006年10月	MPTメディカルパーソナルトレーナー資格講習会講師（臨床心理・認知行動療法　担当）
2007年4月～2008年3月	文部科学省　科学技術総合研究委託費による委託業務「重要政策課題への機動的対応の推進」プログラム「意識の先端的脳科学がもたらす倫理的・社会的・宗教的影響の調査研究」における臨床心理・宗教的・精神的側面の研究における研究担当者
2007年8月	精神分析的心理療法フォーラム発起人
2009年4月	日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究B 課題番号 21730572）（2009年～2013年）「感情発達と関係性に注目したアレキシサイミア形成要因に関する実証的研究」（研究代表者）
2009年4月	日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B 課題番号 21330163）（2009年～2013年）「身体疾患に対する心理臨床的アプローチの基礎研究」（研究分担者）

（表24）

所属　心理学部	職名　　准教授	氏名　溝部　宏二	学位　　医学博士【九州大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	学部：精神医学　　大学院：精神医学特論、臨床心理実習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2004年4月～2007年9月	当該教員は、2007年9月まで医学部に在籍していたので、主にそちらを記載する。 ・医学部2年生（心理学）：医学的心理学、心理療法概論、行動療法・自律訓練法　を担当。 ・医学部4年生（精神医学）小児の精神障害（多動性障害・行為障害）の概論、神経症（不安障害・解離性障害を含む）と人格障害の症候・診断、心身症（摂食障害を含む）の症候・診断・治療　を担当。 ・医学部6年生（症例講義）：心身症を担当。 ・初期研修医（特別講義）：面接法および睡眠障害を担当。 上記は、90分の集団講義形式で、レジュメやスライドを用いて行う。評価は試験で行う。 ・医学部大学院生（ストレスと身体）：パワーポイントで作成した30分間の講義のDVDを見てもらい、与えられたテーマについてレポートを提出してもらう。 ・臨床実習指導（医学部5年生・初期研修医）：外来や病棟で診察の陪席や診察のスーパーバイズを行う。担当患者についてのレポート作成を指導。 ･医学部5年生（勉強会グループ）：「面接法」に関する講義の後、小グループでの討論。メンバーによる患者との面接場面をテープに取り、メンバーに間での評価と討論。 ・後期研修医、若手精神科医：個別による、病棟患者面接を指導。精神療法の指導ならびにスーパーバイズ。 ・精神科大学院生：精神療法研究および実施とそれに関する論文作成を指導。 ・臨床心理学部大学院生の実習指導：予診聴取の指導および面接の指導。
	2007年9月～現在	・心理学部学生：精神医学では、「精神障害者に対する偏見の緩和」と「精神医学の基礎を楽しく学ぶ」とテーマに授業を行った。基礎的な事項の説明の後に、精神障害者を描いた映画の一部分を編集して、視聴させながら解説を加えることで、視覚手に基礎事項を確認できるようにした。 ・心理学部大学院生：当該年は臨床心理実習を担当したが、臨床心理士であると共に精神科医・心療内科医である当該教員の特性を生かした、「精神科医ならどう診るか」などの切り口から事例の解説を試みた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2007年9月～現在	・「精神医学」は授業の度にかなりボリュームのあるレジュメを作成して配布している。授業時間だけでは消化しきれない量であるが、将来的には大学院生用の「精神医学特論」のレジュメと合わせて教科書にする予定であるので、「（講義を聞いていなくても）読めば理解できる」を目指したレジュメになっていると考えている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2009年1月10日	2008年公開シンポジウム(第4回)追手門学院大学優駿ホール シンポジウム「これからの教育相談・生徒指導のあり方―話の聴き方―」 (指定討論者)
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2007年3月	授業評価の全教員平均点（鳥取大学医学部医学科　4年） 問1 問2 問3 問4 問5 問6 AV 3.9 3.8 3.8 3.6 3.7 3.7 SD 0.28 0.28 0.34 0.38 0.38 0.37 問7 問8 問9 問10 問11 問12 AV 3.7 3.7 3.7 3.8 3.6 3.8 SD 0.36 0.40 0.43 0.31 0.30 0.35 当該教員の評価点 問１講義はよく準備されていたか：4.2 問2 シラバスに沿った講義であったか：4.3 問3 教育に熱意が感じられたか：4.3 問4 質問しやすい雰囲気であったか：4.2 問5 明瞭で聞き取りやすい話し方であったか：4.2 問6 教材（プリントやスライド）や板書は適切であったか：4.1 問7 学習意欲、研究や医療に対する意欲が刺激されたか：4.2 問8 重要項目が強調されていたか：4.3 問9 あなたにとって適切な難易度であったか：4.3 問10 今回の講義であなたの知識は増えたか：4.3 問11 あなた自身の学習態度の自己評価は：4.2 問12 本講義に対する総合評価：4.1
	2009年3月	2008年度「授業についてのアンケート調査」（追手門学院大学心理学部大学院生）該当科目である「精神医学特論」の評価点は4.51であった。ちなみに大学平均点3.84、心理学科平均点3.82であった。

Ⅱ　研究活動					
著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
皮膚心療内科	共著	2004年4月	診断と治療社	宮地良樹、久保千春編	pp. 225-229
論文					
病初期に精神病性障害，双極性感情障害を疑われた前頭側頭型痴呆の1例	共著	2005年2月	精神科6	佐々木淳也，植田俊幸，溝部宏二，兼子幸一，吉岡伸一，川原隆造	pp. 174-180
日本内観医学会の視点からみた倫理規定	単著	2005年5月	内観研究11		pp. 19-28
総合病院精神科・心療内科でのアルコール依存症プログラム-内観療法を導入した治療の取り組み-	共著	2005年11月	精神科治療学20	古市厚志、溝部宏二、吉岡伸一、貫名秀、川原隆造	pp. 1171-1177
神経性食欲不振症に対して家族療法と内観療法の併用を試みた一例	共著	2005年12月	内観医学7	朴盛弘、溝部宏二、中込和幸、古市厚志、川原隆信、川原隆造	pp. 31-41
ボンディング障害に対して内観療法が奏功した一例	共著	2006年5月	精神経誌108	古市厚志、溝部宏二、貫名秀、川原隆造	pp. 449-458
大学病院での精神科研修プログラム-鳥取大学の場合-	共著	2007年3月	臨床精神医学36	溝部宏二、中込和幸	pp. 261-268
大学医局システムと地方精神医療	共著	2007年9月	精神科11	溝部宏二、中込和幸	pp. 228-233
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（摂食障害を含む）の疾患の概念と理解	共著	2007年12月	精神経誌109	溝部宏二、中込和幸	pp. 1157-1164
地域精神医療の変遷と今後の展開	単著	2008年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要4		pp. 13-20
摂食障害に対するアディクションアプローチ	単著	2008年5月	アディクションと家族25(1)		pp. 23-28
15番目染色体部分トリソミーを持つ精神病性障害の1症例	共著	2008年6月	精神科治療学23	宮城徹朗、松本寛史、溝部宏二	pp. 755-757
精神疾患における認知機能障害の矯正法	分担訳	2008年12月	星和書店	アリス・メダリア、ナディン・レヴハイム、ティファニー・ハーランズ著 中込和幸、最上多美子監訳（訳者：中込和幸、最上多美子、池澤聡、植田俊幸、片山征爾、兼子幸一、狭間玄以、前田和久、溝部宏二、山田武史）	pp. 23-35
集団遊戯療法にて大学院生に生じる「セラピストとしての心理的展開」	共著	2008年12月	追手門学院大学心のクリニック紀要5	溝部宏二、野上彩、小出さやこ、赤坂直紀、好田史尚、蓬莱暁、宮本哲雄	pp22-33
「摂食障害のこころ」はわかるのか？―アディクションアプローチの勧め―	単著	2009年3月	心療内科13		pp. 157-163

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
＜所属学会＞	日本心理臨床学会、日本臨床心理士会、日本精神神経学会、日本心身医学会、日本内観医学会、日本内観学会、日本サイコオンコロジー学会
2006年4月～2007年9月	西日本神経精神神経学会幹事
2004年4月～2007年9月 （2004年4月以前より継続）	山陰精神神経学会幹事
2004年4月～2007年9月 （2004年4月以前より継続）	山陰小児心身症研究会幹事
2004年4月～2008年6月 （2004年4月以前より継続）	日本心身医学会代議員
2004年9月～現在 （2004年4月以前より継続）	日本内観医学会評議員

＜資格等＞		
1988年5月	医師免許	
1996年3月	医学博士（九州大学）	
2001年8月	日本心身医学会認定医	
2004年6月	精神保健指定医	
2007年3月	日本臨床心理士資格認定	
2008年4月	精神科専門医	
2008年8月	心身医療「内科」専門医（日本心身医学会認定医より移行）	
＜2007年以降の学会活動＞		
2007年5月17日～19日	第103回日本精神神経学会　高知新阪急ホテル	専門医のための特別講座3「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（摂食障害を含む）の疾患の概念と病態の理解」（講師）
2007年5月24日～25日	第58回日本心身医学会総会　福岡国際会議場	一般演題座長
2007年10月5日～6日	第10回日本内観医学会　岡山三光荘	一般演題座長
2007年11月9日～10日	第18回日本嗜癖行動学会　松江くにびきメッセ	シンポジウム「暴力・抑うつに対するアディクションアプローチ」：摂食障害の場合　（シンポジスト）
2008年7月26日	第46回日本心身医学会近畿地方会　神戸国際会議場	嗜癖としての摂食障害―アディクション・アプローチの試み―（一般演題）
2009年10月24日	第12回日本内観医学会　東京医科大学病院	シンポジウム「内観療法の内と外」：精神の弁証法としての内観、その可能性と広がりおよび限界-奥村二吉に学ぶ-　（シンポジスト）
＜社会貢献＞		
2004年4月～2007年9月（2004年4月以前からの継続）	大学病院医師として、地域住民への医療サービスの提供	精神科・心療内科医師として鳥取大学医学部附属病院外来および病棟で診療に携わる。
2004年4月～2007年9月（2004年4月以前からの継続）	鳥取大学医学部心理療法室副室長として、地域への心理支援	精神科外来および病棟で行う精神療法の実施および統括を行う。また地域の学校へ、臨床心理士や精神科医師をスクールカウンセラーとしての派遣を行う。鳥取県のエイズカウンセリングの窓口業務を臨床心理士と共に行う。
2005年4月～2007年9月	鳥取大学医学部職員の精神健康相談業務を担当	毎月1回、鳥取大学医学部及び医学部付属病院に勤務する職員を対象に精神健康相談業務に従事。
2006年4月～2007年9月	鳥取大学保健管理センター米子分室にて学校医として学生の精神健康相談を担当	毎月1回、鳥取大学保健管理センター米子分室にて、医学部（医学科、生命科学科、保健学科）学生及び大学院生を対象に精神健康相談業務に従事。
2006年6月～2007年9月	保険所嘱託医として、地域住民への医療サービス提供	鳥取県西部総合事務所福祉保健局（米子保健所）にて市民に対する精神健康相談を担当。
2006年4月～2007年9月	厚生労働省の研究事業に参画	厚生労働省の心の健康科学研究事業「自殺対策のための戦略研究」の「複合自殺対策プログラムの自殺企図予防効果に関する介入研究試験」に参画し、米子市を中心に企業や医師会、一般市民を対象に「うつと自殺」についての講演会を行う。また、県や市および民間企業が主宰する健康フェスティバル等に参加して啓蒙活動を担当。
2008年4月～現在	地域支援心理研究センター「心のクリニック室長」として地域住民への心理支援	追手門学院（大学・大学院・大学職員以外）園児・児童・学生・職員・父兄のメンタルヘルスの向上に関与。。また、非常勤心理相談員や大学院生と共に、地域住民に対してカウンセリングを行って、主に北摂地域のメンタルヘルスの向上に努める。特に発達障害児や疑いのある幼児に対して、茨木市の障害福祉センターをはじめ、各地の児童相談書などと提携して「プレイセラピー」を行う。
2008年12月	箕面市萱野中央人権センターにて講演	追手門学院大学地域支援心理研究センターの事業として、箕面市らいとぴあ21子ども活動サポーター（ボランティアスタッフ）に対して「発達障害の子どもへの具体的な対処法」というテーマで講演を行った。
2009年4月～現在	スクールカウンセラーへのグループスーパービジョン	毎月1回の割合で、主に大阪近郊のスクールカウンセラーを対象に、学校で困ったケース（特に精神障害の合併がある）を出してもらい、集団でのディスカッションとスーパーバイズを無料にて行っている。
2009年10月～約1年間	プライマリケア医に対する、抗うつ剤の適応拡大のプロモーション協力	グラクソ・スミスクライン株式会社の抗うつ剤（パキシル）の適応拡大のプロモーション用のスライドに「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（摂食障害を含む）の疾患の概念と理解（精神経誌109）」の図が引用された。

所属　心理学部	職名　　学生相談室専任教員	氏名　荒木　浩子	学位　　教育学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目				

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
学部生に対する初級テスト実習	2005年6月， 2006年6月	内田・クレペリン精神検査について学部生に実習を行った。
学部生に対する中級テスト実習	2005年12月， 2007年1月	事例検討について、事例検討形式の授業を行い、体験を重視した授業を行った。
学部生に対する心理検査Ⅱ	2008年4～7月， 2009年4～7月	ロールシャッハ・テストについて学部生に実習・講義を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書		
学部生に対する初級テスト実習の配布教材	2005年6月， 2006年6月	内田・クレペリン精神検査についてまとめた資料を作成した。
学部生に対する中級テスト実習の配布教材	2005年12月， 2007年1月	事例検討について、体験を重視し、かつ倫理などの問題を扱った資料を作成した。
学部生に対する心理検査Ⅱの配布教材	2008年4～7月， 2009年4～7月	ロールシャッハ・テストの実習・講義を行うための配布教材を作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
文部科学省事業「魅力ある大学院教育」 イニシアチブ「糖尿病を生きる」	2006年2月 ～2007年3月	大学院生のグループのチーフをつとめ、左記のテーマについて医療と連携しながら研究を進めてきた。糖尿病者について疾患で区切るのではなく、その人自身がいかに生きるかということを主眼において研究をおこなった。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『第5章5節　大学生の心の健康』	単著	2009年3月	『ワークショップ　大学生の心理学』：ナカニシヤ出版	藤本忠明、東正訓　（編）	pp. 135-143
『箱庭見守り体験からの一考察』	単著	2007年3月	『箱庭療法の事例と展開』〈京都大学心理臨床シリーズ〉コラム：創元社	岡田康伸、皆藤章、田中康裕（編）	pp. 215-216
『短期集中プレイセラピー』	単訳	2007年6月	『プレイセラピー　関係性の営み』：日本評論社	山中康裕（監訳）	pp. 227-232
論文					
『発達障害のもたらす体験世界　―『隙間』についての一考察―　』	単著	2009年3月	追手門学院大学心理学部紀要vol.3		pp. 111-124
『攻撃性と自我のあり方の関連　―　ロールシャッハ･テスト事例からの一考察　―』	単著	2008年3月	追手門学院大学心理学部紀要vol.2		pp. 1-15
『「守る」ということをめぐって』	単著	2008年3月	創造の臨床事例研究Vol.4		pp. 113-122
『筋ジストロフィー児（者）の自立支援に関する臨床心理学的研究』	共著	2008年3月	平成17年度～平成19年度　厚生労働省精神・神経疾患研究委託費　『筋ジストロフィーの療養と自立支援のシステム構築に関する研究』（筋ジス研究神野班）	（分担研究代表者）藤原勝紀	pp. 175-178、pp. 321-325 pp. 321-325
『攻撃性の抑制と自我の強さの関連についての一考察』	単著	2007年3月	京都大学カウンセリングセンター紀要Vol.36		pp. 45-64
『言葉、軸から生まれてくるもの』	単著	2007年3月	創造の臨床事例研究Vol.3		pp. 77-83
『こころに響くとは』	単著	2006年3月	創造の臨床事例研究Vol.2		pp. 103-109

『不登校になり「どうしたらいいかわからない」思いを抱え来談した高校生男子との面接』	単著	2005年3月	京都大学大学院教育学研究科心理相談室紀要，臨床心理事例研究Vol.32		pp.123-130
その他					
『臨床現場に根ざした研究を展開するための基盤構築プロセスー研究の「場づくり」とその臨床実践研究機能からー』 他4題	共著	2007年12月	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費 筋ジストロフィーの療養と自立支援のシステム構築に関する研究（筋ジス研究神野班） 平成19年度班会議発表		
糖尿病者の「生きる」ことの心理臨床的理解の試み　研究成果報告書　第2章第2節，第4章	単著	2007年3月	文部科学省事業「魅力ある大学院教育」 イニシアチブ・カリキュラム研究開発コロキアム　コロキアム番号15		pp.8-11,pp.26-27
『小児科領域における心理臨床』	共著	2006年12月	21世紀COEプログラム京都大学心理学連合　心の働きの総合的研究拠点総括シンポジウム「心の宇宙を探索して」ポスターセッション		
『心理臨床の営みとしての描画』	共著	2006年12月	21世紀COEプログラム京都大学心理学連合　心の働きの総合的研究拠点総括シンポジウム「心の宇宙を探索して」ポスターセッション		
『臨床現場に即した心理臨床研究を進めるための基盤整備と課題検討ー心理臨床の考え方による研究連携体制を構築する中でー』　　他2題	共著	2006年11月	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費 筋ジストロフィーの療養と自立支援のシステム構築に関する研究（筋ジス研究神野班） 平成18年度班会議発表		
『筋ジストロフィー児（者）の自立支援に関する臨床心理学的研究ー患者に関わるスタッフとの面接による研究課題の検討ー』　　他1題	共著	2005年12月	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費 筋ジストロフィーの療養と自立支援のシステム構築に関する研究（筋ジス研究神野班） 平成17年度班会議発表		
『発達障害のもたらす体験世界―『隙間』についての一考察―』	単著	2009年3月	追手門学院大学心理学部紀要vol.3		pp.111-124
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
2008年10月		日本箱庭療法学会　第22回大会　発表 (単)		箱庭での「自分」の表現についてー「怒り」のイメージを通してー	
2008年9月		日本心理臨床学会第27回大会　ワークショップ発表 (共)		心理臨床らしい研究と方法論を求めて	
2006年9月		日本心理臨床学会第25回大会　自主シンポジウム (共)		『小児科領域における心理臨床』	

（表24）

所属　心理学部	職名　　講師	氏名　田中　秀明	学位　　博士（人間科学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	認知神経心理学、生理心理学、認知神経心理学特講、新入生演習、実験心理学演習、特殊演習1、神経生理学特論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義科目	2006年4月1日～2008年5月1日	認知神経心理学と生理心理学では、脳の模型、DVD、ビデオを活用した。資料は、単純で分かり易いものを使用して、脳と心の基本的なメカニズムが理解できるように工夫した。また、講義中に私語によって学習が妨げられないよう、独自のルールを設定し、私語がないように心がけた。講義に集中できたと、学生からの評価も概ね良好であった。
演習科目	2007年4月1日～2008年5月1日	特殊演習では、受講生全員と共同で脳波・事象関連脳電位を使用した認知神経心理学的実験を実施した。デジタル脳波計を使用した実験は日常生活ではなかなか体験できないユニークな経験であり、学生からの評価も概ね良好であった。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ワークショップ大学生活の心理学	共　著	2009年3月	ナカニシヤ出版	藤本忠明・東正訓	pp. 16-26
論文					
エラー関連陰性電位による注意資源の離散的および段階的配分方略の研究	共　著	2005年4月	心理学研究　第76巻1号	田中秀明・望月芳子・正木宏明・高澤則美・山崎勝男	pp. 43-50
継続的タイミングと随伴陰性変動	共　著	2006年12月	生理心理学と精神生理学　第24巻3号	望月芳子・田中秀明・竹内成生・高澤則美・山崎勝男	pp. 219-226
エラー関連陰性電位によるエラー検出と注意資源との関係への検討	単　著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要第1巻		pp. 137-157
Strategy of attentional resource allocation in error monitoring on associated error negativity: A dual task analysis	単　著	2008年3月	追手門学院大学心理学部紀要第2巻		pp. 25-35
その他					
脳波によるヒト前頭部行動モニタリング機能の発達：加齢と個人研究	共　著	2006年3月	科学研究費補助金（基盤研究（C）－課題番号15530478）（2003年～2005年）研究成果報告書	山崎勝男（研究代表者）、田中秀明（研究協力者）	pp. 9-15、pp. 40-47

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	日本生理心理学会、日本心理学会、日本臨床神経生理学会、日本認知心理学会

社会学部

＜社会学科＞

加村　隆英　(157)
新野　三四子　(159)
平木　宏児　(161)
見正　秀基　(162)
矢谷　慈國　(164)
山本　博史　(166)
善積　京子　(168)
吉田　正　(170)
柏原　全孝　(172)
栗山　直子　(173)
清水　学　(175)
城野　充　(176)
千葉　英史　(177)
沼尻　正之　(180)
古川　隆司　(181)
岩渕　亜希子　(187)
内海　博文　(188)
草山　太郎　(190)

（表24）

所属　社会学部	職名　　教授	氏名　加村　隆英	学位　　農学博士【京都府立大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	生物の多様性，基礎生態学，生態・環境論，生態学フィールドワーク１・２			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2004年度春学期授業アンケート結果についてのまとめ	2005年3月	2004年度春学期に担当した「生物の多様性」および「基礎生態学」の授業アンケート結果に基づいて，授業内容を検討した（人間学部FD・自己評価委員会年報，第8号に掲載）.
2008年度の新入生演習と表現演習の成功点と問題点	2009年2月	2008年度に担当した「新入生演習」（春学期）および「表現演習」（秋学期）を振り返り，その授業運営の成功点と問題点を自己分析した（社会学部FD・自己評価委員会年報，第3号に掲載）.
２　作成した教科書、教材、参考書		
追手門学院大学構内及び大学周辺の植物（ホームページ）	2004年4月	「生態学フィールドワーク１・２」の受講学生が学修するうえで参考となる植物の写真をホームページに掲載.
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
座談会「大学における基礎教育をめぐって」に参加	2006年12月	社会学部FD・自己評価委員会が企画した標記の座談会に参加（内容は社会学部FD・自己評価委員会年報，第1号に掲載）.
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
大阪城ネイチャーウオッチング	共著	2008年9月	朝日新聞出版	追手門学院大阪城プロジェクト 編	pp. 56-62
日本産クモ類	共著	2009年8月	東海大学出版会	◎小野展嗣，加村隆英，西川喜朗，他（計19名）	pp. 345-355，pp. 482-500，pp. 549-557
論文					
Spiders of the genus *Otacilia* (Araneae: Corinnidae) from Japan	単著	2004年12月	Acta Arachnologica, Vol. 53, No. 2		pp. 87-92
Description of the male of *Phrurolithus labialis* (Araneae: Corinnidae)	単著	2005年12月	Acta Arachnologica, Vol. 54, No. 2		pp. 93-94
Spiders of the genus *Haplodrassus* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan	単著	2007年3月	Acta Arachnologica, Vol. 55, No. 2		pp. 95-103
人間の生活空間に存在する樹木	単著	2007年3月	追手門学院大学社会学部紀要，No. 1		pp. 97-104
A new species of the genus *Otacilia* (Araneae: Corinnidae) from Japan	単著	2008年7月	Acta Arachnologica, Vol. 57, No. 1		pp. 41-42
コウライタンボグモとミヤマタンボグモ	単著	2008年7月	蜘蛛（中部蜘蛛懇談会会誌），No. 41		pp. 1-3
大阪城公園のクモ類	単著	2008年11月	追手門学院創立120周年記念事業 大阪城プロジェクト調査報告書 いのちの城・大阪城公園の生きもの		pp. 187-196
その他					
喜界島でハイイロゴケグモを発見	単著	2004年12月	くものいと（関西クモ研究会会誌），No. 36		p. 1
喜界島探蛛行	単著	2005年5月	遊絲（日本蜘蛛学会ニュースレター），No. 16		pp. 8-13

書評：宋大祥 他（編著）「中国動物誌 無脊椎動物第三十九巻 蛛形綱 蜘蛛目 平腹蛛科」2004年，科学出版社（北京）	単著	2005年7月	Acta Arachnologica, Vol. 54, No. 1		p.68
宮城県におけるコアシダカグモの記録	単著	2006年9月	くものいと（関西クモ研究会会誌），No. 39		pp.34-35
大阪府高槻市市街地のクモ２種	単著	2006年9月	くものいと（関西クモ研究会会誌），No. 39		pp.36-37
書評：新海栄一「日本のクモ」2006年，文一総合出版	単著	2007年5月	遊絲（日本蜘蛛学会ニュースレター），No. 20		pp.7-9
深泥池の自然と暮らし	共著	2008年3月	サンライズ出版	深泥池七人委員会編集部会 編	p.52
書評：谷川明男「日本産コガネグモ科ジョロウグモ科アシナガグモ科のクモ類同定の手引き」2007年，日本蜘蛛学会	単著	2008年7月	Acta Arachnologica, Vol. 57, No. 1		p.58
同定指南 ネコグモ科 ウラシマグモ属およびナンゴクウラシマグモ属	単著	2009年4月	くものいと（関西クモ研究会会誌），No. 42		pp.62-70

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜学会活動＞	
1992年4月～2007年3月	関西クモ研究会庶務幹事
2000年4月～2006年3月， 2009年4月～現在	日本蜘蛛学会評議員
2003年4月～2009年3月	日本蜘蛛学会編集委員
2003年4月～現在	関西クモ研究会会計幹事
2006年4月～2009年3月	日本蜘蛛学会図書幹事
2007年9月～2008年8月	日本蜘蛛学会第40回大会（2008年8月23-24日，追手門学院大阪城スクエア）の大会事務局を担当
2008年8月24日	口頭発表「大阪城公園のクモ類」日本蜘蛛学会第40回大会（追手門学院大阪城スクエア）
＜社会活動＞	
2005年6月26日	京都YMCA主催の自然観察会（場所：京都市深泥池）で講師を務める
2005年8月24日	豊中市教育センター主催の環境教育研修会で講演（演題：クモから見た環境教育）
2005年10月～2007年3月	京都府外来生物実態調査専門委員会 昆虫部会 委員
2006年4月～2009年3月	追手門学院創立120周年記念事業　大阪城プロジェクト 委員（学術総括）
2007年6月19日	近畿フマキラー会の研修会で講演（演題：建物内外で見られるクモについて―習性，生態とその同定）
2007年7月1日	京都YMCA主催の自然観察会（場所：大阪城公園）で講師を務める
2008年4月26日	INAXギャラリー大阪主催の自然観察会「探す見る知るクモの不思議」（場所：大阪城公園）で講師を務める
2008年5月11日	追手門学院創立120周年記念事業　大阪城プロジェクト「生きもの探検隊」（場所：大阪城公園）で講師を務める
2008年9月6日	追手門学院創立120周年記念事業　大阪城プロジェクト「シンポジウム　自然が育む人と未来」にパネリストとして参加
2008年9月13日	豊中市教育センター主催「サイエンス・カフェ」で講演（演題：クモは何もの？）

（表24）

所属　社会学部	職名　　教授	氏名　新野　三四子	学位　　文学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	社会福祉原論、社会福祉援助技術論、社会福祉の考え方、社会福祉援助技術現場実習指導、基礎演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
①自作小説を用いた「プロセスレコード」学習法	2006年3月29日	追手門学院大学人間学部紀要20号にて紹介、105-123頁
②福祉現場における体験学習	2004年～現在まで随時	障害者施設、高齢者施設、釜ヶ崎地域等における体験学習の企画と実施
2　作成した教科書、教材、参考書		
①福祉ワーカー養成講座「福祉マインド実践論」	2007年3月20日	新野三四子『福祉マインド教育実践論』（ナカニシヤ出版）に所収、169-184頁
②利用者理解を深める実習学習の展開	2007年3月20日	新野三四子『福祉マインド教育実践論』（ナカニシヤ出版）に所収、135-159頁
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
①新しい実習教育の構築に向けて －生涯学習としての実習教育の可能性－	2005年10月9日	日本社会福祉学会第53回大会自主企画シンポジウムにて発表
②介護福祉教育のジェンダー課題	2007年10月7日	第15回日本介護福祉学会大会にて口頭発表
③幼児教育（保育）実践に必要な福祉マインドとは何か	2008年1月26日	南大阪幼稚園教員研修会
4　その他教育活動上特記すべき事項		
①追手門学院大学特色ある教育改革推進個人部門助成	2006年度	福祉の実務者及び当事者を招き体験学習を実施する企画に対して
②追手門学院大学共同研究助成	2006年度	共同研究「21世紀ジェンダー教育の構築」に対して
③追手門学院大学特色ある個人研究助成	2007年度	「キリスト教社会福祉におけるワーカー養成教育に関する研究」に対して

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
日本キリスト教社会福祉学会の存在意義と使命報告書	共著	2004年7月	日本キリスト教社会福祉学会	永岡正己、岡山孝太郎、秋山智久、新野三四子、岡本榮一	A4版全41頁、共同研究につき本人分担箇所抽出不可
福祉マインド教育実践論	単著	2007年3月	ナカニシヤ出版		A5版全246頁
論文					
プロセスレコードによる対人援助学習法	単著	2006年3月	追手門学院大学人間学部紀要20号		pp. 105-123
「障害程度区分判定」の問題点についての若干の意見	単著	2007年3月	追手門学院大学社会学部紀要創刊号		pp. 105-118
福祉専門職養成をめぐるジェンダー課題	単著	2007年3月	2006年度追手門学院大学共同研究報告書『21世紀ジェンダー教育の構築』		pp. 163-192
キリスト教社会福祉教育とダイバージョナルセラピー教育の接点	単著	2009年3月	追手門学院大学社会学部紀要3号		pp. 101-136
その他					
介護教員講習会における在宅ケア展開を考える	単著	2006年3月	『専門介護福祉士の展望～次世代の新しい介護福祉士の養成に向けて～』北隆館	監修：小林光俊	pp. 191-192
書評：三原博光・山岡喜美子・金子努編著『認知症高齢者の理解と援助；豊かな介護社会を目指して』	単著	2009年10月	学会誌『介護福祉学』Vol. 16, No. 2、日本介護福祉学会		pp. 122-123

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1994年1月～現在	大阪ソーシャルワーカー協会副会長
1997年4月～現在	日本ソーシャルワーカー協会研修委員
1998年6月～現在	日本キリスト教社会福祉学会理事
1999年1月～現在	神戸市社会福祉協議会こうべ安心サポートセンター専門委員（成年後見判定部会及び事業運用審査委員会）
2002年4月～現在	特定非営利活動法人日本ダイバージョナルセラピー協会監事
2002年12月～現在	社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会評議員及び身体障害者療護施設はんしん自立の家苦情解決第三者委員
2003年10月～現在	日本介護福祉学会学会誌編集委員及び査読委員

2005年1月～2008年3月	大阪府茨木市障害者施策懇談会委員（副会長）
2005年7月～2005年10月	大阪府茨木市保育所保育料に関する懇談会委員（副会長）
2006年5月～2006年8月	大阪府茨木市保育所民営化移管法人選考委員会委員（2006年度）
2006年5月～現在	大阪府茨木市障害程度区分等認定審査会委員（合議体の長）
2007年4月～現在	大阪府茨木市個人情報保護運営審議会委員（副会長）
2007年5月～2007年8月	大阪府茨木市保育所民営化移管法人選考委員会委員（2007年度）
2007年6月～2009年3月	大阪府茨木市放課後対策事業運営委員会委員（副会長）
2008年3月～現在	大阪府茨木市障害者施策推進協議会委員（副会長）
2008年10月～現在	日豪のダイバージョナルセラピー協会共同認定によるダイバージョナルセラピーワーカー養成講座講師及び認定試験委員

（表24）

所属　社会学部	職名　　教授	氏名　平木　宏児	学位　　体育学士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	基礎体育・応用体育・レクリエーション実技・レクリエーション実習・余暇生活実習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2004年～2009年	（1）体育実技は評価基準を明確にしている。 （2）レクリエーション関係科目は、レクリエーションの大切さや幅広さに重点を置いて、これからの生活に欠かすことの出来ない分野としている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
プリント・パワーポイントを作成	2004年～2009年	パワーポイントを作成し講義に約立てている。また、適宜プリントを作成し配布し学生の理解を深めるようにしている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
大学生の生活調査と健康について	単著	2007年3月31日	追手門学院大学　創立40周年記念論集		pp.61-72
オーストラリアと日本の高齢者介護施設におけるケアについての研究	共同	2009年3月	オーストラリア学会編集 オーストラリア研究Vol.22	三宅眞理・Anne Rock・田近亜蘭・保津真一郎・仁木稔・西山利正	PP.73-83
その他					
＜学会発表＞					
女子大学における水泳実習の授業評価	共同	2006年8月18日	日本体育学会第57回大会	灘英世・木谷織信・安田忠典・溝畑寛治・宮内一三・間瀬知紀・見正秀基・	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1967年4月	日本体育学会会員

（表24）

所属　社会学部	職名　　教授	氏名　見正　秀基	学位	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	基礎体育　　応用体育　スポーツ概論　余暇とレクリエーション　余暇生活実習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
体育実技においてカードワークの活用	2004年4月～現在	学期中、カードに数点の問いかけをしカードワークで履修学生に問いかけをし、実技授業の実践に運用している
講義科目においてシラバスの運用	2004年4月～現在	学期の始めに履修学生全員にシラバスを配布して学ぶ目標と意識を明確にする
2　作成した教科書、教材、参考書		
スポーツ概論（スポーツマスコミ論）では各種メディアの活用	2004年4月～現在	毎授業時にタイムリーな情報をプリントにまとめ履修学生に提供している
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
青年会議所が主催する地域の市民を対象とした、講演会等で余暇生活の過ごし方についての講演などを行う。	2005年10月16日	（社）富田林市青年会議所より依頼をうけ、青年会議所のメンバーにはリーダーの心得につき講演をした。その後市民を対象に余暇生活のテーマで講演をした。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1972年4月～現在	（財）日本体育学会会員
1973年4月～現在	（財）日本レクリエーション学会会員
1996年4月～現在	日本体育大学バレーボール研究会会員

注記：2004年４月１日から2009年５月１日までの期間に、著書・論文・その他の執筆は全くありません。

（表25）

所属　社会学部	職名　教授	氏名	見正秀基

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場　　所	開催日時	発表・展示等の内容等
第65回南河内地区ママさんバレーボール春季大会	大阪狭山市総合体育館	2008年5月6日	大阪狭山市総合体育館において大会会長として任を遂行した
第30回南河内地区芝池杯バレーボールファミリー大会	太子町立総合体育館	2008年7月13日	太子町立体育館において参加されたママさん夫婦の大会会長の任を遂行した
第29回南河内地区9人制ママさんバレーボール大会	千早赤坂村Ｂ＆G海洋センター	2008年9月14日	千早赤阪村B&G海洋センターにおいて大会会長として任を遂行した
第66回南河内地区ママさんバレーボール秋季クラス別大会	藤井寺市立民総合体育館	2008年12月7日	藤井寺市民総合体育館において大会会長として任を遂行した
大阪府学生バレーボール男女選手権大会	大阪商業大学・大阪体育大学	2008年11月22～23日	大阪府学生バレーボール男女選手権大会の参事に委嘱され任を遂行した
南河内地区ママさんバレーボール審判講習会	大阪狭山市総合体育館	2009年4月24日	役員12名、各チームより13名計25名を対象に今年度競技規則の講習会を開催し講師として遂行した
第66回南河内地区ママさんバレーボール春季大会	大阪狭山市総合体育館	2009年5月6日	大阪狭山市総合体育館において大会会長として任を遂行した

（表24）

所属　社会学部	職名　　教授	氏名　矢谷　慈國	学位　　社会学博士【関西学院大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	人間学・社会人間学・人間学特講・生活社会論・知識社会学・社会学演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
社会学フィールドワーク	2004年～2008年	・大学近郊の農家より田畑を借用して米や野菜を作る実習
キャンプ実習	毎年８月初旬３泊４日	・電気ガス水道のない山の中で「食うこと寝ること遊ぶことそして学ぶこと」をテーマにキャンプ実習を行っている
2　作成した教科書、教材、参考書		
社会学フィールドワーク	各年度	・畑の作物の配置図配布２回.年度末にその年に行った作業表と結果まとめの配布
キャンプ実習	毎年12月	・その年に行ったキャンプ実習の矢谷によるまとめと学生の感想文集を作成
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
原点に立ち返って考え直す教育実践について,―私の「社会学フィールドワーク」―	2004年3月31日	『追手門学院大学「特色ある教育：平成15年度報告集―体験型学習の多様な展開―」』
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
On Dr.Kazuta Kurauchi's Phenomenoligical Sociology(1)	単著	2004年8月	「追手門学院大学紀要」17号		
Towards the Ecological Capitalism	単著	2006年2月	「追手門学院大学紀要」20号（研究ノート）		
On Dr.Kazuta Kurauchi's Phenomenoligical Sociology(2)	単著	2009年3月	「追手門学院大学社会学部紀要」第３号		
その他 翻訳					
Translations of Kazuta Kurauchi's writtengs by Yoshikuni Yatani					
Phenomenological Sociology:Time and Society.	単著	2004年8月	「追手門学院大学紀要」17号		
Democracy and Confucian Tradition	単著	2005年9月	「追手門学院大学紀要」19号		
法則Law,運命Fate,規範Norm,潮流Stream.	単著	2006年2月	「追手門学院大学紀要」20号		
前集団Preceding groups,現集団Present groups,後集団Subsequent groups.	単著	2008年3月	「追手門学院大学社会学部紀要」第２号		
道元著『正方眼蔵』第46『無常説法』（現代語訳）『追手門経済論集』	単著	2007年3月	宇田正教授退職記念号第41巻1号		
道元著『正法眼蔵』第25『渓声山色』（現代語訳）	単著	2007年3月	「追手門学院大学社会学部紀要」第１号		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
1984年より現在	Ja-Dhrra(アジア農村の人的資源を開発する会,日本支部) 代表
1997年9月より現在	市民団体「ピースあい代表」
2008年4月１日より現在	全国愛農会理事
2008年4月１日より現在	NPOひまわりの森理事

（表24）

所属　社会学部	職名　　教授	氏名　山本　博史	学位　博士（文学）【大阪大学2003年2月】 文学修士【大阪大学1979年3月】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	哲学概論１・２、環境倫理学、現代社会と倫理、新入生演習、表現演習、基礎演習１・２、社会学演習１・２、社会学演習３・４			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	1998年6月より毎年更新	基本的には教科書を用いず、シラバスに記載した内容に沿って適宜資料を配布しながら授業を展開している。自ら作成したホームページ内に、参考資料（一般に常時公開しているものと、期間を限定して受講者のみにアクセスを制限しているものとがある）を提示したり、パワーポイントを使ったりするなど、IT機器を積極的に利用した授業を行っている。 また、できるだけ身近な事柄から考えさせる授業を試みている。 大学全体で「学生による授業アンケート」が実施される以前から、個人的に授業アンケートを積極的に実施してきたが、大学実施の授業アンケートでは評価の高い項目もあれば評価の低い項目もあり、例年平均的な評価となっている。マークシートではなくて、自由記述方式のアンケートについては、概ね良い評価を得ている。
２　作成した教科書、教材、参考書		
	1998年6月より毎年更新	自ら作成したホームページ内に、授業のための参考資料を多数提示している。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
大阪府「まなびング」サポート事業について	2004年6月	大学教育学会第26回大会（北海道大学）において「大学教育の連携」というテーマで開催されたシンポジウムにてパネリストとして発表
「授業アンケートー学生の声をどう生かすかー」	2005年7月	追手門学院大学教育研究所・全学自己評価委員会共催のシンポジウム「授業アンケートー学生の声をどう生かすかー」でパネリストを務めた
本学のFD活動に欠けているもの	2009年9月	追手門学院大学国際教養学部FD懇話会にて話題提供した
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
大阪府「まなびング」サポート事業について―体験型学習とロゴス化―	単著	2004年11月	『大学教育学会誌』第26巻第2号		pp. 53-56
カントの賞味期限と倫理学の行方	単著	2006年11月	『ディルタイ研究』第17号（日本ディルタイ協会発行）		pp. 89-99
主体-客体の脱構築から、食の哲学を試みる	単著	2006年11月	『おいしさの科学』Vol.2（社団法人おいしさの科学研究所編集、食品研究社発行）		pp. 4-9
秘匿された〈まなざし〉-カントの〈狂気論〉-	単著	2007年3月	『追手門学院大学社会学部紀要』創刊号		pp. 85-96
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	日本哲学会、日本カント協会、「戦争・女性・人権」学会	
＜学会発表など＞		
2004年6月	大阪府「まなびング」サポート事業について 単独	大学教育学会第26回大会（北海道大学）において「大学教育の連携」というテーマで開催されたシンポジウムにて発表(再掲)
2006年7月	カントの賞味期限と倫理学の行方 単独	日本ショーペンハウアー協会共催、日本カント協会協賛で開催された共同討論「道徳論の諸相と行方 ― カント、ショーペンハウアー、ディルタイ」にて提題者として発表

＜社会活動＞		
1. 委員など		
2003年2月～現在	池田市男女共同参画審議会委員	
2003年12月～現在	池田市教育問題懇話会委員	
2005年度	大学基準協会全学評価分科会委員	
2005年7月～2007年6月	不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践的研究事業運営委員	事業主体トイボックス、文部科学省助成、中間報告書及び最終報告書の作成に協力
2006年2月～現在	門真市男女共同参画審議会会長	
2006年4月～現在	池田市緑化推進委員	学校園活用部会長として2006-07年度の事業報告書を作成、2008-09年度の事業計画案を作成
2. 講演など		
2005年10月	学校教育の現状と課題(単独)	追手門学院大学地域支援心理研究センター主催公開シンポジウムにて発表
2006年5月	癒しの二義性(単独)	楽学舎［大阪府看護協会の実習指導者の自己研修集団］（住友病院）にて講演
2009年6月	今、なぜ男女共同参画が求められているのか(単独)	門真市男女共同参画研究講座にて講演

（表24）

所属　社会学部	職名　　教授	氏名　善積　京子	学位　　家政学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	家族論、家族比較論、ジェンダーと社会、社会調査フィールドワーク			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2004年12月	人間学部FD活動において、「学生の授業評価アンケート調査」のデータ分析を報告する。
2　作成した教科書、教材、参考書		
教材用「スウェーデンの性教育；イツテルビー中学校」のDVDを制作	2006年9月	スウェーデンの中学校など視察した時に撮影したビデオを編集
宮本みち子・善積京子編『現代世界の結婚と家族』日本放送出版協会、	2008年3月	「人口統計からみた世界の結婚・家族」「親密なパートナー関係の多様化と結婚」「結婚・家族のゆくえ」の章を分担執筆
「トランスジェンダー：多様な性のあり方」	2009年4月1日	追手門学院大学人権啓発委員会発行の『追大人権ビエンナーレ』第2号に執筆
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
日本放送大学、科目『現代世界の結婚と家族』	2007年10月、12月	テレビ番組、1回目、3回、15回目を収録
4　その他教育活動上特記すべき事項		
専門社会調査士資格を取得	2004年9月	（認定番号000177）

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『非婚の親と婚外子：差別なき明日に向かって』「スウェーデンの婚外子と婚姻制度」	単著	2004年5月	青木書店	婚差会編	pp. 210-234
Women in Japan and Sweden:Work and Family in Two Welfare Regimes, “Marital Power in Japan Compared to Sweden: Considering of Wife‘s Employment Status,”	共著	2004年5月	Almqvist & Wiksell International	◎Kyoko Yoshizumi & Mieko Takahashi。Carl le Grand & Toshiko Tsukaguchi-le Grand (Eds.)	pp. 202-233
『スウェーデンの家族とパートナー関係』「個人単位社会スウェーデンの家族政策」「権力の視点からみた夫妻関係」	単著	2004年11月	青木書店	善積京子編	pp. 7-17、pp. 201-230
『女性のデータブック』（第４版）、「結婚・家族はどう変わったか」	単著	2005年1月	有斐閣	井上輝子・江原由美子編	pp. 1-26
『論点ハンドブック：家族社会学』「結婚の定義づけ」「伝統的な結婚」「制度としての結婚」「非婚の異性同棲カップル」	単著	2009年3月	世界思想社	野々山久也編	pp. 105-108、pp. 113-120、pp. 255-258
雑誌・論文					
「スウェーデンの保育と幼児教育」	共著	2005年2月	『追手門学院大学に人間学部紀要』18号	◎善積京子・森陽子	pp. 63-81
「学生の授業評価アンケート調査のデータ分析」	単著	2005年3月	『追手門学院大学教育研究所紀要』第23号		pp. 29-41
「婚姻制度からみた親子関係」	単著	2005年5月	関西社会学会『フォーラム現代社会』第4号		pp. 66-74
「スウェーデンの基礎学校と民主主義教育」	単著	2006年2月	『追手門学院大学人間学部紀要』20号		pp. 131-150
「スウェーデンの性・ジェンダー教育」	単著	2007年3月	『21世紀ジュエンダー教育の構築-フィールドワークからの発信』追手門学院ジェンダー教育研究会		pp. 41-80

「スウェーデンにおける離別後の養育・居所・面会(その1)―養育規程と家族法事務所」	単著	2009年3月	『追手門学院大学社会学部紀要』3号		pp. 169-191
その他・学会などでの発表					
「婚姻制度からみた親子関係」	単	2004年5月	関西社会学会、シンポジウム「近代家族の揺らぎと親子関係」で報告		
「スウェーデンにおける同性カップルの生活と制度」	単	2007年12月	お茶大シンポ『同性カップルの生活と制度』で、コメンテーターとして他の報告者の内容にもコメント。		
「スウェーデンにおける離別後の養育・居所・面会：〈子どもの最善の利益〉視点から裁判訴訟ケース分析」	単	2008年9月6日	日本家族社会学会第18回大会		
「スウェーデンにおける〈子どもの最善の利益〉養育規程と裁判訴訟事例分析」	単	2009年3月17日	親子の交流を実現する親の会主催 衆議院第2議員会館において、講演		
「スウェーデンにおける〈子どもの最善の利益〉―養育・居所・面会の訴訟分析」	単	2009年3月29日	親子ネット関西主催、大阪市立青少年文化創造センターにおいて講演		
「離婚と〈子どもの最善の利益〉：スウェーデンと日本で、なぜこんなに違うの？」	単	2009年4月29日	親子ネット関西主催、大阪市立青少年文化創造センターにおいて講演		
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
2004年度	・交野市人権尊重のまちづくり審議会委員				
2004～2005年度	・日本学術振興会・特別研究員等審査会専門委員				
2006年～	・放送大学：科目「現代世界の結婚と家族」主任講師（客員教授）				
2007年～	・関西社会学会理事				

（表24）

所属　社会学部	職名　　教授	氏名　吉田　正	学位　　社会学修士【関西学院大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	人間関係論・人間形成論・人権教育論・社会学フイールドワーク・現代社会と人権・社会学的人間論(院)・文化社会学演習(院)			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
KJ法を応用したBRDのワークシートによるレポート提出	2006年4月～現在	BRDは、Ｂreaf Ｒeport of the Day の略でその日の内に作成して提出する方式のレポートである。講義内容を先ず「取材ノート型メモ」方式により言葉を採取しながら図解レイアウトを行い、それを8枚のラレルに切り取り、次にそれを4枚のラベルに要約し、それらを組み合わせて400字に文章化する。裏面には200字の小論文と自ら質問し自ら回答する欄があり、すへてを自ら回答する欄が有り、裏表全てを余白なしに埋めて提出することが、学ぶということの一仕事として学生を励まして実践。この方式は、現代社会と人権、人権教育論などの多人数の受講生を参加型の授業に参加させるのに非常に有効であり、学生もまた文章化能力の向上を実感できる。
小型ホワイトボード（マジック板）を用いた発想法	2007年4月～現在	30cm ×10cm のホワイトボードに学生の意見や発想を筆ペンで書かせて、それらを内容の類似したものを順番に貼り付けながら、黒板上で簡略KJ発想法を行う。この方式は、ゼミやフィールドワークなどの少人数教育に最適。
ネームカードの作成と手渡しによるフィールドワーク実践による学生との触れ合いツール	2007年4月～現在	市販の首からさげるネームカード入れにマジックインキでも映らない防水加工の画用紙を購入にカードサイズに裁断して、名前と特技と好きな食べ物趣味などを、カラフルにレタリングして自己紹介も兼ねたネームカードを作成させる。ゼミやフィールドワークなどの授業の始めに手渡しし、残ったカーとは欠席者。手渡しすることでチョッとした対話が生まれ個性的なカードと共に名前をおぼえることで小さな対話が生まれ、個性的なカードと共に学生の名前を覚える
脱力の身体技法の修得のために、体育館において、木ゴマ・ベーゴマ、木刀、なぎなた等を使用し、振り返りシート作成	2007年4月～現在	既に身につけている筋力運動法から脱力の自然身体運動法に移行させるための方法として誰でも出来る木ごまから始めて未知の木刀やなぎなたが振れるまでの体腱を授業ごとにワークシートに記入し、それらをデータとして最後にひとまとまりの自分のデータとしのの最後に上達仮定とコツの体腱のレポートする。自己を常に振り返り、自分が日常生活で自明として疑わない領域の身体技法を自覚化させるワークシート
短歌の作成指導と歌集『学生歌壇－日々新たに集』の出版	1996年12月創刊～毎年度末出版、2007年度12号を出馬、継続中。	創刊号は、教育社会学・社会学的人間論・人間学演習・講読演習の受講生に短歌の作り方とその意義について講義し、レポートの一つとして提出させ、上手下手にかかわらず、『学生歌壇－日々新たに集』に掲載した。現在は、短歌であるための基準を明確に示して、全ての担当科目の受講生から短歌を募集して、2008年1月の出版で12号まで継続してきた。2008年11月には、追手門学院創立120周年記念「青が散る」aword　短詩の部に応募した「新入生演習」受講生の作品が審査員特別賞を受賞した。
剣道部員に対する短歌の作成指導と歌集『独妙剣』の出版	2007年3月創刊～毎年度末出版、2007年度第２号を出版、継続中。	文武両道をクラブの共同目標に掲げ、文の表現として短歌づくりを指導し、夏合宿の歌と学生生活の日常の歌を1人10首程度の作品を選んで歌集『独妙剣』として出版した。2008年11月には、追手門学院120周年記念「青が散る」aword短詩の部に応募した部員の作品が大学の部として優秀賞を受賞した。
社会学科「特色ある教育」プログラム「さかさま大学合宿KJ法」の実践 さかさま大学KJ２００５ さかさま大学KJ２００６ さかさま大学KJ２００７ さかさま大学KJ２００８ さかさま大学KJ２００９	2005年３月１日～３日 2006年３月13日～15日 2007年３月17日～19日 2008年３月16日～18日 2009年３月１日～３日	このプログラムは、人間学部が創設去れて以来、10数年間継続している社会学科の「特色ある教育」プログラムである。他に1名～2名の教員の協力を得て、参加学生10名～12名を公募し、滋賀県甲賀市の公立ホテルで2泊3日の合宿を行い、2～3チームを編成し、教員がインストラクターとして参加する。この期間中に、問題設定からKJ図解の共同制作、口頭発表と文章化まで行うが、特に問題設定ラウンドで問題を人間学・社会学的に深めるために教員の参加は不可欠である。「さかさま大学」のネーミングは、大学における教える者と教えられる者という観念を払拭して教員も学生も自ら学ぶ主体としてかかわりあおうというプログラムの趣旨を表現したものである。
2　作成した教科書、教材、参考書		
教材パンフ『合宿KJ法～インストラクター要請講座～』改訂版の作成	2007年3月	人間学部社会学科における「特色ある教育」として開始した2泊3日の合宿によるKJ法の講習会のために作成した教材パンフを改訂して、新たに「KJ法とは何か」というテーマをKJ法図解で表現して添付した。このKJ法合宿は、教員２名と学生12名程度、更には数名の卒業生の参加を得て、テーマ設定から作品づくり、作品の文章化までを実施する、非常にハードな合宿である。この講習会は、「さかさま大学KJ2000」というように、その年度の年数を付記して毎年度末に10数年来実施している社会学科の教育活動である。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
人間学部からの贈り物FD	2006年2月16日	第10回人間学部FD談話会において、文学部社会学科としての30年の歩みを基礎にしてスタートした人間学部社会学科10年の教育活動を総括し、2006年4月に開設される社会学部社会学科に期待される教育実践について、参加型の授業、現場実習を学びの原点とすること、共感思考を大切にすることを提言した。
私の新学部構想とマニュフェスト	2006年6月29日	第1回社会学部FD談話会において、社会学部が目指す人材育成のための方法を述べ、1年生から4年生に至る段階に対応させて発表した。

「プリエントランス」のプログラム開発とKJ法による結果報告	2008年1月26日	推薦入試で2007年12月までに社会学科に合格した生徒約50名に対して、参加型授業形式で大学の講義体験・ゼミ体験・対話体験など、異質の社会体験を次々に実習。生徒が最後に書いた感想文の内容をKJ図解にまとめて、学科会議で報告した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
共通科目「現代社会と人権」の担当者として、各学部から派遣されたれた教員８名の発題講義内容を相互に調整して学生に提供するという、ユニークなオムニバス形式の授業を人間学部創設の時以来継続して実施していること。派遣される教員の人選は「人権啓発委員会」が行い、その講義内容は各研究者の研究領域と陣形問題がかかわる接点のところをテーマとする。この授業の狙いは、人権問題はどんな社会科学とも無縁ではないことを、各教員は自分の学問宇野において、各学部に所属する学生は専攻する学問との関係において、人権問題を常に意識化することである。		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
人権教育としての短歌づくり～「自己の述語作用」を捉える試み～	単著	2009年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第27号		pp. 47-57
その他					
自然身体運動法(Ⅴ)～脱力・渾身の身体技法～	単著	2005年2月	追手門学院大学人間学部紀要18号		pp. 83-99
新学部のFDのあり方について～〈人間学部からの贈り物FD〉～		2006年3月	追手門学院大学人間学部自己評価委員会年報　第９号		pp. 21-28
私の新学部構想とマニュフェスト	単著	2007年3月	追手門学院大学社会学部自己評価　第１号		pp. 2-11
人は大きく、吾は小さく	単著	2007年3月	学生向け人権啓発パンフ　創刊号		2頁
自然身体運動法(Ⅵ)～「浮き」を掛けるためのコンディショニング～	単著	2008年3月	追手門学院大学社会学部紀要２号		pp. 91-107
自然身体運動法(Ⅶ)―古武術の型稽古に見る基礎身体技法～その解明の試み―	単著	2009年3月	追手門学院大学社会学部紀要３号		pp. 201-222

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1994年4月～現在	茨木市体育協会加盟団体、茨木市なぎなた連盟の理事長として運営ならびに実技指導にあたり、毎年度末に「茨木市体育協会杯争奪総合体今祭」に参加し、茨木市民体育館において「茨木市なぎなた大会」の開催責任者となる。
2003年1月～2006年3月まで	茨木市立安威小学校　学校協議　会委員に学識経験者として参画
2004年4月～2005年3月	育成支援に関する懇談会」に学識経験者験者として４回の会議に参加し、副会長として「茨木市次世代育成支援行動計画策定に向けた意見書」を取りまとめた。
2005年4月6日～5月6日	茨木市審議会「茨木市次世代追手門学院大学公開講座 テーマ「温故知新～古いモノから新しい明日へ、くらしの指針～」、第6回講座4月16日、「古武術に学ぶ～脱力・渾身の身体技法～」担当
2005年7月29日	安威小学校区人権講演会　テーマ「肩書き社会とレッテル貼り」担当
2009年8月4日	特別公開講座　追手門学院大学社会人講座「おうてもん塾」第2期(2009年6月～8月)、テーマ「スポーツと環境」第6講(最終回)において、「古武術で目覚めるもう一つのからだ」のテーマで実技指導と講演を行った。

（表24）

所属　社会学部	職名　　准教授	氏名　柏原　全孝	学位　　修士（人間科学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	メディア文化史、スポーツ社会学、社会学演習、新入生演習、基礎演習、表現演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
新入生演習	2006年4月	グループごとに分かれ、それぞれのグループが授業１回分の企画を練り、実現のための準備から授業時の進行等一切を仕切る形の授業を実施。学生が企画実現にむけて様々な工夫ができるよう企画内容は制限せずに行う。これまで、学内でのスポーツ大会、水鉄砲大会、たこ焼き、もんじゃ焼きなどを実施した。ただし、こうした企画については大学が禁止の方向を打ち出し、特色ある導入教育が阻害されつつある。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
アスベスト工事説明会実施と期間変更の要求と実現	2007年6月	大学当局が一切の説明も配慮もないまま学期期間中にアスベスト工事を開始した。学生はもとより、教職員にも危険が及びかねないものであった。そこで、教育環境の保持のため、夏期休暇期間への変更とともに、説明会実施を大学当局に強く要望し、実現させた。大学としての当然考慮してしかるべき事項を考慮できなかった大学当局の責任の所在等を明らかにし、今後にこうした無思慮な事案発生を未然に防ぐべく大学当局に報告書等の提出を求めたが、当局は理由を示すことなく拒否した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
社会学ベーシックス４都市的世界	共著	2008年12月	世界思想社	井上俊・伊藤公雄編	24章「監視の深化」
論文					
窃視の社会学	単著	2007年3月	追手門学院大学社会学部紀要１号		pp. 1-11
監視と盗撮	単著	2009年3月	追手門学院大学社会学部紀要３号		pp. 17-32
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　社会学部	職名　講師	氏名　栗山　直子	学位　社会福祉学修士、社会学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	児童福祉論、地域福祉論、入門ジェンダー論、社会福祉援助技術演習、社会福祉援助技術現場実習指導			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
関連資料の配布	2006年～	児童福祉論、地域福祉論ではテキストのはかに関連資料を毎回配布し、実例、事例を示しながら学生たちの理解を深めるよう心がけている。単に理論を理解するだけではなく実際の生活における福祉問題とどのように関連しているかを視野に入れつつ授業を進行した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
教育におけるe-mail利用	2006年～	とくに演習の授業において学生と個別にきめ細かな指導を行うため、メールによって学生からの質問を随時受け付けている。
視聴覚教材の活用	2006年～	学問上の理論は事例などの裏付けがないと理解を深めることは難しい。そこで視聴覚教材を効果的に用い、事例の説明を心がけている。
少人数教育、双方向授業の実践	2006年～	とくに演習では少人数制ならではのエンカウンターグループ方式を導入し、学生との相互発信型授業を心がけている。知識だけでは現場で役立つソーシャルワーカーとしてのスキルを身につけることは難しい。少しでも実践に役立てるようワークショップやエンカウンターグループを取り入れ授業を行っている。これにより学生たちの理解度は絶えずフィードバックし確かめられるため学生たちの理解のペースに合わせた授業の進行が可能になると考えている。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
シラバスの活用	2006年～	追手門学院大学児童福祉論、地域福祉論、入門ジェンダー論、演習において、授業はじめに授業の全体像を把握できるよう学生にシラバス配布を行っている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『子育て福祉の展開』	単著	2005年3月	川島書店	栗山直子著	全250頁
『実習中心の児童福祉論』	編著	2006年2月	相川書房	栗山直子編	全270頁
『実習中心の児童福祉論』（第2版）	編著	2008年3月	相川書房	栗山直子編	全270頁
『実習にいくあなたのための準備本』	共著	2006年2月	相川書房	栗山直子・輿那峰司著	pp. 102
「ソーシャルワークの意味と種類」（第２章）	共著	2008年4月	大学図書出版	松井圭三・小倉殻編	pp. 8-12
論文					
「イギリスのインタージェネレーション」『現代のエスプリーインタージェネレーション一』	単独執筆	2004年6月	至文堂	草野厚子編	pp. 124-130
「世代間交流という新しい子育てシステムの構築一米国における保育と世代間交流活動との連動」	単独執筆	2006年3月	『世代間交流学研究』Vol1,No1.関西世代間交流研究会学会誌	関西世代間交流研究会	pp. 27-36
「現代家族の多様化と家庭的保育の位置づけについて」『家庭教育研究」13号	単独執筆	2008年3月	『家庭教育学研究』第13号	日本家庭教育学会	pp. 13-18
AD/HD and Gender of Women Involving Household Chores -From the standpoint of gender-specific medicine-	共著	2006年	『追手門学院大学社会学部紀要』	追手門学院大学社会学部	
書評「得津慎子編『家族援助論』を評する』	単独執筆	2008年2月	相川書房	『ケースワーク研究』	pp. 96-97

その他					
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
2003年10月	単独発表	″Current Session-Intergeneretional relationship in raising a child″		Intergenerational Colloqiam	Pittsburg University
2005年6月	単独発表	「世代間交流を手法とした地域における教育普及活動」		日本地域福祉学会20回全国大会	長崎国際大学
2005年10月	シンポジウム	「新しい実習教育の展開」 4人のシンポジストうち１人として参加		日本社会福祉学会53回全国大会	東北福祉大学
2006年～	編集委員	日本社会福祉実践理論学会辞書『社会福祉基本用語辞典』ワーキンググループ（児童福祉・家族福祉・家族社会学担当）			
2006年8月	単独発表	「次世代育成支援ーある美術館の試みよりー」		世代間交流国際フォーラム	早稲田大学井深大国際会議場
2006年9月	共同発表	Intergenerational Relationship between families with autism and elder volunteers in Japan		ARC-autism conference	University of Cambridge Westroad concerthall,UK
2006年9月	講演	「サザエさんに見るこどもの育ち」		おうてもん塾	大阪毎日新聞ホール
2006年11月	講演	「子どもの育ちと福祉」		追手門学院大学専門講座	追手門学院大学教育研究所
2008年10月12日	単独発表	「家庭的保育サービス内容に関する調査報告」		日本社会福祉学会第56回全国大会	岡山県立大学
2009年10月9日	単独発表	発表報告「クイーンズランド州の特別支援教育」		オーストラリア研究所研究会	

（表24）

所属　社会学部	職名　　准教授	氏名　清水　学	学位	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	現代文化論、知識社会学、サブカルチャー論、社会学の考え方、社会学演習など			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
		たとえばパワーポイントを使用することが、それじたいで評価されるような風潮があるが、これは受講する側の学生にとって、教室を物理的にも雰囲気的にも「暗く」し、ひたすら筆写のみにエネルギーを傾注させ、なにが重要化のメリハリ感覚を失わせる、と認識している。よってこれら、ともすれば「評価」のためになされる「工夫」は、かえって学習効果を低め、本末転倒であるという認識から、あえて「伝統的」な講義のスタイルを貫いている。それは学生にも好評である。
2　作成した教科書、教材、参考書		
		講義には、自作のプリントを使用することも多い。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
		昨今の大学は、授業の実質に対する支援よりも、多少見栄えがよいだけで授業には使いにくい建物を作ったり、かえって授業の妨害にしかならないようなさまざまな「工夫」ばかりを、こぞって導入したがるという傾向にある。わが大学も例外ではない。したがって、これら現場をかえりみない、学生のためにならない、教育環境の悪化に対しては、角がたつことをおそれず、一教員としていうべきことを言わせていただいている。また、ゼミ運営においても、講義においても、とにかく「おとなしく」「はみださないように」という風潮のなか、多少なりとも独自の工夫を凝らした授業運営をすれば、大学から叩かれる傾向があり、理解と支援をえられず悶々たる思いのなか現場を任されているが、顧客としての学生に面と向かい、その反応とそこから得られる信念に従って、教員としての義務を果たそうと努力している。この文章もその一環である。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
社会文化理論ガイドブック	共著	2005年6月	ナカニシヤ出版	大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一編	pp. 87-94
論文					
表現者の憂鬱―ある「アーティスト」の肖像	単著	2008年3月	追手門学院大学社会学部紀要（第2号）		pp. 1-40
表現者の憂鬱―芸術の社会的世界	単著	2009年3月	追手門学院大学社会学部紀要（第3号）		pp. 51-100
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　社会学部	職名　　准教授	氏名　城野　充	学位　　言語文化学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	政治社会学、メディア環境論、現代メディア論、入門社会学、表現演習、基礎演習、社会学演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義における視聴覚資料の使用		メディア関連の授業として、ごく普通に、視聴覚教材を作成しています。具体的には、ニュース番組やその他の番組を録画、編集し、DVDに焼きつけ、たとえば、政治シンボルがどのように視聴覚化されているかを説明しています。これが、業績なのかどうかはわかりませんが、「プリント一枚でも作成しているはず」と言われるのなら、このように記しておきます。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
演習におけるイベントの重視		たとえば、インスタントラーメン大会。各班がトッピングを工夫してインスタントラーメンをいかに高級店並みの味にできるかを競います。ただ、残念なことに調理に必要な器具はすべて教員のポケットマネーによって揃えられているのが実情です。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
≪小泉≫というメデューサ ―テレビ政治のメディア社会学―	単著	2007年3月	追手門学院大学社会学部紀要No.1		pp. 25-33
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　社会学部	職名　　准教授	氏名　千葉　英史	学位　　体育学士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	基礎体育，応用体育，スポーツ概論，余暇とレクリエーション（基本科目）			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2008年4月	余暇とレクリエーション（基本科目）では，教材を編集し直しパワーポイントを用いて授業を進めている。また，サブテーマとして「健康」に関わる内容を提供し，学生生活における健康的な過ごし方を見直しさせている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
大学生の健康と運動に関する意識調査 －選択制体育における実技履修者と非履修者の比較－	共著	2005年3月	神戸親和女子大学 教育専攻科紀要　第９号	間瀬知紀・灘　英世・木谷織信・安田忠典・千葉英史・宮内一三	pp. 83-88
救急法を用いた体育授業の一例 －大学生による救急法（心肺蘇生法）の授業評価－	共著	2005年3月	身体運動文化論攷　第４巻	灘　英世・木谷織信・千葉英史・間瀬知紀・宮内一三・安田忠典	pp. 99-110
ラグビー選手の身体特性の関する研究 －大学生ラグビー選手の形態、運動能力および重心動揺の測定結果から－	共著	2006年2月	関西学院大学 ｽﾎﾟｰﾂ科学・健康科学研究室 第９号	溝畑　潤・灘　英世・千葉英史・新宅幸憲・川平隆司	pp. 25-32
重心動揺と運動能力の関係について －大学生ラグビー選手の重心動揺および運動能力の測定結果から－	共著	2007年2月	関西学院大学 ｽﾎﾟｰﾂ科学・健康科学研究室 第10号	溝畑　潤・川平隆司・新宅幸憲・臼井永男・灘　英世・千葉英史	pp. 15-22
デフラグビーに関する活動調査（１）	単著	2007年12月	追手門学院大学 社会学部紀要　第２号		pp. 53-61
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞		日本体育学会，身体運動文化学会会員，日本ラグビー学会会員（理事）	
＜学会活動＞			
2004年9月	共同研究	第55回日本体育学会（信州大学工学部） 救急法を用いた体育授業の一例 －大学生による救急法（心肺蘇生法）の授業評価－	灘　英世・木谷織信・千葉英史・間瀬知紀・宮内一三・安田忠典
2004年9月	共同研究	第55回日本体育学会（信州大学工学部） ラグビー選手の重心動揺に関する一考察 －高校生ラグビー選手の重心動揺について－	溝畑　潤・新宅幸憲・灘　英世・千葉英史・木村季由・土井崇司・臼井永男
2006年8月	共同研究	第57回日本体育学会（弘前大学文京キャンパス） 女子大学における水泳実習の授業評価 －自由記述によるプログラム評価－	宮内一三・木谷織信・灘　英世・安田忠典・間瀬知紀・千葉英史・三神憲一・井関眞欣
2008年3月	共同研究	第1回日本ラグビー学会（関西大学） 日本聴覚障害者ラグビー連盟（デフラグビー）の活動について	千葉英史・落合孝幸・長田耕治・坂崎孝浩

2009年3月　　共同研究	第2回日本ラグビー学会（関西大学） 　日本聴覚障害者ラグビー連盟（デフラグビー）の活動について(2)―普及・育成活動から―	柴谷晋・落合孝幸・長田耕治・千葉英史・
＜社会活動＞		
1988年4月～現在に至る	関西ラグビーフットボール協会役員（関西大学ラグビーリーグ委員・会計担当）	
1988年4月～現在に至る	大阪ラグビーフットボール協会役員（大学担当委員）	
2001年4月～現在に至る	日本聴覚障害者ラグビーフットボール連盟強化委員長	

（表25）

所属　社会学部	職名　准教授	氏名	千葉　英史

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場　　所	開催日時	発表・展示等の内容等
「第1回聴覚障害者ラグビーフットボール世界大会」日本代表として出場	ニュージーランド	2002年8月	7人制の部：準優勝

（表24）

所属　社会学部	職名　　准教授	氏名　沼尻　正之	学位　　博士（文学）【京都大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	現代社会論、宗教文化論、現代社会の諸問題			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2004年～2008年	全ての講義において、学生から授業の感想・意見を収集し、それを授業改善のため役立てている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2004年～2008年	担当する全ての授業において、多数の教材・資料を作成・配布している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2004年～2006年	本学教育研究所所員

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
現代ドイツにおける宗教の諸相	単著	2005年9月	追手門学院大学人間学部紀要 No. 19		pp. 51-70
現代の高等教育における「教養」の意味	単著	2007年3月	追手門学院大学教育研究所紀要 No. 25		pp. 132-152
その他					
翻訳：フランツ・ベッケンバウアー『ベッケンバウアー自伝』	単著	2006年5月	中央公論新社		pp. 1-362

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	日本社会学会、関西社会学会、「宗教と社会」学会、日本スポーツ社会学会、日本宗教学会

（表24）

所属　社会学部	職名　　准教授	氏名　古川　隆司	学位　　修士（社会学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	老人福祉論１，老人福祉論２，介護概論，(院)社会福祉学特論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
毎回授業時質問とコメントの実施によるフィードバック	2004年4月～2008年9月	皇學館大学社会福祉学部・神戸女子短期大学・武庫川女子大学文学部・追手門学院大学社会学部の担当講義科目全てで実施，毎回授業時にフィードバックシートを配布し学生からの意見を篤めコメントを添えて次回授業レジュメに印刷，フィードバックを行っている。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2004年5月	皇學館大学社会福祉学部「社会福祉援助技術論２」「社会福祉専門演習１」にて授業評価を実施，結果をフィードバックした。
被介護体験でのアクティビティプログラムの試行と介護活動の必要性の講義	2004年6月～2008年3月	佛教大学通信教育部教職課程「介護概論２」及び追手門学院大学社会学部「介護概論」で実施，被介護体験を学生に企画・実施させアクティビティプログラムの開発演習を実践した。成果未刊行。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2004年7月	神戸女子短期大学「社会福祉」における授業評価アンケートを実施，結果をフィードバックした。
社会福祉専門演習における「当事者理解」の演習	2004年7月～9月	皇學館大学社会福祉学部「社会福祉専門演習１」にて実践，学内でのホームレス疑似体験から疎外される環境におかれた当事者の理解とアプローチについて考察する演習とまとめを実施。成果未刊行。
訪問介護員養成講座における紙芝居を活用した事例提示と演習の実践	2004年8月，2005年8月	社会福祉法人ちいろば会主催知的障害者向け訪問介護員3級養成講座にて実践。教科内容や事例を紙芝居を作成して提示，理解を深める工夫を試みた。同法人編報告書にて成果の一部を刊行。
社会福祉援助技術現場実習指導における「観察と記録」の演習	2004年10月～2006年3月	皇學館大学社会福祉学部「社会福祉援助技術現場実習指導」にて実践，事前学習における学生相互の観察と自己認識へつなげる演習を実施。同大学社会福祉学会研究論集７号に研究論文として成果の一部を刊行。
社会福祉援助技術現場実習指導における実習記録に着目したスーパービジョン方法の実践」	2004年10月～2008年3月	皇學館大学社会福祉学部および近畿大学豊岡短期大学社会福祉士養成通信課程「社会福祉援助技術現場実習指導」にて実践，巡回指導・事後指導における記録を通した関わりと自己認識を深める指導を実施。皇學館大学社会福祉学会研究論集8号に研究論文として成果の一部を刊行。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2004年12月	皇學館大学社会福祉学部「社会福祉援助技術論２」「社会福祉専門演習2」にて授業評価を実施，結果をフィードバックした。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2005年1月	神戸女子短期大学「社会福祉」における授業評価アンケートを実施，結果をフィードバックした。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2005年5月	武庫川女子大学文学部「社会福祉原論」にて授業評価アンケートを実施，結果をフィードバックした。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2005年6月	神戸女子短期大学「社会福祉」における授業評価アンケートを実施，結果をフィードバックした。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2005年6月	皇學館大学社会福祉学部「社会福祉援助技術論２」「社会福祉専門演習2」にて授業評価を実施，結果をフィードバックした。
ボランティア論における学内防災Map作成の演習	2005年10月～2006年3月	皇學館大学社会福祉学部「ボランティア論２」にて実践。身近な学内環境から防災Map作成を実施，食堂でパブリックコメントを集め成果を学生へフィードバックした。成果未刊行。
学習活動まとめとしてのNewsLetter作成	2005年10月～2006年3月	皇學館大学社会福祉学部「ボランティア論２」にて実践。学習成果をNewsLetter形式でまとめ，食堂で公開コンペを実施。成果未刊行。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2005年11月	武庫川女子大学文学部「社会福祉原論」にて授業評価アンケートを実施，結果をフィードバックした。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2005年11月	皇學館大学社会福祉学部「社会福祉援助技術論２」「社会福祉専門演習2」にて授業評価を実施，結果をフィードバックした。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2006年1月	神戸女子短期大学「社会福祉」における授業評価アンケートを実施，結果をフィードバックした。
学内FD活動として公開授業の実施	2006年1月	皇學館大学社会福祉学部FD推進委員会による公開授業として，「ボランティア論２」について公開・事後アンケートと評価を受けた。
初年次教育における学習活動まとめとしてのNewsLetter作成	2006年4月～2007年3月	追手門学院大学社会学部「新入生演習」「表現演習」にて実践，各学期のまとめをNewsLetterとしてまとめる演習を実施。成果未刊行。
フィールドワークにおける学習活動まとめとしての報告書作成・刊行	2006年4月～2007年3月	追手門学院大学社会学部「社会学フィールドワーク」にて実践，学生によるフィールドワークの成果を報告書として刊行した。
授業評価アンケートの実施	2006年6月	追手門学院大学社会学部「社会福祉の考え方Ａ」にて授業評価アンケートを実施した。
社会福祉援助技術演習における，ロールプレイのシナリオ作成から実演・反省からなる演習の実践	2007年4月～2008年3月	皇學館大学社会福祉学部「社会福祉援助技術演習２」にて実践，学生によるロールプレイ演習を編成，学生による他者理解・アプローチの理解につながるプログラムを試行した。同大学社会福祉学会研究論集10号に研究論文として成果の一部を刊行。

社会福祉援助技術演習におけるポートフォリオを活用した学習の成果の明示化と動機付け	2007年4月～2008年8月	皇學館大学社会福祉学部「社会福祉援助技術演習１・２」にて実践，相互作用場面の体験と観察・記録を通した形成的なソーシャルワークのコアスキル獲得を試行した。同大学社会福祉学会研究論集第10号，第11号に研究論文として成果の一部を刊行。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2007年6月	皇學館大学社会福祉学部「社会福祉援助技術演習２」にて授業評価を実施，結果をフィードバックした。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2007年11月	皇學館大学社会福祉学部「社会福祉援助技術演習１」にて授業評価を実施，結果をフィードバックした。
授業評価アンケートの実施	2007年11月	追手門学院大学社会学部「老人福祉論２」にて授業評価アンケートを実施した。
老人福祉論・介護概論における「死生観」に関する対話型教育の試行	2008年1月	追手門学院大学社会学部「老人福祉論２」「介護概論」にて実践，死と関連する社会活動・法制度および悲嘆ケアを含む「死生学」に関する講義を実施，結果をフィードバックした。追手門学院大学教育研究所紀要26号にて研究論文として成果の一部を刊行。
授業評価アンケートの実施とフィードバック	2008年５月	皇學館大学社会福祉学部「社会福祉援助技術演習２」にて授業評価を実施，結果をフィードバックした。
講義への質問・感想に対する，KJ法を用いたフィードバック	2008年10月～現在	追手門学院大学社会学部及び全ての担当科目にて実践。吉田正教授の示唆による。講義終了時感想や意見・質問を回収してKJ法により構造化して次時に返却，復習と学習内容の理解を促す取り組みを行っている。
授業評価アンケートの実施	2008年11月	追手門学院大学社会学部「老人福祉論２」にて授業評価アンケートを実施した。
２　作成した教科書、教材、参考書		
新版・社会福祉援助技術	2005年4月刊行	学文社刊，加納光子・久保美紀・成清美治編。第8章「関連する援助技術」を分担執筆，皇學館大学社会福祉援助技術演習などで参考書に使用。【著書の項にて再掲】
最新介護福祉全書５社会福祉援助技術（３訂）	2006年1月刊行	メヂカルフレンド社刊，豊山大和・三原博光編，第8章Ⅳ事例を分担執筆。【著書の項に再掲】
新版・高齢者福祉	2006年4月刊行	学文社刊，成清美治・峯本佳世子編。第10章「民間シルバーサービス」を分担執筆，追手門学院大学老人福祉論などで教科書に使用。【著書の項にて再掲】
児童福祉	2007年3月刊行	近畿大学豊岡短期大学刊，河崎洋充編，1章4節・4章を分担執筆。【著書の項にて再掲】
介護福祉士のための教養学５　介護福祉と法	2008年3月刊行	弘文堂刊，梶原洋生編，第2章「介護福祉とは法の出会いである」を分担執筆・イラスト作成。【著書の項にて再掲】
ライフステージ社会福祉法	2008年6月刊行	法律文化社刊，大曽根寛編。第５章「高齢期と社会福祉法制」を分担執筆，追手門学院大学老人福祉論１・２で参考書に使用。【著書の項にて再掲】
事例で学ぶ医療福祉の倫理	2008年9月刊行	医学書院刊，菊井和子・大林雅之・山口三重子・斎藤信也編，第２部事例編Case８・９を分担執筆。追手門学院大学社会学部「社会福祉援助技術演習」等で参考書として紹介。【著書の項にて再掲】
現代社会と福祉	2009年3月刊行	学文社刊，成清美治・加納光子編，第10章「福祉政策の課題』を分担執筆。【著書の項にて再掲】
現代社会福祉用語の基礎知識［第9版］	2009年3月刊行	学文社刊，成清美治・加納光子編集代表，「小さな政府」「応能負担」など10項目を分担執筆。【著書の項にて再掲】
高齢者支援と介護保険制度	2009年4月刊行	学文社刊，成清美治・峯本佳代子編，第2章「高齢者の福祉需要」を分担執筆。【著書の項にて再掲】
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
平成16年度介養協近畿ブロック介護教員講習会講師	2004年8月9～13日	介護教員講習における「教育方法」を担当，授業の考え方・作り方について講義・演習指導を行った。
東海・北陸ブロック社会福祉実習研究協議会第15回研究大会グループセッションコーディネーター	2004年12月18日	実習先指導者・実習生とともに「効果的な指導法」に関するグループセッションで発題・討議の司会を行った。
皇學館大学社会福祉実習懇談会シンポジウムコーディネーター	2005年2月22日	社会福祉士会・社会福祉協議会・高齢者施設の実習指導者とともに「求められる社会福祉士実習のあり方」についてシンポジウムを開催，コーディネーターを務めた。
平成17年度介養協近畿ブロック介護教員講習会講師	2005年8月22～23日	介護教員の講習として「介護福祉学」に関する講義を行った。
東海・北陸ブロック社会福祉実習研究協議会第16回研究大会グループセッションコーディネーター	2005年12月17日	実習受入れ先の施設長・指導者とともに「望ましい実習評価とそれに向けた協働」についてグループセッションを行い，発題・討議の司会を行った。
平成18年度介養協近畿ブロック介護教員講習会講師	2006年9月７～11日	介護教員講習における「教育方法」を担当，授業の考え方・作り方について講義・演習指導を行った。
平成18年度介養協近畿ブロック介護教員講習会講師	2007年2月23～27日	介護教員講習における「教育方法」を担当，授業の考え方・作り方について講義・演習指導を行った。
平成19年度介養協近畿ブロック介護教員講習会講師	2007年8月2～3日	介護教員の講習として「介護福祉学」に関する講義を行った。
平成19年度介養協近畿ブロック介護教員講習会講師	2007年8月9～11日	介護教員講習における「実習指導」を担当，指導の考え方・具体的な方法について講義・演習指導を行った。
平成19年度介養協近畿ブロック介護教員講習会講師	2008年2月26～27日	介護教員の講習として「介護福祉学」に関する講義を行った。
第21回奈良県老人福祉施設職員研究会議ワーキングチーム研究報告助言者コメント	2009年2月5日	平成20年度奈良県老施協における職員のワーキングチーム「記録のあり方」に関する研究活動報告2題について，報告へのコメントを行った。

第21回奈良県老人福祉施設職員研究会議ミニシンポジウム「老人福祉施設職員のプロ意識」	2009年2月5日	奈良県老施協役員，研究活動助言者と共同にて登壇，ワーキングチームの研究活動を通した老人福祉施設職員のプロ意識について討議を行った。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
2006年度追手門学院大学特色ある教育「社会学科福祉体験学習　身体障害者施設阪神自立の家見学」引率	2006年5月	参加学生を引率，施設見学および施設入居者との交流を行った。
2006年度追手門学院大学特色ある教育「社会学科福祉体験学習　大阪府介護情報・研修センター」引率	2007年1月	参加学生を引率，施設見学および施設展示の介護機器の体験学習を行った。
2006年度追手門学院大学特色ある教育「社会学科さかさま大学」の引率	2007年3月	2泊3日の合宿型セミナーを引率，グループによるKJ法の演習を行った。
2007年度追手門学院大学特色ある教育個人「体験型福祉教育の実践」	2007年4月～2008年3月	社会学科開講科目「社会学フィールドワーク２B」にて実践，学生のフィールドワークを指導した。
2007年度追手門学院大学特色ある教育「社会学科福祉体験学習　大阪府介護情報・研修センター」引率	2007年11月	参加学生を引率，施設見学および施設展示の介護機器の体験学習を行った。
2007年度追手門学院大学特色ある教育「社会学科公開講座ビッグイシューと社会的企業」開催担当	2007年12月	外部講師を招聘して公開講座を開講した。
2007年度追手門学院大学特色ある教育「社会学科さかさま大学」の引率	2008年3月	2泊3日の合宿型セミナーを引率，グループによるKJ法の演習を行った。
2008年度追手門学院大学特色ある教育「社会学科福祉体験学習　大阪府介護情報・研修センター」引率	2008年11月	参加学生を引率，施設見学および施設展示の介護機器の体験学習を行った。
茨城県立医療大学大学院健康科学研究科看護学専攻修士課程課程修了論文外部審査員	2009年1～3月	同大学院修士課程修了見込者の論文審査を行った。
2008年度追手門学院大学特色ある教育「社会学科さかさま大学」の引率	2009年3月1～3日	2泊3日の合宿型セミナーを引率，グループによるKJ法の演習を行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
社会福祉への誘い―Ｑ＆Ａ102選―	共著	2005年3月	晃洋書房	皇學館大学社会福祉学部編	pp. 147-150
新版・社会福祉援助技術	共著	2005年4月	学文社	加納光子・久保美紀・・成清美治編	pp. 98-108
最新介護福祉全書５　社会福祉援助技術（３訂）	共著	2006年1月	メヂカルフレンド社	豊山大和・三原博光編	pp. 171-179
新版・高齢者福祉	共著	2006年4月	学文社	成清美治・峯本佳世子編	pp. 145-156
介護予防実践論　キリスト教ミード社会舘の足跡から	共著	2006年12月	中央法規出版	大阪地域福祉サービス研究所編	pp. 18-21
児童福祉	共著	2007年3月	近畿大学豊岡短期大学［文部科学省認定通信教育テキスト］	河崎洋充編	pp. 16-24，pp. 123-153
介護福祉士のための教養学５介護福祉のための法学	共著	2008年3月	弘文堂	梶原洋生編	pp. 67-79
ライフステージ社会福祉法いまの福祉を批判的に考える	共著	2008年6月	法律文化社	大曽根寛編	pp. 77-91
ケースで学ぶ医療福祉の倫理	共著	2008年9月	医学書院	菊井和子・大林雅之・山口三重子・斎藤信也編	pp. 88-99
現代社会と福祉	共著	2009年3月	学文社	成清美治・加納光子編	pp. 169-180
高齢者支援と介護保険制度	共著	2009年4月	学文社	成清美治・峯本佳世子編	pp. 17-26
家族内殺人	共著	2009年6月	洋泉社	浜井浩一編著	pp. 103-124
論文					
社会福祉援助技術現場実習における記録とスーパービジョン(1)	単著	2004年12月	皇學館大学社会福祉学会論集第7号	皇學館大学社会福祉学会	pp. 37-47
児童福祉と子育て支援の狭間	単著	2005年3月	大阪市社会福祉研究第27号	大阪市社会福祉協議会・大阪市介護情報・研修センター	pp. 89-98
苦情事例からみた高齢者・介護家族へのソーシャルワークの課題(1)	単著	2005年3月	皇學館大学社会福祉学部紀要第7号	皇學館大学社会福祉学部	pp. 189-204
社会福祉援助技術現場実習における記録とスーパービジョンの方法(2)	単著	2005年12月	皇學館大学社会福祉学会論集第8号	皇學館大学社会福祉学会	pp. 77-87
大阪市における災害支援とソーシャルワークの可能性	単著	2006年3月	大阪市社会福祉研究第28号	大阪市社会福祉協議会・大阪市介護情報・研修センター	pp. 23-31

地域相談援助システムとソーシャルワーク実践の「複雑化」	単著	2006年3月	皇學館大学社会福祉学部紀要第8号	皇學館大学社会福祉学部	pp. 131-140
日本における高齢者の犯罪とソーシャルワーク	単著	2007年3月	追手門学院大学社会学部紀要第1号	追手門学院大学社会学部	pp. 73-84
高齢者虐待防止へのアプローチに必要な「社会的アセスメント」の視点	単著	2007年7月	訪問看護と介護Vol. 12, No.8	医学書院「訪問看護と介護」編集部	pp. 656-659
ポートフォリオによる社会福祉援助技術演習の展開(1)	単著	2008年3月	皇學館大学社会福祉論集第10号	皇學館大学社会福祉学会	pp. 53-60
老年期や死生観に対する学生のイメージ―対話型授業を通した学生理解の試み―	単著	2008年3月	教育研究所紀要第26号	追手門学院大学教育研究所	pp. 147-158
高齢犯罪者の増加と社会福祉の関係，課題	単著	2008年10月	龍谷大学矯正・保護研究センター研究年報第5号	龍谷大学矯正・保護研究センター	pp. 175-189
オーストラリアにおける犯罪者の社会内処遇と日本への示唆	単著	2008年12月	オーストラリア研究第34号	追手門学院大学オーストラリア研究所	pp. 75-86
ポートフォリオによる社会福祉援助技術演習の展開(2)	単著	2009年3月	皇學館大学社会福祉論集第11号	皇學館大学社会福祉学会	pp. 17-27
犯罪者の孤独と生活世界-吉村昭『仮釈放』をめぐって-	単著	2009年3月	追手門学院大学社会学部紀要第3号	追手門学院大学社会学部	pp. 151-158
認知症への理解と学生のイメージ変容 - 対話型授業を通した試み -	単著	2009年3月	教育研究所紀要第27号	追手門学院大学教育研究所	pp. 136-146
高齢犯罪者の釈放前調整におけるソーシャルワークとの連携-司法ケアマネジメントの可能性-	単著	2009年5月	犯罪と非行№160	財団法人日立みらい財団	pp. 209-223
支援を要する学生へのソーシャルワークと学生相談への示唆	単著	2009年7月	大学と学生平成21年7月号(通巻第69号)	日本学生支援機構	pp. 25-34
その他					
第16回介護福祉士国家試験解説集	共著	2004年7月	中央法規出版	(社)日本介護福祉士養成施設協会受験対策研究会編	pp. 29-40(共同執筆のため明示なし)
続紙上市民講座もっと知りたい社会福祉〈83〉	単著	2004年8月	毎日新聞・三重伊賀版，2004年8月1日	毎日新聞社	
続紙上市民講座もっと知りたい社会福祉〈84〉	単著	2004年8月	毎日新聞・三重伊賀版，2004年8月8日	毎日新聞社	
誰も見向きしない死と「みんなの」福祉	単著	2004年8月	寝屋川市民たすけあいの会，会報「つなぐ」155号	寝屋川市民たすけあいの会	
知的障害者の3級ヘルパー養成研修事業	共著	2005年3月	社会福祉法人ちいろば会	社会福祉法人ちいろば会	pp. 7-9, pp. 13-20, pp. 52-53 (共同執筆のため明示なし)
傷を癒される環境はどこに？	単著	2005年5月	寝屋川市民たすけあいの会，会報「つなぐ」161号	寝屋川市民たすけあいの会	
第17回介護福祉士国家試験解説集	共著	2005年6月	中央法規出版	(社)日本介護福祉士養成施設協会受験対策研究会編	pp. 29-38 (共同執筆のため明示なし)
贈る気持ち・思い出の品物	単著	2005年12月	寝屋川市民たすけあいの会，会報「つなぐ」163号	寝屋川市民たすけあいの会	
巡回指導を通した効果的な実習指導者との連携	単著	2005年12月	皇學館大学社会福祉学会論集8号	皇學館大学社会福祉学会	pp. 145-149
第18回介護福祉士国家試験解説集	共著	2006年6月	中央法規出版	(社)日本介護福祉士養成施設協会受験対策研究会編	pp. 29-36, pp. 39-40 (共同執筆のため明示なし)
事例で考える医療福祉倫理2「同居の息子に介護放棄されながらも虐待を認めず，支援を受け入れない在宅高齢者」	共著	2006年7月	訪問看護と介護Vol. 11No.8	山口三重子・大林雅之・古川隆司	pp. 793-797
メールマガジン「あなたの種を蒔いてみると？」	単著	2006年9月	追手門学院大学ホームページ	追手門学院大学	http://www.otemon.ac.jp/e-mag/mldsv/bknum/pc/20060920.html
「押す」気なままに？	単著	2006年12月	寝屋川市民たすけあいの会，会報「つなぐ」169号	寝屋川市民たすけあいの会	

現代社会保障・社会福祉小事典	共著	2007年2月	法律文化社	小倉襄二・佐藤進監修，加藤博史・山路勝文編	pp.162
研究ノート「教材」としての社会的問題と社会福祉の教育	単著	2007年3月	教育研究所紀要25号	追手門学院大学教育研究所	pp.124-131
事例で考える医療福祉倫理10座談会「いま，医療・介護を取り巻く現状の中で考える」	共著	2007年4月	訪問看護と介護Vol.12No.5	医学書院「訪問看護と介護」編集部	pp.408-414
事例で考える医療福祉倫理11座談会「いま，医療・介護を取り巻く現状の中で考える」	共著	2007年5月	訪問看護と介護Vol.12No.6	医学書院「訪問看護と介護」編集部	pp.508-513
2008介護福祉士国家試験過去問題解説集	共著	2007年7月	中央法規出版	(社)日本介護福祉士養成施設協会受験対策研究会編	(共同執筆のため明示なし)
希望のスパイス	単著	2007年8月	寝屋川市民たすけあいの会，会報「つなぐ」173号	寝屋川市民たすけあいの会	
実習における目標と計画の立て方について	単著	2007年10月	近畿大学豊岡短期大学通信教育部，well-being20号	近畿大学豊岡短期大学通信教育部	
研究ノート高齢者虐待防止・養護者保護法と「権利擁護」という課題	単著	2008年3月	追手門学院大学社会学部紀要第2号	追手門学院大学社会学部	pp.83-90
分かつ，分かち合う	単著	2008年3月	寝屋川市民たすけあいの会，会報「つなぐ」176号	寝屋川市民たすけあいの会	
2009介護福祉士国家試験過去問題解説集	共著	2008年5月	中央法規出版	(社)日本介護福祉士養成施設協会受験対策研究会編	(共同執筆のため明示なし)
医療福祉の倫理を考える「事例3デイケア利用者間におけるトラブルへの対応におけるディレンマ」	共著	2008年5月	訪問看護と介護Vol.13No.6	山口三重子・大林雅之・菊井和子・斎藤信也・古川隆司	pp.482-486
看護・介護・福祉の百科事典	共著	2008年6月	朝倉書店	糸川嘉則総編集，交野好子・西尾祐吾・成清美治編集	pp.479-481
ソーシャルワークの記録はレポートと実習日誌で学ぼう	単著	2008年7月	近畿大学豊岡短期大学通信教育部，well-being23号	近畿大学豊岡短期大学通信教育部	
現代社会福祉用語の基礎知識[第9版]	共著	2009年3月	学文社	成清美治・加納光子編集代表	
心のリフォーム	単著	2009年3月	寝屋川市民たすけあいの会，会報「つなぐ」182号	寝屋川市民たすけあいの会	
研究ノート災害支援からみた社会福祉への反省 - 災害福祉の確立に向けて -	単著	2009年3月	追手門学院大学社会学部紀要第3号	追手門学院大学社会学部	pp.193-199
研究活動「記録のあり方」ワーキングチームの助言を通して	共著	2009年3月	ワーキングチームによる研究活動事業平成20年度研究報告書	奈良県老人福祉施設協議会，奈良県社会福祉協議会	pp.56-57
2009介護福祉士国家試験過去問題解説集	共著	2009年4月	中央法規出版	(社)日本介護福祉士養成施設協会受験対策研究会編	(共同執筆のため明示なし)
「転ばぬ先の杖」としてのセンター	単著	2009年4月	おおさか介護サービス相談センターだより第12号	大阪市社会福祉協議会，おおさか介護サービス相談センター	
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
学会発表					
介護労働力の国際移動と対フィリピンFTA交渉-ｹｱﾜｰｸの直面する諸課題に注目して-	単独	2004年9月	日本介護福祉学会第12回大会，於：岩手県立大学	日本介護福祉学会	
高齢者を介護する家族へのソーシャルワーク(1)-「苦情」を通した課題分析の試み-	単独	2004年10月	日本社会福祉学会第52回大会、於:東洋大学	日本社会福祉学会	
高齢者虐待と介護家族へのサポートに関する視点-ソーシャルワーク実践からみて-	単独	2005年7月	日本老年社会科学会第47回大会,於:東京国際フォーラム	日本老年社会科学会	
高齢者を対象とした消費者被害に対する効果的な対処	単独	2006年6月	日本老年社会科学会第48回大会,於:関西学院大学	日本老年社会科学会	
高齢者虐待防止と施設ケアの改善-ある紛争事例を通して-	単独	2006年7月	日本高齢者虐待防止学会第3回大会，於：大阪市立大学医学部	日本高齢者虐待防止学会	

バックラッシュの周縁化と対応可能な社会福祉原理	単独	2006年10月	日本社会福祉学会第54回大会、於:立教大学	日本社会福祉学会	
家庭内における介護殺人・虐待の個別心理化と社会的要因	単独	2007年6月	日本老年社会科学会第49回大会,於：札幌市教育文化会館	日本老年社会科学会	
家庭内における介護殺人・虐待の社会的要因についての予備的考察	単独	2007年7月	日本高齢者虐待防止学会第4回大会,於:関東学院大学	日本高齢者虐待防止学会	
高齢受刑者・保護観察者の処遇と社会復帰に関する研究(1)	単独	2007年9月	日本社会福祉学会第55回大会,於：大阪市立大学	日本社会福祉学会	
第86回日本刑法学会ワークショップ「高齢者犯罪」発題	共同	2008年5月	日本刑法学会第86回大会，於：神戸国際会議場	日本刑法学会	
高齢犯罪者・受刑者の処遇に関する社会的インパクト	単独	2008年6月	日本老年社会科学会第50回大会,於：大阪府立大学	日本老年社会科学会	
虐待・介護殺人事件の加害者支援に関する研究(1)	単独	2008年7月	日本高齢者虐待防止学会第5回大会,於:(財)海外職業訓練協会	日本高齢者虐待防止学会	
高齢犯罪者の社会復帰における社会環境調整の現状と福祉的支援の課題	単独	2009年2月	関西社会福祉学会2008年度研究大会，於:神戸学院大学	関西社会福祉学会	
高齢犯罪者の社会復帰を妨げる要因	単独	2009年6月	日本老年社会科学会第51回大会，於：パシフィコ横浜	日本老年社会科学会	
虐待・介護殺人事件の加害者支援に関する研究（2）	単独	2009年7月	日本高齢者虐待防止学会第６回大会,於:ウィルあいち	日本高齢者虐待防止学会	
高齢受刑者・保護観察者の処遇と社会復帰に関する研究(2)	単独	2009年10月	日本社会福祉学会第57回大会,於：法政大学	日本社会福祉学会	

社会における主な活動

2003年10月～現在	NPO法人寝屋川市民たすけあいの会地域ケアセンター苦情解決第三者委員
2006年6月～現在	茨木市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画懇談会委員
2007年4月～現在	大阪市社会福祉協議会　おおさか介護サービス相談センター専門相談員
2008年7月～現在	私立学校情報協会「サイバーキャンパス・コンソーシアム」分野別研究員（社会福祉学）
2008年8月～2009年3月	奈良県老人施設協議会職員研究活動「記録の活用について」助言者
2009年7月～現在	奈良県老人施設協議会職員研究活動助言者

（表24）

所属　社会学部	職名　　講師	氏名　岩渕　亜希子	学位　行動科学（修士）【北海道大学大学院】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	社会調査実習、社会調査入門、基礎社会統計、社会統計応用、社会調査文献研究、入門コンピュータ			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
授業評価アンケートの実施	2004年～2008年の各年	授業評価アンケートの実施
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
社会調査実習報告書の刊行	2005年～2008年の各年	社会調査実習の成果として学生の論文をとりまとめ、毎年度報告書を刊行した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『階層化する社会意識』「残された課題と今後の展望」	共著	2007年11月	勁草書房	吉川徹・岩渕亜希子	pp.167-177
論文					
職業とパーソナリティ研究の主要概念と交互作用効果	共著	2005年3月	年報人間科学（26）	長松奈美江・米田幸弘・岩渕亜希子・松本かおり	pp.1-18
職業とパーソナリティ研究の展開：長期的パネル調査と国際比較にもとづく仮説の一般化	共著	2005年3月	年報人間科学（26）	岩渕亜希子・松本かおり・長松奈美江・米田幸弘	pp.19-36
日本の遺伝子診療の現状と課題―2006年『遺伝子診療とその社会文化的側面についてのアンケート調査』から―	共著	2008年3月	医療・生命と倫理・社会（vol.7）	工藤直志・岩渕亜希子・霜田求・中岡成文・西村ユミ	pp.13-66
Constructing Readiness:Process of Genetic Counseling Related to Presymptomatic Diagnosis in Japan	共著	2009年3月	追手門学院大学　社会学部紀要 No.3	岩渕亜希子・工藤直志	pp.1-15
その他					
一般的信頼感の規定要因：階層、地域、社会関係	単著	2008年3月	轟亮編『2005年SSM調査士リーズ8　階層意識の現在』		pp.207-226
『平成19年度　札幌市若年性認知症支援事業　若年認知症の人とその家族に対する実態調査　報告書』	共著	2008年10月	札幌市保健福祉局保健福祉部	池田望・岩渕亜希子・平野憲子・橋本省吾	全130頁
「階層の再生産と家族」「サポート資源としての家族」「高齢者ケアと家族」「高齢者虐待と家族」	単著	2009年3月	野々山久也編『論点ハンドブック家族社会学』世界思想社		pp.211-214、pp.233-236、pp.291-294、pp.317-320

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2005年～2008年	「社会階層と社会移動に関する全国調査（SSM2005）」プロジェクトおよび研究会参加
2006年10月～12月	京都市「認知症サポーター養成講座」ファシリテーター
2007年～2008年	札幌市「若年性認知症実態調査」参加協力

（表24）

所属　社会学部	職名　講師	氏名　内海　博文	学位　博士（人間科学）【大阪大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	新入生演習A、表現演習Ａ、文化社会学への招待、社会学史、社会学理論、基礎演習1Ｄ、基礎演習2Ｄ、社会学演習1Ｇ、社会学演習2Ｇ、社会学フィールドワーク1Ａ、広報学・広告論、社会学の考え方C			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
映像を用いた授業実践。	2005年4月1日～現在に至る	研究のプロセス、ないし、論文作成の技術は、研究者をめざす学生以外には、習得することがかなりむずかしい特殊技能である。こうした観点から、映像作成の過程を、研究プロセス、ないし、論文作成のプロセスに見立てて、実習等の講義で映像を用いている。写真や動画映像を撮影・上映してもらうことで、対象物だけでなく、対象を捉える自分自身の視点を、反省的に意識化することが容易になる。映像を用いることで、自分自身の視点から距離を取り、自分自身の視点を含めたかたちで分析対象を構成する、という社会学の方法を、体験してもらっている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一編『社会文化理論ガイドブック』ナカニシヤ出版。	2005年	社会学理論のエッセンスと魅力を紹介するガイドブック。「啓蒙の弁証法（アドルノ/ホルクハイマー）」と、「暴力（エリアス）」の項目を担当した。『啓蒙の弁証法』については、とくに「啓蒙の神話化」というテーゼを中心に、近代批判としての「啓蒙の弁証法」の特徴を整理・紹介した。エリアスの暴力論については、近代における個人的暴力の抑止と組織的暴力の再編という観点から、社会学的暴力論としてのエリアス社会学の特徴を整理・紹介した。
西端律子・宮本友介・能川元一・内海博文・関嘉寛・川野英二・久保知代, Webclass教材大学院情報教育教材	2005年	2005年度大阪大学人間科学研究科ヒューマンサイエンスプロジェクトの一環として、大阪大学人間科学研究科の助教を中心に、Webclassを利用して、大学院生を対象にしたe-learning用の情報教育テキストを開発。テキストのうち、「メディアとコミュニケーション」、「研究活動とリテラシー」、「産業財産権」などの個所を部分執筆した。同教材を大学院生に使用してもらい、そのうえで問題点を改善した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「映像を社会調査に用いるとはどういうことかー社会調査と「社会」の現代的変容という観点からー」2007年度 COEプログラム連続シンポジウム「大学院における社会調査教育はどうあるべきか」（第2回）「映像と社会調査」。	2007年7月14日	関西学院大学21世紀COEプログラム「「人類の幸福に資する社会調査」の研究」のシンポジウム「映像と社会調査」にて、COE専任研究員として、シンポジストの一人を務めた。報告テーマは、「映像を社会調査に用いるということ」。20世紀における映像と統計の展開を、「国民」という「社会」の形成という観点から分析し、そのうえで現代における社会調査の変化を、「ポスト・ナショナル・ソサエティ」への展開という文脈へと位置づけた。
内海博文「グローバル化時代の「地域」―「社会の民主化」と情報の活用―」地域デザイン講座2007セッション3「地域社会へのフォーカスー写真・映像による記録と発信」第２回、奈良大学地域連携教育研究センター。	2008年12月14日	奈良大学の市民向け講座「地域デザイン講座」に、講師として参加。地域社会にレンズのフォーカスを合わせ、記録した写真・映像を利用して地域社会の文化を新たに発信していく。そのためにはどうすればよいのか、というテーマで依頼された。これに対し、技術進歩・普及がめざましく、誰にでも簡単に取り扱うことが可能になった映像というメディアを、私たちが地域「社会」を形成・活性化していくうえでどのように活用するか、を講演した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『社会文化理論ガイドブック』	共著	2005年6月	ナカニシヤ出版	大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一	pp. 169-172、pp. 203-206
『社会学のアクチュアリティ：第3巻　社会学のアリーナへ』	共著	2007年11月	東信堂	友枝敏雄・厚東洋輔	pp. 261-289
論文					
「大学院生対象情報教育コンテンツの開発と評価」	共著	2006年3月	『大阪大学大学院　人間科学研究科紀要』第32巻	西端律子・宮本友介・能川元一・内海博文・関嘉寛・川野英二・久保知代	pp. 93-111
「社会の構成原理としての文化権――文化芸術振興基本法の制定を契機に」	単著	2006年3月	『追手門学院大学人間学部紀要』20号		pp. 73-89
「東京裁判から9.11へ――人間の安全保障のための予備的考察」	単著	2006年11月	『情況』第三期第七巻第六号		pp. 17-30

「人間の安全保障と社会の再想像――9.11以後の2つのトランスナショナルな政治的秩序との対照を手がかりに――」	単著	2006年12月	大阪大学COE報告書『ポストナショナル・シティズンシップ』大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学トランスナショナリティ研究」プロジェクト		pp.175-218
「映像と学習――「遊び」としてのコミュニケーション」	単著	2007年3月	『大阪大学大学院　人間科学研究科紀要』第33巻		pp.213-216
「新しい中小企業戦略としてのブランディング――グローバリゼーション時代における持続可能性のために」	単著	2007年6月	大阪大学法学研究科『東大阪市の中小企業に働く人たちの仕事と生活調査報告書』	水島郁子	pp.123-137
「グローバリゼーションと社会の変容」	単著	2007年7月	関西学院大学社会学研究科21世紀COE プログラム、Advanced Social Research Online		http://coe.kgu-jp.com/index.php
「新しい中小企業戦略としてのブランディング」	単著	2008年3月	大阪大学中小企業に関する研究会『中小企業再生のための法的戦略　平成17ー19年度研究報告書』		pp.85-96
（書評）「『ポスト・ユートピアの人類学』」	単著	2009年3月	大阪大学GCOE『コンフリクトの人文学』第1号、大阪大学人間科学研究科		pp.291-297
「経済と社会・再考――社会法をてがかりにして」	単著	2009年3月	『関西学院大学先端社会研究所紀要』第1号		pp.85-98
その他					
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
		NPO recip（地域文化に関する情報とプロジェクト）正会員。			

（表24）

所属　社会学部	職名　　講師	氏名　草山　太郎	学位　　修士（教育学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	障害者福祉論　社会福祉援助技術演習　社会福祉援助技術現場実習指導　社会福祉援助技術現場実習　社会福祉の考え方			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
コメントペーパーの活用	2004年4月1日～現在	すべての講義において、毎時授業の最後にB6のコメントペーパーを配布し、質問、感想を書かせ、その中から代表的なあるいは特筆すべき意見や疑問などを次回の講義において紹介し、講義内容について受講生の理解がより深まるようにしている。
視聴覚教材を多用した授業	2004年4月1日～現在	授業に対する学生の興味関心を喚起し、かつ、理解を深めてもらうことを目的として、授業内容に関連した映画やドキュメンタリー等の映像を積極的に活用した授業を実施している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
記入式プリントの作成	2004年4月1日～現在	すべての講義の授業において、その時間のポイント等の部分を空欄にした記入式のプリントを作成して、授業内容を能率よく理解できるようにしている。
自作VTRの作成	2004年4月1日～現在	基本的に授業は教室で行われるが、福祉教育にとって「現場」を知ることや当事者の話を聞くことは、学習と実践を結びつけるためにも有益なことであると考えている。例えば、「車いす対応住宅というのは」と写真付きの資料を配付し口頭で説明をしても、その実際を見なければ理解には限界があるだろう。そこでできれば「見学」形式の授業や外部から招聘した講師による特別講義等を取り入れたいが、受講生数や費用面等の関係から現実にはなかなか困難である。そこで、少しでも、その溝を埋めるべく、VTRを自作し授業で使用している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
教育研究所セミナーのコーディネート	2008年7月12日	教育研究所所員として、2008年度春季セミナー「障害学生支援を考える」のコーディネートおよび司会を担当した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
福祉体験学習の企画および引率	2008年2月14日	福祉体験学習として、障害理解を目的に、2008国際親善女子車椅子バスケットボール大会の観戦ツアーの企画および引率を行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『福祉現場生の声　事例101　－介護・看護・障害－』	共著	2005年2月	久美出版	前田崇博(編者)、吉井珠代(編者)、草山太郎、他	pp. 158-159
『新版・社会福祉援助技術』	共著	2005年3月	学文社	成清美治（編者）、加納光子（編者）、草山太郎、他	pp. 149-152
『セクシュアリティの障害学』	共著	2005年6月	明石書店	倉本智明(編著)，草山太郎，瀬山紀子、他	pp. 203-222
論文					
「車椅子ツインバスケットボールの「おもしろさ」の成り立ち―プレイヤーの語りをとおして」	単著	2009年3月	追手門学院大学社会学部紀要第3号		pp. 33-55
その他					
学術フロンティア推進事業プロジェクト研究シリーズ「自己決定とQOLプロジェクト（対人援助の理論・方法・歴史）」シンポジウム報告書「フィールド・質的・カルチュラル－対人援助と研究を支える技法と理論」	共著	2004年3月	立命館大学人間科学学研究所	サトウタツヤ、宮内洋、草山太郎、他	pp. 44-71

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2005年4月～現在	障害学研究会関西部会世話人

国際教養学部

＜アジア学科＞

淺野　純一	(191)
有吉　宏之	(192)
井谷　鋼造	(194)
梅村　修	(195)
奥田　尚	(200)
重松　伸司	(202)
正信　公章	(204)
武田　秀夫	(205)
永吉　雅夫	(206)
松家　裕子	(207)
南出　眞助	(208)
李　慶国	(209)
田口　宏二朗	(210)
筒井　由起乃	(211)

＜英語コミュニケーション学科＞

稲木　昭子	(213)
佐々木　徹	(214)
佐藤　恭子	(215)
新谷　好	(217)
水藤　龍彦	(218)
髙尾　典史	(219)
中村　啓佑	(220)
J.HERRICK	(221)
箱﨑　雄子	(222)
福島　孝博	(225)
R.E.MILLER	(226)
碓井　智子	(228)
貞光　宮城	(229)
増崎　恒	(233)

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　淺野　純一	学位　　文学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目				

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
学生の発言の機会を増やす工夫をした	2009年度	学生に発言の準備ができるよう、前もって指名するなど。
2　作成した教科書、教材、参考書		
簡易日中史年表	2009年度	授業中に触れるトピックを書き込み可能な簡易年表を作成、配布。
単語一覧表・構文一覧表など	2009年度	教科書の単語、構文を一覧表にして学習者の便を図った。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
上海アラカルト	共著	2009年6月	和泉書院	追手門学院大学アジア学科	pp. 8-24
論文					
中国の海洋進出と末端市場	単著	2005年3月	アジアの市場（いちば）の現状と背景（追手門学院大学共同研究助成結果報告書）		pp. 5-12
材日本的毛沢東詩詞研究	単著	2008年2月	井岡山道路与毛沢東詩詞――第三届毛沢東詩詞国際学術研討会論文集		pp. 446-452
魯迅『傷逝』小論――身上の近代	単著	2008年3月	吉田富夫先生退休記念中国学論集		pp. 289-301
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2008年10月～	CIEC学会誌「コンピュータ＆エデュケーション」編集委員

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　有吉　宏之	学位	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目				

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2004年～2007年	オーストラリア、パース総領事館総領事として勤務のかたわら、マードック大学アジア研究所と交流を深め、日本の政策大学院白石隆教授等の研究者を招聘し、学生や一般市民向けに講演会を実施した。またオーストラリアのビジネスマン向けに、日本から専門家を招聘して、日本経済に関する講演会を実施した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
その他					
「治安の良い国オーストラリア!?」	単著	2005年12月	世界週報　62		
Japan - Western Australia Relations: Past and Future	編纂委員	2009年4月			

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	オリエント学会
＜社会活動＞	
1968年～1970年	語学研修員として、イラン国パハラヴィ大学(シラーズ)及びテヘラン大学文学部修士課程において、ペルシャ語とイランの文化を学んだ。
1990年～1996年	在イラン日本国大使館勤務政務班長(一等書記官その後参事官)として、日本・イラン関係全般のフォロー及びイラン国内政治情勢の分析を行った。
1996年	『日本・ニュージーランド交流150年史編集委員会』が設置された後、研究論文の構成や歴史的資料の記載を主導
1996年～1999年	日本・ニュージーランド交流史の編纂事業に従事
1996年～1999年	ニュージーランド大使館勤務時代に編纂委員会を主宰した『日本・ニュージーランド交流150年史』(英文)が、両国友好にとってきわめて意義深い記録集であるとして、教育関係者からも高い評価を得た。ニュージーランド全土の小・中学校、高校、大学に歴史の副読本として配布された。
1996年～2000年	在ニュージーランド日本国大使館政務班長(一等書記官)として日本･ニュージーランド関係全般の展望と、ニュージーランド国内政治情勢の分析を行った。ヴィクトリア大学(ウェリントン)戦略研究所と、ニュージーランドとオーストラリアの軍事的政治的関係、南太平洋諸国情勢等について毎月、意見交換会を設定した。南太平洋諸島のサモア、クックでは政府要人と会見し、政治経済情勢についての分析を行った。これら諸国へのオーストラリアの経済援助の実態を調査するため、オーストラリア国立大学やメルボルン大学の教授らと意見交換を重ねた。
1978年～1980年	在イラン日本国大使館勤務二等書記官(政務担当)として勤務中に、イラン革命及びイラン･イラク戦争の勃発を経験。現地情報にもとづく政情分析を行った。革命前には日本学術振興会テヘラン事務所を通じて長期滞在の日本人研究者らと意見交換、革命後も日本から来訪する研究者(上岡弘二オリエント現学会会長、元東京外国語大学教授ら)とイラン情勢について意見交換を行った。

1980年～1983年	在オーストラリア日本国大使館勤務二等書記官(経済班所属)として、オーストラリア経済、日本・オーストラリア経済動向を分析した。
1987年～1990年	米国在シアトル総領事館首席領事として勤務のかたわら、当時は日米経済摩擦問題が大きな政治問題となっていたので、管轄州(ワシントン州、モンタナ州、アイダホ州北部)の大学、コミュニティカレッジ、高校、中学を数多く訪問し、日米経済の実態及び日米貿易摩擦の解消策等について学生・生徒にも分かりやすい講演を行い、理解を求めた。また対日理解を深めるため、総領事館とモンタナ大学との合同による、数度のセミナーを主導した。
2004年～2007年	オーストラリアマードック大学で学生や一般市民向けに「日本とオーストラリアの最近の経済関係」講演会を複数実施。 オーストラリアのビジネスマン向けに「日本企業のオーストラリア進出に際しての問題点」講演会を実施。
2004年～2007年	『日本・西オーストラリア100年史』編纂委員会を主催
2004年～2007年	在パース日本国総領事として日本と西オーストラリア州の文化学術交流の促進に努力し、西オーストラリア州への日本企業の進出へのアドバイスを行った。また『日本・西オーストラリア100年史』の編纂委員会を主宰した。
2007年～2008年	2008年は日本人のブラジル移住百周年記念にあたり、在ブラジル・ベレン日本国総領事館総領事として数多くの記念行事を担当し、両国市民の文化交流に努めた。

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　井谷　鋼造	学位　　文学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	西南アジアの歴史、南・西南アジア諸語の世界、南・西南アジアの社会、アジア・フィールドワーク２			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
２　作成した教科書、教材、参考書		
西南アジアの歴史：Ａ４版計17枚のプリント、南・西南アジアの社会、南・西南アジア諸語の世界：Ａ４版計16枚のプリント	2009年4月～2010年1月	授業の概要を説明したもの
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
トルコ共和国ニイデ市内にある西暦13-15世紀のアラビア文字碑文	単著	2005年12月	追手門学院大学文学部紀要41		pp. 1-24
トルコ共和国アマスヤ市内にある西暦13-15世紀のアラビア文字碑文	単著	2007年3月	追手門学院大学文学部紀要42		pp. 1-24
トルコ共和国イズニク市内にある西暦14-15世紀のアラビア文字碑板	単著	2008年1月	追手門学院大学国際教養学部紀要１		pp. 47-68
歴史的なモニュメントの碑刻銘文資料が語るもの	単著	2008年1月	史林91-1		pp. 101-140
オスマーン帝国のモニュメントに残された刻銘文資料の語るもの	単著	2009年1月	追手門学院大学国際教養学部紀要２		pp. 1-27
マレーシアで訪ねたイスラーム文化関連施設	単著	2009年4月	アジア観光学年報10		pp. 99-111
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　梅村　修	学位　　文学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	日本語読解中級１・２　日本語読解上級１・２　日本語聴解中級１・２　日本語聴解上級１・２			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
（１）外国人留学生のための「インタビュー・プロジェクト」の試み	2005年～	「インタビュープロジェクト」の試みは、追手門学院大学の共通科目「日本語読解上級」（外国人留学生対象）の中で、2005年度から毎年、実施されてきている。「インタビュー・プロジェクト」とは、外国語の学習者が、ある話題について、当該外国語で聞き取り調査をし、それをまとめるプロジェクト・ワーク、広義の体験学習の一つである。「インタビュー・プロジェクト」を思い立った理由は、次の３点である。 １）既成の日本語の談話教材、なかでも読解教材には、テーマや論旨に著しい偏りがある。また、留学生が抱く日本(人)観には、こうした偏向した読み物からの影響が少なくない。そうしたステレオタイプ的な日本(人)観を打破して、日本(人)の多様性を発見するような授業を展開してみたい。 ２）留学生は、日本人とまじめに率直な議論をした経験が少ない。また、日本人も留学生を遠巻きにして近寄ろうとしない傾向がある。留学生、日本人双方のインターアクションを高めて、両者の気づきを誘発したい。 ３）日本語の読解・聴解の授業を、留学生にとって、もっと内発的動機に溢れた有意義なものにしたい。言い換えれば、ある明確な目的をもって、読んだり聴いたりする授業を展開したい。 おおまかに書くと、上記のような意図の実現のためにシラバスを組み立てた。もちろん、よいインタビューをするためには、TPOに合わせて日本語を正しく運用する能力や、相手から有意義な発話を引き出す能力の養成が欠かせない。したがって、文法や発音など、いわゆる語学力の指導も徹底して行う。しかし、日本語力の養成は、あくまでも、上記3点の意図の実現のための手段であって、それ自体を学習目標にはしない。すなわち、日本語を話したり聞いたりする能力は、インタビューの中で付随的に磨かれていくことを狙った。
（２）外国人留学生のための「読解フィールドワーク」の試み	2006年～	2006年度からは、上記の「インタビュー・プロジェクト」に先立って、「読解フィールドワーク」と名づけた学習活動も行っている。これは、留学生が広くさまざまな日本語の文献に当たり、インタビューのテーマを絞り込むために行われる活動である。 そもそも、「インタビュー・プロジェクト」は、先述のとおり、日本語の読解・聴解の授業を、留学生にとって、もっと内発的動機に溢れたものにしたい、という願いから案出されたものだった。お仕着せの談話を無理やり読ませる(聴かせる)のではなく、留学生には、自らの興味や関心の赴くまま、好きな文章を読み(聴き)深めていってもらいたいと期待した。しかし、初年度の留学生のインタビューをみるかぎりでは、日本人から有意義な発言を引き出すために、関連文章をたくさん読みこんだ跡は、残念ながら見られなかった。インタビューという喫緊の課題をとにかく凌げばいいというので、希薄な問題意識のまま、おざなりな質問と応答でお茶を濁す留学生がほとんどだった。 つまり、初年度のインタビュー・プロジェクトは、明確な目的をもって意欲的に文章を読み解く作業に留学生を駆り立てなかった。「読解フィールドワーク」は、この反省の上に立ち、「自分が本当に興味を持っていることはなにか」を留学生自身に発見させるために行われたものである。
２　作成した教科書、教材、参考書		
『初中級日本語文法問題集１・２』(共著)　帝京出版	1997年5月	日本語教育では、初級段階で日本語の骨格となる基本文型を導入し、口頭練習を繰り返すことでその定着を図る。中級段階に進むと、初級で習得した基本文型を応用して、複雑な表現形式や語彙を肉付けして、読解や聴解、作文の指導に入っていくのが一般的である。ところが、従来から、初級から中級へ進む場合に生じる学習上の“落差”が指摘されてきた。つまり、初級と中級の間に、初中級という階梯を設定して基本文型を補う必要がある。本問題集では、初級の基本文型を総復習するとともに、中級への橋渡しとしての発展的な文法知識を、問題を解いていく過程で習得できるように工夫した。
『ジェイキャット問題集１』（共著）凡人社	2001年5月	従来、留学生対象の聴解教材は、音声から内容を理解する能力を育成するというよりも、聞き取りの背景にある知識－文法や語彙の知識－を試すことに主眼が置かれていたきらいがある。そのために、聴解の試験では高得点をマークしているのに、実際のコミュニケーションの場面では、十分な日本語運用力を発揮できない学習者を多く生むことになった。本問題集では、こうした反省点を踏まえて、人と人が実際に接触し、意思の疎通を図ろうとする際に必要なコミュニケーション能力の養成を目指した。問題の形式としては、文法や語彙といった言語知識を反芻する余裕を与えず、短い時間で数多くの問題を次から次に解いていくTOEICタイプの問題集となった。

『ブランドとリサイクル』（共著）リサイクル文化社大阪編集室	2005年5月	本書はリサイクル品（特にリサイクルブランド品）の二次流通市場における可能性を、学問的な切り口から探ってほしい、というアスカ・リサイクル文化社からの依頼に応じて書いたものである。筆者は、長らく骨董の世界に遊んでいた。リサイクルというテーマが与えられたとき、真っ先に頭に浮かんだのも、自分が愛してやまない骨董品のことだった。骨董業も広い意味では二次流通業に違いない。だが、骨董品をリサイクル品と呼ぶことには抵抗があった。なぜだろうか。端的に言えば、骨董品とリサイクル品は似て非なるものだからである。 骨董品は、流通のサイクルを経巡るうちに、新たな価値を生み出していくのに対して、リサイクル品は価値を目減りさせていく。その証拠に、骨董品は普通、時代がついていればいるほど値が張るのに対し、リサイクル品は古くなるほど安くなる。すなわちリサイクル品とは、新品を超える価値を決して持ち得ないものなのである。第１部で扱ったリサイクルブランド品もしかりで、どんなに状態のよいルイ・ヴィトンのリサイクル・バッグでも、直営店に並ぶ新品の値札を上回ることはありえない。 もうひとつ、決定的に二つを隔てるのは、骨董品は再生産が絶対に不可能なのに対して、リサイクル品は同一の規格品があとからあとから再生産される可能性があるということだ。つまり、リサイクル品は希少性という価値をも生みにくいのである。 このように、リサイクル品は流通のサイクルの途上で付加価値を生まない。逆に、まっさらの価値を確実に失っていく。したがって、リサイクル品を扱う業者は、放っておけば摩滅していく商品価値をいかに食い止めるかに躍起にならざるを得ない。極論すれば、リサイクル業とは、物品のterminal care、放置しておけばゴミ箱に直行する廃品の延命工作をしているにすぎないことになる。これはあまりに悲しい。 そこで、今後、リサイクル業界がその社会的な存在意義を高めるためには、二次流通の過程で、リサイクル品になんらかのプラスアルファの価値を付与しなければならない。本書では、清潔感、実用感、好ましい来歴、包装、商品展示の５つの価値をあげたが、ほかにもあるに違いない。
『アートマーケティング』(共著)白桃書房	2006年4月	本書は辻幸恵氏との共著であり、筆者は第1部を担当した。その中で、筆者は現代日本の消費社会の中で、アートとマーケティングという、もともと相互に交渉を持ち得なかった領域が、複製技術の飛躍的な進歩とアーティストの存在意義の変化にともなって、手を携えて変容している様相を、実例を豊富に挙げて紹介した。 同時に、次のような問題提起もしている。近年、日本社会では、高尚なイメージの“美術”が、平俗な“アート”に衣替えし、マーケティングの素材、あるいは対象となる現象がみられる。 その理由をサブカルチャーとハイカルチャーの接近・融合から捉える見方がある一方、そもそも日本の美術には純粋芸術と応用芸術の厳密な区別が存在せず、つねに人々の日常生活の中の飾りとして、あるいは遊びとして、美術が享受されてきた歴史に理由を求めることもできる。つまり、もともと日本の芸術とは、購買行動を誘発する美しい仕掛けとして機能してきたのではないか、という問題提起である。
『消費社会とマーケティング』（共著）嵯峨野書院	2007年3月	広告は訴求したい諸々の商品情報（機能、便益、特徴など）を、限られた放映時間や紙面という媒体（15秒枠や誌上の段組）の上に"縮約（ダウンサイジング）"し、かつ、情報の受け手がそれを読み解き"拡張（連想、話題、想起）"する一連の作業から成り立っていると考えることができる。中でも、映像広告は、15秒間という短い時間の中で、音や言葉や色や映像（動画・静止画）といった媒体の中で、多種多様なストラテジー（比較、置き換え、擬人化、誇張、実証、繰り返し、キャッチコピーやサウンドロゴ等々）を展開させる。結果として、消費者に訴求したいポイントが正確に伝わっている映像広告が、成功したCMといえる。 すなわち、縮約の作業を経て、商品情報がぎりぎりまでそぎ落とされ、かつ、それを受け取った消費者の中で商品情報が正確に拡張される。つまり、「シンプルにして多弁、多弁にしてシンプル」な広告こそ、世のCMプランナーやアートディレクターが追い求めているものにほかならない。商業広告は、広告対象商品の販売促進を、「媒介された」あるいは「調整された」何かを経て行おうとするいいかえれば、露骨な販売促進の意図を消費者に見透かされないように、広告らしさをなるべく払拭しようとする。CMの場合、それは、具体的には、映像や言葉や音のレトリックを使った謎掛けである。 しかし、謎掛けはそれだけで終わっていては何の価値もない。広告で作る謎は、最後の商品・ブランドに結びついていなければ、何もならない。したがって、縮約された情報を広げなおす謎解きの過程が、広告の理解過程と言い換えることができるのではないか。受け手は謎解きの過程を通して、広告を解読するゲームに参加させられ、広告を"体験する"のではないか。こうした問題意識を持って、映像広告の視聴実験を繰り返し、会話分析の方法で解析したのが本著である。

『キャラクター総論』（共著）白桃書房	2009年5月	本書で、筆者は、第一章「日本産キャラクターの原理論」と第二章「「ペコちゃん」の世論形成～企業キャラクターはリスク・ヘッジとして機能しうるか～」を担当執筆した。第一章「日本産キャラクターの原理論」では、現代日本の消費社会において隆盛を極めているキャラクターの系譜をたどり、キャラクターとはそもそも何なのか、文学や美術やマスカルチャーなど広くさまざまな文献に当たって考えた。 第二章「「ペコちゃん」の世論形成～企業キャラクターはリスク・ヘッジとして機能しうるか～」では、先の不二家の賞味期限偽装問題で、日本を代表する企業キャラクターである「ペコちゃん」が、不二家、マスコミ、消費者の三者の間で、どのように人格的な“振る舞い”を見せるかを、全国紙の報道紙面に掲載された活字や写真や見出しを素材にして、談話記号論の手法で分析した。その結果、「ペコちゃん」のように、消費者の再認度の高いキャラクターになればなるほど、消費者のキャラクターに対する感情移入が進行し、企業が期待するリスク回避の役回りを演じにくくなるという推測が得られた。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
（1）教育研究所春のセミナー「大人数授業における講義談話の『わかりやすさ』に貢献するメタ言語的表現の研究」	2006年6月29日	
（2）第二回FD懇話会「日本語教育開始に向けて」	2007年3月9日	
（3）国際交流教育センター事務室・職場研修「外国人留学生に対する日本語教育の現状と課題」	2007年8月31日	
（4）教育研究所　定例研究会「NHK　クローズアップ現代を使った日本語聴解の授業」	2008年6月19日	
4　その他教育活動上特記すべき事項		
『隣の国から見た日本の教育』朝日・大学パートナーズシンポジウム	2008年2月2日	概要：テーマ：隣の国から見た日本の教育～　“ゆとり教育”は“失敗”なのか 昨今、“学力低下”の問題がさかんに議論され、国民的関心を集めている。折りしも、2007年度は、“ゆとり教育第一世代”が大学１年生となり、われわれ大学関係者も、その余波を肌で感じるようになった。また、安倍内閣の「教育再生会議」では、授業時間の10%増加や、土曜授業の復活が検討されている。さらに、本年4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果も気になるところである。 これまで、“ゆとり教育”は、ことさらに“罪”の側面のみが強調され“功”の側面は省みられることが少なかったようである。しかし、本当に“ゆとり教育”は“失敗”だったのだろうか。“学力低下”の遠因を、ひとり“ゆとり教育”にのみ求め、学校週5日制を旧に復せば、あるいは指導要領を見直せば、日本の公教育は本当に“再生”するのだろうか。そもそも“ゆとり教育”の理想とは、なんだったのだろうか。 ところで、現在、我が国には10万人以上の留学生が学んでいる。彼らの8割強は、経済発展著しい中国からの私費留学生である。彼らは、混迷する“ゆとり教育談義”をどんな目で見ているのだろうか。腰の定まらない日本の教育にどんな感想を抱いているのだろうか。 本プログラムでは、留学生対象の日本語教育の一つとして行われた「インタビュー・プロジェクト」の成果をもとに、日本の“ゆとり教育”に向けた留学生の透徹した眼差しを紹介した。 また、シンポジウムでは、一外国人として日本での子育てに奮闘されてきた有識者、教育行政に長年たずさわり“ゆとり教育”を推進されてきた元文部官僚、中国と日本の教育について一家言おもちの中国人研究者、中学受験指導の最前線で活躍しておられる学習塾経営者をパネリストに招き、袋小路をなかなか抜け出せない日本の教育に、新しい視点を提供していただいた。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『ジェイキャット問題集１』	共著	2005年5月	凡人社	宮本典以子	全頁
『ブランドとリサイクル』	共著	2005年5月	リサイクル文化社大阪編集室	辻幸恵	pp. 104-173
『大人数授業をどう改革するか』	共著	2006年3月	アスカ文化出版	井ノ口淳三・鋒山泰弘・辻幸恵・則長満	pp. 87-147
『アートマーケティング』	共著	2006年4月	白桃書房	辻幸恵	pp. 1-155
『消費社会とマーケティング』	共著	2007年3月	嵯峨野書院	東伸一・辻幸恵・玄野博行	pp. 39-76
『キャラクター総論』	共著	2009年5月	白桃書房	辻幸恵・水野浩児	pp. 1-101
論文					
『留学生の若者文化に対する同化と日本人学生との交友関係の深化－中国人留学生の場合－』	共著	2004年11月	留学生教育　第９号　留学生教育学会	辻幸恵	pp. 43-56

『私費外国人留学生の資格外活動（アルバイト）場面での異文化コンフリクトの探索的研究－留学生アルバイターと日本人スタッフの場合－』	単著	2005年3月	追手門学院大学2004年度共同研究１		pp.57-81
『日本語の要約談話スキル－留学生と日本語母語話者との比較から－The Skill of Summarized Spoken Japanese：A Comparison Between Foreign Students and Japanese Native Speakers.』	単著	2005年5月	大阪外国語大学　留学生日本語教育センター　日本語・日本文化第31号		pp.63-80
『テレビCMで使われる「くり返し」の効果 Effects of Repetition Used in TV Commercial』	単著	2005年12月	日本繊維機械学会誌せんい Vol.58		pp.41-45
『外国人留学生のためのインタビュー・プロジェクトの試み』	単著	2006年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第24号		pp.46-65
『外国人留学生のための「インタビュー・プロジェクト」「読解フィールドワーク」の試み』	単著	2006年12月	留学生教育　第11号　留学生教育学会		pp.125-132
『大学のアートディレクション～追手門ブランド構築のために～』	単著	2006年12月	追手門学院大学文学部紀要第42号（大学創立40周年記念論文集）		pp.55-72
『台湾の食文化に入り込んだ日本』	共著	2007年1月	追手門学院大学アジア文化学科年報第9号	山本祥子	pp.25-39
『新入生演習での日本語リテラシー教育について』	単著	2007年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第25号		pp.47-63
『新入生が抱いている追手門学院大学のイメージ－追手門ブランド創出のための調査研究報告－』	共著	2008年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第26号	水藤龍彦・辻幸恵	pp.64-90
『京のクリエイティブに学ぶアプレンティス・プロジェクト』	単著	2008年12月	追手門学院大学アジア学年報第2号		pp.1-10
『「NHK　クローズアップ現代」を使った日本語聴解の授業』	単著	2009年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第27号		pp.58-68
『ブランデッド・エンタテインメントの理解過程に関する実証的研究～映像広告の非営利的活用が消費者心理に及ぼす影響について』	単著	2009年6月	2007-8年度　科学研究費補助金(基盤研究C)研究報告「映像コンテンツのNPOとPPPの権利管理及び関連する振興政策と協働経営の国際比較」		
その他					
１．研究発表					
『広告が消費者心理に及ぼす影響（第２報）若者の感性を刺激する構造』	単独発表	2005年5月26日	日本繊維機械学会 大阪科学技術センター		
『中古品フェアにおける購入心理』	共同発表	2005年5月26日	日本繊維機械学会 大阪科学技術センター	佐々木大輔・澤井空人	
『広告が消費者心理に及ぼす影響（第４報）アート的な映像広告の“売る仕掛け”』	単独発表	2006年6月1日	日本繊維機械学会 大阪科学技術センター		
『アート商品に対する日本の大学生の心的効果』	共同発表	2006年6月1日	日本繊維機械学会 大阪科学技術センター	温都蘇・李良	
『広告が消費者心理に及ぼす影響（第６報）映像広告の理解過程』	単独発表	2007年6月1日	日本繊維機械学会 大阪科学技術センター		
『ブランド商品に対しての消費者心理　大学生のケース』	共同発表	2007年5月31日	日本繊維機械学会 大阪科学技術センター	王暁輝・楊威	

『広告が消費者心理に及ぼす影響（第８報）映像広告の理解過程』	単独発表	2008年5月29日	日本繊維機械学会 大阪科学技術センター		
『大学生が求めるシューズ』日本繊維機械学会	共同発表	2008年5月29日	日本繊維機械学会 大阪科学技術センター	森田智・森田大貴	
『レトロ商品と結びつく若者の想起と行動』	共同発表	2008年6月28日	日本消費者行動研究学会 株式会社アサツー ディ・ケイ	辻幸恵	
『京都の魅力店開発事例―京都市支援個店へのリサーチ報告―』	共同発表	2008年11月23日	日本消費者行動研究学会 東海大学短期大学		
『広告が消費者心理に及ぼす影響(第10報)映像広告の理解過程』	単独発表	2009年5月21日	日本繊維機械学会 大阪科学技術センター		
『ズボンの選択基準―大学生のケース―』	共同発表	2009年5月21日	日本繊維機械学会 大阪科学技術センター	竹村卓巳、垂井智裕、松下周平	
『日本人がブランドを好む理由』	共同発表	2009年5月21日	日本繊維機械学会 大阪科学技術センター	楊帆、尹蘭	
『「ペコちゃん」の世論形成～企業キャラクターはリスク・ヘッジとして機能しうるか～』	単独発表	2009年6月14日	日本繊維製品消費科学会 京都女子大学		
２．講演・シンポジウム					
『企業心理と消費者心理研究会について』	講演	2004年5月13日	日本繊維機械学会 大阪科学技術センター		
『レトロの中の新しさ』	講演	2004年9月16日	在団法人神戸市産業振興財団 神戸商業経営研究会 神戸市産業振興センター		
『セルロイドの靴べら－昭和生活史の視点から－』	講演	2004年11月5日	セルロイド産業文化研究会 大阪科学技術センター		
『新感覚の骨董』	講演	2005年4月6日	茨木市教育委員会・追手門学院大学 茨木市市民総合センター		
『アートとマーケティング』	講演	2005年11月7日	阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット公開講座フェスタ2005 大阪府立文化情報センター		
『茶道具の不易流行』	講演	2006年5月22日	暮らしを彩る器と工芸展 大阪ドーム		
『台湾食道楽～食文化に入り込んだ日本料理』	講演	2006年7月11日	追手門学院大学創立40周年記念講座　おうてもん塾　アジアを食らう 毎日文化センター		
『映像コンテンツ国際比較「欧州と日本」リポート　日本の映像アートマーケティング』	講演	2006年11月23日	NPO法人アートポリス大阪協議会第7回公開フォーラム ビジュアルアート専門学校新館３階アーツホール		
『隣の国から見た日本の教育』	シンポジウム	2008年2月2日	朝日・大学パートナーズシンポジウム 追手門学院大学6号館優駿ホール		
『骨董の魅力と購買心理』	講演	2009年10月30日	日本繊維機械学会「企業心理と消費者心理研究会」第7回公開講演会 大阪科学技術センター	勝見充男氏との対談	
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
	日本語教育学会				
	留学生教育学会				
	日本繊維機械学会				
	日本繊維製品消費科学会				
	初年次教育学会				

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　奥田　尚	学位　　文学修士【大阪大学大学院】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	日本史概説　アジアの社会１　アジアの諸文化２			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2009年4月～	教職科目「日本史概説」では、毎時間必ず史料プリントを自作し、配布して授業を進めた。史料はできる限り基本的なものと専門的なものを併記する形式で準備した。
	2008年度	共通科目の「アジアの社会１」は09年度は日本の近現代社会史をアジアとの対比を念頭に講義した。同「アジアの諸文化２」は08年度は日本の文化現象として、日本の世界文化遺産のいくつかを取り上げ、日本前近代史としても理解できるように講義した。両講義ともに、毎時間補助教材としてプリントを準備し、対応する映像・画像を探して、10分以内で説明の適切な対応部分に映写した。
２　作成した教科書、教材、参考書		
〔「アジアの社会１」に対応〕「沖縄の基地をめぐる覚え書き」（追手門学院大学『観光学年報』７号）	2006年4月	05年10月に公表された「米軍再編成中間報告」は、日本の安全保障にとどまらず、アジア地域の安定と平和に極めて重大な影響をもたらす。その内容点を整理した。
〔「アジアの社会１」に対応〕「敗戦直後の沖縄の取り扱われ方に関する覚書－進藤栄一『分割された領土　もうひとつの戦後史』を学ぶ－」（追手門学院大学『アジア観光学年報』８号）	2007年4月	1945年以降の沖縄が日本とは別の歴史をたどった時期について、なぜそうしたことが起きたのかを理解するために要点を整理した。
〔「アジアの社会１」に対応〕「嶺田楓江『海外新話』の一部の紹介」（追手門学院大学『アジア観光学年報』９号）	2008年4月	嘉永２年（1849）に出版された『海外新話』は、アヘン戦争を描く通俗読み本である。その板本の冒頭部分を複写転載し解説を加えた。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『アジアの市場（いちば）の現状と背景　－ヒトとモノの出会いと交流－』	共著	2005年3月	追手門学院大学	奥田尚編	pp. 70-79
『上海アラカルト』	共著	2009年6月	和泉書院	追手門学院大学アジア学科	pp. 105-191
論文					
「ある詩人像と近代の日本　－大岡昇平の中原中也論を素材として－」	単著	2004年4月	追手門学院大学『アジア観光学年報』５号		pp. 109-136
「古代東アジアの歴史叙述に関する序説　－『史記』を手がかりとして－」	単著	2004年11月	追手門学院大学『アジア文化学科年報』７号		pp. 9-28
「古代東アジアの歴史叙述に関する序説(2)　－高句麗初期の王の名を手がかりに－」	単著	2005年11月	追手門学院大学『アジア文化学科年報』８号		pp. 32-48
「『海外新話』の南京条約」	単著	2006年4月	追手門学院大学『創立40周年記念論集・文学部編』		pp. 31-41
「虹影『飢餓の娘』に見る中国現代史」	単著	2007年11月	追手門学院大学『アジア学科年報』創刊号		pp. 1-19
「棉棉『上海キャンディ』に見る現代中国」		2008年1月	追手門学院大学『国際教養学部紀要』創刊号		pp. 97-113
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2008年2月24日	茨木市制60周年記念文化財シンポジューム「藤原鎌足と阿武山古墳」にパネラーとして参加。「中臣鎌足の原像」を報告し、パネルディスカッションに参加。
2009年3月31日	同上の講演の記録集（文化財シンポジウム記録集）の自分の講演部分を執筆した。同記録集は、市民の希望者に配布された。

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　重松　伸司	学位　　博士（文学）【京都大学（1999）】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	「アジア論」、「フィールドワーク論」、「現代アジアの諸問題」、「オーストラリアを学ぶ」、「アジアと国際社会」			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
教科書・教材		
「高等学校新詳世界史Ｂ」教科書(帝国書院)	2008年4月	世界史指導要領に準拠した高等学校用新世界史教科書
「高等学校新詳世界史Ｂ」教科書指導書(帝国書院)	2008年4月	同教科書の教員用指導書
参考書		
「高等学校明解世界史Ａ」教授資料(帝国書院)	2004年4月	世界史Ａ教科書の教員用指導書
「世界史のしおり」(帝国書院)	2004年1月～2008年1月	高等学校世界史教科書の内容にまつわる論文・エッセー・紀行文など
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
大学図書館「IREG(Information Resources Exhibition Groups)」の創設と助成	2004年4月～	本学図書館長として、学生の図書への関心を高めるための図書館情報紙の刊行及び学生ボランティアの活動支援とその表彰
「アジアを歩く、アジアを学ぶ－フィールドワークの旅から－」	2005年8月18日	大学広報の一環として本学アジア文化学科の特色ある卒業生を紹介
「インド経済の現状について」（単）	2007年10月12日	ラジオ大阪「朝はミラクル」対談 大学広報活動の一環として、大学における現在の特色ある研究を公開
「講演シリーズ」「アジアを食らう」(企画責任・講演)	2006年5月～10月	創立40周年記念行事として、社会人を対象に、アジアの食と文化について、8名の講師と共同で12回にわたって開催。
「アジアが見える」講義の試み（単）	2008年3月1日	『国際教養学部　自己評価　創刊号』、多数受講生対象の講義における方法論
タコヤキフィールドワーク～タコヤキから経済・社会・文化・風俗・都市を考える～	2009年3月	2008年度講義「フィールドワーク論」における受講生の現地調査レポートとそのゼミ指導
4　その他教育活動上特記すべき事項		
茨木市立文化財資料館運営審議会委員	2004年5月～	茨木市の文化財保存活動および広報の運営参加
茨木市教育功労者表彰	2007年11月	同上の活動に対する表彰
大阪府立佐野高等学校運営協議会委員	2007年4月～2009年3月	同高等学校の教科指導特に国際教育の方法、運営などに関する助言。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『インドを知るための50章』	共編著	2005年2月	明石書店(改訂２版)	◎重松伸司	序文および全50章のうち26章担当
『インドを知るための50章』	共編著	2006年4月	明石書店(改訂３版)	◎重松伸司	序文および全50章のうち26章担当
『ベンガル湾海域文明圏の研究　Ⅰ－アルメニアン・コミュニティーの組織と経済活動を中心に』	単著	2007年3月	個人刊行		全73頁(科学研究費 基盤研究(C)成果報告書)
『カーストの民－ ヒンドゥーの習俗と儀礼－』	単著	2008年1月	平凡社(改訂第7版)	古典的名著Hindu Manners,Customs andCeremonies(1906)の訳・注釈・解説	
『東南アジアを知る事典』	共著	2008年4月	平凡社		1項目「インド人」
『文化人類学事典』	共著	2008年12月	丸善出版	日本文化人類学会編	1項目「インド移民」

論文					
「ベンガル湾のアルメニア人商人たち　1」	単著	2004年10月	「世界史のしおり」24		
「ベンガル湾のアルメニア人商人たち　2」	単著	2005年1月	「世界史のしおり」25		
「ベンガル湾のアルメニア人商人たち　3」	単著	2006年4月	「世界史のしおり」29		
「ベンガル湾のアルメニア人商人たち　4」	単著	2006年10月	「世界史のしおり」30		
「ベンガル湾のアルメニア人商人たち　5」	単著	2007年1月	「世界史のしおり」31		
「東洋のマンチェスターをたどる①ーインドのマンチェスター、ボンベイ」	単著	2007年4月	「世界史のしおり」32		
「東洋のマンチェスターをたどる②ーアジアの綿業センター、大大阪」	単著	2007年10月	「世界史のしおり」33		
「東洋のマンチェスターをたどる③ー世界の綿業センター、上海」	単著	2008年1月	「世界史のしおり」34		
CEPEA:Is It Possible to Organize Asia-Oceanic Community?		2007年3月	The Otemon Journal of Australain Studies, vol.32		
Pearling and Japanese Contribution to Local Community in early 20th Century Australia.		2008年3月	The Otemon Journal of Australain Studies, vol.33		
その他					
「グローバル化はカーストを変えるか」	単著	2006年4月	毎日新聞社刊行『エコノミスト』インド特集号		pp.110-113
「カースト空洞化懸念も」	単著	2006年9月26日	毎日新聞東京版(朝刊) インド特集		コラム(紙面3分の1頁)

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1974年4月～	アジア政経学会
1965年4月～	東洋史研究会
1965年4月～	史学研究会
1980年4月～	南アジア学会

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　正信　公章	学位　　文学修士【京都大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	インドの思想と宗教1、タミル語の世界、アジアの社会2、東洋文化演習2、アジア文化上級演習1、応用演習1、アジア社会演習2			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
インド文化体験学習	2004～2009年度 該当演習実施日	受講生に企画を立案させ、ときには学外に出て、インド文化の諸要素を体感させる取り組み
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
追手門学院大学「特色ある教育」年度報告集での公表	2004～2008年度	インド文化体験学習の実践報告
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
礼拝の観光学	単著	2003年04月～2005年04月	アジア観光学年報（第4号～第6号）		(4)pp. 118-123, (5)pp. 69-72, (6)pp. 99-103
神具の店の観光学	単著	2006年4月	アジア観光学年報（第7号）		pp. 129-136
多神教世界における人と神々―シンガポール、タミル系ヒンドゥーの回想録から―	単著	2007年3月	追手門学院大学文学部紀要（第42号）		pp. 27-40
アラサ・ケーサリ・シヴァン―ティンナッパン論考訳解―	単著	2007年11月	追手門学院大学アジア学科年報（第1号）		pp. 34-46
絵解きの観光学	単著	2008年4月	アジア観光学年報（第9号）		pp. 121-126
アティラナチャンダ石窟祀堂刻文とガネーシャ・ラタ岩石祀堂刻文	単著	2008年12月	追手門学院大学アジア学科年報（第2号）		pp. 11-21
その他					
「法の精神」	単著	2007年10月	OTEMON PRESS(No. 25)		pp. 5

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　武田　秀夫	学位　　文学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	中国の思想１・２　中国語基礎講読１・２・３・４　新入生演習１　基礎演習２			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2006年度～現在に至る	講義：「中国の思想１・２」：孔子から毛沢東・鄧小平までの思想の山並みを理解することを目標にしている。毎回３問質問を出し、その添削をして翌週返却。
	2009年度	演習：「基礎演習」：前期は『論語』の「学」に関するものを全て読んで、各自の担当部分について発表してもらう。後期は『論語』の「仁」について、前期と同様にする。
	2006年度～現在に至る	語学：「中国語基礎講読」：発音して聞いて書く。毎回基礎訓練を徹底的にやる。
２　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
清末の万物一体論者―譚嗣同	単著	2006年11月	晃洋書房	橋本高勝編	pp. 208-213
国民革命の父―孫文	単著	2006年11月	晃洋書房	橋本高勝編	pp. 214-223
論文					
その他（研究ノート）					
魏源著『老子本義』「老子本義序」及び「論老子」和訳	単著	2007年11月	『アジア学科年報』第１号（通巻第22号）	追手門学院大学国際教養学部アジア学科	pp. 57-69

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

1973年10月～現在	日本中国学会
1974年3月～現在	日本道教学会

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　永吉　雅夫	学位　　文学修士【神戸大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	アジア文化上級演習　　日本の芸能と文学　　日本語のための古典			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
試験答案作成の指導		答案作成の指導のため、「中間試験」を実施し、答案を添削、返却、講評した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
配布資料及びパワーポイントによる画像表示		授業内容に応じて、配布プリントを作成したり、パワーポイントによる画像表示を行った。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「日本語の諸相」授業実践の報告	2007年10月	学部のFD懇話会で新設科目であった「日本語の諸相」の取組について報告した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
修士論文の指導	2009年3月	中国人院生の宮本輝論の指導にあたり、論文を完成、提出させた。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
「天竺」という意匠	単著	2004年12月	追手門学院大学文学部紀要		pp. 68-78
マラッカに潜む	単著	2005年3月	＜アジアの市場の現状と背景＞		pp. 38-46
オーストラリアが読む村上春樹	単著	2007年12月	オーストラリア研究紀要		pp. 19-37
徐家匯天主教堂　―上海の芥川と泰淳	単著	2009年6月	和泉書院『上海アラカルト』	追手門学院大学アジア学科編	pp. 82-104
その他					
「しんとく丸」の世界―説経から折口信夫まで―		2007年11月			公開講座フェスタ2007
紙の本のゆくえ		2009年1月			日本ペンクラブ

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

	日本文学協会
	神戸大学国語国文学会
おうてもん塾	「アジアを食らう」「知っ得　アジアの世界遺産」「よりよく生きて中高年」などの講師を担当、講演をした。
高校への出張授業	府立福井高校、小路高校、私立育英高校、箕面学園高校などで高校生に授業を行った
図書館読書会	09年4月から毎月第4土曜日午後2時から4時まで、一般市民対象に読書会の司会進行を担当

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　松家　裕子	学位　　修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目				

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
（1）記入式レジュメの作成およびこれによる講義	2004年4月～現在	すべての講義科目において、講義の内容のほとんどを盛りこんだレジュメを作成し、これに空欄をあけて配布、適宜回収して点検し、記入の状態を成績評価に入れることによって、学生の集中力を高めている。この資料は毎年更新している。
（2）中国の漫画を使った中国語教育の試み	2008年4月～	時事漫画（『諷刺とユーモア（諷刺与幽默）』掲載の「狂乱の街（瘋狂City）」を使い、中国の世相を理解しながら、毎回暗誦を課して、生きた会話を身につけることをめざす。これを使って中国語劇も試みた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
（1）空欄入り、講義レジュメの作成	2004年～現在	上記1－（1）を参照。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『中国女性史入門』	共著	2005年3月	人文書院	関西中国女性史研究会	pp. 20-21、pp. 122-123
論文					
中国の福の神 ―新年に訪れるもの―	単著	2005年3月	説話・伝承学　第13号		pp. 139-151
潘金蓮はなぜ鏡を見たか ―『金瓶梅詞話』第三十八回の俗曲「二犯江児水」について	単著	2005年9月	桃の会論集　三集		pp. 109-119
従小説的開端看趙樹理的創作特色	単著	2006年12月	『趙樹理研究』第46・47期合刊		pp. 30-35
中国の口承文芸「十月懐胎（とつきとおか）」―浙江蕭山における実地調査から―	単著	2007年3月	追手門学院大学学内共同研究報告書『21世紀ジェンダー教育の構築―フィールドワークからの発信―』		pp. 81-114
「十月懐胎」について ―余華から説き起こす―	単著	2008年3月	『吉田富夫先生退休記念論集』（汲古書院）		pp. 423-435
鮑照楽府の一人称はどこまで鮑照か	単著	2008年10月	桃の会論集　四集		pp. 27-42
その他					
（翻訳）劉建平・閻建紅「評劇は現代劇の創作と上演に大きな成功をおさめてきました」	単著	2008年3月	『幕』66（日中演劇交流・話劇人社）		pp. 7-10
（翻訳）『台湾女性史入門』	共著	2008年10月（予定）	人文書院	関西中国女性史研究会	pp. 202-205

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　南出　眞助	学位　　文学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	人文地理学概説、アジアの諸文化、アジアと国際社会、オーストラリアを学ぶ			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2004年12月1日	『Teach Australia-オーストラリアを教える先生のための実践ワークショップ-講演集』を編集（「オーストラリア研究紀要」第30号抜刷）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2007年1月	第1回4学部合同FD懇話会にて発表。「新入生演習の教育的位置づけについて」
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2004年4月	追大プロジェクト科目「オーストラリアを学ぶ」を開講し一般公開授業とする。
	2004年6月	「Teach Australia-オーストラリアを教える先生のための実践ワークショップ-」主催（豪日交流基金資金協力）
	2006年9～12月	「オーストラリア理解講座」主催（豪日交流基金資金協力）
	2009年4月	基本科目「オーストラリアと国際社会」、 経済学部学科科目「オーストラリア産業論」、 国際教養学部学科科目「アジア・オーストラリア関係論」を開講する。 追大プロジェクト科目「オーストラリアを学ぶ」を1･2とし、春秋両学期開講とする。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
アジアの歴史地理１―領域と移動―	共編著	2007年6月	朝倉書店	石原潤、金坂清則、南出眞助、武藤直編	pp. 203-212
アジアの時代の地理学―伝統と変革―	共著	2008年3月	古今書院	千田稔編	pp. 33-55
王朝文学と交通	共著	2009年5月	竹林舎	倉田実、久保田孝夫編	pp. 48-67
上海アラカルト	共著	2009年6月	和泉書院	追手門学院大学アジア学科編	pp. 43-57
論文					
那覇港以前―浦添城と牧港―	単著	2004年4月	アジア観光学年報（5号）		pp. 78-83
オーストラリア主要港におけるコンテナ輸送の動向―対アジア貿易拡大とその地域的影響―	単著	2006年12月	オーストラリア研究紀要（32号）		pp. 3-19
年代記と地理書からみたマラッカ王国	単著	2008年1月	国際教養学部紀要（創刊号）		pp. 69-86
東アジアにおけるコンテナ輸送の動向	単著	2009年3月	地域と環境（8･9号）		pp. 158-167
その他					
交通の諸相	単著	2007年1月	新修彦根市史第一巻（古代・中世）		pp. 358-371
前近代の干拓技術	単著	2007年1月	図説尼崎の歴史（上巻）		pp. 23-24
2006年ダーウィン調査の概要	単著	2007年12月	オーストラリア研究紀要（33号）		pp. 59-64
2007年度科研パース調査の概要	単著	2008年12月	オーストラリア研究紀要（34号）		pp. 15-16

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2008年11月～現在	人文地理学会協議員
2004年4月～現在	条里制・古代都市研究会評議員
2004年4月～現在	歴史地理学会評議員
2005年6月～現在	オーストラリア学会理事

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　李　慶国	学位　　文学修士【大阪外国語大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	現代中国の文芸、専修中国語初級講読、専修中国語上級会話、中国語現地演習、アジア上級演習、アジア応用演習、基礎演習、アジアフィールドワーク、アジア社会演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
中国語ソフトを使って発音と翻訳を実践する（中国語情報処理）	2004～2007年度 該当科目実施	中国語情報処理と中国語講読基礎の授業で実施した。
中国人留学生を「TA」として会話練習を行う	2004～2006年度 該当科目実施	中国語の実践的能力の涵養のため、留学生をTAとして会話授業で実施した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
中国語情報処理・教科書（試用版）	2005～2007年度使用	中国現代小説選(試用版、応用演習用)
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2009年5月19日	おうてもん塾「中国語はおもしろい(数字の話から)」特別公開講座
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
日本中国語教学的現状和課題	単著	2004年9月	亜太語文教育学報第6巻2期（香港）		pp. 19-37
試析梁啓超和厳復対『老子』評価の岐異	単著	2004年9月	先秦両漢学術第2期（台湾）		pp. 57-74
郭沫若と文求堂主人田中慶太郎―重ねて『郭沫若致文求堂書簡』の誤りを訂正する	単著	2005年11月	アジア文化学科年報第8号		pp. 49-60
梁啓超的『新中国未来記』與日本明治時期的未来記小説	単著	2005年12月	追手門学院大学文学部紀要41号		pp. 25-36
試論呉繭人的小説叙述	単著	2007年3月	追手門学院大学文学部紀要42号		pp. 41-54
梁啓超的屈原與『楚辞』研究	単著	2008年1月	追手門学院大学国際教養学部紀要創刊号		pp. 87-95
その他					
中国近代小説研究的重要収穫―讀『中国近代小説的興起』（アメリカ・韓南）	単著	2005年12月	清末小説第28号		pp. 145-151
中国の政治改革の先駆者：趙紫陽	単著	2006年4月	アジア観光学年報第7号		pp. 125-128

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2005年10月9日10日	全国保険団体連合会第20回「医療研究集会」の国際シンポジウム「医師・医学者の戦争責任を考える」大会・同時通訳担当
2006年4月	追手門学院大学公開講座2006「中国における日本文学の翻訳―村上春樹から渡辺淳一まで」講演
2007年4月	追手門学院大学公開講座2007「日本での異文化体験―第二の故郷ニッポン」講演
2007年10月	追手門学院大学秋の専門講座「上海・中国のダイナミズム」「歴史の転回点」講演
2007年12月	特別公開講座「おうてもん塾」第10講「家庭や地域社会で頑張る『紅衛兵世代』」講演

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　准教授	氏名　田口　宏二朗	学位　　博士（文学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	アジア文化上級演習1,2、新入生演習、東洋史概説1,2、アジア研究入門1,2			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
東洋史概説1,2	2004年4月～	100篇以上に上る文献を基にして、「中国ブランドの生成」をテーマに毎回1枚のプリントを作成、文献目録も添付。成績評価は、60%が筆記テスト、20%が授業ノートのチェック、20%が小レポート。小レポートにはコメントを付してWEBで公開。
アジアの歴史1,2（2008年以降は科目名アジア研究入門）	2004年4月～	「日本におけるアジアとはなにか」をテーマに毎回1枚のプリントを作成、文献目録も添付。成績評価は、70%が筆記テスト、15%が授業ノートのチェック、15%が小レポート。小レポートにはコメントを付してWEBで公開。
専修中国語中級講読	2008年4月～	HSK3級程度を目標として文法の教材を作成、講義はひたすら音読。一通り終了すれば、IMEの手ほどきを1時間程度行い、その上で時事問題について中国語WEBページを講読。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
明代の漕糧と餘米	単著	2005年12月	『東洋史研究』64-3		pp. 67-103
「中国中心」論？	単著	2007年3月	平成16-18年度科学研究費補助金研究成果報告書『近代世界システム以前の諸地域システムと広域ネットワーク』研究代表者：桃木至朗		pp. 90-103
燕京襍記（一）	単著	2007年4月	『アジア観光学年報』8		pp. 115-128
南京国民政府時期の土地登記と「他項権利」	単著	2008年3月	片山剛編『近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター』3 大阪大学大学院文学研究科		pp. 9-25
南京国民政府時期の土地登記と「他項権利」（２）	単著	2009年3月	片山剛編『近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター』4 大阪大学大学院文学研究科		pp. 45-63
その他					
（辞典項目）「運河」「漕運」	単著	2005年4月	歴史学事典12　王と国家 弘文堂		pp. 50-52, pp. 421-422
「問題の所在」「『しじょう』と『いちば』のあいだ」	単著	2005年4月	奥田尚（代表）『2004年度追手門学院大学共同研究成果報告書 アジアの市場（いちば）の現状と背景』 追手門学院大学アジア文化学科		pp. 3-4, pp. 13-20
（書評）三木聰著『明清福建農村社会の研究』	単著	2005年9月	『史林』88-5		pp. 132-140
（コメント）土地改革政策的〈目的〉与〈効果〉――兼評論陳淑銖教授的報告	単著	2007年3月	片山剛編『近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター』2 大阪大学大学院文学研究科		pp. 77-78

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　准教授	氏名　筒井　由起乃	学位　　博士（文学）【奈良女子大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	地誌学，東南アジアの社会，東南アジア諸語の世界			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
自己評価	2004年10月	文学部自己評価2003/2004　追手門学院大学文学部自己評価委員会年報，16頁.
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「フィールドワークの魅力―ベトナムの農村から―」	2004年7月	地理学ウィーク2004（於奈良県立文化会館），発表要旨は，地理学ウィーク2004資料集（人文地理学会），47-52頁，および人文地理57-1，91-93頁.
「「多文化」の中のベトナム」	2006年4月	追手門学院大学公開講座2006「国際社会における文化の共生」
「ヴェトナムの食と文化」	2006年6月	特別公開講座おうてもん塾「アジアを食らう」
「学生による高校出張授業の試みとその効果」	2007年4月	アジア観光学年報8，105-113頁.
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『ベトナム紅河デルタにおける農村組織の変容に関する地理学的研究―ハイズオン省タインミエン県を事例として―』	単著	2004年9月	博士論文（奈良女子大学大学院人間文化研究科）		全316頁
『アジアの時代の地理学』	共著	2008年3月	古今書院	千田稔編	pp. 161-178
『現代東南アジア入門［改訂版］』	共著	2009年3月	古今書院	藤巻正己・瀬川真平編	pp. 109-123
『上海アラカルト』	共著	2009年6月	和泉書院	追手門学院大学アジア学科編	pp. 25-42
『朝倉世界地理講座 3 東南アジア』	共著	2009年9月	朝倉書店	春山成子 ・藤巻正己 ・野間晴雄編	pp. 216-226
論文					
「ドイモイ期のベトナム紅河デルタにおける経済活動と社会的ネットワーク―ハイズオン省タインミエン県を事例として―」	単著	2004年4月	人文地理56-2		pp. 1-21
「ベトナムにおける情報公開とその利用―ドイモイ下の農村研究を中心に―」	単著	2005年11月	アジア文化学科年報8		pp. 61-75
「ベトナムにおける大学の改革―ハノイ理科大学地理学部を事例として―」	単著	2006年4月	アジア観光学年報7		pp. 115-123
「現代ベトナム地理学の構築―北部ベトナムを中心として―」	単著	2006年11月	アジア文化学科年報9		pp. 22-33
「ノーザンテリトリーのマンゴー生産」	単著	2007年12月	オーストラリア研究紀要33		pp. 101-114
「学界展望(地域研究・地誌)」	単著	2008年6月	人文地理60-3		pp. 46-48

「「地域」を研究する―地理学と地域研究に関するノート―」	共著	2008年7月	関西大学文学論集58-1	野間晴雄・筒井由起乃・伊藤未帆	pp. 61-95(担当部分:pp. 76-80)
その他					
「ベトナム地理学の現状―近代化の過程をふまえて―」	単著	2004年7月	Newsletter No.1　平成16年度～19年度・科学研究費基盤研究（A）（1）―東アジアとその周辺地域における伝統的地理思考の近代地理学の導入による変容過程―第1回研究会（科学研究費基盤研究（A）（1）代表：国際日本文化センター　千田稔，2004年9月）		pp. 7-20
「ハノイ市における市場の特徴」	単著	2005年3月	2004年度追手門学院大学共同研究成果報告書『アジアの市場（いちば）の現状と背景―ヒトとモノの出合いと交流―』		pp. 47-51
「アジア地域研究と地理情報（その３）「アジア農村調査の現場―わたしの調査現場をお見せします」地理学者のベトナム農村調査」	単著	2005年6月	第20回人文地理学会アジア地域部会		発表要旨は，人文地理pp. 57-5, pp. 2005，pp. 96
「水牛の「落し物」」	単著	2006年4月	まほら47，旅の文化研究所		pp. 38-39
‘Geographical Studies of Vietnam in Japan’	単著	2006年9月	Tuyển tập Các công trình hoa học Hội nghị khoa học Địa Lý - Địa Chính		pp. 97-104
「ベトナム地理学の展開と学界の組織化」	単著	2006年11月	Newsletter No.9　平成16年度～19年度・科学研究費基盤研究（A）（1）―東アジアとその周辺地域における伝統的地理思考の近代地理学の導入による変容過程―第3回国際シンポジウム（科学研究費基盤研究（A）（1）代表：国際日本文化センター　千田　稔）		pp. 7-18
『ベトナム紅河デルタにおける農地利用から見た社会経済活動に関する地理学的研究報告書』	単著	2007年4月			pp. 119
「「いちば」からみたシンガポールの農業」	単著	2007年11月	アジア学科年報1		pp. 94-96
‘Geography and Area Studies’	単著	2008年3月	『日越の大学教育における地理学的「知」（鳥取大学地域学部地域政策学科ワーキングペーパー0702）』	筒井一伸・野間晴雄編	pp. 48-53
「ベトナムの民族から「人権」を考える」	単著	2008年3月	追手門学院大学人権啓発委員会誌愛語10		pp. 5
『地理学文献目録第12集』	共著	2009年7月	古今書院	人文地理学会文献目録編集委員会編	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
＜所属学会＞	日本地理学会，人文地理学会，東南アジア学会，日本村落研究学会，地理科学学会
＜学会活動＞	
2003年11月～2005年11月	人文地理学会会計委員
2003年11月～2005年11月	人文地理学会アジア地域研究部会世話役
2006年11月～2009年9月	人文地理学会地理学文献目録編集委員（単行本担当）

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　稲木　昭子	学位　　文学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	特論演習、卒業演習、英語コミュニケーション論、（大学院）英語学演習、英語コーパス研究			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2004年～2009年	これまで大学独自の学習支援システムを利用していたが、2008年度より特に講義科目で外部のe-learning システムを利用して、事前に毎回の授業のテーマ、授業中使用するpptファイルおよび関連配付資料等をアップロードしている。受講学生は自在に、授業の流れや毎回のテーマ、毎回の配付ファイルが確認できるので、予習である程度の学習意欲をおこす効果が期待できる。授業中は、印刷したものに書き込みをしたり、PCを使用して直接ファイルに書き足したりして、積極的に配付ファイルを利用している様子で、講義のノート取りに余裕ができ、＜考える＞時間、＜参加する＞時間が増えたように見受けられる。 演習は２年間継続するので、明確な目標設定や計画を２年間というスパンで立てることができる。４年生の終了時に、ゼミ生は各人の２年間に亘る学習成果、たとえば授業中の発表で使用したpptファイル、提出レポート類等全てをhtml化して自分のホームページを作成する。さらにゼミ全体で一つのホームページを作成し、全員の分をリンクさせて、２年間が凝縮されたCDとしてまとめている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
		オフィスアワーを設定し、学生の進路および学業についてさまざまな相談に対応する体制をとっている。 卒業論文および修士論文の作成指導は、授業時間外に指導時間を設定して行っている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
英語のテンス・アスペクト・モダリティ	共著	2005年10月	英宝社	成田義光・長谷川存古（編）	pp. 210-226
論文					
コンピュータ分析から見るアリス作品の量的パラレリズム	単著	2006年3月	英語文化学会論集（第15号）		pp. 9-19
A Small-Corpus Based Approach to Alice's Roles	共著	2006年9月	Literary and Linguistic Computing, Vol.21, No.3	沖田知子（共）	pp. 283-94
Distinctness Underlying Parallelism: a cognitive aspect of Alice's moves and worlds	共著	2007年3月	追手門学院大学文学部紀要（第42号）	沖田知子（共）	pp. 73-87
Words-of-Strangeness in Alice's Adventures	共著	2008年3月	追手門学院大学国際教養学部紀要（創刊号）	沖田知子（共）	pp. 115-124
発話動詞と共起する-*ly*副詞―誤誘導のテクニック	単著	2009年3月	英語文化学会論集（第18号）		pp. 1-14
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2007年3月～	英語文化学会会長
2009年4月	大学基準協会評価委員

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　佐々木　徹	学位　　文学修士【関西学院大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	比較文化概論、比較思想概論、ドイツ語、日本語の諸相			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
授業アンケート	2004年6月、12月	ドイツ語講読入門、ドイツ語講読初級
授業アンケート	2005年6月、12月	ドイツ語講読入門、ドイツ語講読初級
授業アンケート	2006年6月、2月	ドイツ語表現入門、ドイツ語表現初級
授業アンケート	2007年6月、12月	ドイツ語表現入門、ドイツ語表現初級
授業アンケート	2008年12月	ドイツ語表現初級
2　作成した教科書、教材、参考書		
DVD-R　比較文化１ いのちの伝承	2004年4月	日本人のルーツ　秦の始皇帝　天正の少年使節　明治日本
DVD-R　比較文化２ 宇宙の生命	2004年4月	哺乳類の親子　脊椎動物の誕生　人間の手と言葉の起源　太陽系の旅
DVD-R　比較文化３ 旅の文化	2005年4月	ハプスブルク家とエリーザベト　ベニスに死す　ドイツの旅職人
ビデオ教材　ドイツ語中級Ⅰ	2006年9月	中級会話とドイツの風景を13課にまとめ編集した
ビデオ教材　ドイツ語中級Ⅱ	2006年9月	中級会話とドイツの風景を13課にまとめ編集した
ビデオ教材　日本語の諸相	2008年4月	「広い」と「大きい」　「は」と「が」　若者の言葉 挨拶他
ビデオ教材　ドイツ語上級	2008年12月	画家フリードリヒ　ルートヴィヒⅡ　第九の日本初演他
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
日本語の諸相、授業方法について	2008年3月	追手門学院大学国際教養学部FD懇話会
東山魁夷の幼少年期	2008年3月	関西学院初等部開校記念講演会
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
木下恵介の世界―愛の痛みの美学	単著	2007年5月	人文書院		全245頁
論文					
悲劇と悲劇（３）―森本薫とその時代	単著	2004年12月	追手門学院大学文学部紀要40		pp. 50-66
悲劇と悲劇（４）―小津安二郎とその時代	単著	2005年12月	追手門学院大学文学部紀要41		pp. 15-29
母を恋うる物語―葛の葉伝説をめぐって	単著	2006年11月	追手門経済論集41-1		pp. 206-224
悲劇と悲劇（５）―三島由紀夫の戯曲	単著	2007年3月	追手門学院大学文学部紀要42		pp. 15-29
思索と言葉―西谷啓治の哲学（1）	単著	2008年1月	追手門学院大学国際教養学部紀要１		pp. 155-167
思索と言葉―西谷啓治の哲学（2）		2009年1月	追手門学院大学国際教養学部紀要２		pp. 29-41
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2002年2月～現在	日本文化研究会主宰
2007年11月	東山魁夷記念館シンポジウム　基調講演「人間東山魁夷」
2009年10月	関西学院会館開館10周年記念講演「東山魁夷こころの風景」
2009年10月	東山魁夷記念館特別展講演「奈良大和路と唐招提寺」

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　佐藤　恭子	学位　　Ph.D.	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目				

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
「英語学概論」	2007年度秋学期	イギリス英語と文化に関するテーマで、1回ゲストスピーカーを招き、授業の活性化を行った。
２　作成した教科書、教材、参考書		
「英語学講義」の授業資料	2007年度春学期、秋学期	毎回プリント、ワークシート、練習問題を作成して学習の定着を図った。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
平成２０年度「質の高い大学教育推進プログラム」（教育GP）の申請		学科の申請プログラムに学科長として、企画提案および書類作成に関わった。
平成２１年度　大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムの申請		学科の申請プログラムに20年度の実績を基に企画提案および書類作成に関わった。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Brush Up Your English	共著	2006年3月	プール学院大学英語教育研究会	佐藤恭子、佐竹純子、権瞳、Allan Bessette	pp.7-9,pp.22-24,pp.49-57,pp.61-66,pp.70-72
Power Vocabulary	共著	2007年3月	プール学院大学英語教育研究会	佐藤恭子、藤井久仁子、権瞳、Allan Bessette	pp.73-108
Power Vocabulary	共著	2008年10月	英潮社フェニックス	佐藤恭子、藤井久仁子、権瞳、Allan Bessette	pp.77-112
論文					
Word association quizzes for improving EFL learners' speaking and listening skills	共著	2005年1月	3rd Annual Hawaii International Conference on Education Conference Proceedings	Tomita kaoru, Nakayama kazuo, Ryan Steve, Honda kaoru, Sato Yasuko, Tani Akinobu	pp.4768-4777
Acquisition of the Morphosyntax of Psych Predicates and Alternating Unaccusative Verbs by Japanese Learners of English	単著	2005年12月	Unpublished Doctoral Dissertation (The University of Reading)		全262頁
Learning Problems Caused by Non-Canonical Linking	単著	2005年12月	プール学院大学研究紀要　第45号		pp.39-53
Usefulness of Spoken EFL learner based definitionn	共著	2006年1月	4th Annual Hawaii International Conference on Education Conference Proceedings	Tomita kaoru, Nakayama kazuo, Ryan Steve, Honda kaoru, Sato Yasuko, Tani Akinobu	pp.6080-6089
英語初年次教育をめぐる諸問題－プレイスメントテストとe-learning	単著	2006年5月	平成１７年度　私立大学教育研究高度化推進特別補助事業成果報告書		pp.37-44
日本人英語学習者の心理形容詞の習得	単著	2008年9月	第48回　大学英語教育学会（JACET）全国大会		Conference Proceedings　pp.103-104
The effect of L1 in L2 Acquisition of argument structure -With special reference to psych adjectives	単著	2009年1月	追手門学院大学国際教養学部紀要第2号		pp.43-60
自他交替を許す非対格動詞の習得における母語とUGの影響	単著	2009年3月	外国語教育メディア学会関西支部研究集録第12号		pp.37-51

その他					
Acquisition of vowel quality by Japanese learners of English	共同	2004年2月	Generative Approaches to Language Acquisition in North America	Tomita kaoru, Nakayama kazuo, Ryan Steve, Honda kaoru, Sato Yasuko, Tani Akinobu	A Handbook of Generative Approaches to Language Acquisition in North America pp.5
英語が苦手な学生を対象にしたe-learningの利用	共同	2006年8月	第46回　外国語教育メディア学会（LET）全国大会	◎佐藤恭子、権瞳	Conference Proceedings　pp.128-133
非対格動詞の習得における母語と普遍文法の影響および両者の相互作用	単独	2007年8月	第４７回　外国語教育メディア学会（LET）全国大会		Conference Proceedings　pp.104-107
日本人英語学習者の心理形容詞の習得	単独	2008年9月	第48 回　大学英語教育学会（JACET）全国大会		Conference Proceedings　pp.103-104

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2003年4月～2005年3月	大学英語教育学会関西支部　研究企画委員
2005年4月～2009年3月	大学英語教育学会関西支部　幹事
2006年4月～2008年3月	大学基準協会　評価委員
2006年4月～2008年3月	関西英語教育学会　会計監査
2008年10月～現在	(社)大学英語教育学会　社員

（表24）

所属　国際教養学部	職名　教授	氏名　新谷　好	学位　文学修士【神戸市外国語大学、1979年】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	英米の文化・文学、英文学概論、展開演習、卒業演習、英米文学演習（院）			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
インターネットを利用し、英語の運用能力やコンピュータスキルの向上 本学の授業評価では、標準より少しだけ高い評価しか得ていない	1998年4月1日～現在	主に「基礎演習」、「基幹演習」、「リーディング」、「ライティング」の授業でインターネット検索などを使用し、英語表現の確認やコンピュータスキルの習得を指導している。
パワーポイントを使用し、講義内容の要点を整理 本学の授業評価では、標準的な評価しか得ていない	2001年4月1日～現在	「英米の文化・文学」、「英文学概論」の講義で、パワーポイントを使用して講義の内容やポイントを要約して提示し、内容理解を促進している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
半期講義の「英米の文化・文学」の教材プリント作成	2001年4月1日～現在	「ラファエロ前派の画家たち」、「女優像とエレン・テリー」、「警察と切り裂き魔ジャック」、「女性の教育とキャンベル卿夫妻の離婚裁判」、「英国の児童文学」など、主に英国のヴィクトリア朝の特徴を代表する劇作品、オペレッタ、報道事件などを通じて英国の貴族、男性像と女性像、女性と政治などに関するプリントを作成した。（文字数101916）
通年講義の「英文学概論」の教材プリント作成	2007年4月1日～現在	『ベオウルフ』から『チャーリーとチョコレート工場』 までの英国の主だった27の文学作品の原作にあたって、それらの概要と特徴をまとめた。（文字数114047）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
第16回教育研究所セミナーのパネリスト	2008年12月18日	「初年次教育の現在――初年次教育の効果の測定」のテーマのもとで、担当している「新入生演習」の中で実践している教育上の重要項目について報告した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
劇に登場する「新しい女」たち	単著	2006年1月	追手門学院大学文学部紀要（第41号）		pp. 51-64
英国ヴィクトリア朝の女性の教育と職業	単著	2006年3月	追手門学院大学英語文化学会論集（第15号）		pp. 43-51
オスカー・ワイルドと「新しい女」	単著	2007年3月	追手門学院大学創立40周年記念論集		pp. 89-100
オスカー・ワイルドの芸術 至上主義とヴィクトリア朝の性道徳と検閲	単著	2008年3月	追手門学院大学英語文化学会論集（第17号）		pp. 1-15
書簡に見るオスカー・ワイルド（1）	単著	2009年3月	追手門学院大学英語文化学会論集（第18号）		pp. 15-26
その他					
＜学会発表＞					
日本ワイルド協会 第30回大会のシンポジウム『ワイルドと「新しい女」』の講師を務める		2005年11月	大阪大学豊中キャンパス	（他の講師）貝島　崇、武田　美保子、池田　祐子	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2007年4月～現在	日本ワイルド協会理事

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　水藤　龍彦	学位　　文学修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目				

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
特記事項なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「国語教育から日本語教育へ」 追手門学院大学教育研究所定例研究会	2008年4月24日	2007年度から行っている授業「日本語の諸相」での、「国語」とは異なる大学生の日本語運用能力を高めるための試みについて報告した。
「大学生のための日本語ワークショップ―自己表現かスキル養成か」 追手門学院大学教育研究所定例研究会	2009年2月20日	2008年度に始まった授業「日本語ワークショップ」の授業実践について報告した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
ローベルト・ムージルと新即物主義の絵画	単著	2006年6月	日本独文学会研究叢書 045「ドイツ文学と美術」	西村雅樹編	pp. 37-45
ユストゥス・ブリンクマン『日本の美術と工芸』（1889）を読む（上）	単著	2007年3月	追手門学院大学文学部紀要第42号		pp. 177-186
新入生が抱いている追手門学院大学のイメージ	共著	2008年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第26号	辻幸恵、梅村修、水藤龍彦	pp. 64-90
その他					
（翻訳）クラウディア・デランク著　『ドイツにおける＜日本=像＞』	共訳	2004年7月	思文閣出版	水藤龍彦、池田祐子	pp. 302
（研究ノート）ユストゥス・ブリンクマン研究序説 ―ドイツにおける日本美術受容の一例として	単著	2005年12月	追手門学院大学文学部紀要 第41号		pp. 111-120
（書評）　原研二著『物語と不在－19世紀オーストリア小説とムージル』	単著	2007年3月	オーストリア文学　第23号		pp. 62-63

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2005年度～2007年度	「オーストリア文学」編集委員
2007年度	日本独文学会2007年度学会賞審査委員

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　教授	氏名　髙尾　典史	学位　　文学修士【同志社大学】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	言語の科学、展開演習、英語リーディング			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義におけるプリント配付とミニッツ・ペーパーの実施	2004年度以降現在まで	全学共通科目の「言語の科学」では、毎回の授業でプリントを配付している。これは、講義内容を理解しながらノートテイキングができない学生が増加してきたことへの対応である。 配付プリントをベースに板書をくわえることで、受講生は板書を「写す」ことに気をとられずに講義内容に注力する傾向が高まったと思われる。また、授業終了前にその日の疑問点や感想を記入させるミニッツ・ペーパーを導入したことで、自分の理解を確認することができる。 また、次回の授業開始時にミニッツ・ペーパーに書かれている疑問点を説明することで、復習を兼ねて、理解を深めることにもなっている。
「カナダ現地演習」のリーフレット（Vancouver Seminar: from A to Q, not from A to Z）作成	2005年7月	夏期のバンクーバーでの「カナダ現地演習」参加者に日本出発から現地到着後からの生活までをシミュレーションしたリールレットを作成し、参加者対象の説明会を開催した。それまで不安を抱えていた学生への緊急対応としたが、実際には現地でも活用されることになり、一定の成果があった。
「英語リーディング」における「英語を読むための文法解説」の作成	2008年6月	オーラル（aural, oral）中心の英語学習を行なってきた最近の学生は読むための英語力、特に文法力の不足が顕著である。これに対応するために、授業時には必要に応じて正しく読むための文法の説明をしてきたが、予定範囲を終えた段階で、それまで一緒に読んできた英文から文法上のポイントを整理したファイルを元に、英文法講義を行なった。試験前ということもあって、真剣に聞いていた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『生成文法を学ぶ人のために』	共著	2004年10月	世界思想社	中井悟、上田雅信	pp. 133-166
論文					
「言語理論と脳科学の接点」	単著	2004年6月	『言語研究の接点』英宝社	石黒昭博、山内信幸	pp. 193-202
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	日本言語学会、日本英語学会、日本語学会、日本比較文化学会、e-learning教育学会、Linguisitc Society of America

（表24）

所属　国際教養学部	職名　教授	氏名　中村　啓佑	学位　修士	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	フランス語、ことばと文化（フランス語）、異文化交流とコミュニケーション、異文化交流の歴史			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
		1）フランス語　　過去20数年にわたる「フランス語教育を考えるつどい」と「関西フランス語教育研究会」における主導的活動の上に立って、フランス語教育の改善に努めてきた。そうした場で得られた成果を教室に還元し、学生主体の「躍動感のある、退屈しない、わかりやすいフランス語教育」を実践している。
		2）フランスを中心とした比較文化　　誰もが知っているフランス語を出発点として、フランスの生活と文化に触れ、さらには、一見よくにた日本の文化現象との比較を展開している。
		3）日本列島を中心とした文化交流の流れを跡付け、文化の多様性、重層性、流動性を認識させる授業を展開している。映像を用いるだけでなく、歴史小説や時代の文化を扱っ本を読ませることで、想像力をやしなわせ、異文化交流を追体験させようとしている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
		「ことばと文化(フランス語)」、「異文化交流の歴史」の2つの講義を中心に、１．授業説明用パワーポイント、２．パワーポイントの内容に対応する「ノートに代えて」、３．「授業のまとめ」の3点セットを毎回授業用に作成している。 「ノートに代えて」(毎回A3　１枚)は、各項目の小見出しだけでなく、導入部分が書き込んであり、学生はパワーポイントのスライドと教師の話しを手掛かりに、重要部分だけを記入できるように工夫されている。 「授業のまとめ」(毎回A3　1～2枚)は、授業内容を文章化してまとめたものであり、これを読めば、「ノートに代えて」の内容がいっそう詳しく、筋を追って理解できるようになっている。春、あるいは秋の1期分は、教科書の1冊に相当する。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
講義「異文化交流の歴史」―その構想と展開― 授業報告	2005年12月	追手門学院大学文学部紀要　第41号
講義「ことばと文化・フランス語」が目指すもの―理解を助ける質問を同準備するか―	2006年3月	大阪大学フランス文学会ガリア 高岡教授退職記念論集
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2008年3月	1）　講義「ことばと文化（フランス語）」が2007年度「特色ある研究」に採用された。テーマは「レストラン立体講義　－　歴史・現状・体験」である。 2008年3月、大学の報告書に記事を掲載するとともに「別冊報告書」を出版した。
	2009年3月	2）　「異文化体験を準備する」テーマで2008年度「特色ある研究」に採用され、「異文化交流とコミュニケーション」、「異文化間コミュニケーション論1,2」の両授業において特別活動を行った。2009年3月、大学の報告書に記事を掲載するとともに、「別冊報告書」を出版した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
スペクタクルについて （3）スペクタクルの中の祭り -「夏祭浪花鑑」を中心に	単著	2006年12月	追手門学院大学文学部紀要 第42号		
エミール・ガレと蜻蛉―ジャポニズムを考える手掛かりとして― 第1部　日本の動物画と西洋美術における動物	単著	2008年12月	追手門学院大学国際教養学部紀要 第2号		
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2006年～	日本フランス語教育学会　学会誌査読委員
2006年4月～2007年3月	大学基準協会判定委員会　専門審査分科会委員

（表24）

所属　International Liberal Arts	職名　professor	氏名　Jeffrey HERRICK	学位　Ph.D.【 Univ. of Chicago】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目				

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
In my junior seminar, I use movies based on great works of English literature, mostly 19th century novels, as a basis for discussion.	April-2004 ~ present	The course covers works buy such major writers as Jane Austen, Emily Bronte,Charles Dickens, and William Shakespeare. Students develop discussion skills and a broad cultural perspective.
2　作成した教科書、教材、参考書		
Nothing to report		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
Seminar on feminsim in English literature, Kitakyshu Univ.	August, September-2004	The seminar covered a wide range of works that fostered feminist perspectives in British literature, from Mary Shelley to Dorothy Richardson.
Symposium on Japanese culture, Osaka Prefectural Univ.	March-2007	My symposim presentation focused on ways to value Japanese culture.
4　その他教育活動上特記すべき事項		
Nothing to report		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Valences	single	January-2006	Tsume-Ato Shuppan		379 pages
Patterns and Fittings	single	September-2000	Tsume-Ato Shuppan		109 pages
論文					
Only: A Story	single	January-2009	The Antioch Review (67:1)		pp.99-107, pp.128-136
Glorioles	single	October-2008	Vallum (6:1)		pp.62-62
Prodicaments	single	December-2007	Liminal Pleasures (3)		n.p. (online)
Logos to Go	single	March-2007	Descant (136)		pp.11-18
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

Nothing to report	

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　准教授	氏名　箱﨑　雄子	学位　　修士（言語・文化学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	新入生演習、卒業演習、通訳英語、資格英語、観光ビジネス英語、英語科教育研究、学び論			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
(1) 2006年度「特色ある教育（改革個人部門）」助成：「小学校英語活動のための副教材作成」	2006年4月10日	「小学校英語活動のための副教材作成」（助成対象授業科目名：「展開演習1、2」）が、2006年度の文部科学省「高等教育研究改革推進経費」の助成対象企画として採択された。「体験に基づく発見的・自己開発的な学習」という全体テーマのもと、実際の教育現場などの「体験」や、教材づくり等の「創造活動」を通じて、小学校英語教育に関する理解を深めることを目的とした教育活動を行なっている。
(2) 2007年度「特色ある教育（改革個人部門）」助成：「通訳の現場体験および通訳技能訓練教本の作成」	2007年4月10日	「通訳の現場体験および通訳技能訓練教本の作成」（助成対象授業科目名：「実践研究1、2」）が、2007年度の文部科学省「高等教育研究改革推進経費」の助成対象企画として採択された。「体験に基づく発見的・自己開発的な学習」という全体テーマのもと、学生たちに実際の通訳現場を体験する機会を提供するとともに、学生の興味や関心に合った通訳技能訓練教本を作成することによって、通訳という仕事への理解を深めることを目的とした教育活動を行なっている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
(1)『PEPPY HEADWAY 5』	2004年4月1日	＜共同執筆者＞ 掛谷舞 中央出版株式会社、Ａ4判、総頁数47
(2)『Power-Up English 〈Intermediate〉 総合英語パワーアップ〈中級編〉―グラマー・リーディング・リスニング―』	2005年1月21日	＜共同執筆者＞大塚朝美、川村一代、河内山真理、斎藤裕己、杉森幹彦、高橋寿夫、津村修志、原田曜子、松村優子 株式会社南雲堂、Ｂ5判、総頁数128
(3)『Power-Up English 〈Advanced〉 総合英語パワーアップ〈上級編〉―リーディング＆リスニング―』	2007年1月24日	＜共同執筆者＞大塚朝美、河内山真理、斎藤裕己、笹井悦子、佐々木典子、杉森幹彦、高橋寿夫、樽井武、津村修志、中山喜満、西田晴美、濱本陽子、原田曜子、松村優子 株式会社南雲堂、Ｂ5判、総頁数104
(4)『PEPPY HEADWAY Orange』	2007年4月1日	樋口忠彦監修 中央出版株式会社、Ａ4判、総頁数45
(5)『Forerunner to Power-Up English』総合英語パワーアップ〈入門編〉―リスニングからリーディング―	2009年2月23日	〈共同執筆者〉唐住結子、河内山真理、笹井悦子、高橋寿夫、田原志都可、樽井武、津村修志、中山喜満、濱本陽子、原田曜子、松村優子 株式会社南雲堂、Ｂ5判、総頁数104
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1) ワークショップ講師「コミュニケーション能力をつける音読指導」（英語授業研究学会 関西支部 第16回秋季研究大会）	2004年10月24日	音楽に合わせて時間内に英文を音読するDJ風音読や映画のオリジナル音声を消してアフレコに挑戦する声優風音読、日本語のオリジナル音声を流しながら、それに対応する英文を音読する同時通訳風音読など、音読練習のアイディアを紹介した。
(2) ワークショップ講師「チャンツ指導の効果的な進め方」（日本児童英語教育学会（JASTEC）第26回全国大会）	2005年6月12日	英語独特のスピード感、リズムやイントネーションといったプロソディ感覚の養成を目指す指導法の一つとしてチャンツ指導を紹介し、指導上の留意点および効果的な指導法に関してワークショップを行った。また、既存のチャンツをアレンジして、言語の使用場面、言語の働き、言語材料に焦点を当てたオリジナル・チャンツを作成する方法および作成する際の留意点について説明した。
(3) セミナー講師「指導目標、発達段階に応じた指導法―高学年：コミュニケーション・自己表現能力を育てる授業」（小学生を教えるための第28回JASTEC研修セミナー、開催主体：日本児童英語教育学会）	2005年8月6日	「児童が生き生き学ぶ授業づくり」という全体テーマのセミナーに講師として参加し、「指導目標、発達段階に応じた指導法―高学年：コミュニケーション・自己表現能力を育てる授業―」と題して、学習指導案作成上の工夫について話すとともに、児童の積極的な発話を促し、自己表現力の育成を目指した小学校高学年対象の模擬授業を行った。
(4) 校内研修会講師「ジャズ・チャンツの効果的な指導法」（河内長野市立天野小学校校内研修会）	2006年2月6日	教科「英語」の研究開発学校として文部科学省より指定を受けている河内長野市立天野小学校の校内研修で講師を務め、小学校英語教育における効果的なジャズ・チャンツの指導法について講演した。
(5) 夏季集中講座講師「発音の基礎・基本―これだけで英語らしく聞こえる！」（小学校英語活動地域サポート事業　第２回夏季集中講座、開催主体：東大阪市教育委員会）	2006年8月22日	東大阪市教育委員会は、文部科学省より「平成17年度小学校英語活動地域サポート事業」の実施主体に採択され、指導方法の改善・向上、指導者の能力向上を図っている。その一貫として開催された「第2回夏季集中講座」に講師として参加。講座では、英語の単語・句の強勢、文の強勢とリズム、音声変化、英語らしく聞こえるために必要な母音・子音の発音のコツやリズムの訓練を行うとともに、教室英語をチャンツ形式で紹介した。
(6) 特別授業講師「ジャズと英語」（東大阪市森河内小学校）	2007年3月6日	東大阪市森河内小学校6年生の児童を対象に、ジャズ演奏を通して、英語への理解を深めるための特別授業を行った。
(7) 英語指導法研修講師「国際語としての英語」（開催主体：大阪府教育センター）	2007年8月3日	中学校英語教諭を対象とした研修会に講師として参加。国際語としての英語について述べた後、英語の授業における音声指導上の留意点について述べた。
(8) 夏の3校合同研修講師「どうするチャンツ？作ってみるチャンツ!!」（河内長野市立西中学校、天野小学校、高向小学校）	2007年8月24日	研修会前半において、ジャズ・チャンツの理論について述べるとともに、ジャズ・チャンツの実演を行った。研修会後半においては、授業で活用できるように参加者が実際にチャンツを作成した。

(9) ワークショップ講師「発音の基礎・基本」（英語授業研究学会第165回例会）	2007年9月22日	英語の単語・句の強勢、文の強勢とリズム、音声変化、英語らしく聞こえるために必要な母音・子音の発音のコツについて述べるとともに、英語らしく聞こえるための訓練を行った。
(10) ワークショップ講師「伸び伸び英語を使う自己表現をめざしたコミュニケーション活動―立案と実践」（日本児童英語教育学会（JASTEC）第27回秋季研究大会）	2007年10月28日	主に小学校英語教諭を対象としたワークショップにおいて、自己表現をめざしたコミュニケーション活動および指導上の留意点について述べるとともに、その実践例を紹介した。
(11) 研究会講師「公立小学校教諭のためのチャンツ入門講座」（茨木市教育研究会）	2008年1月30日	茨木市内の小学校教諭を対象に、ジャズ・チャンツの指導法および指導上の留意点について述べた。
(12) セミナー講師「子どもの気づきと体験的理解を促す導入と活動」（小学生を教えるための第34回JASTEC研修セミナー、開催主体：日本児童英語教育学会）	2008年8月1日	「よりよい英語活動を展開するために―新学習指導要領を踏まえて―」という全体テーマのセミナーに講師として参加し、「子どもの気づきと体験的理解を促す導入と活動」と題して、活動のプランニングと進め方について話した。
(13) ワークショップ講師「チャンツの活用法―チャンツの条件、作り方と使い方」（日本児童英語教育学会(JASTEC)関西支部第27回秋季研究大会）	2008年11月16日	小学校英語活動の必修化を目前に控え、小学校教諭を対象として、チャンツの活用法についてワークショップを行った。
(14) 研修講師「子どもがのってくる効果的なチャンツ」（平成21年度小学校外国語活動中核教員育成研修、開催主体：東大阪市教育委員会）	2009年7月21日	東大阪市内の公立小学校の中核教員を対象とする研修に講師として参加し、小学校外国語活動において活用するためのチャンツの指導を行った。
(15) セミナー講師「授業で使ってみたい歌・チャンツの活用法」（小学生を教えるための第36回JASTEC研修セミナー、開催主体：日本児童英語教育学会）	2009年8月21日	「よりよい英語活動の推進のために―必修化を見据えて―」という全体テーマのセミナーに講師として参加し、「授業で使ってみたい歌・チャンツの活用法」と題して、小学校の外国語活動で使う歌やチャンツに関するワークショップを行った。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
１．『これからの小学校英語教育―理論と実践―』	共著	2005年11月	研究社	樋口忠彦、金森強、國方太司編著 井狩幸男、泉惠美子、今井京、梅本龍多、大城賢、大村吉弘、小川恵子、加賀田哲也、片桐多恵子、掛谷舞、金森強、箕浦永生、木地山博美、衣笠知子、國方太司、國本和惠、久埜百合、小泉清裕、後藤典彦、小山俊英、塩澤正、多田玲子、田辺義隆、築道和明、Tom Merner、野田かなえ、長谷川信子、樋口忠彦、藤田直也、矢次和代、大和美恵子、渡邉一保	pp. 28-33
論文					
１．「英文リスニングと聞き直しの効果」	単著	2004年 3月	追手門学院大学 教育研究所紀要 第22号		pp. 159-166
２．「国内企業において日本人社員に求められる英語力―TOEIC®テスト導入の実態とその背景」	単著	2005年 3月	追手門学院大学 英語文化学会論集 第14号		pp. 15-23
３．「諸外国の言語教育政策と日本の外国語教育への示唆」	共著	2005年 3月	近畿大学 語学教育部ジャーナル 創刊号	樋口忠彦、泉惠美子、衣笠知子、加賀田哲也、田邉義隆、掛谷舞、大村吉弘、藤田直也	pp. 1-61
４．「小・中・高一貫のナショナル・シラバス試案―日本の英語教育変革のために―」	共著	2005年 7月	近畿大学 語学教育部紀要 第5巻第1号	樋口忠彦、田邉義隆、衣笠知子、泉惠美子、大村吉弘、掛谷舞、加賀田哲也、藤田直也、福智佳代子	pp. 75-137
５．「多言語化の費用と便益：日本における日本語と英語のバイリンガリズム」	共著	2006年 3月	産業社会学会（羽衣国際大学）誌 『産業・社会・人間』第7号	本間哲也	pp. 85-96
６．「効果的な音声指導を目指して―ジャズ・チャンツを利用した音声指導の実践例―」	単著	2006年 3月	追手門学院大学 英語文化学会論集 第15号		pp. 37-41
７．「英語リスニングにおける内容理解の阻害要因」	単著	2007年3月	追手門学院大学 文学部紀要 第42号（兼）大学40周年記念論文集		pp. 139-144
８．小学校英語学習経験者の追跡調査と小・中学校英語教育への示唆	共著	2007年12月	近畿大学 語学教育部紀要 第7巻第2号	樋口忠彦、大村吉弘、田邉義隆、國方太司、加賀田哲也、泉惠美子、衣笠知子、植松茂男、三上明洋	pp. 123-180

９．児童用英語辞書の語彙分析	単著	2008年1月	追手門学院大学 国際教養学部紀要 創刊号（通算43号）		pp. 147-153
１０．“Independent Grammatical Study: A look into the performance and motivation of 1st year English majors”	共著	2008年3月	追手門学院大学 英語文化学会論集 第17号	Ross E. Miller	pp. 17-38
１１．「中学校入学以前の英語学習経験が大学生の情意面に及ぼす影響」	共著	2008年9月	日本児童英語教育学会（JASTEC）研究紀要　第27号	樋口忠彦、國方太司、大村吉弘、田邉義隆、衣笠知子、泉惠美子、加賀田哲也、植松茂男	pp. 25-51
１２．「小学校英語学習経験者の追跡調査と小・中英語教育への示唆」	共著	2008年10月	『英語教育　2008年10月増刊号』第57巻第8号	樋口忠彦、國方太司、大村吉弘、田邉義隆、下絵津子、泉惠美子、衣笠知子、加賀田哲也	pp. 58-69
１３．「小学校英語学習経験者の追跡調査と小・中学校英語教育への示唆（続）」	共著	2008年12月	近畿大学 語学教育部紀要 第8巻第2号	樋口忠彦、大村吉弘、田邉義隆、下絵津子、衣笠知子、加賀田哲也、國方太司、泉惠美子	pp. 179-234
１４．“Independent Grammatical Study: A look into the performance and motivation of 2nd year English majors”	共著	2009年3月	追手門学院大学 英語文化学会論集 第18号	Ross E. Miller	pp. 27-47
１５．「中学入学以前の英語学習経験が高校生の情意面に及ぼす影響」	共著	2009年7月	英語授業研究学会紀要　第18号	樋口忠彦、下絵津子、加賀田哲也、大村吉弘、泉惠美子、田邉義隆、國方太司、衣笠知子	pp. 47-79
その他(口頭発表)					
１．小学校英語学習者の追跡調査と小・中英語教育への示唆（第1報）		2007年6月	日本児童英語教育学会（JASTEC）第28回全国大会	樋口忠彦（代表）、國方太司、大村吉弘、泉惠美子、植松茂男、加賀田哲也、衣笠知子、田邉義隆、三上明洋	
２．小学校英語学習者の追跡調査報告		2007年6月	日本児童英語教育学会（JASTEC）関西支部研究大会	樋口忠彦（代表）、國方太司、大村吉弘、泉惠美子、植松茂男、加賀田哲也、衣笠知子、田邉義隆、三上明洋	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2001年4月～現在	英語授業研究学会関西支部役員
2008年4月～現在	児童英語教育学会関西支部役員

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　准教授	氏名　福島　孝博	学位　修士（Master of Science）【State University of New York at Buffalo】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・無）
主要担当科目	「言語情報処理概論」「情報科学各論」「展開演習」「卒業演習」			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
大学実施の授業評価	2005年度～現在	学生による授業評価は大学で毎年実施されており、大学授業全体の平均値を上回る評価を得ている。
e-Learning システムの授業での活用	2006年9月～現在	大阪大学（サイバーメディアセンター）で開発されたLMS（Learning Management System）であるWebOCMを学内に導入し、１年及び２年生対象の英語クラスで活用した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
WebOCM用の教材、小テストの作成	2006年9月～現在	WebOCMの機能を使い、英語のリーディングやゼミのクラスで教材となるURLの指定や資料の配布をシステムで行い、授業内の小テストを作成、実施した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
WebOCMの導入と活用	2007年4月～2008年3月	大学内にWebOCM専用のサーバーを設置する手続きおよびWebOCMの動作の確認を行った。また、総合情報教育センターの協力のもと、WebOCMに関する講習会を実施した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Acquiring Bilingual Named Entity Translations from Content-Aligned Corpora	共著	2005年1月	Lecture Notes in Computer Science ‘Natural Language Processing IJCNLP 2004’ Springer Berlin / Heidelberg	◎Tadashi Kumano,Hideki Kashioka, Hideki Tanaka, Takahiro Fukusima	pp.177-186
「地震」に関する新聞記事における報道内容の経時変化調査	単著	2007年3月	追手門学院大学文学部紀要 42号		pp.125-137
JACET8000に基づく単語レベルの表示とWebOCMへの応用の可能性	単著	2007年12月	e-Learning教育研究　第2巻		pp.33-40
英語入試問題の語彙からみた分析	単著	2008年1月	追手門学院大学国際教養学部紀要 創刊号		pp.135-145
その他					
手書き要約筆記における要約の特徴	単著	2004年7月	電子情報通信学会 信学技報 NLC2004-6		pp.31-36
Features in Summarization of Hand-Writing Captioning for Hearing Impaired	単著	2005年8月	Pacific Association for Computational Linguistics 2005		pp.139-142
「地震」に関する新聞記事からの情報の調査と分類	単著	2006年3月	追手門学院大学英語文化学会論集第15号		pp.21-26

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

特記事項なし	

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　准教授	氏名　Ross MILLER	学位　M.Ed. (TESOL)	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	コンピュータと英語教育、コンピュータと英語研究、カナダ文化演習、特論演習1E、英語発音			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	Ongoing	I am a believer of the Input Hypothesis developed by Stephen Krashen in the 1980's. This hypothesis distinguishes between "learned" language and "acquired" language, with the former requiring conscious effort and the latter being more subconscious, along the lines of the way a baby learns language. To this end, I try to fill my classes with "Comprehensible Input" designed to push students a little beyond their current level. So, in addition to the material covered in class (consciously), I am providing them with input to help them develop subconsciously, along the natural order of language development, as well. Furthermore, by developing many of my own materials, I try to pique the students' interest, and thus, hopefully kick start their motivation.
2　作成した教科書、教材、参考書		
Nothing to report		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	2008年2月	"How NOT to Give a Presentation: Things to Consider When Speaking in Front of Others" was a presentation made at the The 4th CamTESOL Conference on English Language Teaching, Phnom Penh, Cambodia. In this presentation, I gave other language teachers advice on the do's and don'ts of making effective presentations.
4　その他教育活動上特記すべき事項		
Nothing to report		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Comparing College Students L1 and L" Reading Levels and Reading Habits: A Pilot Study Looking at Literature and Technology Facilities	共著	2005年12月	追手門学院大学 文学部紀要第41号	M. Redfield, D. Levin	pp.101-110
Computers in the EFL Writing Class: Hindrance or Help	共著	2006年3月	Kobe College Studies Vol. 52, No. 3	M. C. Kim	pp.25-33
"It might not be broken, but I still need a 'quick fix'"	単著	2006年3月	追手門学院大学英語文化学会論集第15号		pp.27-36
You Can Lead a Horse to Water… But Can You Make Him "Think"?	単著	2007年3月	追手門学院大学英語文化学会論集第16号		pp.1-8
You Can Lead a Horse to the Fountain of Knowledge, but… Can you make him drink?	共著	2007年6月	The 5th Annual Asia TEFL International Conference Companion CD	M. C. Kim	
Students can be led to Knowledge, but Can they be made to "Drink"?	単著	2008年1月	International Liberal Arts Bulletin, No. 1		pp.125-134
Independent Grammatical Study: A look into the performance and motivation of 1st year English majors	共著	2008年3月	追手門学院大学英語文化学会論集第17号	Y. Hakozaki	pp.17-38

Independent Grammatical Study: A look into the performance and motivation of 2nd year English majors	共著	2009年3月	追手門学院大学英語文化学会論集第18号	Y. Hakozaki	pp.27-47
その他					
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
2009年2月	発表	“Public Speaking：A Guide to the Dos and Don’ts” was a presentation made at the 5thCamTESOL conference on English Language Teaching in Phnom Penh, Cambodia. Due to the overwhelming response after the 2008 presentation, I updated my guide to public speaking to better help local Cambodian teachers be successful in getting their message across to an audience.			

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　講師	氏名　碓井　智子	学位　博士（人間・環境学）【京都大学、2007年度3月取得】	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	学部：英語リーディング1.2、資格英語1,2、トラベルイングリッシュ1,2、観光ビジネス英語1.2、秘書英語1,2			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2009年度　秋学期	TOEIC対策の授業において、オンラインシステムを利用したテストを行っている。その結果をデータとし、学生の学習改善に役立てている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2009年度　秋学期	英語で京都を観光ガイドするという学外研修に引率教員として参加

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ことばの認知とメカニズム	共著	2008年9月	ひつじ書房	編者　児玉一宏　小山哲春	pp. 271-288
認知言語学論考No8	共著	2009年9月	ひつじ書房	編者　山梨正明	pp. 1-80
論文					
空間から時間へ～写像の動機付けと制約～	単著	2004年4月	京都大学 言語科学論集第10巻		pp. 1-17
Cognitive Time Model～Is TIME Dynamic or Static?～	単著	2004年10月	関西言語学会 KLS第23巻		pp. 132-142
Motivations and Constraints～From Spatial Domain to Temporal Domain～	単著	2005年9月	日本認知言語学会 日本認知言語学会論文集第5巻		pp. 263-271
時間認知モデル～時間の特性と写像の動機付け～	単著	2005年11月	日本英語学会 JELS第22巻		pp. 231-239
Cognitive Time Model～Two Types of Temporal Metaphor～	単著	2006年9月	日本認知言語学会 日本認知言語学会論文集第6巻		pp. 266-276
Cognitive Time Model: With Special Reference to Temporal and Spatial Phenomena In Natural Language	単著	2007年3月	京都大学大学院 人間･環境学研究科	（博士論文）	pp. 187
Generic Schema of Spatial and Temporal Domains	単著	2007年4月	京都大学 言語科学論集第13巻		pp. 1-14
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

＜所属学会＞	日本英語学会、日本認知言語学会、関西言語学会、日本語用論学会

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　講師	氏名　貞光　宮城	学位　　修士（文学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	英語学概論、英語リーディング、英語ライティング、新入生演習			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
英語I、II 大阪学院大学経済学部 （非常勤講師）	2002年10月 ～ 2004年3月	学部生を対象とした共通教育科目で、ビジネス英語の初歩を学ぶ授業を担当（週２回）。週１回はCALL教室を使用し、ペア・ワーク中心の基礎会話と、各自のブースでビジネスのいろいろな場面での聴解中心の授業を行う。あと１回は通常教室において、国内の経済に関する英字新聞の最新記事を読む読解中心の授業を行う。試験に聴解テストを含む（テープ作成）。 「この授業は、自分にとって価値があった」 学生評価： 「強くそう思う」27.3% 「そう思う」　　72.7% （学部生12名、2004年6月12日）
英語II 大阪学院大学外国語学部 （非常勤講師）	2003年10月 ～ 2004年3月	英語、独語を専門とする学部生を対象とした共通教育科目を担当（週２回）。通常の教室とCALL教室を週１回ずつ使用。身体部位に基づいた英語のイディオムを取り上げ、例文ごとその場で暗唱・暗記する。CALL教室ではディクテーションを各自のブースを用いて行う。また英作文添削や英文表記法の指導を、PCを通して特定の学生の画面を全体スクリーンに表示して解説したり、個人々に対し直接行ったりした。試験に聴解テストを含む（テープ作成）。 学生評価： 「この授業は、自分にとって価値があった」 「強くそう思う」36.8% 「そう思う」　　50.0% （学部生38名、2004年6月12日）
英語II 大阪学院大学外国語学部 （非常勤講師）	2004年4月 ～ 2005年3月	学部生を対象とした共通教育科目（週２回）。学部の英語教育の方針に従い、統一テキストを使用し、基本的に英語によるコミュニカティブ・メソッドにより授業を進める。毎回１つのテーマに沿って、基本的な単語、文法、聴解、などを学習した後、自由会話（作文）まで行えるよう授業を進める。その際、その場で覚え、その場で使うために、クラスリピートやリプロダクションを多用する。CALL教室ではテキストのテーマに沿ったサイトを閲覧したり、Eメールを作成したり、実用的な場面での英語の使用を学習する。 学生評価： 「この授業は、自分にとって価値があった」 「強くそう思う」31.8% 「そう思う」　　50.0% （学部生43名、2004年11月20日）
英語I～IV 龍谷大学理工学部 （非常勤講師）	2003年4月 ～ 2005年3月	学部生を対象とした共通教育科目（週１回）。基礎的な英会話とテキストに沿った授業を行う。英会話は挨拶から自己紹介まで音を頼りに習得する。テキストの方は科学英語を扱ったもの（数式の読み方等を含む）を使用し、読解、聴解を中心に授業を進める。ただし、単なる訳読ではなく、skimmingやscanningを多用し、英語による情報収集の訓練を行う。理系の学生には特に訓練が不足している、音読、英問英問、暗唱までを授業中に行う。試験は聴解テストを含み（テープ作成）、英語で出題される。また、授業外の学習促進のため学内のTOEIC対策ソフトに全員登録し、その履歴管理を行う。学生の利用状況を把握し、指導する。 学生評価： 「この授業を受けて、あなたの外国語に対する興味・関心は深まっていますか」 「深まっている」　　22.5% 「どちらかと言えば深まっている」53.6% （学部生80名、2004年7月3日）
英語セミナーF 龍谷大学理工学部、社会学部 （非常勤講師）	2004年4月 ～ 2005年3月	学部２年生以上を対象とした選択科目（週１回）。CALL教室を使用し、PCを利用した英語学習を進める。ESLサイトで最小対の比較による聴き取りの訓練や、オンライン辞書の使い方、ネット検索の方法、英文表記法等を学ぶ。ただし、PCのみに頼るのではなく、学習目標をディベートに設定する。３週連続して１つのテーマを取り上げ、英語の論理展開とその提示方法の基礎を学習し、プレゼンテーションの訓練を行った後、英語による討論を行う。討論は口頭およびHP（自作）上の掲示板で行い、判定も下す。各テーマの最後にパラグラフライティングに基づき英文エッセイを作成する。試験もPCを用い、オンライン辞書とネット検索を利用し60分で英文エッセイを作成する。 学生評価： 「この授業を受けて、あなたの外国語に対する興味・関心は深まっていますか」 「深まっている」　　25.0% 「どちらかと言えば深まっている」50.0% （学部生8名、2004年7月3日）

英語コミュニケーション 八戸大学ビジネス学部、人間健康学部 （専任講師）	2005年4月 ～ 2006年3月	学部生を対象とした一般教育の英語科目（週２回）。原則的に英語によるコミュニカティブ・メソッドにより授業を進める。毎回基礎英会話の１問答ずつを音声のみを頼りに学習し、その続きを蓄積して行くことで、少しずつ長くはなせる練習を行う。テキストでは毎回１つの実用的な場面のテーマに沿って、基本的な単語、文法、聴解、などを学習した後、自由会話（作文）まで行えるよう授業を進める。姉妹校の英語教員に宛て実際にメールを出したこともある。授業中は、その場で覚え、その場で使うために、クラスリピートやペアプラクティスを多用する。
英語TOEIC Ⅰ、Ⅱ 八戸大学ビジネス学部、人間健康学部 （専任講師）	2005年4月 ～ 2008年3月	学部生を対象としたTOEIC対策の英語科目。週２回分の授業を１日で連続して行い、実際の試験時間の長さ、集中力を保つ訓練とする。また、IPテストを学内で実施する。大まかに前半の授業は聴き取り、後半は読み取りの練習を行う。集中力を保つため約15分ごとにメニューを変える。（ペアでの単語の確認や、聴き取りの秘訣、映画の聴き取り、skimming/scanningの練習、英問英答など。）その場で単語を覚えてすぐ実際の問題にあたる。e-learning学習支援ソフトMoodleを利用し、独自の教材サイトを作成。聴き取りも各自のペースで何度も練習できるようにしている。授業中も各自PCを使用。教材の配布や課題の提出もネット上で行うことができ、自宅での学習を促す。
基礎演習・プレゼン演習 八戸大学ビジネス学部 （専任講師）	2005年4月 ～ 2008年3月	学部１年生を対象とした、論文作成／プレゼンテーション演習（週１回）。４色ボールペンを利用した読解、要約、さらに展開などを行い、日本語の読み書きを訓練する。練習問題形式で、文語／口語の区別、てにをは、主述の一貫性などを確認する。レポート作成のテーマ決定から、図書検索、段落構成、執筆、書式設定などを段階的に行い、前期末に無理なくレポートが完成することを目指す。後期は自分のレポートをもとにプレゼンの訓練を行う。そのために、要約、レジメ作成、図式化、スライド作成、発表、互いのプレゼンの評価を行う。その結果をもとに、後期末にレポートの改訂版を作成する。
ビジネス英語 八戸大学ビジネス学部 （選任講師）	2005年4月 ～ 2008年3月	ビジネス学部2年生以上を対象とした専門科目。基本的なオフィス英語を身に付けるため、場面ごとに（受付、電話、カタログ請求、ホテルの予約、や苦情・謝罪・招待などの商用手紙等）、それぞれ特有な英語表現を学ぶ。ほぼ英語のみで授業を進め、モデル会話の全文聴き取り、全文暗記、代入ドリルによる役割練習、などを行い、授業の最後にはその場面設定で英語で対応する練習を行う。宿題はビジネスで多用される例文の英作文で、メールで送信し、添削する。
日本語教育 NPO法人みちのく国際日本語教育センター （ボランティア講師）	2006年6月 ～ 2008年3月	八戸市周辺に在住の外国人（AET、社会人、留学生などが対象で、出身はアメリカ、イギリス、カナダ、中国、韓国、ブラジルなど）に対して、日本語教育への支援を行う。週１回、夕方２時間の授業。学習段階に応じて６つのクラスに分類し、原則的に日本語のみでコミュニカティブ・メソッドにより授業を進める。講師は二人一組で、一人はアシスタント。例文を多く作成したり、机間巡視、個別指導、教材の作成と配布の補助などを行う。
面接授業　一般教養語学 放送大学八戸サテライトスペース （非常勤講師）	2006年10月 ～ 2007年1月	面接授業担当。一般社会人を対象にした一般教育科目の語学（英語）として、運用に基づく英語のトレーニング方法について講義した。シャドウイングやレシテイション、キーワード法などを紹介し、単なる文法の暗記ではなく、運用を通じて英語力を向上させる方法を紹介および実演した。
サブゼミ　英文法基礎 八戸大学ビジネス学部、人間健康学部 （専任講師）	2007年2月 ～ 2008年1月	全学生を対象とした、英語の基礎を勉強し直すためのサブゼミ。中学、高校の文法書を元に、自動詞／他動詞や５文型など、基本的な英文法の事柄を復習して行き、通常の授業では対応しきれない、学生一人ひとりの質問、疑問に納得のゆくまでとことん向き合って行く。非常に時間と体力を要するが、英文法の仕組みを理解できた時の学生の感動は大きい。
研究レポート、卒業論文指導 青森県あすなろマスターカレッジ八戸校人文科学コース （非常勤講師）	2007年5月 ～ 2008年1月	研究レポートの書き方、および卒業論文指導を担当。一般社会人を対象にし、地域のリーダーを育成する県のプログラム。県民カレッジに次ぐもの。論文、研究レポートの書き方を指導。目的、構成、作成の手順を説明し、実際に各自の研究レポートを仕上げ、それを添削指導する。修了式の際の研究発表（プレゼン）指導も合わせて行う。
英語学概論１、２ 追手門学院大学国際教養学部 （専任講師）	2008年4月 ～ 現在に至る	英語を言語学的に分析し、研究する英語学への導入を行う。英語を研究対象とする際の様々な切り口を紹介し、その基礎的事項を学んでいる。特に、現代英語、英語史、社会言語学、コミュニケーション論に関わる分野を概観する。2回の講義の後、基本概念を小テストによって確認し、その後、言語学のテーマに関して討論し、各自小レポートをまとめてもらう。単なる知識の詰め込みではなく、これまで考えたことがない事柄について、少し熟考してもらうことを取り入れる。
英語リーディング１、２ 追手門学院大学国際教養学部 （専任講師）	2008年4月 ～ 現在に至る	精読・音読を通じ、英文読解力の強化を図る。英文読解力を強化するために、基本的な英文法事項を毎回確認し、構文力の基礎固めを行う。各テーマごとに関連する実用的な語彙を強化する。内容を把握した同じ英文を毎回繰り返し音読し、文法、発音、読解、聴解を通じて、英語そのものをそのまま身に付けてもらうことを目指す。CALLを使用し、自分の音声を録音・再生し、各自で自己評価も行いながら、学習を進める。
英語リーディング３、４ 追手門学院大学国際教養学部 （専任講師）	2008年4月 ～ 現在に至る	速読・精読・音読を通じ、英文読解力の強化を図る。英文読解力を強化するために、英文の段落構成の理解を深める。英文のパラグラフ構成のパタンを提示しながら、実際にそのパタンで書かれた英文を読解する。様々な論理的展開をつかむ訓練を、速読・精読・音読を通じて行う。ここでも音読訓練を導入し、英語そのものをそのまま身に付けてもらうことを目指す。自分の音声も録音・再生し、各自で自己評価も行いながら、学習を進める。

英語ライティング１、２ 追手門学院大学国際教養学部 （専任講師）	2008年4月 ～ 現在に至る	文レベルの英文作成力を強化する。基本的な文法事項を復習し、日常的な話題を英語で的確に表現する力を養う。各テーマごとに関連する語彙や表現方法をインプットし、実際に書く訓練を積んでいく。授業は２回を１セットとし、１回目はインプットの回として、会話文やパッセッジを授業中に完全に頭に入れてもらう。それを２回目の授業でアウトプットし、実際に自分で英文を作成する訓練を行う。
英語ライティング３、４ 追手門学院大学国際教養学部 （専任講師）	2008年4月 ～ 現在に至る	段落レベルの英文作成力を養成する。英文パラグラフの基本的な構成や展開方法を理解し、身近な話題からある程度まとまった英文を論理的に作成する力を養う。様々な論理的展開の例を紹介し、そのパタンの英文構成で実際に自分でエッセイを書く訓練を積んでいく。CALLを使用し、基本的な英文書式も学ぶ。毎回エッセイ課題が出され、書く量をこなしてもらい、ライティングを体得してもらうことを目指す。
新入生演習 追手門学院大学国際教養学部 （専任講師）	2009年4月 ～ 現在に至る	学部1年生を対象とした、論文作成／プレゼンテーション演習（週１回、半期）。４色ボールペンを利用した読解、要約、さらに展開などを行い、日本語の読み書きを訓練する。練習問題形式で、文語／口語の区別、てにをは、主述の一貫性などを確認する。レポート作成のテーマ決定から、図書検索、段落構成、執筆、書式設定などを段階的に行い、期末中１度レポート（A4で1枚以上）を完成させ、それをもとにプレゼンの訓練を行う。そのために、要約、レジメ作成、図式化、スライド作成、発表、互いのプレゼンの評価を行う。そのときの議論をもとに、学期末にレポートの改訂版（A4で2枚以上)を作成する。
２　作成した教科書、教材、参考書		
授業専用HPを作成、更新 （「英語セミナーF」龍谷大学において）	2004年4月 ～ 2005年3月	CALL教室を使用したディベートの授業で用いるホームページを作成した。授業中に毎回使用するオンライン辞書や国内外のメディアのＨＰアドレス、またＥＬＳサイトのリンク集を載せ、すぐに活用できるようにした。速読の訓練のためのポップアップ辞書が使用できるようにテキストの使用する部分も抜粋した。また、そこから聴き取りテスト用のwavファイルも作成した。そして高等だけでなく、PC上でもディベートを行うため、その掲示板も用意した。 (http://www.ryukoku.seikyou.ne.jp/home/kyoin225/Hppage.htm)
授業用ノートおよび授業用・自習用Webページを作成 （「英語TOEIC I,II」八戸大学において）	2005年4月 ～ 2008年3月	TOEIC用テキストの問題に応じた解説学習用プリントを毎回作成（全20課）。語彙、聴き取り問題のシナリオを作成し、穴埋め問題を作る、など、テキストだけでは不十分な点を補うためのノートとして使用。それに合わせて、学習支援ソフトMoodleを利用し、聴き取り用音声やビデオを編集したものをネット上にあげ、聴き取りも各自のペースで、自宅でも、何度も練習できるようにしている。教材の配布や課題の提出もネット上で行うことができるように設定した。また、ネット上に単語クイズを作成し、翌週、毎回単語テストを実施。その週の英単語の定着をはかる。
レポート論文指導に関する通年の授業計画および教材作成 （「基礎ゼミ・プレゼンゼミ」八戸大学において）	2005年4月 ～ 2008年3月	齋藤孝著「日本語ドリル」をもとに、４色ボールペンを利用した読解、要約、さらに展開など、日本語の読み書きを訓練する練習問題を通年分作成。レポート作成やプレゼンまでの流れを説明するプリントも作成し、例示するためのモデルレポートとモデルプレゼンスライドを準備し、提示した。図書検索のための文献カードも配布。他にも、プレゼン聴者のための評価シートを作成し、プレゼン後のディスカッションに利用した。
キーワードメソッドによる英文暗唱暗記用教材作成 （「英語ライティング１」追手門学院大学において）	2008年4月 ～ 現在に至る	ある程度まとまった英文（5、6文）をそのまま頭に入れてもらうトレーニングのために、キーワードメソッドによる英文暗唱暗記用の教材を作成している。PowerPointを用い、英文が構成された順序で、対応する日本語を配置し、日英語を繰り返し表示する。日本語から英語が出てくるようになるまで練習した後、キーワードが与えられただけでその文全体を言えるようにする。最終的には、完全な暗唱暗記を目指す。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
海外研修の引率 （八戸大学・八戸短期大学）	2006年2月25日 ～ 2006年3月16日	シアトル近郊にあるHighline Community College（八戸大学姉妹校）での英語語学研修および海外事情研修の引率を担当した。参加学生は３名。事前事後研修を含め、HCCや特別講師との連絡、訪問・見学させていただく施設とのやりとりおよびその日程の立案、学生のホームステイ先との連絡等、旅券の手配以外のほとんどすべてを担当した。
「国際英語サークル」設立および顧問 （八戸大学・八戸短期大学）	2005年4月 ～ 2008年3月	留学生との交流、英語を使った地域でのさまざまな活動に興味関心のある学生が集まって設立されたサークル。留学生との交流イベントを行ったり、毎年夏に行われるホフストラ大学（ニューヨーク）との交流会を企画実行したり、学内にとどまらず、地域においても多方面で活動を拡大させた。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
認知言語学論考 No.5	共著	2006年9月	ひつじ書房	山梨正明、辻幸夫、西村義樹、坪井栄治郎　編	pp.49-78

論文					
Synaesthesia Re-examined: An Alternative Treatment of Smell Related Concepts	単著	2004年3月	Osaka University Papers in English Linguistics 8		pp. 109-125
英語第二公用語論とは何か	単著	2004年12月	Osaka Literary Review 43		pp. 13-30
On the Directional Tendency of Synaesthe-tic Expressions: Between the Sense of Smell and Sight	単著	2005年12月	八戸大学紀要 第31号		pp. 75-91
交通バリアフリーに関する研究 －米国ワシントン州キング郡交通企業体を事例にして－	共著	2006年3月	八戸大学紀要 第33号	◎久宗周二、貞光宮城	pp. 11-20
A Demonstration of the Directional Tendency of Synaesthe-tic Expressions: A Frequency Analysis on Japanese with Smell and Sight Concepts	単著	2007年3月	八戸大学紀要 第34号		pp. 105-116
Metaphorical Transfer or not: Re-Examination on Synaesthetic Expressions	単著	2007年12月	八戸大学紀要 第35号		pp. 55-66
言語習得の観点から大学導入教育を考える：八戸大学「基礎演習・プレゼンテーション演習」の場合	単著	2008年3月	八戸大学紀要 第36号		pp. 81-97
その他					
大学の教育・研究と地域貢献シリーズ⑥ 新地場産業と参加型学生教育	共著	2008年5月	日本経済評論社	高崎経済大学経済学部監修	pp. 109-124

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

1998年4月～現在に至る	日本英語学会 会員
1998年11月～現在に至る	関西言語学会 会員
2006年1月～現在に至る	日本認知言語学会 会員
2006年4月～現在に至る	大阪大学英文学会 会員
2006年4月～現在に至る	日本英文学会 会員
2006年4月～現在に至る	福岡認知言語学会 会員
2006年5月～2008年3月	日本英語検定協会 面接担当委員
2006年6月～2008年3月	みちのく国際日本語教育センター 日本語教育ボランティア講師
2006年12月～2008年3月	平成18年度あすなろマスターカレッジ（青森県総合社会教育センター）八戸校 検討委員会 副委員長
2007年4月～2008年3月	八戸市ろうあ協会「八戸市手話サークル」会員
2007年4月～2008年3月	人類働態学会第42回大会実行委員会 委員
2007年4月～2008年3月	八戸ひとにやさしいまちづくり研究会 会長
2009年5月～現在に至る	British Association for Applied Linguistics（英国）会員

（表24）

所属　国際教養学部	職名　　講師	氏名　増崎　恒	学位　　博士（文学）	大学院における研究指導担当資格の有無　（有・(無)）
主要担当科目	アメリカ史、アメリカ文化講義、英米の文化･文学、米文学概論１・２			

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2007年4月～2008年3月	基幹演習の授業内でWeb上のフリー英単語テストサイトを活用し、その成績を授業評価に反映。合わせて学生の単語力強化の動機付けとした。
	2008年6月	新入生演習の授業内で元NHKの記者を呼んでニュース原稿の書き方、メモの取り方などについて実体験に基づいて講演してもらった。学生の日本語文章作法の一助となった。
２　作成した教科書、教材、参考書		
	2006年4月～2007年3月	米国史1･2の授業において、テキスト（英語）を補う日本語の補助プリントを毎時間作成して、授業内で配布、学生の授業理解を促した。
	2006年9月～	アメリカ文化講義の授業において、授業プリントを作成、学生に毎時間配布した。
	2008年4月～	アメリカ史の授業において、授業プリントを作成、学生に毎時間配布した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特記事項なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項		
	2007年6月	大阪府立緑風冠高校へ赴き、高校1年生対象に大学の体験授業を行った。
	2007年9月	滋賀県立八日市高校へ赴き、高校1年生対象に大学の体験授業を行った。
	2008年6月	大阪府立かわち野高校へ赴き、高校３年生対象に大学の体験授業を行った。
	2008年11月	インドのグジャラート大学からの交換留学生を引率して広島へ研修旅行に行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当数
著書					
『アメリカス世界のなかの「帝国」』	共著	2005年11月	むさし書房	天理大学アメリカス学会編	pp. 140-152
『アメリカ文学における階級』	共著	2009年3月	英宝社	早瀬博範編	pp. 47-66
論文					
「Stephen Craneのスラム表象と監獄―移民恐怖と19世紀末犯罪者論」	単著	2005年2月	『アメリカ文学研究』（41号 日本アメリカ文学会）		pp. 19-34
「19世紀末移民恐怖とフリークショー―*Maggie: A Girl of the Streets*に見るStephen Craneの人種意識―」	単著	2007年3月	『追手門学院大学創立四十周年記念論集　文学部篇』		pp. 145-162
「『大きな古時計（1876）を再読する―時計の停止と家父長制度―』」	単著	2008年4月	「*The Americas Today*－天理大学アメリカス学会ニューズレター」		pp. 6-7
「Stephen Craneの作品に見る〈日本(人)〉イメージ―19世紀末米国の社会文化政治的視点から―」	単著	2009年1月	『追手門学院大学国際教養学部紀要』（第2号）		pp. 73-90
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2004年4月～2005年3月	中･四国アメリカ文学会 会計